

**厚真町**  
**イクバンドユクチセ3遺跡**

— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡遠景1 (空中写真1) (南西から)



遺跡遠景2 (空中写真2) (南東から)



大規模な噴流中堆積状況（西から）



建物跡AUPS-1・2 (南西から)



建物跡AUPS-5 (北東から)

カラー図版 4



Q-8区 基本土層 (南から)



BLH-4土器出土状況 (南から)



AUF-11 (西から)



ASP-19土層断面 (南から)



ASP-20土層断面 (西から)



鉄製品 (処理後)

# 例 言

1. 本書は、北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部が行う厚幌ダム建設事業に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成25（2013）年度に実施した、厚真町 イクバンドユクチセ3 遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書（『厚真町 イクバンドユクチセ3 遺跡』北埋調報 325）である。
2. 本書の執筆は、愛場和人・末光正卓・広田良成・奥山さとみが分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は末光・奥山が行った。
3. 写真撮影は、現場写真は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は第1調査部第1調査課 吉田裕史洋が行った。
4. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた（順不同・敬称略）。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 厚真町教育委員会  
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター 恵庭市郷土資料館 苫小牧市美術博物館  
株式会社シン技術コンサル

厚真町教育委員会

乾 哲也・奈良智法・宮塚義人・宮崎美奈子・服部一雄・松井 昭・山戸大知・岩橋由久  
株式会社シン技術コンサル

清水昌樹・長谷川徹・工藤 肇・惣田 稔  
東海大学  
内山幸子

## 記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。

地区名

A : A地区の遺構 B : B地区の遺構

層位 (柱穴・杭穴、Tピットを除く)

U : III層 (上位の黒色土層) の遺構 (A地区のみ)

L : V・VI層 (下位の黒色土層) の遺構

種別

PS : 建物跡 H : 竪穴住居跡 P : 土坑 SP : 柱穴・杭穴 TP : Tピット

F : 焼土 FRS : 石組炉 FC : フレイク集中 S : 礫集中

なお、付属遺構は小文字で表記した。

2. 遺構図面等の縮尺

建物跡 : 40分の1 (大型のものは50分の1) 竪穴住居跡 : 40分の1

土坑 柱穴・杭穴 : 40分の1 Tピット : 40分の1 焼土 : 40分の1

石組炉 : 20分の1 フレイク集中 : 40分の1 礫集中 : 40分の1

遺物出土状況 : 20分の1 地形測量図・遺構位置図 : 任意

各図に、スケールと方位記号 (座標北) を付した。遺構平面図の「+ (十字) と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・ (ドット) と数値」は、その地点の標高 (m) を表す。

3. 遺物図の縮尺は次のとおりでスケールを付した。

復原土器 : 4分の1 拓本土器 : 3分の1

剥片石器 : 2分の1 礫石器 : 3分の1 (大型のものは4分の1)

石製品 : 2分の1 (大型のものは3分の1) 鉄製品 : 2分の1

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。また、一部破壊されているもの等は現存する計測値を (丸括弧) で示した。

掘り込みのある遺構 :

確認面の長径×短径 / 床面・坑底面の長径×短径 / 確認面からの最大深 (m)

平面的な遺構 : 範囲の長径×短径 / 確認面からの最大深 (m)

柱穴・杭穴 : 確認面の長径×底面の長径 / 確認面からの最大深 (m)

# 目次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次	
図目次	
表目次	
写真図版目次	

## I章 緒言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯	1
(1) 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査	
(2) イクバンドユクチセ3遺跡の調査	
4. 調査成果の概要	4

## II章 遺跡の立地と周辺の環境

1. 立地と環境	9
2. 地名「幌内」・「上幌内」	10
3. 道道上幌内早来停車場線	13
4. 幌内神社とオニキシベ地区の龍神信仰	13
5. 調査区周辺の現況	15
6. 調査区中央の沢	17
7. 周辺の遺跡	17

## III章 調査の概要

1. 発掘区の設定	27
(1) 調査区の形状	
(2) グリッド設定と調査杭の打設	
2. 基本土層	29
3. 調査の方法	32
4. 整理の方法	34
(1) 一次整理の方法	
(2) 二次整理の方法	
5. 遺物の分類基準	35



#### IV章 A地区 III層の遺構と出土遺物

1. 概要	41
2. 建物跡	41
AUPS-1 (AUF-1・2 AUS-2 ASP-31・36・39)	
AUPS-2 (AUF-6 ASP-29・30・32・33・34・35・37・38・40)	
AUPS-3 (AUF-3 AUS-3 ASP-22・23・24・25)	
AUPS-4 (AUF-4 ASP-7・8)	
AUPS-5 (AUF-10 AUS-9 ASP-13・14・15・16・17)	
AUPS-6 (ASP-2・3・4・5)	
AUPS-7 (AUS-17 ASP-19・20・21)	
3. 近接する焼土と礫集中	53
AUF-7とAUS-8・AUF-12とAUS-14	
AUF-9・11とAUS-6・AUF-13とAUS-15	
4. 焼土	55
AUF-5・AUF-8	
5. 礫集中	59
AUS-1・AUS-4・AUS-5・AUS-7・AUS-10・AUS-11	
AUS-12・AUS-13・AUS-16・AUS-18	
6. 柱穴・杭穴	64
ASP-1・6・9・10・11・12・18・26・27・28・41・42	
7. 土坑	64
AUP-1	
8. 出土遺物	64
(1) 土器	
(2) 石器等	
(3) 鉄製品	

#### V章 A地区 V層の遺構と出土遺物

1. 概要	81
2. 土坑	81
ALP-1	
3. Tピット	81
ATP-1・ATP-2・ATP-3・ATP-4・ATP-5・ATP-6・ATP-7・ATP-8	
ATP-9・ATP-10・ATP-11・15・ATP-12・ATP-13・ATP-14・ATP-16	
ATP-17・ATP-18・ATP-19・ATP-20・ATP-21・ATP-22・ATP-23・ATP-24	
ATP-25・ATP-26・ATP-27・ATP-28・ATP-29・ATP-30・ATP-31	
4. 石組枿	109
ALFRS-1	
5. 焼土	110
ALF-1・ALF-2・ALF-3・ALF-4・ALF-5	

6. 出土遺物	110
(1) 土器	
(2) 石器等	

## V章 B地区 V層の遺構と出土遺物

1. 概要	133
2. 掘り上げ土	133
BLM-1	
3. 竪穴住居跡	140
BLH-1・BLH-2・BLH-3・BLP-3・BLH-4	
4. 土坑	145
BLP-1・BLP-2	
5. Tピット	147
BTP-1・BTP-2・BTP-3・BTP-4・BTP-5・BTP-6・BTP-7・BTP-8 BTP-9・BTP-10・BTP-11・BTP-12・BTP-13	
6. 石組が	158
BLFRS-1	
7. 焼土	158
BLF-1・BLF-2・BLF-3・BLF-4	
8. フレイク集中	160
BLFC-1・BLFC-2・BLFC-3・BLFC-4	
9. 大規模な礫集中	160
W-27~35区・X-26~35区・Y-27~35区・Z-28~34区・a-28~34区・b-28~33区 c-28~35区・d-30区	
10. 出土遺物	163
(1) 土器	
(2) 石器等	

## VI章 まとめ

1. 出土遺物の集計・分布	215
(1) 出土点数表	
(2) 出土分布図	
2. 自然遺物	237
(1) 動物遺存体	
(2) 植物遺存体	
3. 自然科学的分析結果の評価	237
(1) 放射性炭素年代測定結果の評価について	
(2) 鉄製品の保存処理と材質分析	
4. III層の調査について	239
5. 縄文時代の遺構について	240

6. 縄文時代の遺物について .....	242
----------------------	-----

**付篇 自然科学的手法による分析**

1. 平成25年度 イクバンドユクチセ3遺跡における放射性炭素年代（AMS測定） .....	251
2. 平成26年度 イクバンドユクチセ3遺跡における放射性炭素年代（AMS測定） .....	254
3. イクバンドユクチセ3遺跡出土鉄器の金属考古学的調査結果 .....	259

**写真図版**

**引用参考文献**

**報告書抄録**

# 目 次

図1 遺跡位置図(1).....	3	図49 ATP-28・ATP-29.....	105
図2 遺跡位置図(2).....	5	図50 ATP-30・ATP-31.....	106
図3 遺構位置図・T a - d 2層上面地形測量図.....	7	図51 A L F R S ・ A L F.....	108
図4 遺跡周辺の地形(1).....	11	図52 A地区 V層 包含層出土の復原土器.....	111
図5 遺跡周辺の地形(2).....	12	図53 A地区 V層 遺構・包含層 出土の破片土器.....	112
図6 遺跡周辺の地形(3).....	14	図54 A地区 V層 包含層 出土の破片土器(1).....	113
図7 調査区周辺の現況.....	16	図55 A地区 V層 包含層 出土の破片土器(2).....	114
図8 調査区中央の沢測量図.....	18	図56 A地区 V層 包含層 出土の剥片石器(1).....	116
図9 周辺の遺跡.....	20	図57 A地区 V層 包含層 出土の剥片石器(2)・石製品.....	117
図10 グリッド設定図.....	28	図58 A地区 V層 包含層 出土の剥片石器(3)・礫石器(1).....	118
図11 基本土層図.....	30	図59 A地区 V層 包含層 出土の礫石器(2).....	119
図12 調査区概況図.....	33	図60 A地区 V層 包含層 出土の礫石器(3).....	120
図13 A地区遺構位置図・Ⅲ層上面地形測量図.....	42	図61 A地区 V層 包含層 出土の礫石器(4).....	121
図14 AUPS-1.....	43	図62 B地区遺構位置図・V層上面地形測量図.....	134
図15 AUPS-2.....	44	図63 BLM-1.....	135
図16 AUPS-3.....	46	図64 BLH-1(1).....	136
図17 AUPS-4.....	47	図65 BLH-1(2).....	137
図18 AUPS-5.....	48	図66 BLH-2(1).....	138
図19 AUPS-6.....	50	図67 BLH-2(2).....	139
図20 AUPS-7.....	51	図68 BLH-3.....	142
図21 AUFとAUS(1).....	52	図69 BLH-4.....	143
図22 AUFとAUS(2).....	54	図70 BLP-1・BLP-2.....	144
図23 AUFとAUS(3)・AUF.....	56	図71 BTP-1・BTP-2.....	146
図24 AUS(1).....	57	図72 BTP-3・BTP-4.....	148
図25 AUS(2).....	58	図73 BTP-5・BTP-6.....	149
図26 AUS(3).....	60	図74 BTP-7・BTP-8.....	151
図27 ASP(1).....	62	図75 BTP-9・BTP-10.....	153
図28 ASP(2).....	63	図76 BTP-11・BTP-12.....	154
図29 AUP・鉄製品出土状況.....	65	図77 BTP-13.....	156
図30 A地区 Ⅲ層 遺構・包含層出土の土器.....	66	図78 BLFRS-1・BLF-1・2・3.....	157
図31 A地区 Ⅲ層 遺構出土の石器.....	67	図79 BLFC-1~4.....	159
図32 A地区 Ⅲ層 包含層出土の石器.....	68	図80 B地区 V層 遺構 出土の復原土器.....	161
図33 A地区 Ⅲ層出土の鉄製品.....	69	図81 B地区 V層 遺構・包含層 出土の復原土器.....	162
図34 A地区遺構位置図・V層上面地形測量図.....	82	図82 B地区 V層 遺構 出土の破片土器.....	164
図35 ALP-1・ATP-1.....	83	図83 B地区 V層 包含層 出土の破片土器(1).....	165
図36 ATP-2・ATP-3.....	84		
図37 ATP-4・ATP-5.....	86		
図38 ATP-6・ATP-7.....	88		
図39 ATP-8・ATP-9.....	89		
図40 ATP-11・ATP-15.....	90		
図41 ATP-10・ATP-12.....	92		
図42 ATP-13・ATP-14.....	94		
図43 ATP-16・ATP-17.....	96		
図44 ATP-18・ATP-19.....	97		
図45 ATP-20・ATP-21.....	98		
図46 ATP-22・ATP-23.....	100		
図47 ATP-24・ATP-25.....	102		
図48 ATP-26・ATP-27.....	104		

図84	B地区 V層 包含層 出土の破片土器(2)	166
図85	B地区 V層 包含層 出土の破片土器(3)	167
図86	B地区 V層 包含層 出土の破片土器(4)	168
図87	B地区 V層 包含層 出土の破片土器(5)	169
図88	B地区 V層 遺構 出土の剥片石器	171
図89	B地区 V層 遺構 出土の礫石器	172
図90	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(1)	174
図91	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(2)	175
図92	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(3)	176
図93	B地区 V層 包含層 出土の剥片石器(4)	177
図94	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(1)	178
図95	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(2)	180
図96	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(3)	181
図97	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(4)	182
図98	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(5)	183
図99	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(6)	184
図100	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(7)	185
図101	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(8)	186

図102	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(9)	187
図103	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(10)	188
図104	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(11)	189
図105	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(12)	190
図106	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(13)	191
図107	B地区 V層 包含層 出土の礫石器(14)	192
図108	B地区 V層 包含層 出土の石製品	193
図109	包含層Ⅰ群土器出土分布図	216
図110	包含層Ⅲ群土器出土分布図	217
図111	包含層Ⅳ群土器出土分布図	218
図112	包含層Ⅴ群土器出土分布図	219
図113	包含層Ⅵ群土器出土分布図	220
図114	包含層石鏃出土分布図	221
図115	包含層石槍・ナイフ出土分布図	222
図116	包含層つまみ付きナイフ出土分布図	223
図117	包含層スクレイパー出土分布図	224
図118	包含層U・Rフレイク出土分布図	225
図119	包含層フレイク出土分布図	226
図120	包含層Ⅲ層礫石器出土分布図	227
図121	包含層磨製石斧出土分布図	228
図122	包含層たつき石出土分布図	229
図123	包含層すり石出土分布図	230
図124	包含層北海道式石冠出土分布図	231
図125	包含層石錘出土分布図	232
図126	包含層砥石出土分布図	233
図127	包含層台石・石皿出土分布図	234
図128	包含層U・Rレキ出土分布図	235
図129	包含層レキ出土分布図	236
図130	アイヌ民族手調り	240

## 表 目 次

表1	遺構数一覧表	8
表2	遺物点数一覧表	8
表3	調査区中央の沢 測量表	19
表4	周辺の遺跡一覧表	24・25
表5	測量基準点一覧表	29
表6	基本土層観察表	30
表7	遺構土色階調モデル	32
表8	大規模な埋藏中 土層観察記録	34
表9	土器時期分類基準	36

表10	土器部位分類基準	36
表11	土器残存状態分類基準	36
表12	石器等器種分類基準	37
表13	石器等残存状態分類基準	37
表14	岩石分類体系	38・39
表15	岩石(石材)の略号	39
表16	建物跡一覧表	70
表17	建物跡・付属遺構一覧	70
表18	A地区 Ⅲ層 焼土一覧表	71

表19	A地区	Ⅲ層	礫集中一覽表	71	表60	B地区	大規模な礫集中	
表20	A地区	Ⅲ層	柱穴・杭穴一覽表	72	出土土器点数表		198	
表21	A地区	Ⅲ層	土坑一覽表	72	表61	B地区	B L H出土土器片器点数表	199
表22	A地区	Ⅲ層	遺構出土土器点数表	72	表62	B地区	遺構出土土器片器点数表	199
表23	A地区	Ⅲ層	遺構出土土器片器点数表	72	表63	B地区	フレイク集中出土	
表24	A地区	Ⅲ層	遺構出土		土器片器点数表		200	
			礫石器・石製品・レキ点数表	73	表64	B地区	大規模な礫集中出土	
表25	A U S出土	礫石器・石製品・レキ点数表	73	土器片器点数表		200		
表26	A地区	Ⅲ層	群復原土器		表65	B地区	B L H出土	
			観察表 (G-20区・Q-9区)	74	礫石器・石製品・レキ点数表		201	
表27	A地区	Ⅲ層	遺構・包含層出土		表66	B地区	遺構出土	
			破片土器観察表	74	礫石器・石製品・レキ点数表		202	
表28	A地区	Ⅲ層	遺構・包含層出土		表67	B地区	B T P・B L F C出土	
			石器等観察表	75	礫石器・石製品・レキ点数表		202	
表29	A U S出土	レキ三軸計測表	76~80	表68	B地区	大規模な礫集中出土		
表30	A地区	出土鉄製品一覽表	75	礫石器・石製品・レキ点数表		203		
表31	A地区	V層	土坑一覽表	123	表69	B L M-1 O-29区	出土	
表32	A地区	V層	Tピット一覽表	123	復原土器観察表		204	
表33	A地区	V層	Tピット付属遺構一覽表	124	表70	B L H-4	出土復原土器観察表 (1)	204
表34	A地区	V層	石組如一覽表	124	表71	B L H-4	出土復原土器観察表 (2)	204
表35	A地区	V層	焼土一覽表	124	表72	大規模な礫集中	X-34区出土	
表36	A地区	V層	遺構出土土器点数表	125	復原土器観察表		205	
表37	A地区	V層	遺構出土土器片器点数表	125	表73	大規模な礫集中	b-29区出土	
表38	A地区	V層	遺構出土		復原土器観察表		205	
			礫石器・石製品・レキ点数表	125	表74	大規模な礫集中	b-32区出土	
表39	N-17区	出土復原土器観察表	126	復原土器観察表		205		
表40	Y-16区	出土復原土器観察表	126	表75	大規模な礫集中	W-29区出土		
表41	F-19区	出土復原土器観察表	126	復原土器観察表		205		
表42	Z-17区	出土復原土器観察表	127	表76	T-24区	出土復原土器観察表	206	
表43	Y-21区	出土復原土器観察表	127	表77	T-39区	出土復原土器観察表	206	
表44	R-17区	出土復原土器観察表	127	表78	R-38区	出土復原土器観察表	206	
表45	Y-16区	出土復原土器観察表	127	表79	J-25区	出土復原土器観察表	206	
表46	U-14区	出土復原土器観察表	128	表80	R-27区	出土復原土器観察表	207	
表47	A地区	V層	遺構・包含層出土		表81	B地区	V層 遺構・包含層出土	
			破片土器観察表	128・129	破片土器観察表		207~211	
表48	A地区	V層	包含層出土		表82	B地区	V層 遺構・包含層出土	
			石器等観察表	130・131	石器等観察表		212~214	
表49	B地区	V層	掘り上げ土一覽表	194	表83	A地区	包含層出土土器点数表	243
表50	B地区	V層	堅穴住居跡一覽表	194	表84	B地区	包含層出土土器点数表	243
表51	B地区	V層	堅穴住居跡		表85	A地区	包含層出土土器片器点数表	244
			付属遺構一覽表	194	表86	B地区	包含層出土土器片器点数表	244
表52	B地区	V層	土坑一覽表	195	表87	A地区	包含層出土	
表53	B地区	V層	Tピット一覽表	195	礫石器・石製品・レキ点数表		245	
表54	B地区	V層	Tピット付属遺構一覽表	195	表88	B地区	包含層出土	
表55	B地区	V層	石組如一覽表	195	礫石器・石製品・レキ点数表		246	
表56	B地区	V層	焼土一覽表	196	表89	大規模な礫集中	出土動物遺存体一覽表	247
表57	B地区	V層	フレイク集中一覽表	196	表90	フローテーション法	回収遺物一覽表	248
表58	B地区	B L H	出土土器点数表	197	表91	放射性炭素年代測定結果一覽表	247	
表59	B地区	V層	遺構出土土器点数表	196				

# 写真図版目次

## カラー図版

### カラー図版 1

- 遺跡遠景 1 (空中写真 1) (南西から)
- 遺跡遠景 2 (空中写真 2) (南東から)

### カラー図版 2

- 大規模な雑棄中確認状況 (西から)

### カラー図版 3

- 建物跡 A U P S - 1・2 (南西から)
- 建物跡 A U P S - 5 (北東から)

### カラー図版 4

- Q - 8 区 基本土層 (南から)
- B L H - 4 土器出土状況 (南から)
- A U F - 11 (西から)
- A S P - 19 土層断面 (南から)
- A S P - 20 土層断面 (西から)
- 鉄製品 (処理後)

## 写真図版

### 図版 1

- A 地区 III 層上面の状況 (北から)
- B 地区 V 層上面の状況 (北から)
- L - 17 区 基本土層 (S d 2 層) (東から)
- B L M - 1 土層断面 (南東から)
- 大規模な雑棄中調査状況 (北から)

### 図版 2

- 大規模な雑棄中曝出土状況 (南から)
- 大規模な雑棄中確認状況 (北東から)

### 図版 3

- A U P S - 1 (東から)
- A U F - 1 土層断面 (南から)
- A S P - 36 土層断面 (南から)
- A U S - 2 A 確認状況 (南東から)
- A U S - 2 確認状況 (東から)

### 図版 4

- A U S - 2 C 確認状況 (南東から)
- A U F - 1 針出土状況 (南から)
- A U F - 6 土層断面 (南東から)
- A S P - 32 土層断面 (北東から)
- A S P - 33 土層断面 (西から)
- A S P - 34 土層断面 (北から)
- A S P - 38 土層断面 (北から)
- A S P - 35 完掘状況 (南から)

### 図版 5

- A U P S - 3 (北西から)
- A U F - 3 土層断面 (南西から)
- A U S - 3 確認状況 (東から)
- A S P - 22 土層断面 (北西から)
- A S P - 25 土層断面 (北西から)

### 図版 6

- A U P S - 4 (南東から)
- A U F - 4 確認状況 (南西から)
- A U F - 4 遺物出土状況 (東から)
- A S P - 7 完掘状況 (南西から)
- A S P - 8 土層断面 (南西から)

### 図版 7

- A U S - 9 確認状況 (北から)

- A U F - 10 土層断面 (南東から)

- A S P - 17 土層断面 (南西から)

- A S P - 13 土層断面 (南西から)

- A S P - 13 完掘状況 (南西から)

### 図版 8

- A U P S - 6 (北東から)

- A S P - 2 土層断面 (東から)

- A S P - 3 土層断面 (南から)

- A S P - 4 土層断面 (西から)

- A S P - 5 土層断面 (西から)

### 図版 9

- A U P S - 7 (北西から)

- A U S - 17 確認状況 (南東から)

- A S P - 21 土層断面 (南西から)

- A S P - 20 完掘状況 (西から)

- A S P - 21 完掘状況 (南西から)

### 図版 10

- A U S - 8 確認状況 (南東から)

- A U F - 7 土層断面 (南西から)

- A U F - 9・11 A U S - 6 (北西から)

- A U S - 6 A 確認状況 (北から)

- A U S - 6 B 確認状況 (北東から)

### 図版 11

- A U F - 12 A U S - 14 (東から)

- A U S - 14 確認状況 (南東から)

- A U F - 13 A U S - 15 (北から)

- A U F - 5 確認状況 (北西から)

- A U F - 8 土層断面 (東から)

- A U S - 1 確認状況 (西から)

- A U S - 4 確認状況 (北から)

- A U S - 5 確認状況 (東から)

### 図版 12

- A U S - 7 確認状況 (南東から)

- A U S - 10 確認状況 (西から)

- A U S - 11 確認状況 (北から)

- A U S - 12 確認状況 (北東から)

- A U S - 13 確認状況 (西から)

- A U S - 16 A 確認状況 (北西から)

- A U S - 18 確認状況 (北西から)

- A S P - 27 土層断面 (西から)

### 図版 13

- A S P - 12 土層断面 (南から)

- A S P - 12 完掘状況 (南から)

- A U P - 1 土層断面 (南から)

- A U P - 1 炭化物確認状況 (北西から)

- G - 20 区 III 群土器出土状況 (東から)

- Z - 20 区 鉄鍋出土状況 (南東から)

- X - 15 区 椎状品出土状況 (北西から)

- X - 21 区 鍬先出土状況 (南から)

### 図版 14

- A L P - 1 土層断面 (南東から)

- A L P - 1 完掘状況 (南西から)

- A T P - 1 土層断面 (南東から)

- A T P - 2 土層断面 (北から)

- A T P - 3 土層断面 (南から)

	ATP-4土層断面 (南東から)		ATP-24完掘状況 (南東から)
	ATP-5土層断面 (北から)		ATP-25完掘状況 (南東から)
	ATP-6土層断面 (南東から)		ATP-28完掘状況 (西から)
図版15	ATP-7土層断面 (南東から)		ATP-19完掘状況 (南東から)
	ATP-8土層断面 (南東から)		ATP-26完掘状況 (南東から)
	ATP-11土層断面 (南東から)	図版22	ATP-27完掘状況 (北東から)
	ATP-16土層断面 (南から)		ATP-29完掘状況 (南東から)
	ATP-18土層断面 (南から)		ATP-30完掘状況 (南東から)
	ATP-19土層断面 (南東から)		ATP-31完掘状況 (北西から)
	ATP-22土層断面 (南東から)		ALFRS-1確認状況 (北から)
	ATP-25土層断面 (南東から)		ALFRS-1土層断面 (南から)
図版16	ATP-26土層断面 (南東から)	図版23	BLH-1 南北方向土層断面 (東から)
	ATP-27土層断面 (南から)		BLH-1 東西方向土層断面 (南から)
	ATP-29土層断面 (西から)		BLH-1 遺物出土状況 (南東から)
	ATP-30土層断面 (北西から)	図版24	BLH-1 p h 確認状況 (南から)
	ATP-31土層断面 (東から)		BLH-1 h p-1土層断面 (東から)
	ATP-7 s p-1・2 (北西から)		BLH-1 p h-7土層断面 (南西から)
	ATP-29 s p (南西から)		BLH-1 h p-2土層断面 (東から)
図版17	ATP-9土層断面 (南西から)		BLH-1 p h-12・13・14土層断面 (南東から)
	ATP-10土層断面 (南西から)	図版25	BLH-2 北東-南西方向土層断面 (西から)
	ATP-12土層断面 (西から)		BLH-2 北西-南東方向土層断面 (南から)
	ATP-13土層断面 (南西から)		BLH-2完掘状況 (北西から)
	ATP-14土層断面 (西から)	図版26	BLH-2・BLP-3土層断面 (南西から)
	ATP-15土層断面 (南西から)		BLH-2 p h-2土層断面 (南から)
	ATP-17土層断面 (西から)		BLH-2・BLP-3遺物出土状況 (東から)
	ATP-20土層断面 (東から)		BLH-3 南北方向土層断面 (東から)
	ATP-21土層断面 (南から)		BLH-3 東西方向土層断面 (南東から)
図版18	ATP-23土層断面 (南から)	図版27	BLH-3遺物出土状況 (南から)
	ATP-24土層断面 (南東から)		BLH-3確認状況 (南から)
	ATP-28土層断面 (西から)		BLH-3 h f-1土層断面 (北から)
	ATP-1完掘状況 (北東から)		BLH-3 h p-1土層断面 (東から)
	ATP-2完掘状況 (北東から)		BLH-4土器出土状況 (北東から)
	ATP-3完掘状況 (東から)	図版28	BLH-4 南北方向土層断面 (南東から)
	ATP-4完掘状況 (北西から)		BLH-4 東西方向土層断面 (南西から)
図版19	ATP-5完掘状況 (北から)		BLH-4遺物出土状況 (東から)
	ATP-6完掘状況 (南東から)	図版29	BLP-1土層断面 (南から)
	ATP-7完掘状況 (南東から)		BLP-1完掘状況 (南西から)
	ATP-8完掘状況 (北西から)		BLP-2土層断面 (南から)
	ATP-16完掘状況 (南西から)		BLP-2完掘状況 (南東から)
	ATP-18完掘状況 (南から)		BTP-1土層断面 (南から)
図版20	ATP-9完掘状況 (北東から)		BTP-3土層断面 (南から)
	ATP-10完掘状況 (北東から)		BTP-5土層断面 (南から)
	ATP-11完掘状況 (南東から)	図版30	BTP-8土層断面 (南西から)
	ATP-12完掘状況 (西から)		BTP-3完掘状況 (北から)
	ATP-13完掘状況 (北東から)		BTP-13土層断面 (南から)
	ATP-14完掘状況 (東から)		BTP-5完掘状況 (南から)
	ATP-15完掘状況 (南西から)		BTP-2完掘状況 (南西から)
	ATP-17完掘状況 (東から)		BTP-6完掘状況 (南西から)
	ATP-20完掘状況 (東から)		BTP-7完掘状況 (南から)
図版21	ATP-21完掘状況 (南から)	図版31	BTP-2土層断面 (南から)
	ATP-22完掘状況 (北西から)		BTP-4土層断面 (南東から)
	ATP-23完掘状況 (北から)		BTP-6土層断面 (南東から)



- B T P - 7 土層断面 (南西から)  
 B T P - 9 土層断面 (南から)  
 B T P - 10 土層断面 (南東から)  
 B T P - 11 土層断面 (南東から)  
 B T P - 12 土層断面 (南東から)  
 B T P - 1 完掘状況 (南西から)  
 図版32 B T P - 4 完掘状況 (北西から)  
 B T P - 9 完掘状況 (南から)  
 B T P - 10 完掘状況 (南東から)  
 B T P - 11 完掘状況 (南東から)  
 B T P - 12 完掘状況 (南東から)  
 B T P - 5 s p - 1・2 (南西から)  
 B T P - 8 完掘状況 (南西から)  
 B T P - 13 完掘状況 (南から)  
 図版33 B L F R S - 1 確認状況 (北から)  
 B L F R S - 1 土層断面 (東から)  
 針・棒状品 X線透過写真  
 鉄鍋 X線透過写真  
 燧矢 X線透過写真  
 図版34 復原土器 (1)
- 図版35 復原土器 (2)  
 図版36 復原土器 (3)  
 図版37 破片土器 (1)  
 図版38 破片土器 (2)  
 図版39 破片土器 (3)  
 図版40 破片土器 (4)  
 図版41 破片土器 (5)・鉄製品  
 図版42 剥片石器 (1)・石製品 (1)  
 図版43 剥片石器 (2)・石製品 (2)  
 図版44 剥片石器 (3)  
 図版45 剥片石器 (4)・石製品 (3)・礫石器 (1)  
 図版46 礫石器 (2)  
 図版47 礫石器 (3)  
 図版48 礫石器 (4)  
 図版49 礫石器 (5)  
 図版50 礫石器 (6)  
 図版51 礫石器 (7)  
 図版52 礫石器 (8)  
 図版53 礫石器 (9)  
 図版54 礫石器 (10)・石製品 (4)

# I 章 緒 言

## 1. 調査要項

遺 跡 名：イクバンドユクナセ 3 遺跡（J-13-120）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内81-3ほか

調査面積：9,321㎡

調査期間：平成25年4月1日～平成28年3月31日（現地調査 平成25年5月13日～10月31日）

## 2. 調査体制

### 平成25年度

第1調査部長 千葉英一（常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第3調査課長 村田 大（発掘担当者）

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓（発掘担当者）

主 査 広田良成（発掘担当者）

嘱 託 渡井 暁

第1調査部第1調査課

主 査 吉田裕史洋

### 平成26年度（整理作業）

第1調査部長 千葉英一（常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第3調査課長 村田 大

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓

主 査 広田良成

主 任 佐川俊一

嘱 託 奥山さとみ

### 平成27年度（整理作業）

第1調査部長 長沼 孝（平成27年6月より常務理事兼務）

第2調査部長 三浦正人

第2調査部第2調査課長 笠原 興

主 査 愛場和人

主 査 末光正卓

主 査 広田良成

嘱 託 奥山さとみ

## 3. 調査の経緯

### （1）厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査（図1・2）

厚真川総合開発事業の一つである「厚幌ダム建設事業」は、治水（洪水調節）、流水の正常な機能の維持（河川環境の保全）、水道及び灌漑用水の確保といった複数の機能を持つ多目的ダムを、勇払郡厚真町を流れる二級河川厚真川の上流部に建設するもので、北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所により行われている。昭和52（1977）年に予備調査、昭和61（1986）年には調査が着手され、平成7（1995）年に「厚真川総合開発事業 厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が北海道

と厚真町の間で結ばれた。

建設工事の具体化に伴い、平成12(2000)年7月6日、北海道室蘭土木現業所(当時)厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)から、北海道教育委員会(以下、道教委)に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。協議区域はダムの湛水地域(洪水時最高水位 標高88.1m以下)と現道の切り替え部分等を合わせた範囲である。

平成13(2001)年6月に、道教委によりダム堤体の下流部で道道切り替え工事に伴う試掘調査が行われ、厚幌1遺跡が発見された。同年10月には所在調査の結果、協議区域すべてについて試掘調査が必要と回答された。以後、道教委による所在確認調査、試掘調査が継続的に行われ、平成26(2014)12月現在、発掘調査が必要な遺跡は24か所を数え、面積(遺構確認調査範囲を含む)は約20万㎡である。平成13(2001)年、道教委と厚真町教育委員会(以下、町教委)の協議では、当初、発掘調査は町教委で行うことが決められ、平成14(2002)年、町教委により厚幌1遺跡の発掘調査が開始された。以後、平成27(2015)年度まで町教委により発掘調査された遺跡(登載番号)は、厚幌1遺跡(25)・ワチャラセナイチャシ跡(100)・ワチャラセナイ遺跡(101)・上幌内モイ遺跡(79)・上幌内2遺跡(91)・ショロマ1遺跡(81)・ショロマ2遺跡(92)・ショロマ3遺跡(121)・一里沢遺跡(80)・オニキシベ2遺跡(77)・オニキシベ4遺跡(89)・オニキシベ5遺跡(90)・オニキシベ6遺跡(118)である。平成27(2015)年度12月現在、これらのうち9遺跡、13冊の調査報告書が刊行されている(厚真町教育委員会 2015他)。

ダム建設事業が進捗するに伴い、平成24(2012)年度から当センターも発掘調査を担当しており、上幌内3遺跡(123)・上幌内4遺跡(124)・上幌内5遺跡(125)・ショロマ4遺跡(122)・オニキシベ1遺跡(14)・オニキシベ3遺跡(78)・イクバンドユクチセ2遺跡(119)・イクバンドユクチセ3遺跡(120)を調査し、平成26年度に、オニキシベ1遺跡(北埋調報 318)・イクバンドユクチセ2遺跡(北埋調報 319)の報告書を刊行した。本書は厚幌ダム事業での当センター3冊目の調査報告書(北埋調報 325)である。

## (2) イクバンドユクチセ3遺跡の調査

本遺跡は、平成21(2009)年5月の道教委による所在調査、同年7月の試掘調査の結果、発掘調査が必要と判断され、翌平成22(2010)年1月29日に埋蔵文化財包蔵地として登載された、縄文時代・続縄文時代の遺跡である(「埋蔵文化財包蔵地カード」道教委 平成22年1月15日作成)。

平成21(2009)年の試掘調査は、7月23・24日、28~31日、8月4~7日に本遺跡を含む同事業用地内の六つの地点で行われ、イクバンドユクチセ3遺跡は中央を流れる沢の左岸(A地区)3,800㎡の上下の黒色土層(Ⅲ・Ⅴ層)と、同右岸(B地区)の3,200㎡の下位の黒色土層(Ⅴ層)の合計7,000㎡について、発掘調査が必要と判断された。平成24(2012)年度に、ダム事務所は用地内の航空レーザー測量を実施し詳細な等高線図(「厚幌ダム建設工事」1:5,000 日本測地系)を作成し、ダムの湛水範囲がより詳細に示された。これを基に道教委は、完成ダムの常時満水位の標高85.4mよりも低い部分について発掘調査が必要と判断し、イクバンドユクチセ3遺跡の発掘調査面積は、A地区5,500㎡、B地区3,700㎡の合計9,200㎡が定まった。平成25(2013)年度、当センターの発掘調査で北側に遺構・遺物が広がったことや、図上の調査区と現地地形との相違を調整・整合し、A地区は5,486㎡、B地区は3,835㎡、合計9,321㎡と調査面積を変更した。

本遺跡の発掘調査は、当初、ダム事務所の計画では平成25(2013)年度であった。しかし、工事工程の都合から、平成27(2015)年度からの二か年の発掘調査の計画となり、さらに変更され、厚真川

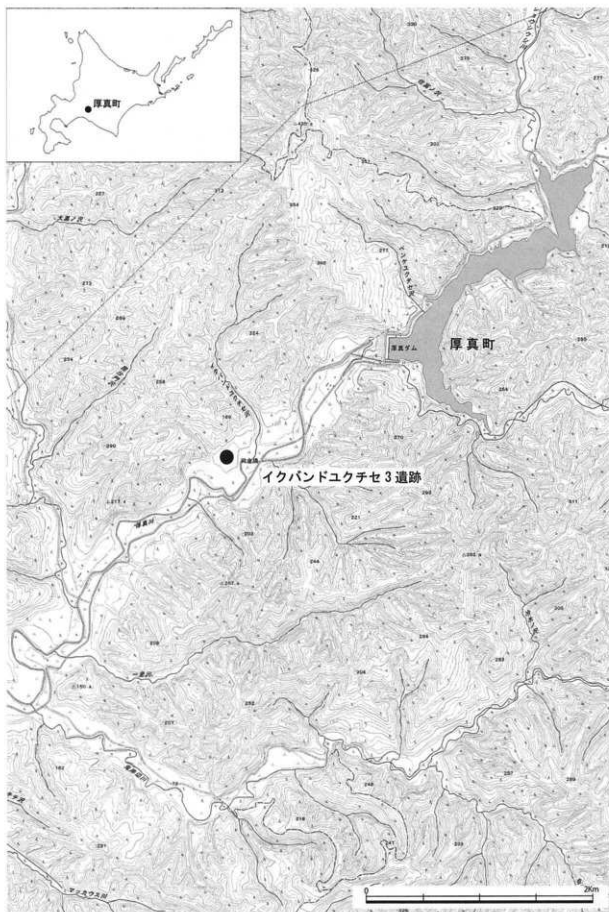


図1 遺跡位置図(1)

国土地理院 電子地形図25000「厚真川上流」を縮小し加筆作成

上流部の河川切り替え工事のため、近くのイクバンドユクチセ2遺跡（北埋調報 319）とともに、平成25（2013）年度中に調査を完了させることとなった。この工事完了後、道道は厚真川の左岸、イクバンドユクチセ2・3遺跡はとも右岸に位置するため、遺跡へ到達できなくなるためである。

この河川切り替え工事の詳細を述べる。現在の厚真川沿いを走る道道235号上幌内早来停車場線は、厚幌ダム完成前に、南東側の山間部を通る新しい路線に切り替えられる。この新道路の「1号橋」は厚真川左岸の支流である無名の沢に架かるが、この橋梁の上流側の道路の建設予定位置付近は、厚真川が屈曲する水衝部である。これを解消すべく山間部に新路線を建設する前に、厚真川の流れを切り替える必要があった。「祭橋」から「田舎橋」の下流部へ約250mの地点付近までの区間の流れを直線化し、この新流路の一部、すなわち祭橋からイクバンドユクチセ2遺跡をとり田舎橋付近までは、現道道と同じ位置に設計され、この部分の新道路はさらに南東側に付け替える計画であった。また、イクバンドユクチセ沢との合流点付近も河川改修工事が予定され、工事は平成25（2013）年9月着手の予定であった。

イクバンドユクチセ3遺跡はイクバンドユクチセ沢をはさんだ対岸に位置し、当時は現地に至る道路や橋もなかった。平成24（2012）年度5月～11月、当センターはオニキシベ1遺跡（北埋調報 318）の発掘調査と併行して、次年度以降予定であったオニキシベ3遺跡、イクバンドユクチセ2・3遺跡の発掘調査の計画と準備を進めていた。イクバンドユクチセ3遺跡は、発掘調査を行うために必要な工事、すなわち、遺跡へ至る仮設道路の建設、イクバンドユクチセ沢を渡る仮設橋の設置等について現地で検討していた。ダム事務所からは、同年8月に、イクバンド3遺跡へ至るための仮設道路計画が、11月には、厚真川の切り替え工事設計図が、ダム事務所から当センターに示され、これを受け、現道道から厚真川の対岸に立地するイクバンドユクチセ2・3遺跡の発掘調査を、平成25（2013）年度に着手することとなった（北埋調報 319）。しかし、調査に必要な仮設道路と仮設橋の建設工事は、冬期間であるため等の理由で実施を先送りにした。平成25（2013）年度5月当初、当センターはオニキシベ1遺跡の調査を行いながら、イクバンドユクチセ3遺跡の準備工を進めた。現道道から遺跡に到達するための仮設道路・橋（図7）の完成後、調査範囲を現地に設定し、伐採・抜根と表土除去を行い、調査杭を打設し、6月中旬から人力による発掘調査を開始した。8月からはイクバンドユクチセ2遺跡の調査も着手し、両遺跡ともに10月31日で調査を完了し、イクバンドユクチセ沢の仮橋も撤去した。

厚真川の切り替え工事は9月24日に着工された。工事は上下流部の両側から行われ、遺跡に到達する道路部分の工事は調査完了後の10月末に行われ、発掘調査に影響はなかった。現在、イクバンドユクチセ2・3遺跡は、新流路の厚真川をはさみ現道道と対岸に位置するため、現地へ行くことはできない。

報告書作成のための整理作業は、平成25（2013）年11月から開始し、平成27（2015）年度に本報告書（北埋調報 325）を刊行する。

#### 4. 調査成果の概要（図3 表1・2）

##### Ⅲ層（A地区）

アイヌ文化期～擦文文化期が主で、遺構は土坑1基、柱穴・杭穴42か所、焼土13か所、礫集中18か所を調査した。現場では、これらの柱穴・杭穴、焼土、礫集中をそれぞれ単独の記号を付して調査し、これらの位置関係から建物跡7軒を想定した。焼土と礫集中をもつ建物跡は3軒、焼土のみが2軒、礫集中のみが1軒、これらがないもの1軒である。土坑は炭化物が多数みられた。柱穴・杭穴は円形

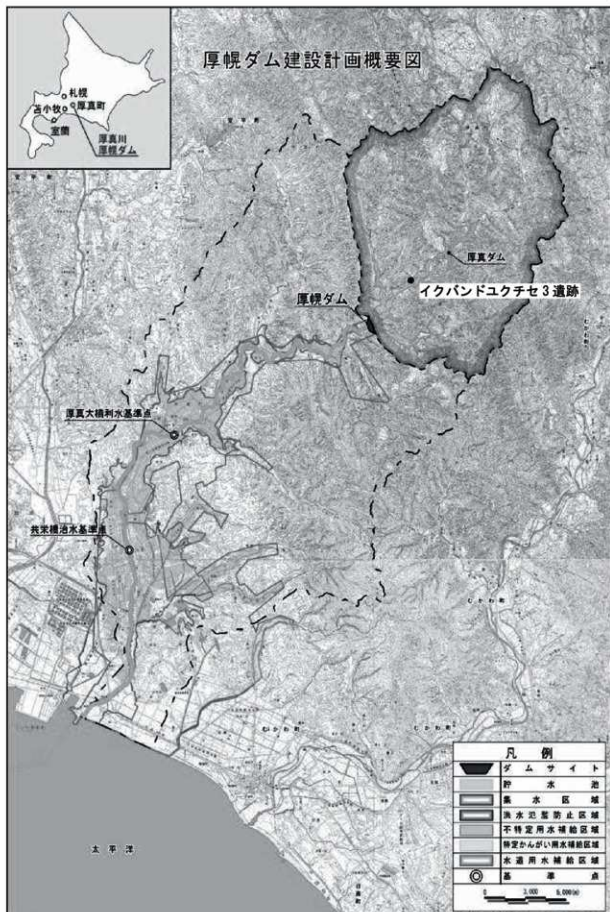


図2 遺跡位置図(2)

北海道庁総合振興局ホームページ「厚幌ダム位置図」に加筆作成

で先端部が尖るものが多い。焼土の多くは褐色を呈し、灰集中を伴うものが2か所、鉄器が出土したものの1か所である。礫集中は、長軸長が5～8cm程度の楕円形の礫が多く、散在する分布範囲の中でさらに小さな範囲に集中する例が多い。

遺物は、土器68点、石器等4,470点、鉄器4個体が出土した。土器は貼付圓純帯をもつ擦文文化期後期のもので、石器等はU・Rレキやレキが多い。鉄器は鉄鍋、鋏先、針、棒状品である。

#### V層（A・B地区）

縄文時代中期・後期が主で、遺構は、A地区で土坑1基、Tピット31基、石組炉1か所、焼土5か所を、B地区では堅穴住居跡4軒、土坑3基、Tピット13か所、石組炉1か所、焼土3か所、フレイク集中4か所、大規模な礫集中1か所を調査した。堅穴住居跡は四つが重複し掘り上げ土がみられたものや、口縁部が横環する土器一個体を伴うものがあり、土坑は浅いものが多い。Tピットは多数みつきり、楕円形と溝状のものがあり、重複する例もみられた。石組炉は、厚真川の山間部で採取できる礫が使用されていた。焼土はすべて褐色を呈し、フレイク集中はB地区でのみみられた。注目すべきは、B地区の南側の先端部分で広範囲に礫石器やレキが大量に出土した「大規模な礫集中」がある。

両地区合わせた出土遺物は、土器18,857点、石器等248,771点が出土した。土器は多くがIV群a類、ついでIII群b類である。石器等は、石鋏、石槍・ナイフ、石鎌、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、石錘、砥石、台石・石皿がある。B地区では黒曜石のフレイクが多く、遺跡全体ではU・Rレキ（加工・使用痕のある礫）やレキ（自然礫）が最も多い。これらの岩石は、遺跡周辺に多くみられる脆弱な堆積岩が多く、被熱しているものも多くみられた。

（末光正卓）

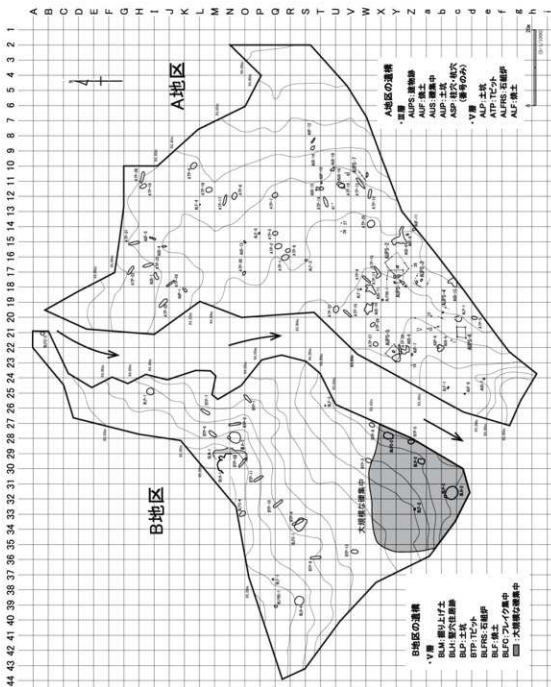


図3 遺構位置図・Tard 2層上面地形測量図



表1 遺構数一覧表

地区	層位	種別	記号	数	名称	
A地区	Ⅲ層	建物跡	AUPS	7	AUPS-1~7	
		焼土	AUF	6		
		礫集中	AUS	4		
		柱穴・杭穴	ASP	30		
		単独：(丸括弧)は、総数				
		焼土	AUF	7(13)	AUF-1~13	
		礫集中	AUS	14(18)	AUS-1~18	
		柱穴・杭穴	ASP	12(42)	ASP-1~42	
A地区	Ⅴ層	土坑	ALP	1	ALP-1	
		Tピット	ATP	31	ATP-1~31	
		焼土	ALF	5	ALF-1~5	
		石組炉	ALFRS	1	ALFRS-1	
		B地区	Ⅴ層	竪穴住居跡	BLH	4
土坑	BLP			3	BLP-1~3	
Tピット	BTP			13	BTP-1~13	
焼土	BLF			3	BLF-1~3	
石組炉	BLFRS			1	BLFRS-1	
フレイク集中	BLFC			4	BLFC-1	
掘り上げ土	BLM			1	BLM-1	
大規模な礫集中				1	(W~c-27~35K)	

縄文文化期 アイヌ文化期 遺構 A地区のみ		
建物跡	AUPS	7
土坑	AUP	1
柱穴・杭穴	AUSP	12 (42)
焼土	AUF	7 (13)
礫集中	AUS	14 (18)
縄文時代遺構 A・B地区		
竪穴住居跡	LH	4
土坑	LP	4
Tピット	TP	44
焼土	LF	8
石組炉	LFRS	2
フレイク集中	LFC	4
掘り上げ土	LM	1
大規模な礫集中	—	1

表2 遺物点数一覧表

地区	層位	出土地点 /遺物種別	土器	石器等	石器等のうち レキ現場観察	合計	鉄器	備考
A地区	Ⅲ層	遺構	4	1,807	450	1,811	1	
		包含層	64	2,663	697	2,727	5	
		小計	68	4,470	1,144	4,538	6	
	Ⅴ層 他	遺構	11	93	87	104	—	
		小計	5,037	9,537	6,818	14,574	—	
B地区	Ⅴ層 他	遺構	307	47,723	753	48,090	—	大規模な礫集中出土 遺物は包含層の 遺物として取り上げて、 別途、集計
		大規模な礫集中	1,865	36,494	30,247	38,359	—	
		包含層	13,434	186,948	39,687	200,382	—	
小計	地区	A地区	5,116	14,100	8,046	19,216	6	
		B地区	13,741	234,671	40,437	248,412	—	
	層位	Ⅲ層	68	4,470	1,144	4,538	6	
		Ⅴ層他	18,789	244,301	47,339	263,090	—	
	合計		18,857	248,771	48,483	267,628	6	

右岸は、西側からベンケユクチセ沢等の複数の沢、北側からはショウシウシ川が佐富ノ沢と合流して注ぎ、北東側からは本流の厚真川、左岸の南東側では無名の複数の沢が流れ込んでいる。現在、下流に建設中の多目的ダム「厚真ダム」の完成後も、厚真ダムはその機能が維持される。

厚真ダムから厚真市街地方面へは、厚真川沿いを走る「道道235号上幌内早来停車場線」がつなぎ、ダム貯水池の北東方向へは「炭鉱厚真川林道」が、厚真川に沿って山間部に続いている。南東側の「メルクンナイ（カルクンナイ）林道」は、むかわ町穂別方面への道で、現在「道道933号北進平取線」の新路線が建設中で、数年のうちに開通の予定である。

ダム貯水池の上流部には、北海道指定の自然景観保護区「厚真町いこいの森地区 未来の森」と鳥獣保護区があり、堤体の南西側には「ダム広場」・「厚真ダムキャンプ場」があった。ここは昭和48（1973）年から開催されている「田舎まつり」の会場で、かつてはバンガローや乗馬コース等も整備されていた。近年、祭りは厚真市街の表町公園で開かれており、現在キャンプ場は閉鎖、木造建物や炊事場、ステージ等が残る。また、田舎まつりを記念して「盛時の里」（揮毫：北島三郎、平成8（1996）年9月27日建立）と刻まれた石碑もある。道路向かいには斜面中腹への小道があり、そこに「水天宮」を奉った祠がある（厚真町 1986・現地調べ）。

ダム広場とキャンプ場は、大正6（1917）年間に開校した「(旧) 上幌内小学校」と、昭和26（1951）年に併設された「上幌内中学校」の跡地である。厚真ダム建設のため、昭和35（1960）年頃、厚真町教育委員会が発掘調査を担当している「シヨロマ1遺跡」の場所に移転し、旧校舎は厚真ダムキャンプ場の施設として利用された。

## 2. 地名「幌内」・「上幌内」

イクバンドユクチセ3遺跡がある場所の現地名は、字「幌内」である。字幌内は厚真町内の北東部分に広く、東はむかわ町、北は夕張市との行政境まで、西は、高丘地区、南西は富里地区、南は宇隆地区と接する。幌内はアイヌ語の「ポロナイ」に由来し、江戸時代に松浦武四郎が記した『戊午 東部安都麻志 全』（松浦・秋葉 1985）に「ホロナイ 右の方の小川。此辺に来るや川岸崩多し」とある。この小川は現在の日高幌内川で、これが厚真川に注ぐ付近から下流部の地点は、シュルク沢川、オッココ沢川等の大きな河川も合流し、周囲には低位の平坦地が広がり、現在も幌内神社・幌内小学校跡地・集落がある。アイヌ語地名「ポロナイ」の直訳は「大きい沢（川）」で、厚真川に複数の大きな川が流れ込む平坦で広い地点も意味している可能性も考えられる。

本遺跡がある厚真川上流地域のかつての字名は「上幌内（上ホロナイ）」で、昭和32（1957）年、前段で述べた広範囲の地域を統合し「幌内」となった。字上幌内は、大正10（1921）年発行の五万分一地形図（図5）にみられる。厚真川沿いに小道「小徑（道幅半開未満）」（破線表記）が続き、下流部では川の左岸で、標高217.4mの山（四等三角点「上幌内」）の東側付近で右岸に渡る。そこから厚真川の広い河川敷地である低地を通り、本遺跡が位置する中位の段丘には道はない。イクバンドユクチセ沢を渡り、現在の「祭橋」付近で再び左岸に出る。少し行くと道と厚真川の間に学校（旧 上幌内小学校）があり、さらに上るとまた厚真川の右岸に渡る。この付近は、現在の厚真ダムの堤体ある部分で、貯水池部分はかつて広い平坦地で、数軒の家がまばらに存在し、厚真川沿いに小道も続く。川を渡る場所は5か所あり、さらに上流では兩岸の平坦部がなくなり、集落はこの付近までである。この平地には北から流れるショウシウシ川（ショウシウシ澤）と、北東側からの厚真川が合流する地点があり、厚真ダム建設では五戸が水没したとある（厚真町幌内自治会 1997）。また、下流のオニキシベ（鬼岸辺）川流域には、「幌内」の地名（右表記）があり、「上幌内」と「幌内」の地名の境は、厚真川と

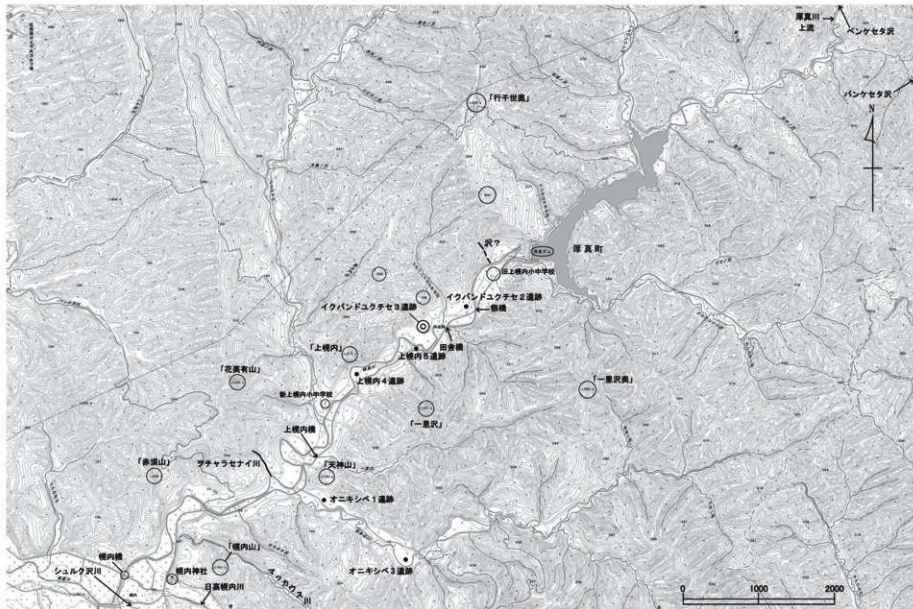


図4 遺跡周辺の地形(1)

(国土地理院 電子地形図25000「幌内・厚真川上流」を縮小して合成・加筆)



鬼岸辺川の合流点付近で、これより上流部が上幌内で、下流部と鬼岸辺川流域が幌内であったと推測される。

地名「上幌内」は、道道上幌内早来停車場線や上幌内モイ遺跡、上幌内1～5遺跡、上幌内橋、四等三角点等の名称にその名をとどめている。

### 3. 道道上幌内早来停車場線

本道路は厚真ダムから幌内地区、厚真市街地を経て安平町のJ R早来駅前までを結び、昭和32（1957）年に「道道」に認定された。その歴史は、明治34（1901）年に地域住民たちにより道路開削が開始され、同44（1911）年には幌内とオニキシベ地区の間に馬車道が開通した。大正10（1921）年発行の五万分一地形図（図5）に道幅一間以上の「里道」が現在のクウキチ沢付近までみられる。そこから鬼岸辺川との合流点までは道幅半間以上の里道、さらに先は半間未満の小径が、厚真ダム堤体の上流部まで表記されている（前項 参照）。大正11（1922）年、工事業者による「幌内メルクンナイ開墾道路新設工事」が着手され、幌内地区からメルクンナイ沢までの二里十六町（約9,546m）の区間が道幅2mに拡幅された。昭和5（1930）年から砂利敷き工事が開始され、昭和30年代頃まで農業救済事業等として行われた。昭和13（1938）年には、（上）幌内炭鉱が開山し「オニキシベ入口」に飯場が設置された。石炭の運び出しのため、この道路の難所である「大坂」（四等三角点「天神山」の北西側に張り出す裾の部分に沿う部分）と呼ばれた部分の高さを約2m下げ、改良工事したとある。昭和29年と昭和47年に「幌内橋」は改良され、昭和44年は一里沢に架かる「上幌内橋」が鉄筋コンクリート製に改良された。「道道」の認定後、改良工事が昭和42年から進められ、昭和47（1972）年には幌内地区が舗装され、現在は「オニキシベ橋」まで舗装されている。厚真ダムの完成直後の昭和48（1973）年に「田舎橋」、翌年に「祭橋」が鋼性の永久橋となった。昭和49（1974）年測量の地形図「上幌内」（図6 右側部分）では、イクバンドユクチセ2・3遺跡の近くに「田舎橋」があり、「祭橋」は未完成で道路も途切れている。この付近の左岸にある崖際の道路は、厚真ダム建設のため一時的に付け替えられたものである。昭和49年にはオニキシベ橋、昭和54年にはクウキチ沢に架かる橋が永久橋となった（厚真町幌内自治会 1997）。

この道道は、平成27年10月現在、下流部の厚幌トンネル（2号トンネル）・オニキシベ橋（7号橋）、龍神の森トンネル（1号トンネル）、一里沢橋（6号橋）までの区間が付け替わっている。平成26年度から厚幌ダム堤体本体の建設工事が着手され、現在、工事用道路となった区間の旧道は通行できない。

### 4. 幌内神社とオニキシベ地区の龍神信仰

厚真市街から厚真ダム方面へ向かい、道道上幌内早来停車場線が幌内地区の中心部付近で、東から北へ大きく曲がった右側に「幌内神社」がある。四等三角点「幌内山」（標高161.5m）の南西側の裾部分に立地する。この神社は神社本庁に属さず、地域住民の手で守られ信仰されてきた「単立神社」で、「地神宮」等とも呼ばれる。氏神は天照大神・大己喜神・猿田彦命である。

明治33（1900）年、入植者たちが「五神」（青竜・白虎・朱雀・玄武・麒麟）を削った木を奉りこの地域の信仰の端緒となった。大正2（1913）年に、集落の要請を受けた地域の木工により「鎮守の森」山頂に社殿が建立され、昭和30（1955）年に階段が整備されたとある。また、昭和34（1959）年地元の木材業者から現在の敷地が寄進され、昭和37（1962）年には社殿が老朽化し改装が検討された。同年、同木材業者から鳥居3基が寄進された。昭和39（1964）年秋には、現在の場所、幌内山の裾部に幌内神社が改装・移築されたと推測される。昭和48（1973）年3月境内の「エゾイタヤ」（イタヤカエ

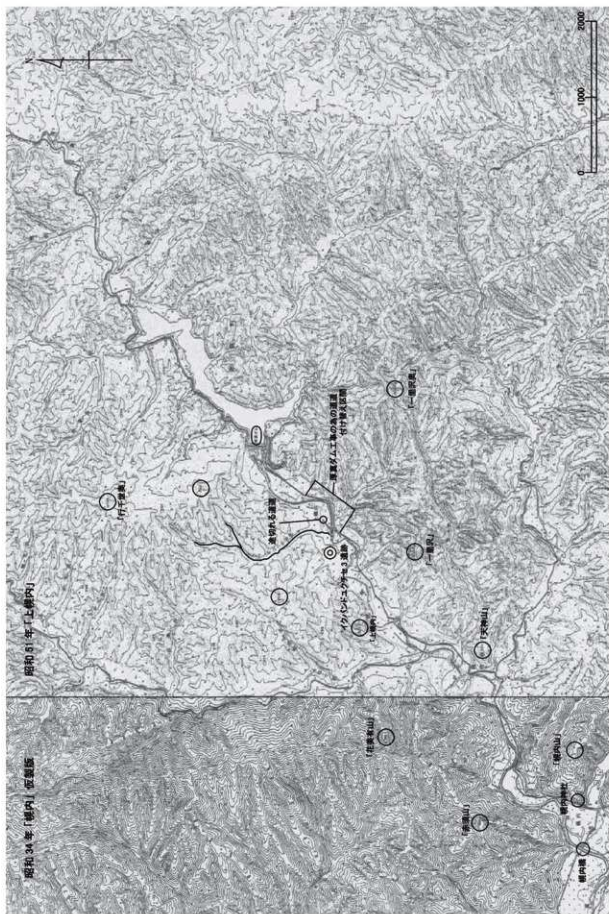


図6 道跡周辺の地形(3)

(昭和34年 地理調査所 1:25000地形図「堀内」と昭和51年 国土地理院 1:25000地形図「上堀内」を縮小して合成・加筆)

デ)が北海道記念樹木に指定され、これを受け同年10月厚真町も「記念物第一号」として指定した。しかし、平成20(2008)年、この樹木が著しく腐朽し危険なことから指定解除となり、伐採され現在は残っていない。昭和50(1975)年神社境内を小公園とすることが提案され、昭和56(1981)年地元の木材業者により鳥居が建立され、昭和61(1986)年には境内に電気施設が整備された。開拓期当初、幌内地区には様々な神仏の信仰が個人により持ち込まれ守られてきたが、これらは昭和30年代に、現在の幌内神社に合祀された(現地調べ・厚真町幌内自治会 1997)。

過去の地形図でこの幌内神社の立地を読む。大正年間(図5)は、等高線が20m間隔の五万分一地形図「早来」では等高線60~80m付近にあり、昭和34年発行の1:25,000地形図「幌内」(図6)では標高100~110m付近に参道と神社、その西側に「幌内共同墓地」がみられる。現在の1:25,000地形図「厚真川上流」(図4)では、標高50m付近に神社とそこから北西方向に墓地が等高線90mの手前にみられる。幌内共同墓地は大正6(1917)年に設置され、その場所(標高90~110m付近)は移動していない可能性が高い。幌内神社は大正8年頃には山の裾部にあり、その後、標高の高い場所に建てられ、昭和34年頃まではそこに立地し、昭和39年に山の麓の現在の場所に移築されたと推測される。

また、オニキシベ地区に龍神が祀られていたとの伝えもある。大正5(1916)年前後、オニキシベ地区で、幌内神社の社殿を建築した大工が地元住民から龍神の建立を依頼され、その場所は現在の四等三角点「天神山」の山頂であった。また、昭和九(1934)年九月 木版に竜を彫り彩色して奉納したとある(厚真町幌内自治会 1997)。記述では、龍神の建立を依頼した時期と、木版を奉納した時期には18年の差がある。この天神山の南側の麓は、当センターが平成24・25年度に調査したオニキシベ1遺跡である。平成27年10月に天神山を踏査した。急な傾斜で登るのは困難で、三角点のある東西方向の尾根は幅5mほどであった。山頂へ至る道の痕跡は見当たらなかったことや、建物の跡等はみつけれなかった。オニキシベ1遺跡の調査報告書(北埋調報318)に掲載した「図3 遺跡周辺の地形(9頁)」で、世界測地系の平面直角座標の値を表記した点の少し北西側に「祠」の記号がある。発掘調査時に建物は残っていなかったが、木彫りの龍神を奉った場所は山頂ではなくこの祠でないかと推測される。整理すると、龍神の祠の建立の時期は、幌内神社の社殿建立と同じ大正2~5年頃で、大工は同一人物である。これら「幌内山」と「天神山」にはほぼ同じ時期に建立したとはやや考えがたい。

## 5. 調査区周辺の現況

本遺跡の東側の台地の先端部には、イクバンドユクチセ2遺跡(北埋調報319)、厚真川を挟んだ南の対岸には上幌内5遺跡(年報26・28)がある。

イクバンドユクチセ3遺跡の周辺(図7)は、厚真川の右岸である北側の山は、比較的緩やかな斜面があるのに対し、左岸の南側は急峻な傾斜や崖が多い。西方向へ流れる厚真川は、イクバンドユクチセ3遺跡が立地する台地の崖にぶつかり流れを南に変え、そこから広く平坦な低地を屈曲する。さらにいうと、この低地部は北側に広く、流路は南側の崖下に沿って流れている。イクバンドユクチセ3遺跡は、本遺跡から西方向へ約300m離れた地点で南流し、田舎橋の下流で厚真川と合流する。本遺跡はイクバンドユクチセ3遺跡の右岸、この流れを見下ろす平坦地に立地する。イクバンドユクチセ3遺跡の周囲は山林(二次林)で、北側は緩斜面が続き、標高100m付近から山体の急斜面になる。北東から東側は、イクバンドユクチセ3遺跡周囲の低湿地、厚真川を眼下にみる急な崖である。南側は厚真川の低位の平坦面が広がり、多くの小さな流れがある。本遺跡の中央にある無名の沢(詳細後述 以下「調査区中央の沢」)が流れ、この平坦面に注いでいる。北西側にもイクバンドユクチセ3遺跡と同じく程度の水量がある、無名の沢がみられる。遺跡の北側部分以外は、崖または急な斜面で、中位の河岸段丘面と考

## II章 遺跡の立地と周辺環境

### 1. 立地と環境

イクバンドユクチセ3遺跡は厚真町市街地から北東約14km、夕張山地の南西部（勇弘山地とも呼ばれる）の山間部を流れる厚真川の右岸、標高80～85mの段丘に位置する。遺跡の北東側にはイクバンドユクチセ沢が流れ、この沢名が遺跡名の由来である。「イクバンドユクチセ」はアイヌ語の「エタバウンユクチセ」が変化したもので、「こちら側にある鹿待小屋」の意味と解される（厚真町 1956・北理調報 319）。厚真川流域のアイヌ文化期の遺跡のうち、最も上流に立地する（図4）。

勇弘山地は標高200～300mの急峻な山が多く、頂や山稜、急斜面や崖がみられ、これらを開析するV字谷や急な沢が多い。本遺跡近くには、北方向に約3kmに標高435.8mの山（三等三角点「行千世奥」）、南東方向へ約2kmに標高393.9mの山（三等三角点「一里沢奥」）、南方向へ約0.7kmに標高267.5m（四等三角点「一里沢」）、西南方向へ約1.1kmに標高217.4m（四等三角点「上幌内」）がある。イクバンドユクチセ沢は「行千世奥」から南南東方向へ緩やかに続く尾根の西側の中腹、標高180mと160m付近の2か所に源流部があり、標高150m付近で合流し、曲線的に南西から南方向へと流れを変え、標高100m付近で山間部を出て山裾の緩斜面から平地地を流れ、厚真川へ田舎橋の下流部で合流する。イクバンドユクチセ沢を挟む兩岸の山の頂部の標高は、右岸の北東側で「365m」、左岸の南西側で「258m」の地点で、ともに「行千世奥」から続く尾根である。この「258m」の無名の頂は、イクバンドユクチセ沢と毘沙門沢の流れに挟まれており、この頂部からさらに南東方向への尾根上に、標高「189m」の頂部がある。この頂の南側は比較的なだらかな斜面で、その裾部の中位の段丘にあたる緩斜面～平坦部に、イクバンドユクチセ3遺跡は立地する。遺跡の周囲を説明すると、北東側に南流するイクバンドユクチセ沢、東側はこの沢と厚真川との合流点、南東から南西側にかけては、厚真川の河川敷地である広範囲な低地がみられる。西側は先に述べた「258mの頂部」、南南東方向へ開く谷地形とそこを流れる無名の沢がみられる。本遺跡の対岸は、「一里沢奥」から続く北及び西方向に尾根とこれらの間の谷や沢がみられ、田舎橋の上流付近で、厚真川に注いでいる。対岸の山裾部は低地が比して狭い。

本流の厚真川は、夕張山地南部に源流部を有し厚真ダムを経て、厚真町内を通り太平洋に注ぐ流路延長52.3kmの2級河川である。厚真川の両岸には、河川近くで低位の平地地、山の裾部（標高100m以下）には緩斜面が多くみられ、特に左岸では山裾の部から河川水部まで距離があり、平坦な中位の段丘が続いている。これら厚真川の河岸段丘面上の上位に山体からの崩落物が堆積し、さらに、河川による運搬物や樽前山の火山噴出物等が堆積し現地形を形成している。また、水量が豊富な沢や大きな支流と厚真川との合流点には、これらが運搬した水成堆積物により小規模な扇状地がみられる。勇弘山地の山体を構成する岩石は、砂岩・凝灰岩等の軟質な堆積岩が主で、この地域の遺跡からこれらを用いた礫石器や礫が多数出土する。

本遺跡から約1km上流には「厚真ダム」がある。昭和28（1953）年に事業化した国営総合かんがい排水事業の一つとして計画され、当初、オニキシベ地区（オニキシベ4遺跡付近）に造られる予定であったが、現在の場所（当時の名称：上幌内上流林道大橋（第一号橋）付近）が選定され、「上幌内ダム」と仮称された。昭和40（1965）年に定礎式が行われ、5年後に竣工した。厚真町内の水田への灌漑用水の供給を目的とし、厚真川とメルクンナイ沢をせき止めて造られた「ロックフィルダム（中心遮水ゾーン型フィルダム）」型式である（厚真村 1956・厚真町 1986・現地看板等調べ）。貯水池の



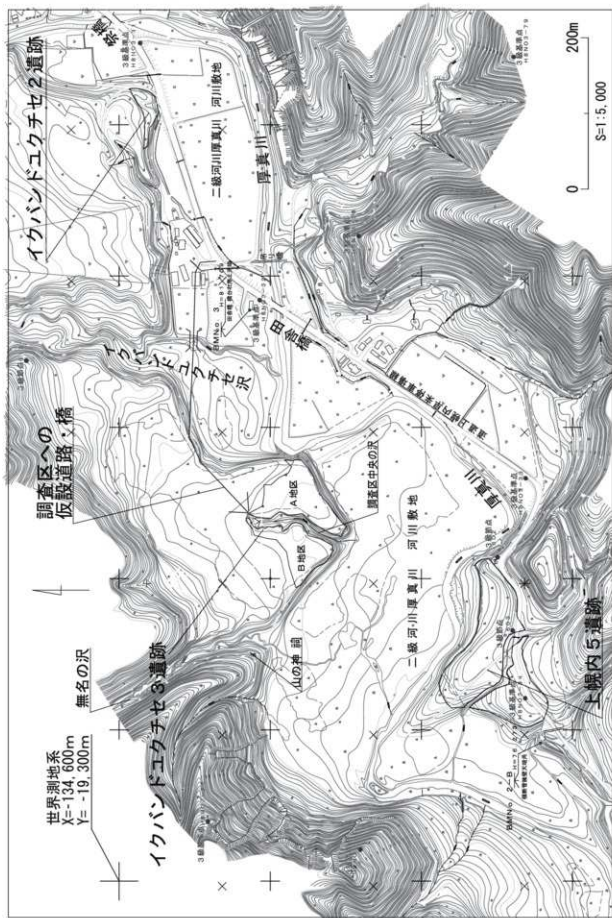


図7 調査区周辺の現況

〔平成24年度 厚鏡ダム建設工事「地区半田区」を縮小して加筆〕

えられる。また、田舎橋の少し上流にある「吊橋」は、昭和40年代に厚真町補助事業で整備された人道用の橋である。

本遺跡周辺の開拓は、明治30（1897）年に遺跡の南東側、イクバンドユクチセ沢の左岸の厚真川との合流点付近に入植者があり、農業や林業が営まれた。かつてイクバンドユクチセ沢は入植者の「氏名の沢」とも呼ばれていた。この入植者の親戚の方の聞き取り調査では、当時から土器・石器が拾えたと伝えられている。少し下流では、明治39（1906）年に黒田牧場が開墾に着手したあり、この事務所は厚真川の右岸「上幌内」山の東南東の裾部に置かれたと考えられ、大正年間の地形図（図5）で、厚真川左岸の下流部からの小道が右岸に渡る付近と推測される。また、本遺跡B地区の東側、無名の沢を挟んだ南向きの斜面に「祠」がある。この場所は平坦に整地され道もみられる。位置から「幌内のあゆみ」に記載の「山の神」すなわち、山や木に対する信仰である「マサカリ立て」あるいはそれに関する信仰のものと考えられる。入植者が山林の開拓時に、老木や大木にしめ縄をし、酒・食べ物、道具をお供えして、作業の安全を祈願したと伝えられる。これらに関する道具等をこの祠に奉納し山の神に供えたと考えられる。奉納品には「明治四三年二月一日 澤田組第三号山」と記されたものがあり、昭和7（1932）年には地元の住民も手製の鎌を納めたとある。奉納品の時期や近くの入植者から、祠を建てたのは黒田牧場の可能性が考えられる。さすれば、この牧場地はこの祠が位置する斜面の下、イクバンドユクチセ3遺跡の南東側の崖の下に広がる、厚真川周囲の河川敷地と推測されよう。

調査区の南側に道道235号上幌内早来停車場線が走り、上流部の「祭橋」、下流部の「田舎橋」で厚真川を越える。橋の名称は、昭和期に厚真ダム広場で開催されてきた「田舎まつり」から命名されたと思われる。平成25（2013）年10月の発掘調査完了後、厚真川を切り替える工事が行われ、田舎橋と祭橋の下には本流の流れはない。

## 6. 調査区中央の沢

本遺跡には、北から南方向へ流れる無名の沢がみられ、これを「調査区中央の沢」と呼ぶ。兩岸の調査区はこの沢で地区分けをし、左岸がA地区、右岸がB地区とした。沢は南または南南西方向へと流れ、水部の長さ124.4m、水深は平均0.1～0.3m、最大0.7mで、流域面積は1,649.8㎡である。平面図と横断面図（図8）を作成し、縦断面は数値で示した（表3）。

沢頭付近では3か所の湧水地点がみられ、これらが集まり一つの流れになる。上流では左岸のK-19杭付近に攻撃面があり、この部分は岸の下位がえぐれたオーバーハング状である。右岸のM・N-24・25杭付近にもかつては湧水地点であったと考えられる地形が認められる。川幅や兩岸の間隔は広く、流路には粒径がまとまった砂礫の堆積がみられる。中流のQライン付近から川幅と岸の幅が狭くなり、Sライン付近で西側に屈曲しそこから直線的な流れで下流部を経て台地の縁へと向かう。流速は下流にいくにつれ速い。沢付近では一次林の樹木が生育し、流路の地表面の観察では遺物はみられなかった。河川堆積物である砂礫は、亜円礫～円礫状の泥岩・凝灰岩・砂岩で、粒径は、最大で25cm、平均3～5cmである。（末光）

## 7. 周辺の遺跡（図9・表4）

厚真川の上流部地域は、厚真ダム建設事業と勇払東部（二期）地区厚幌導水路建設（以下、導水路建設）に伴う発掘調査で、多くの遺跡が確認・調査されている。ここでは、上流の厚真ダム付近から下流は厚真ダム堤体建設予定地付近までの範囲にしぼり、そこに位置する遺跡の概要を、厚真川の本流と支流を含め、下流から上流部の順に記述する。

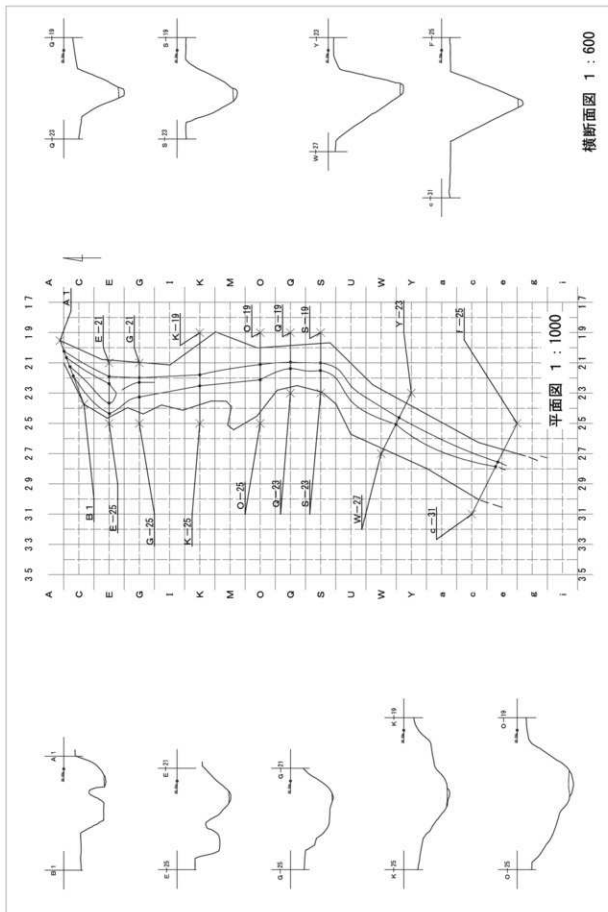


図 8 調査区中央の沢 測量図

横断面図 1 : 600

表3 調査区中央の沢 測量表

地点	測点杭		沢の形状	横断距離(m)	岸～流れまでの距離(m)		河川の幅(m)	最低標高(m)	縦断距離(m)	備考
	西側右岸(B地区)	東側左岸(A地区)			西側右岸(B地区)	東側左岸(A地区)				
上流部 複数沢	B1	A1	U字状	18.0	8.0	3.0	2.6/2.0	83.768	4.4	複数の流れ
上流部 複数沢	E-25	E-21	U字状	16.0	1.0	4.4	3.0/2.0	82.796	8.0	複数の流れ
上流部	G-25	G-21	U字状	16.0	4.1	4.1	3.9/(1.2)	82.471	16.0	広い大きな流れ 細い流水部
上流部	K-25	K-19	開くU字状	24.0	5.0	8.3	2.9	81.852	16.2	合流部
中流部	O-25	O-19	開くV字状	24.0	8.5	4.4	4.1	81.454	8.2	合流部
中流部	Q-23	Q-19	V字状	16.0	4.9	4.4	1.7	81.452	8.0	一つの流れ
下流部	S-23	S-19	V字状	16.0	5.6	5.1	2.0	81.131	7.2	一つの流れ
下流部	W-27	Y-23	深いV字状	18.0	7.3	4.3	1.9	79.613	3.2	一つの流れ
下流部	c-31	f-25	深いV字状	25.3	9.8	3.6	1.3	78.497	7.7	一つの流れ
					流域面積(m <sup>2</sup> )	最大/最小(m)	比高差(m)	直線距離合計(m)		
					1,649.8	4.1/1.2	5.271	71.7		

## ・厚真川左岸 キウキチ沢左岸

## 厚幌1遺跡(25)

本遺跡は、平成14・15・24(2002・2003・2012)年度に、厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査が、平成20・25・27(2008・2013・2015)年度には、導水路建設に伴う発掘調査が行われた。これらのうち平成25・27(2013・2015)年度は当センターが担当し、それ以外を厚真町教育委員会が実施した。過去数年間の調査では、アイヌ文化期の送り場と考えられるシカの頭蓋骨の集中がみつき、爪形文が施された縄文時代晩期の土器や、胎土に滑石を多く含む縄文時代前期の土器も多数出土した。平成27(2015)年度のセンターの調査では、掘り上げ土を伴うTピットや近代の住居跡がみつかった。

## ・厚真川左岸 キウキチ沢右岸

## 厚幌2遺跡(88)

遺跡は導水路建設に伴う発掘調査が行われ、アイヌ文化期の平地住居跡や遺物集中が確認された。縄文時代前期の遺物集中もみつかった。遺物集中では土器は少なく、黒曜石製の石鏃や頁岩製のつまみ付ナイフ、砂岩製の被熱礫などが多く出土し、焼骨も含まれている。また、調査区東側の広い範囲に縄文時代前期以前の樽前dテフラの再堆積層がみられる。

## ・厚真川左岸 鬼岸辺川との合流点の下流部

## オニキシベ4遺跡(89)

擦文文化期の複数の炉跡をもつ平地住居跡が調査され、アイヌ文化期の「チセ」への移行を考える上で重要な調査例である。また、縄文時代中期の「厚真1式土器」(苫小牧市埋蔵文化財調査センター1998)の復元土器が報告されている。

## オニキシベ6遺跡(118)

この地域では発見例の少ない、縄文時代後期の堂林式土器が多数出土した。

## ・厚真川右岸 ヲチャラセナイ川との合流点付近

## ヲチャラセナイチャシ跡(100)

ヲチャラセナイ遺跡の範囲内にあり、段丘の先端部に造られた「丘先式」のチャシ跡である。一条の溝で区画され、形状の違いから二つの時期が認められる。チャシ跡の溝の内部(内郭)で、建物跡が確認された。

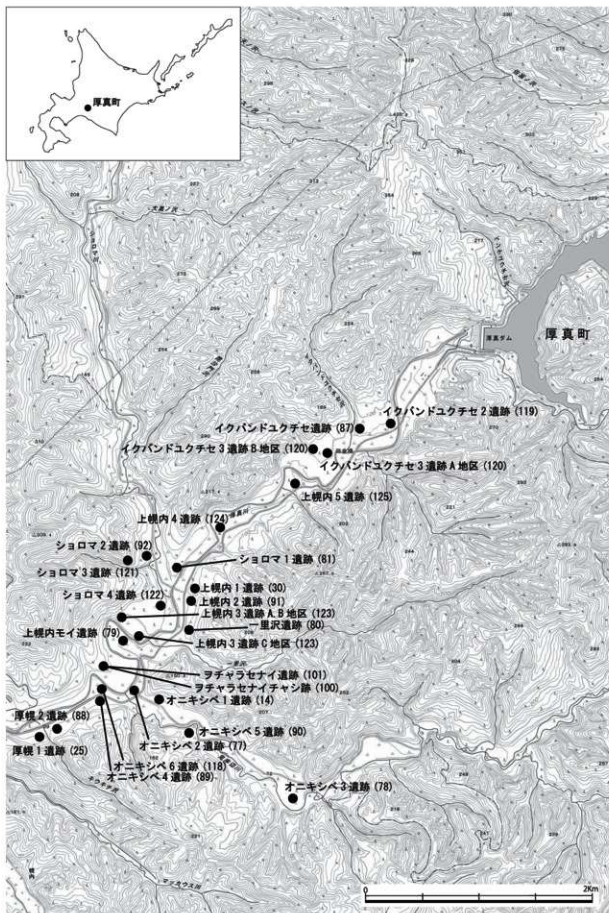


図9 周辺の遺跡

国土地理院電子地形図 25000「厚真川上流」を縮小し加筆作成

**ヲチャラセナイ遺跡 (101)**

本遺跡は、立地から交通路上重要な遺跡であり、各時代の遺構・遺物が確認された。アイヌ文化期の平地住居跡や土坑墓が調査され、シカやヒグマの骨が確認された。擦文文化期では土坑・焼土が調査され、土器は、刻文や貼付陶輪帯をもつ後半期のものである。縄文時代は前期が主で、土坑墓が複数みつきり、大型の竪穴住居跡も調査された。また、多量の両面調整石器が出土した剥片石器集中もある。

- ・厚真川左岸 鬼岸辺川との合流点付近

**オニキシベ2遺跡 (77)**

各時代の遺物が出土している。アイヌ文化期の土坑墓、擦文文化期のカマドを伴う竪穴住居跡が調査された。また、統縄文時代の遺構・遺物が多く、統縄文時代の後北B・C式の復元個体が多数報告されている。

- ・鬼岸辺川 右岸

**オニキシベ1遺跡 (14) (北埋調報 318)**

平成24・25 (2012・2013) 年度に当センターが調査した。縄文時代中期・後期が主たる時期で、竪穴住居跡の炉跡は、中期が地床炉、後期は石組炉である。

- ・鬼岸辺川左岸

**オニキシベ5遺跡 (90)**

縄文時代後期の北筒Ⅲ式土器が出土し、道東地方との関係性が想定される。また、大型の石棒も出土した。

- ・鬼岸辺川右岸

**オニキシベ3遺跡 (78)**

平成26 (2014) 年度から、当センターが調査を担当している。縄文時代後期の竪穴住居跡は平面が楕円形を呈し、地床炉か石組炉のいずれかを伴う。これらは黒色土層の上で、明瞭なくほみでみられた。さらに、掘り上げ土を伴う大型のものも確認した。この大型の竪穴住居跡内の出土遺物は、他の竪穴住居跡に比べると少ない。また土器集中では、縄文時代後期初頭の余市式、タブコブ式や縄文時代晩期の爪形文が施された土器も出土した。次年度は町道の下と北側部分を調査予定である。

- ・厚真川左岸 平坦な低地

**上幌内モイ遺跡 (79)**

各時代の遺構・遺物がみついている。アイヌ文化期は平地住居跡や土坑墓が調査され、骨の集中からはヒグマの骨がみつかった。擦文文化期では、類例の少ない土坑墓も発見され、副葬品の擦文土器の施文に用いられた篩歯状工具から、オホーツク式土器の影響が推測されている。羽口や鉄洋などが多く出土した遺物集中は、鉄器生産に関するものと考えられる。統縄文時代では、アヨロ2b類の土器を伴う遺構が調査された。縄文時代は、早期・中期・後期の竪穴住居跡と160基を超えるTピットが確認された。また、後期旧石器時代の札滑型細石刃核を伴う石器群が出土し、これに関連する焼土や炭化物集中も確認された。

- ・厚真川右岸

上幌内3遺跡 (123) は三つの地区があり、当センターが調査を担当した。C地区は離れており、A・B地区の間には小さな沢地形がある。平成25・26 (2013・2014) 年度にC地区、平成26 (2014) 年度にA・B地区を調査した。

### 上幌内3遺跡C地区

擦文文化期～アイヌ文化期の平地住居跡・建物跡を調査し、縄文時代後期の大型堅穴住居跡もみつけた。

#### ・無名の沢右岸

### 上幌内3遺跡A地区

アイヌ文化期の土坑墓が2基みつけた。副葬品は、鉄鍋・漆製品・ガラス玉・古銭などが出土した。また、杭そのものが残る縄文時代のTピットも確認した。

#### ・無名の沢左岸

### 上幌内3遺跡B地区

アイヌ文化期の平地住居跡を調査し、擦文文化期の遺物集中から須恵器が出土した。また、縄文時代では早期の堅穴住居跡がみつけた。

#### ・厚真川左岸 一里沢右岸

### 一里沢遺跡(80)

Tピットが重複することなく、狭い範囲に集中してみられ、新旧関係が掘り上げ土と覆土から判明できる可能性があるとの報告がある。

#### ・ショロマ川右岸 厚真川との合流点付近

### ショロマ4遺跡(122)(北埋調報 322)

平成26(2014)年度に当センターが調査を行った。擦文文化期～アイヌ文化期、統縄文時代の遺構・遺物がショロマ川に面する崖際に多く確認された。擦文文化期の土坑墓がみつき、縄文時代後期の石組炉を伴う大型の堅穴住居跡も調査した。

#### ・ショロマ川右岸 無名の沢右岸

### ショロマ3遺跡(121)

擦文文化期の鉄器集中と、統縄文時代の三体が合葬された土坑墓が発見され、縄文時代後期の大型堅穴住居跡もみつけた。

#### ・ショロマ川右岸 無名の沢左岸

### ショロマ2遺跡(92)

縄文時代中期の掘り上げ土を伴う堅穴住居跡が調査され、多数のTピットが列状でみつけた。また、縄文時代後期初頭の緑色泥岩製の磨製石斧片の集中がみつきり接合できる資料となった。

#### ・ショロマ川左岸 厚真川右岸

### ショロマ1遺跡(81)

厚真川とショロマ川に挟まれた合流点付近に立地する。アイヌ文化期の平地住居跡が確認され、遺物集中からは鉄鍋が1個体出土した。縄文時代後期では石組炉をもつ堅穴住居跡と、縄文時代前期の円筒土器下層d式を伴う大型堅穴住居跡が調査された。また、縄文時代後期初頭の礫集中から棍棒型石器が出土し、胆振地方では初めてである。

#### ・厚真川左岸 無名の沢左岸

### 上幌内2遺跡(91)

アイヌ文化期の土坑墓がみつきり、副葬品の和鏡・漆製品・刀などが注目される。縄文時代は、早期～後期の堅穴住居跡と土坑が調査された。

#### ・厚真川左岸 無名の沢右岸

### 上幌内1遺跡(30)

擦文文化期～アイヌ文化期の複数の炉跡をもつ平地住居跡がみつかり、縄文時代早期・中期・後期の堅穴住居跡や土坑なども調査された。

#### ・厚真川左岸

##### 上幌内4遺跡 (124)

平成26 (2014) 年度から当センターが調査を行い、縄文時代中期・後期の堅穴住居跡や土坑、Tピットがみつかった。Tピットは平面が溝状と楕円形のものがあり、楕円形のものには杭跡が確認されるものが多くみられた。土器集中では、縄文時代中期の円筒土器上層a式や縄文時代後期の手稲式の注口土器が出土した。また、近代の馬の骨が確認された。次年度以降も調査予定である。

#### ・厚真川左岸 無名の沢の両岸

上幌内5遺跡 (125) は、平成25・27 (2013・2015) 年度に当センターが調査をし、平成25 (2013) 年度の調査では300㎡の範囲からTピットが13基みつかり、このことからTピットが多数確認されることが予想できた。遺跡は調査区内を流れる無名の沢で地区分けを行った。無名の沢の右岸をR地区、左岸をL地区とした。R地区では、V層下位のT a-d テフラがみられず、灰色を呈する水成堆積の粘土層が地山であり、この面でTピットが確認された。L地区では、調査区内の西側平坦部の狭い範囲から複数のTピットが集中してみつかり、列状のものも確認できた。次年度以降も調査予定である。

#### ・厚真川右岸 イクバンドユクチセ沢右岸

イクバンドユクチセ3遺跡 (120) (本報告書 北埋調報 325) は、平成25 (2013) 年度に当センターで調査し、遺跡の中央を流れる「調査区中央の沢」で地区分けをした。

#### ・無名の沢左岸

##### イクバンドユクチセ3遺跡A地区

アイヌ文化期の柱穴・杭穴、焼土、礫集中を確認し、これらから建物跡と判断したものは7軒である。アイヌ文化期の遺跡では最上流部に立地する。また、縄文時代ではTピットが31基みつかり、切り合うものもみられる。

#### ・無名の沢右岸

##### イクバンドユクチセ3遺跡B地区

縄文時代中期～後期の堅穴住居跡やTピットを調査した。また、調査区の南側部分の黒色土層中で、約30×25mの広い範囲から礫石器や礫が多数みられ「大規模な礫集中」と呼称した。この中には土器、石器は少なく礫は被熱したものがあり、焼骨も点在してみられた。

#### ・イクバンドユクチセ沢 左岸

##### イクバンドユクチセ遺跡 (87)

主な時代は縄文時代後期で、試掘調査では土器・石器・礫が出土した。標高92～96m付近に立地し、ダム完成後も湛水地域でないため、現在のところ発掘調査の予定はない。

#### ・厚真川右岸

##### イクバンドユクチセ2遺跡 (119) (北埋調報 319)

平成25 (2013) 年度に、当センターが縄文時代中期～後期の土坑とTピットを調査した。現在、最も上流に位置する遺跡である。

#### ・厚真川とメンクロナイ沢との合流点付近 (厚真ダム堤体付近)

地域住民への聞き込み調査で、厚真ダム付近にも遺跡があったとの記述がある (厚真教育委員会 2014他) (奥山さとみ)



表4 周辺の遺跡一覧表(1)

登録番号 J-13	遺跡名	指定 旧地名	河川・沢・立地	地区	調査土層 (Ta-r)	調査 面積 ㎡	内容			特記事項	調査年度	調査機関	発掘調査報告書 文庫・参考情報	備考		
							主な時代	主な遺構	主な遺物							
23	原城1遺跡	ナク ホコイ	クウケナ沢 北岸	原真川 北岸	—	上段、下段 褐色土層	9,300	縄文時代中葉-後葉 アイヌ文化層	竈穴遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 鉄製品 自然発物	シロの香の跡が 認められ、高木遺跡 期との関係が 期待される	平成14(2002) 平成15(2003) 年度	原真町教育委員会 【原真1遺跡】2004	平成14・15・24年度は、 原真町立遺跡に に跡を発見 【原真1遺跡(1)】2010 年度		
							1,000	縄文時代 前期-後葉	竈穴遺構 土坑・Tビント	土器・石器 自然発物	—	平成20(2008) 年度			原真町教育委員会	
							2,070	縄文時代前期 縄文文化層	土坑・Tビント 遺物集中・遺構	土器・石器	縄文時代前期の 跡と認められる	平成24(2012) 年度			原真町教育委員会	
							1,400	縄文時代前期 縄文文化層	竈穴遺構 土坑・Tビント 土器集中	土器・石器	縄文時代前期 及び縄文時代上層	平成25(2013) 年度			【発掘北海道】 【調査年度26 平成25年度】2014	平成24(2012)・25年度は、 原真町立二股地区 発掘調査区画に に跡を発見
							1,018	縄文時代中葉-後葉 縄文文化層	竈穴遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器	竈穴上層土層中Tビント の存在が確認	平成27(2015) 年度			【発掘北海道】 【調査年度28 平成27年度】2016	平成27年度調査予定
24	原城2遺跡	ナク ホコイ	クウケナ沢 北岸	原真川 北岸	—	上段、下段 褐色土層	800	縄文時代前期 アイヌ文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 自然発物	縄文時代前期の 遺構や 縄文時代前期以降の Tビントの存在が 確認	平成27(2015) 年度	【発掘北海道】 【調査年度28 平成27年度】2016	原真町立二股地区 発掘調査区画に に跡を発見 【調査年度28 平成27年度】2016		
25	オニキシバ4遺跡	オホホコイ オホキシバ入口	原真川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	—	上段、下段 褐色土層	4,133	縄文時代 前期-後葉 縄文文化層	竈穴遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 金製品 自然発物	【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層	平成24(2012) 年度	原真町教育委員会	【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層		
118	オニキシバ6遺跡	オホホコイ オホキシバ入口	原真川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	A地区 下流部 B地区 上流部 C地区 上流部	下段 褐色土層	1,263	縄文時代前期 縄文文化層	土器・Tビント 遺物集中	土器・石器 自然発物	—	平成24(2012) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2014		
							300	縄文時代 前期-後葉 縄文文化層	土器・Tビント 遺物集中	土器・石器 自然発物	—	平成24(2012) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2014		
100	ツチヤサセ1(遺跡)	オホホコイ オホキシバ入口	原真川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	A地区(奥平山川上) 先施(奥平山川上)	上段 褐色土層	4,239	縄文時代前期 アイヌ文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 鉄製品 自然発物	先施 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層	平成25(2013) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2014		
101	ツチヤサセ2(遺跡)	オホホコイ オホキシバ入口	原真川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	A地区(奥平山川上) 先施(奥平山川上)	上段、下段 褐色土層	3,470 4,066 3,300	縄文時代前期 縄文文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 鉄製品 自然発物	先施 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層	平成25(2013) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2014		
77	オニキシバ2遺跡	オホホコイ オホキシバ入口	原真川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	A・B地区	上段、下段 褐色土層	3,689 1,800	縄文時代 前期-後葉 縄文文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 鉄製品 自然発物	先施 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層	平成19(2007) 平成20(2008) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2011		
14	オニキシバ1遺跡	オホホコイ	奥平山川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	—	下段 褐色土層	10,380 3,314	縄文時代 前期-後葉	土器・Tビント 遺物集中	土器・石器 自然発物	—	平成24(2012) 平成25(2013) 年度	【発掘北海道】 【調査年度28 平成24年度】2014	【発掘北海道】 【調査年度28 平成24年度】2014		
90	オニキシバ6遺跡	オホホコイ	奥平山川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	—	下段 褐色土層	3,283 3,144	縄文時代 前期-後葉	土器・Tビント 遺物集中	土器・石器 自然発物	—	平成23(2011) 平成24(2012) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2013		
76	オニキシバ3遺跡	オホホコイ	奥平山川 北岸	奥平山川上 の合流部から下流部	—	下段 褐色土層	15,020	縄文時代前期 縄文文化層	竈穴遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 自然発物	竈穴上層土層中Tビント の存在が確認	平成23(2011) 平成27(2015) 年度	【発掘北海道】 【調査年度27 平成26年度】2015	平成27年度調査予定 【調査年度28 平成27年度】2016		
79	上様内毛1遺跡	上様内 毛	原真川 南岸	原真川 南岸	—	上段、下段 褐色土層	3,943 4,518 8,260 8,586	縄文時代前期 縄文文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 金製品・銅製品 鉄製品 自然発物	縄文文化層の 遺構や 縄文時代前期 の遺物や 縄文時代前期 以降の Tビントの存在が 確認	平成16(2004) 平成17(2005) 平成18(2006) 平成19(2007) 年度	原真町教育委員会	遺跡名「クニ」 の アノ 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層		
122	上様内毛2遺跡	上様内 毛	原真川 南岸	原真川 南岸	A地区	上段、下段 褐色土層	2,800	縄文時代 前期-後葉 縄文文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 金製品 銅製品 鉄製品 自然発物	縄文文化層の 遺構や 縄文時代前期 の遺物や 縄文時代前期 以降の Tビントの存在が 確認	平成20(2008) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2014		
					B地区	上段、下段 褐色土層	2,840	縄文時代 前期-後葉 縄文文化層	平石遺構 土坑・Tビント 遺物集中	土器・石器 金製品 銅製品 鉄製品 自然発物	縄文文化層の 遺構や 縄文時代前期 の遺物や 縄文時代前期 以降の Tビントの存在が 確認	平成20(2008) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【オニキシバ遺跡】2014		
95	一風沢遺跡	上様内 毛	原真川 北岸	一風沢の支流 奥平山川上 の合流部から下流部	—	上段、下段 褐色土層	1,487	縄文時代前期 中葉-後葉 縄文文化層	Tビント 土坑・遺物集中	土器・石器 金製品	多数のTビント	平成23(2011) 年度	原真町教育委員会	原真町教育委員会 【原真1式】 遺物の出土から 縄文時代上層		

表4 周辺の遺跡一覧表(2)

登録番号 J-13	遺跡名	歴史・ 地域名	河川・谷・立地	地域 関係	遺跡 日本一	遺跡 面積	調査年代		調査 内容	調査事項	調査年度	調査機関	調査報告書 又は、調査情報	備考
							主体時代	主体遺構						
122	シロコヤケ遺跡	上郷内	シロコヤケ 地区 東照宮公園 忠臣公団付近	—	1.10 1.10 1.10 1.10 1.10	4,170	縄文時代 土佐・土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	(株)シロコヤケ文化財 保存会 福徳文化財センター 福徳文化財センター 福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」 平成22年度「13」第2編「遺跡」	—
123	シロコヤケ遺跡	上郷内	シロコヤケ 地区 無名塚付近	—	1.10 1.10 1.10	1,310	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	—
82	シロコヤケ遺跡	上郷内	シロコヤケ 地区 無名塚付近	—	1.10 1.10 1.10	1,800	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	平成22年度が年度以降は調査未了
81	シロコヤケ遺跡	上郷内	シロコヤケ 地区 無名塚付近	—	1.10 1.10 1.10	870	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	平成22年度が年度以降は調査未了
91	上郷内4遺跡	上郷内	無名塚 地区 無名塚付近	—	1.10 1.10 1.10	1,443	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了
36	上郷内1遺跡	上郷内	無名塚 地区 二ツ谷原付近	—	1.10 1.10 1.10	3,832	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了
124	上郷内4遺跡	上郷内	無名塚 地区 二ツ谷原付近	—	1.10 1.10 1.10	397	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了
125	上郷内5遺跡	上郷内	無名塚 地区 二ツ谷原付近	—	1.10 1.10 1.10	1,699	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了
126	イワノシロコヤケ遺跡	上郷内	イワノシロコヤケ 地区 石手	—	1.10 1.10 1.10	300	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了
87	イワノシロコヤケ遺跡	上郷内	イワノシロコヤケ 地区 石手	—	1.10 1.10 1.10	3,322	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了
118	イワノシロコヤケ遺跡	上郷内	イワノシロコヤケ 地区 石手	—	1.10 1.10 1.10	1,114	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	縄文時代 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	上郷+小野 上郷+小野 上郷+小野	遺文、土佐式瓦葺 土佐式瓦葺 土佐式瓦葺	平成22(2010)年度 平成22(2010)年度 平成22(2010)年度	福徳文化財センター	「調査報告書」平成22年度「13」第2編「遺跡」	調査未了

## III章 調査の概要

### 1. 発掘区の設定

#### (1) 調査区の形状 (図10・表5)

調査範囲については「発掘区域は、推定される常時満水位の推定ライン。水準測量・現地実測必要」と道教委からの指示があった。厚幌ダムの常時満水位は標高85.4mで、現地表面でこの値以下の範囲が調査区として示され、中央に沢をはさみ、東側の左岸部分5,500㎡を「A地区」、西側の右岸3,700㎡を「B地区」とし、当初の調査面積は合計9,200㎡であった。調査区が示された図面は、日本測地系(平成8または12年度作成)で示された「求積図」を基図としたものであったので、これを「平成24年度 厚幌ダム建設工事 資料整理 現況平面図」に再現し、発掘調査に関わる測量記録は世界測地系で行った。室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所から提供を受けた工事図面・測量資料は次のものである。

- ・「平成8年度 厚幌ダム建設基準点測量 3級基準点 幌内地区 成果表」北海道室蘭土木現業所
- ・「平成12年度 厚幌ダム建設用地測量(資料整理) 現況平面図 1:1,000」北海道室蘭土木現業所
- ・「平成24年度 厚幌ダム建設工事 資料整理 現況平面図 1:1,000」北海道室蘭土木現業所  
(平成15年十勝沖地震に伴う基準点成果を改定・補正 PatchJGD・tokachui 2003.par Ver. 1.0.0)
- ・「厚幌ダム平面図 1:2,500 平成24年度 計測航空レーザ・空中写真 日本測地系」室蘭建設管理部
- ・「厚幌ダム建設工事 1:5,000 (日本測地系)」室蘭建設管理部 厚幌ダム事務所

現地でも、図面と現況を点検したところ、A地区の東及び南側とB地区の西端部分、中央を流れる沢の形状等、図面の線形と現地地形と一致しない部分があり、さらに、遺構や遺物が広がっていたため拡張した北側の範囲もあり、これらを調整・整合し、最終的にはA地区5,486㎡、B地区3,835㎡と調査面積を変更した。

#### (2) グリッド設定と調査杭の打設

調査グリッドは、沢を挟むA・B地区両者を網羅し、世界測地系の平面直角座標(XⅡ系)に基づき4m単位で設定した。座標北が位置する北東側をグリッドの原点「A-1」( $X=-134,768.000m$   $Y=-18,740.000m$ )とし、南北をアルファベット、東西を算用数字とし、南と西側へ昇順する。南方向は、Zの次に小文字aとしiまで、西側は47までのラインを割り付けた。グリッドの呼び名は、北東側の杭名とし、アルファベットと算用数字をハイフンでつなぎ表記した。記号のうち「C」と「c」(大文字と小文字)、「I」と「i」(大文字アイと小文字エル)は、表記上、混同しないよう注意書きを記す等して気をつけた。

現場では、既設及び新設の4級基準点から8m間隔でグリッド杭(方眼杭)を、調査区北側部分には図面の形状で範囲杭を打設した。水準測量は、調査区内の沢頭に設けられた仮ベンチマークを与点とした。なお、これらの基準点等は表5にまとめた。

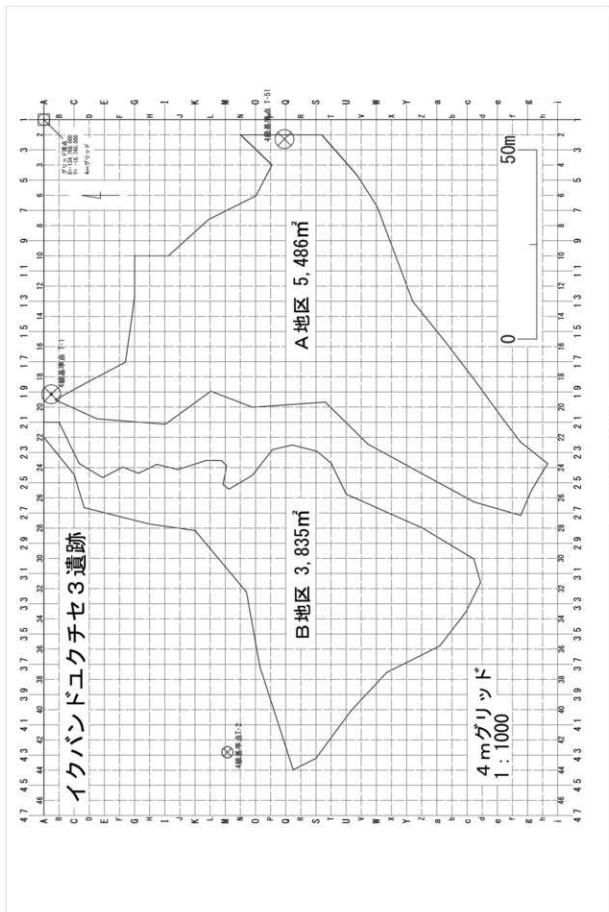


図10 グリッド設定図

表5 測量基準点一覧表

杭名	種類	世界測地系				真北 方向角 (°・′・″)	標高 (改測値) (m)	調査区 グリッド	備考
		平面直角座標 (m)		地理座標 (°・′・″)					
		X	Y	北緯	東経				
T-51	4級基準点 既知点	-134,831.698	-18,745.122				85.770	Q-2杭 付近	平成24年度設置
T-55	4級基準点 既知点	-134,701.357	-18,879.003				89.208	調査区外	平成24年度設置
KBM NO.記入なし	仮 ベンチマーク 既知点						86.943	真真川中央の沢 沢頭近く	平成24年12月設置
T-1	4級基準点 新点	-134,770.001	-18,812.605	42 47 11.8	142 01 12.2	00022.3	86.425	A-19杭 付近	平成24年6月設置
T-2	4級基準点 新点	-134,816.613	-18,907.247	42 47 10.2	142 01 08.0	00025.1	86.391	M-43杭 付近	平成24年6月設置
グリッド交点									
A-1	調査区グリッド原点	-134,768.000	-18,740.000					(A-1)	調査区外
I-16	調査区内グリッド交点	-134,800.000	-18,800.000					I-16	A地区 調査区内
I-41	グリッド交点	-134,800.000	-18,900.000					(I-41)	調査区外
h-16	グリッド交点	-134,900.000	-18,800.000					(h-16)	調査区外
h-41	グリッド交点	-134,900.000	-18,900.000					(h-41)	調査区外

## 2. 基本土層 (図11・12 表6 カラー図版4 図版1)

基本土層は、厚真川上流部地域に所在する遺跡の発掘調査の成果を踏まえ、次のように区分した。色調及び土層の観察項目は『標準土色帖』(小山・竹原 1967)と『土壌調査ハンドブック』(ベドジスト懇談会 1984)による。

### I層：現地表土等

I a層は黒褐色の森林表土、I b層は部分的にみられ、II層を主体とする砂土で黒色を呈する。I c層は攪乱等で、I d層は崩落し崖際に二次堆積した層である。

### II層：樽前b降下軽石層

1667年に降下した樽前b降下軽石層(T a-b)で、三つに分けられる。上・中位の層は細粒で礫を含まず、下位層は比して粗粒である。

### III層：黒色土層

約2千年前～近世アイヌ文化期(1667年)の黒色土層で、A地区のみを調査した。くぼみには薄く火山灰層がみられた部分もあり、これは白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)と考えられるものもあったが、遺構と関連する状況はみられなかった。

### IV層：樽前c降下火山灰層

約2千年前に降下した樽前山の火山灰層で、粒径の大きな軽石は含まない。V層上面で遺構や風倒木痕のくぼみに堆積がみられるものもあった。

### V層：黒色土層

縄文時代晩期後半～同早期までの遺物包含層で、A・B両地区とも発掘調査した。T a-dのスコリアが混じる部分がみられ、便宜的にa～cを語尾に付し分層したが、層位的な序列はみられなかった。また、A地区の北側部分では、樽前d2スコリア主体の水成二次堆積層(S d 2層)がみられ(図12)、これの上位の黒褐色土層をs V層として区分した。出土遺物はないが、下位のV層出土の土器と上位の樽前c降下火山灰層から考えて、S d 2層の堆積年代は縄文時代晩期後半以前である。

### VI層：漸移層

黒色土層が下位の層へと漸移的に変化する部分である。



**T a - d 層：樽前 d 火山噴出物層**

T a - d 層は四つに分けた。上位の褐色を呈する「T a - d B層」は、漸移層の一部の可能性もあるが、T a - d スコリアを多量に含んでおり地山と判断し、VI層と区分した。他は含有するT a - d スコリアの種類から、T a - d 1・2に分け、試掘調査で深く掘り下げたトレンチでこれら下位の土層を観察し、これらは一次堆積層と判断した。

**T a - d 2 S層：樽前 d 火山噴出物二次堆積層**

このT a - d 2 スコリア主体の水成二次堆積層である。判断の主な手がかりは、スコリアの円磨度や、堆積岩等の火山噴出と関連のない岩片を含むこと、粒径がまとまった砂礫等の薄層がみられることである。一次堆積と判断したT a - d 2層と明確に区分できない地点も多かったが、層位的な序列はT a - d 2 S層が新しい。

**水成粘土層**

Tピットの調査等で深く掘り下げた部分で、T a - d 2層の下位にみられた。浅黄色を呈する粘土層で、豊富な地下水がこの層を底として流れていた。

**・土層断面図①：A地区 K-16区**

s V層とS d 2層がみられ、下位の黒色土層はT a - d 1スコリアを含むV c層、地山はT a - d 2層である。T a - d 2スコリアの二次堆積層の堆積範囲を図12に示した。

**・土層断面図②：A地区 Q-8区**

くほみにII層が堆積し、西側へとIII層は薄くなる。V層の下位ではVI層が部分的にみられ、地山はT a - d 1・2層である。

**・土層断面図③：B地区 H-25区**

V層は礫を含まないV a層が部分的にみられ、T a - d 2スコリアを含むV b層が多い。

**・土層断面図④：B地区 Q-29区**

IV層のT a - c火山灰層が薄く堆積し、V層はT a - dスコリアが無作為に混じるため、分層できない。また、VI層が厚くみられる。

**遺構の層位（表7）**

遺構の層位の解釈のため、表7に示す土色階調モデルを作成した。黒色土に、VI層の漸移層と土壌化した橙色のスコリア（T a - d 2（S））を混ぜ合わせ、混ぜ合わせた量ごとに野外土性や色調を観察した。黒色土層が10～20%以上であると色調はすべて黒色を呈し、野外土性は礫主体の層が50%以上であると砂壤土になる。

遺構の覆土を観察する場合、色調では解釈の幅が広がるが、野外土性も考慮するとこれを絞り込むことができ、その傍証として礫の混入量がある。現場では調査担当者間で、この階調モデルを基準とし、遺構の層位の記録を可能な限り統一するようにした。

表7 遺構土色階調モデル

V層															
混在割合	B	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	0%			
DB		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%			
色調 (マンセル 表色系)	黒色 10YR1.7/1	—	—	黒色 10YR1.7/1	—	—	黒色 10YR1.7/1	黒色 10YR1.7/1	—	黒色 10YR1.7/1 10YR2/1	黒褐色 10YR2/2	にぶい 黄褐色 10YR4/3			
野外土性	埴壤土	—	—	壤土	—	—	砂壤土	砂壤土	—	砂壤土	砂壤土	砂壤土			
礫の混入	なし	—	—	微量	—	—	少量	少量	—	中量	多量 ～ 中量	多量			

B：V層：黒色土層（T a - c 下位）

DB：にぶい褐色ローム土

T a - d 2															
混在割合	B	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	0%			
R		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%			
色調 (マンセル 表色系)	黒色 10YR1.7/1 7.5YR1.7/1	—	—	—	—	—	黒色 10YR1.7/1 7.5YR1.7/1	—	—	黒褐色 7.5YR2/2	暗褐色 7.5YR3/3 ～3/4	明褐色 7.5YR5/8			
野外土性	埴壤土	—	—	—	—	—	砂壤土	—	—	砂壤土	砂壤土	砂壤土			
礫の混入	なし	—	—	—	—	—	少量	—	—	中量	多量 ～ 中量	多量			

B：V層：黒色土層（T a - c 下位）

R：T a - d 2：橙色のスコリアとこれが土壌化したもの

### 3. 調査の方法

両地区の伐採及び抜根作業後、建設機械による表土除去作業を行った。作業の順序はA地区Ⅲ層、B地区V層、A地区V層の順である。Ⅱ層あるいはⅣ層下位までを機械で除去し、残りを人力で除去しⅢ・V層上面を検出した。B地区の表土除去ではⅢ層の遺構・遺物に特に注意を払った。人力による調査は、表土除去作業の工程に合わせてA地区Ⅲ層を先に完了させ、V層の調査はA・B両地区で展開した。A地区Ⅲ層人力調査中にB地区の表土除去作業を、A地区のⅣ層除去作業中にB地区V層人力調査を行い、機械作業が完了した後は、A・B両地区のV層を調査した。

調査の早い段階で、土量や遺構・遺物のあり方について把握する目的で、A地区はⅢ層、B地区はV層上面から、地山（T a - d層）まで先行トレンチ調査を行った。南北方向は、A地区16ラインとB地区26ライン、東西方向は両地区Qラインに先行トレンチを設けた（図12）。この調査では、Tピットが多くみつき、概ね調査区全体にみられること、遺物が多く出土する地点等の概要を把握できた。しかし、B地区の南側部分のトレンチ調査は、A地区Ⅲ層の調査を優先したため行えず「大規模な継集中」を早い段階で見えなかった（図12・表8）。

包含層調査は、遺構や遺物のあり方を確認しながらグリッドごとに進めた。包含層を掘り下げる度に検出面を清掃し、遺構の発見に努めた。また、遺物が集中している場所は、特に遺構確認を慎重に行った。遺構と予想された部分は、トレンチ調査、半載等を行い、土層断面や壁の立ち上がり、床面・底面の形状や遺物出土状況等の確認し、遺構である場合これらを記録化した。自然遺物は微細で脆弱な骨片（焼骨）が出土し、これらを現場で観察し、形状を留める大きなものを取り上げた。地形測量図は調査の進行状況に合わせ、Ⅲ層（A地区のみ）（図13）・V層（図34・62）・T a - d層上面（図3）を作成した。



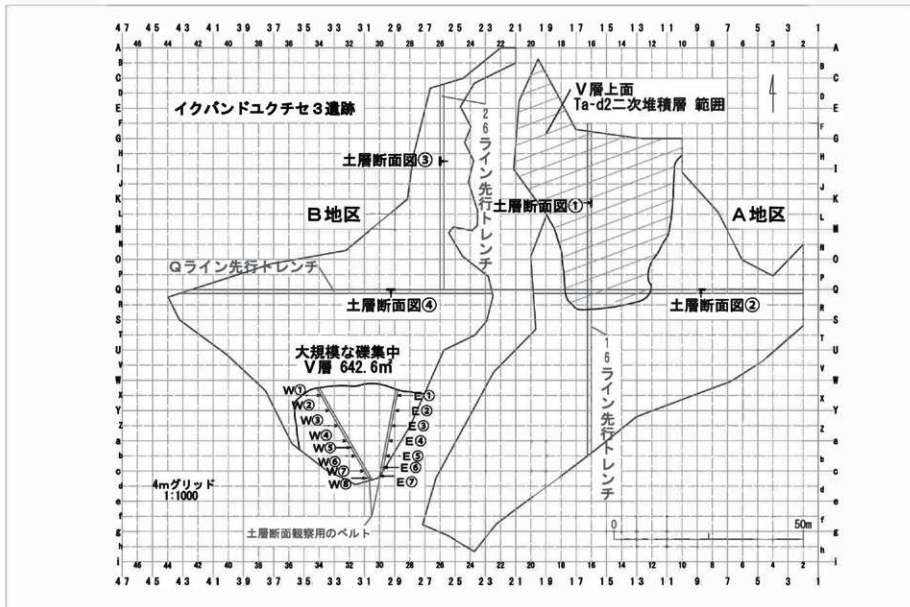


図12 調査区概況図

### 大規模な礫集中の概要 (図12・表8)

大規模な礫集中の範囲は、B地区の調査区南側、V層から大量の礫石器・レキが出土した。調査方法や遺物の整理作業は包含層調査に準じ、整理作業で本遺構に位置するグリッドの出土遺物を、包含層出土のものに分けた。また、二本のベルトを設け、土層断面を観察し、表8にまとめた(調査の詳細はVI章9節参照)。

表8 大規模な礫集中 土層観察記録

観察事項/地点		W:西側ベルト(X-34杭付近~d-30杭付近)							
		W①	W②	W③	W④	W⑤	W⑥	W⑦	W⑧
V層	層厚(cm)	10	12	12	12	20	20	20	9
礫石器 レキの量	上位	無	少量	少量	中量	中量	中量	少量	多量
	下位		中量	少量	少量	中量	少量	少量	多量
骨片 (煨骨)	混在割合(%)	無	1	1以下	1以下	1	1	1未満	1未満
	最大長(mm)		2~3	1~2	1~4	1~4	1~3	1~2	1~3
備考						この地点の周辺に骨片多い 写真記録 図版1・2	この地点の周辺に骨片多い		
観察事項/地点		E:東側ベルト(X-29杭付近~d-30杭付近)							
		E①	E②	E③	E④	E⑤	E⑥	E⑦	
V層	層厚(cm)	15	18	18	15	20	12	10	
礫石器 レキの量	上位	無	多量	中量	少量	多量	多量	多量	
	下位	少量	中量			少量	中量	中量	
骨片 (煨骨)	混在割合(%)	無	1以下	1以下	1	1以下	1以下	1以下	
	最大長(mm)		1~2	1~2	1~4	1~2	2~3	1~2	
備考					この地点の周辺に骨片多い				

## 4. 整理の方法

### (1) 一次整理の方法

土器・石器等の遺物は、現場で「遺跡名(略号:イ3)出土地点(遺構名・グリッド)出土層位 遺物種別(土器・剥片石器・礫石器とレキ・その他の四つに大別)・取り上げ番号(出土位置記録のもの)・取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に取り上げた。現場事務所では袋ごとに「取り上げ台帳(水洗台帳)」に記録し、一次整理作業の流れを管理した。遺物は「水洗」・「乾燥」した後、「分類」し、出土地点・出土層位・遺物名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物とともにビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、Excel文書の「遺物登録台帳」を作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。手取りの自然遺物も同様に進めた。鉄製品は、取り上げて乾燥させた後、密閉できるタッパーにシリカゲルとともに収納し、湿度の少ない環境で保管した。微細遺物は、現場で土ごとに取り上げ、灰跡の焼土等は水洗浮遊選別法により動植物遺存体を目的に行い、人工遺物の集中は水洗選別法により遺物を回収した。

また、接合作業を行う土器は遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は「遺跡名(イ3)出土地点 出土層位 遺物番号」である。礫石器やレキは多数出土し、使用・加工痕が不明瞭

なもの、破片化したもの、脆弱な岩石で土と化したもの等がある。これらの中には、特定できない礫石器の一部もあると思われる。出土した礫石器・レキの総体を勘案し、これらの一部は現場でカード作成・遺物台帳登録までの記録を作成し、現地で廃棄した。その際にデジタルカメラで撮影したものもある。これらの扱いについて、遺物登録台帳の備考欄に「現場（で）観察」と記載した。

## (2) 二次整理の方法

### ・土器

土器の接合作業は、残存状態が「良好」・「剥離」のものを中心にを行い、必要に応じ「磨耗」・「小破片」も検討に加えた。遺構出土土器の接合は遺構内、遺構間、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。接合した破片は復原可能なものを接着・補強して復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせで図示した。すべての掲載土器は観察表を作成した。

### ・石器等

石器等は、残存状態が「完形」・「準完形」のものを中心に、器種や形態の多様性を示せることを考慮して、掲載する石器を選び出し、実測図と観察表を作成した。

### ・その他

現場で手取りした自然遺物は炭化物や焼骨があり、これらは年代測定や鑑定を、水洗浮遊選別で得られた微細な動植物遺存体は、実体顕微鏡で観察し同定作業を行った。

鉄製品は保存処理を行った。含浸処理にはバラロイドNAD-10（30%ソルベントナフサ溶液）を用いた。

## 5. 遺物の分類基準

土器は、表9「土器時期分類基準」・表10「土器部位分類基準」・表11「土器残存状態分類基準」で、石器等は表12「石器等器種分類基準」・表13「石器等残存状態分類基準」・表14「岩石分類体系」・表15「岩石（石材）の略号」で分類した。出土点数の少ない鉄製品や自然遺物は分類基準を設けていない。  
(末光)

表9 土器時期分類基準

種別	時代	時期	群	類	土器群・型式名
土器	縄文時代	早期	Ⅰ群	a類	貝殻文・条痕文・沈線文を有する土器群
				b類	東鋼路式系土器群
		前期	Ⅱ群	a類	縄文尖底土器群
				b類	円筒土器下層式 それに伴う土器群
		中期	Ⅲ群	a類	円筒土器上層式・サイベ沢Ⅷ式 萩ヶ岡1式・萩ヶ岡2式に相当する土器群
				b類	萩ヶ岡3（天神山式）・柏木川式 北筒式に相当する土器群
		後期	Ⅳ群	a類	余市式・タブコブ式・入江式に相当する土器群
				b類	ウサクマイC式・手輪式・ホッケマ式に相当する土器群
				c類	堂林式・三ツ谷式・御殿山式に相当する土器群
		晩期	Ⅴ群	a類	大洞B式・大洞B'式 それに伴う土器群
				b類	大洞C1式・大洞C2式 それに伴う土器群
				c類	大洞A式・大洞A'式 それに伴う土器群
	続縄文時代		Ⅵ群		続縄文式土器
	弥文時代		Ⅶ群		弥文土器
時期不明・ 判断不可能なもの		不明		剥離や磨耗、小破片が多い	

表10 土器部位分類基準

部位・名称	内容
口縁部	・口唇部が残存するもの ・口唇部は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
底部	・底面が残存するもの ・底面は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
胴部	・口縁部、底部、不明以外のもの
不明	・部位を特定できないもので、小破片に多い

表11 土器残存状態分類基準

呼称	内容	備考
良好	・器の形状を留める個体土器 ・破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り、時期判断等に有効な情報が多い
剥離	・破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥落しているもの	・接合可能な破片 ・文様が残る場合、時期判断等に有効な情報を有する ・剥離面は胎土の観察に適する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある（再生土製品）
磨耗	・破片が磨耗しているもの	・磨耗した割れ口は接合に耐えられない ・文様等の磨滅により、破片そのものの情報は少ない ・遺物の二次的な移動を考える上で有意な情報を有する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある（再生土製品）
小破片	・大きさが長径2cm程度以下の小さな破片	・破片が小さいため接合に適さず、復原作業に与える影響も少ない ・破片そのものの情報は少ない ・小さいため注記できないものもある ・ある破片に接合した場合、接合関係についての情報が得られる

表12 石器等器種分類基準

分類	器種・名称	備考	主要な石材
剥片石器	石鏃		黒曜石 頁岩 等
	石槍・ナイフ		
	石鏃		
	つまみ付きナイフ	「石匙」	
	スクレイパー		
	U・Rフレイク	典型的な形態を有さないが、人為的な使用痕・加工痕が認められるフレイク U=utilized R=retouched	
	石核		
	フレイク・チップ		
礫石器	磨製石斧		泥岩 片岩 等
	磨製石斧原石		
	たたき石		安山岩 砂岩 凝灰岩 等
	すり石		
	北海道式石冠		
	石鐘		
	砥石		
台石・石皿			
石製品	名称・通称	玉	タルケ岩 等
礫	U・Rレキ	人為的な使用痕・加工痕が認められる礫 U=utilized R=retouched	各種
	レキ	自然礫で、遺跡に人為的に持ち込まれたと考えられるもの	

表13 石器等残存状態分類基準

分類	分類	内容
剥片石器・石製品	完形	残存する部分が90%以上のもの
	準完形	「完形」と「半形」の中間的なもの 完形に近いもの
	半形	残存する部分が50～25%程度のもの
	片	残存する部分が25%程度未満のもの
礫石器	完形	大きな割れ口が無いもの 割れ口を有しても機能部が損なわれていないもの
	準完形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が75%程度のもの
	半形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が50～25%程度のもの
	片	割れ口があり、完形の状態を想定し難く、残存する部分が25%程度未満のもの
礫	完形	割れ口のないもの
	片	割れ口があるもの

表14 岩石分類体系

火成岩		優白岩 (酸性)	中性岩 (中性)	優黒岩 (塩基性岩)	超塩基性岩
火山岩	火山噴出物 (多孔質)	溶岩 (地表に出たマグマが冷え固まったもの)			
	ガラス質 (非結晶質) 石基のみ	浮岩 (軽石)	岩澤 (スコリア)		—
	環状組織 微晶 石基	黒曜岩 (石)	—		—
	環状組織 微晶 石基	流紋岩	安山岩	玄武岩	—
半深成岩	斑状組織 細晶	石英斑岩	ヒン岩	輝緑岩	—
深成岩	等粒状組織 完結晶	花崗岩	閃緑岩	斑輝岩	橄欖岩 蛇紋岩
二酸化ケイ素 (ケイ酸 SiO <sub>2</sub> )		66%以上	52~66%	52%以下	45%以下
有色造岩鉱物 (色指数)		10%以下	10~30%	30%以上	60~70%以上
主体的な有色造岩鉱物		黒雲母	輝石		橄欖石 蛇紋石
			角閃石	橄欖石	
主体的な無色造岩鉱物		石英 斜長石	斜長石		—
<b>堆積岩</b>					
火山砕屑岩		: 火山噴出物から構成される			
	火山角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%以上含む			
	凝灰角礫岩	: 32mm以上の火山噴出物 (火山岩塊) 50%未満含む			
	火山礫凝灰岩	: 2~32mmの火山噴出物 (火山礫) から主体的に構成される			
	凝灰岩 (溶結凝灰岩)	: 2mm以下の火山噴出物 (火山灰) から主体的に構成される			
砕屑岩		: 丸みを帯びた鉱物片、岩片等から構成され「層理」がみられる			
	礫岩	: 粒度区分上の礫を50%以上含む			
	角礫岩	: 含有する礫が角ばっている (亜角~角礫状) もの			
	砂岩	: 粒度区分上の砂を50%以上含む			
	泥岩	: 粒度区分上の泥 (シルト・粘土) 50%以上から構成される			
		: 粒度区分から「シルト岩」と「粘土岩」に分けられる			
	頁岩	: 泥岩で固結が強く、貝殻状の割れ口を呈するもの			
		珪質頁岩	: 頁岩で透明な石英質 (ケイ酸 SiO <sub>2</sub> ) 部分を含むもの		
		粘板岩・千枚岩	: 堆積岩と変成岩の中間的なもの		
有機岩					
	チャート	溶晶質石英 (SiO <sub>2</sub> )	: 有機質 (生物遺体) 無機質		
<b>変成岩</b>					
接触 (熱) 変成岩		: 熱による変成作用を受けたもの			
	ホルンフェルス	: 堆積岩が熱変成作用を受け、微粒状組織となったもの			
広域変成岩		: 熱・圧力による変成作用を受けたもの			
	片岩	: 再結晶化により「片理」がみられるもの			
	片麻岩	: 再結晶化が進行し、「斑状変晶」や「片麻状組織」がみられるもの			
<b>石製品・玉類の石材</b>					
超塩基性岩					
	蛇紋岩	: 蛇紋石・橄欖石を主成分とするもの 橄欖岩等が変成したもの			
蛇紋岩からの変成岩					
	ロジン岩	: 蛇紋岩化作用により、生じる変成岩			
	緑泥石岩 (緑泥片岩 緑色片岩)	: 輝石・角閃石・黒雲母等の二次変質により生じる鉱物 (緑泥石) を主成分とする岩石			
	タルク岩 (滑石片岩)	: 橄欖岩・輝石・角閃石等の二次変質により生じる鉱物 (滑石) を主成分とする岩石			
鉱物等					

\*石英質（ケイ酸 SiO<sub>2</sub>）の岩石・鉱物の便宜的な分類体系

堆積岩	チャート	
	フリント	；チャートのうち、明瞭な貝殻状断面を呈するもの 火打ち石
	珪質頁岩	
	珪藻岩	；珪質の岩石が熱・圧力による変成作用を受け、極微粒の石英集合体となったもの
変成岩	珪岩（珪石）	；珪藻類のケイ酸質遺骸が堆積生じたもの
	鉱物	
	水晶	；無色透明の石英 結晶質
	碧玉	；隠微晶質の石英で酸化鉄を多量に含む 不透明 暗緑～緑暗色
	玉髓	；隠微晶質の石英で比較的均質なもの 淡褐～灰色
	めのう	；隠微晶質 繊維状・縞状 不透明 玉髓の一種

表15 岩石（石材）の略号

大項目	小項目	岩石名	英語名	略号
火成岩	火山噴出物	軽石（浮岩）	Pumice	Pum
		岩澤（スコリア）	Scoria	Sco
	溶岩	溶岩	Lava	Lav
	火山岩	黒曜石（黒曜岩）	Obsidian	Obs
		流紋岩	Rhyolite	Rhy
		安山岩	Andesite	And
		玄武岩	Basalt	Bas
	深成岩	花崗岩	Granite	Gra
		閃緑岩	Diorite	Dio
		斑輝岩	Gabbro	Gab
堆積岩	火山砕屑岩	火山礫凝灰岩	Lapilli Tuff	Ltu
		凝灰岩	Tuff	Tuf
	砕屑岩	礫岩	Conglomerate	Con
		砂岩	Sandstone	San
		泥岩 (緑色泥岩)	Mudstone (Green Mudstone)	Mud (Gr.Mud)
		頁岩	Shale	Sha
		チャート	Chert	Che
		粘板岩	Slate	Sla
	変成岩	片岩	Schist	Sch
		片麻岩	Gneiss	Gns
ホルンフェルス		Hornfels	Hor	
超塩基性岩	蛇紋岩	Serpentine	Ser	
	橄欖岩	Peridotite	Per	
上記以外		和名（漢字）で表記		

## IV章 A地区 III層の遺構と出土遺物

### 1. 概要 (図13)

調査した遺構は、焼土13か所、礫集中18か所、柱穴・杭穴42か所、土坑1か所である。これらを現場で個別に調査しながら、他の遺構との位置関係から建物跡を想定し、7軒が認められた。時期は擦文文化期後期～中世アイヌ文化期である。多くの遺構はIII層の中位～下位で確認した。

これらは、いくつかのまとまりでみられる。北側にはAUS-1・4、AUF-5とAUP-1がややまとまってみられ、AUS-13は調査区の中央付近で単独で位置し、調査区の南東側では、AUPS-7とAUF-12・13、AUS-14～18、柱穴・杭穴が数か所ある。最も集中しているのは、X～dライン・13～23ラインの間である。この範囲の東側にAUPS-1・2・3があり、前二軒は切り合う。調査区中央の沢に面する西側部分にはAUPS-5があり、鋏先が出土した。南側部分ではAUPS-4・6が認められ、鉄鍋が出土した。

特に焼土や礫集中がみられた場所では建物跡を想定し、周囲での柱穴・杭穴の調査を徹底した。確認できた遺構の位置から予測した地点で精査や半截を行った。III層中で柱穴・杭穴の平面は確認できず、すべてIV層で確認した。また下位のV層の調査でも発見に努めた。

(未光)

### 2. 建物跡 (図14～20 表16・17 カラー図版3・4 図版3～9)

#### AUPS-1 (図14 図版3・4)

位置 X・Y-16～18区 規模 (4.97)×4.44m

柱数 3か所 (ASP-31・36・39)

#### 付属遺構

焼土2か所 (AUF-1・2) 礫集中3か所 (AUS-2A・2B・2C)

AUF-1

位置 X-17区 規模 0.95×0.54 / 0.11m 平面形態 楕円形

AUF-2

位置 X-17区 規模 0.59×0.32 / 0.07m 平面形態 楕円形

AUS-2A

位置 Y-17区 規模 0.82×0.62m

AUS-2B

位置 Y-17区 規模 1.70×0.81m

AUS-2C

位置 Y-17・18区 規模 0.66×0.41m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位で礫が多く出土し、さらに焼土2か所も確認した。これらについて個別の遺構名 (AUS-2 AUF-1・2) を付して調査し、その後、周囲で柱穴・杭穴を調査したところ、IV層上面で3か所 (ASP-31・36・39) 確認したので、平地住居跡と判断した。

AUF-1・2の長軸は東西方向である。ASP-36は住居跡の角の柱穴と考えられ、断面は斜めである。ASP-31・39ともに浅い。



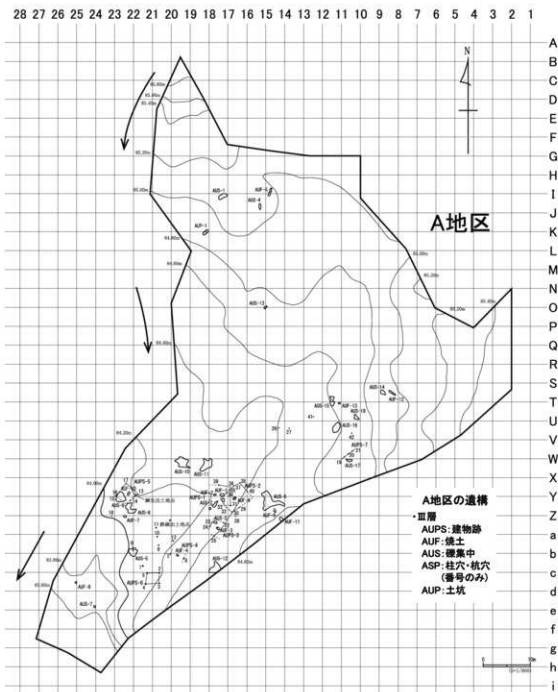
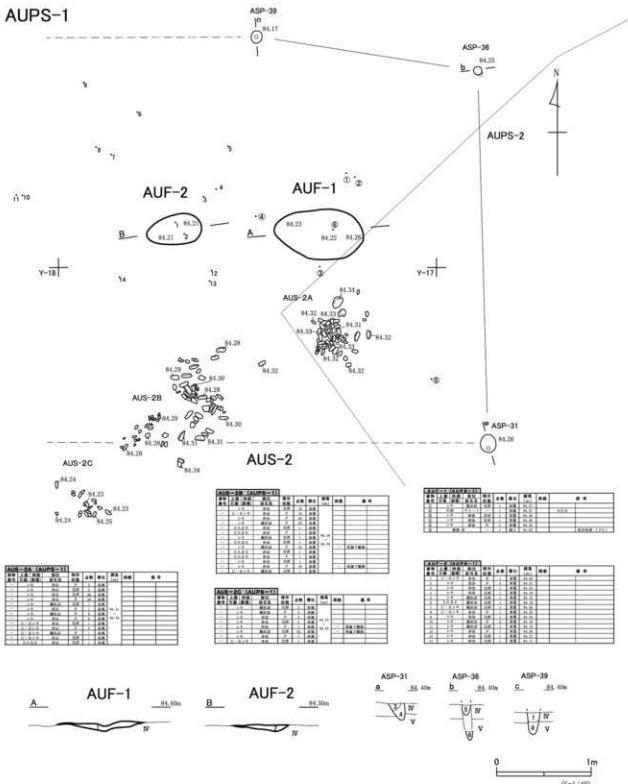


図13 A地区遺構位置図・Ⅲ層上面地形測量図

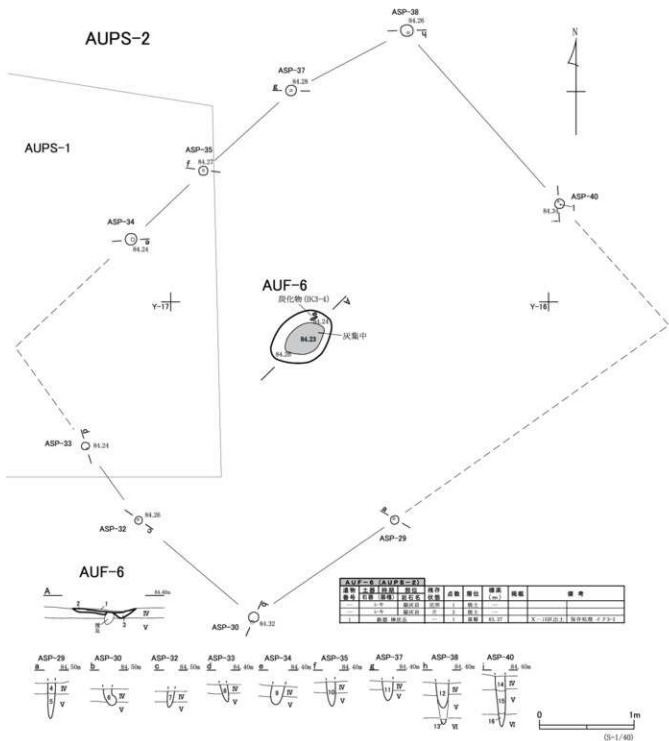
AUPS-1



(S-1/60)

遺構名	遺物群	断面図番号	方位	土質	層位	土質			土質			土質			遺物の種類	遺物の数量	遺物の種類	遺物の数量
						色	硬さ	形状	色	硬さ	形状	色	硬さ	形状				
AUF-1		1	北東	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
AUF-2		2	北東	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
ASP-31	AUPS-1	3	南西	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
		4	南西	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
ASP-36	AUPS-1	5	南西	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
		6	南西	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
ASP-39	AUPS-1	7	南西	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬
		8	南西	硬土	硬土	褐色	1.000/0.5	硬	平	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬	硬

図14 AUPS-1



建物名	建物種	新設年度	建設名	建設種	地盤・シフト(基礎・地盤面)				傾(基礎・地盤面)				測入物	備考			
					野地	地盤	シフト	地盤面	種類	深さ [mm]	傾斜 (%)	傾斜 (°)					
AUF-6	—	—	1	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	
			2	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎
			3	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面	表面
AUPS-2	—	—	4	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			5	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			6	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			7	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			8	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			9	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			10	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			11	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			12	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			13	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			14	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			15	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地
			16	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地	野地

図15 AUPS-2

**遺物出土状況** 東側のAUF-1からは「針」が、西側のAUF-2の周囲ではレキが散在的に出土した。礫集中は大きく三つのまとまりがみられ(A~C)、AUF-1近くのAUS-2Aには、特に密集する部分が長方形でみられる。

**重複** AUPS-2と平面が重なるが、新旧関係は不明である。

**時期** III層下位で確認されたので、中世アイヌ文化期と判断される。

#### AUPS-2 (図15 図版4)

**位置** X・Y-15-17区 **規模** 5.70×4.26m

**柱数** 9か所 (ASP-29・30・32・33・34・35・37・38・40)

**付属遺構** 焼土1か所 (AUF-6)

AUF-6

**位置** Y-16区 **規模** 0.71×0.50 / 0.11m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位で灰と焼土(AUF-6)がみつかった。これを調査した後、周囲で柱穴・杭穴をさがしたところ、9か所(ASP-29・30・32・33・34・35・37・38・40)確認でき、平地住居跡と判断した。ASP-34・35・37は直線上に位置し、ASP-30・38は住居跡の角と考えられる。AUF-6が住居跡の中心との前提で推定される住居跡の平面形状と、ASP-29・32・33・40の位置は合致する。

**遺物出土状況** 住居跡の北東部分のASP-40付近から棒状の鉄製品が出土した。

**重複** AUPS-1と平面が重なるが、新旧関係は不明である。

**時期** III層下位で確認されたので、中世アイヌ文化期と判断される。また、AUF-6出土の炭化物(IK3-4)の放射性炭素年代測定結果は最古で14世紀末葉で、最新では15世紀半ばである(Ⅶ章2節・付篇参照)。

#### AUPS-3 (図16 図版5)

**位置** Z-17・18、a-17区 **規模** (3.23)×3.45m

**柱数** 4か所 (ASP-22・23・24・25)

**付属遺構** 焼土1か所 (AUF-3) 礫集中1か所 (AUS-3)

AUF-3

**位置** Z-17区 **規模** 0.70×0.44 / 0.10m **平面形態** 楕円形

AUS-3

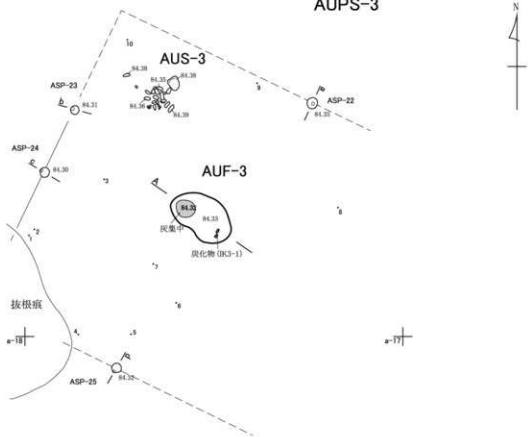
**位置** Z-17区 **規模** 0.60×0.39m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位で焼土(AUF-3)と礫集中(AUS-3)がみられた。これらの調査後、周囲で柱穴・杭穴を調査したところ、4か所(ASP-22・23・24・25)を確認でき、平地住居跡と判断した。AUF-3は灰集中を伴い、AUS-3の位置は住居跡の北西側の角と推測される。ASP-23・24を結ぶ線は跡AUF-3の短軸方向と平行で、この焼土からASP-22と25までの距離はほぼ同じである。

**遺物出土状況** 焼土と礫集中の遺物は、すべて堆積岩のレキでやや散在的である。

**時期** III層の下位で確認されたので、中世アイヌ文化期と判断される。また、AUF-3出土の炭化物(IK3-1)の放射性炭素年代測定結果は14世紀末葉～15世紀半ばである(Ⅶ章2節・付篇参照)。

# AUPS-3

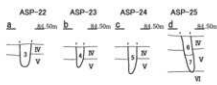


**AUS-3 (AUPS-3)**

遺物	土層(時期)	層位	検出	遺物	層位	規模	機能	備考
...	...	...	...	...	...	...	...	...

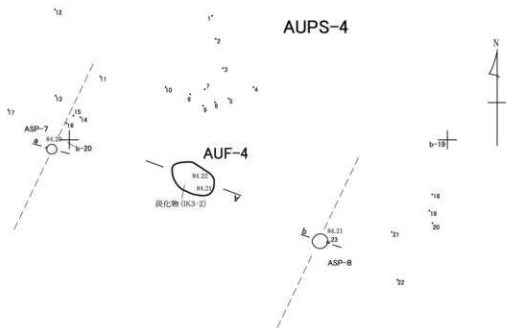
**AUF-3 (AUPS-3)**

遺物	土層(時期)	層位	検出	遺物	層位	規模	機能	備考
...	...	...	...	...	...	...	...	...

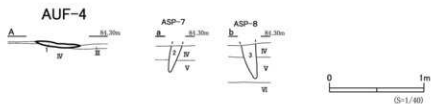


遺構名	遺物種	数量	遺物種	層位	規模	約 1 ㎡ エンクロン(長径 2m 未満)				横(長径 2m 以上)			
						時期(土層)	土性	形状	機能	数量	時期	形状	機能
AUF-3	土器	1	灰皿	III	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	III	円筒	貯蔵
		2	灰皿	III	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	III	円筒	貯蔵
ASP-22	土器	3	灰皿	II	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	II	円筒	貯蔵
		4	灰皿	II	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	II	円筒	貯蔵
ASP-23	土器	5	灰皿	II	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	II	円筒	貯蔵
		6	灰皿	II	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	II	円筒	貯蔵
ASP-25	土器	7	灰皿	II	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	II	円筒	貯蔵
		8	灰皿	II	0.3m	遺物	土	円筒	貯蔵	1	II	円筒	貯蔵

図16 AUPS-3

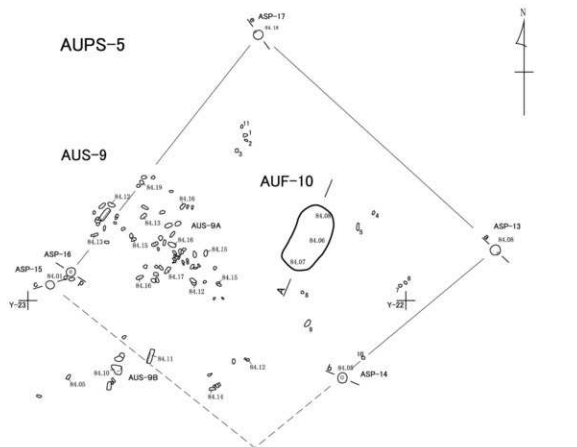


AUF-4 (AUPB-4)									
遺物	土層 (特記)	部位	検出	数量	単位	備考	備考		
1	中土	壁面	北西	2	片断	84.21			
2	中土	砂	北西	1	片断	84.22			
3	中土	砂	北	1	片断	84.20			炭化ノミ
4	中土	砂	北西	1	片断	84.22			
5	中土	砂	北西	1	片断	84.22			
6	中土	砂	北西	1	片断	84.20			
7	中土	砂	北	1	片断	84.20			炭化ノミ
8	中土	壁面	北	3	片断	84.20			
9	中土	壁面	北	3	片断	84.20			
10	中土	砂	北	2	片断	84.20			
11	中土	砂	北西	1	片断	84.20			炭化
12	中土	砂	北西	1	片断	84.20			
13	中土	砂	北	1	片断	84.21			
14	中土	砂	北	2	片断	84.20			
15	中土	砂	北西	1	片断	84.21			炭化
16	中土	砂	北西	3	片断	84.21			炭化
17	中土	壁面	北	2	片断	84.21			
18	中土	壁面	北	2	片断	84.21			
19	中土	砂	北西	1	片断	84.21			
20	中土	壁面	北西	1	片断	84.21			
21	中土	壁面	北	2	片断	84.21			
22	中土	砂	北西	1	片断	84.22			
23	中土	砂	北	1	片断	84.21			



遺構名	遺物群	検出層	層位名	土層・土質	検出	壁・柱・シルト (長径2cm未満)			磚 (長径2cm以上)			炭化の程度	器人物	備考	
						形状	数量	単位	形状	数量	単位				
AUF-4		1	中土	砂	壁	1	1	1							
AUPB-4		2	中土	砂	壁	1	1	1							
ASP-8		2	中土	砂	壁	1	1	1							

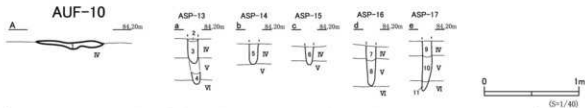
図17 AUPS-4



AUPS-5-1 (AUPS-5-1)								
遺物	土層 (層位)	層位	形状	数量	単位	高さ (cm)	規格	備考
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—

AUPS-5-2 (AUPS-5-2)								
遺物	土層 (層位)	層位	形状	数量	単位	高さ (cm)	規格	備考
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—

AUPS-5-3 (AUPS-5-3)								
遺物	土層 (層位)	層位	形状	数量	単位	高さ (cm)	規格	備考
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—
—	IV	砂	片	1	片	—	—	—



遺物番号	遺物種	数量	形状		材質		用途		色			種類	層位		出土層 (層位)	出土層 (層位)	出土層 (層位)	出土層 (層位)	
			長さ	幅	厚さ	形状	色	質感	種類	層位	層位		層位	層位					
AUF-10	1	1	砂	片	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
ASP-13	2	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
	3	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
	4	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
ASP-14	5	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
	6	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
ASP-15	7	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
	8	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
ASP-16	9	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
	10	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
ASP-17	11	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV
	12	1	緑色土	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV

図18 AUPS-5

## AUPS-4 (図17 図版6)

位置 a・b-19・20区 規模 2.96×(2.06) m  
 柱数 2か所 (ASP-7・8)  
 付属遺構 焼土1か所 (AUF-4)  
 AUF-4

位置 b-19区 規模 0.49×0.31 / 0.04m 平面形態 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位で焼土 (AUF-4) がみつかった。周囲にはレキが散在して出土した。これを調査した後、周辺を掘り進めながら、柱穴・杭穴をさがしたところ、2か所を確認し、平地住居跡と判断した。AUF-4は楕円形でIV層が被熱し、これの長軸方向の延長上にASP-7・8を確認した。ともに先端部が住居跡の外側に傾く断面形態を呈する。

**遺物出土状況** 焼土のものとした出土遺物は堆積岩のレキが多く、被熱するものは少ない。

**時期** III層の下位にあり、層的には中世アイヌ文化期と判断される。また、AUF-4出土の炭化物 (IK3-2) の放射性炭素年代測定結果は15世紀半ば～15世紀後半または16世紀前半である (Ⅷ章2節・付篇参照)。

## AUPS-5 (図18 図版7)

位置 X・Y-21・22、Y-23区 規模 3.44×3.44m  
 柱数 5か所 (ASP-13・14・15・16・17)  
 付属遺構 焼土1か所 (AUF-10) 礫集中2か所 (AUS-9A・9B)  
 AUF-10

位置 X-22区 規模 0.72×0.40 / 0.07m 平面形態 楕円形

AUS-9A

位置 X-22区 規模 1.66×0.99m

AUS-9B

位置 Y-22区 規模 2.28×0.63m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位で礫集中 (AUS-9) がみられ、その周囲を少し掘り下げたら、焼土 (AUF-10) もみつかった。これを調査後、柱穴・杭穴を調査し5か所 (ASP-13・14・15・16・17) を確認したので、平地住居跡と認定した。AUF-10はIV層が被熱し、ASP-13・16・17は比較的深く、住居跡の角の柱穴と推定される。

**遺物出土状況** 焼土AUF-10とAUS-9の出土遺物はすべてレキで、散在的で集中部分はみられない。また、鉄製の鉋先の出土位置 (図29) も本遺構と重なり、伴う可能性が考えられる。

**時期** III層の下位で確認したので、中世アイヌ文化期と判断される。

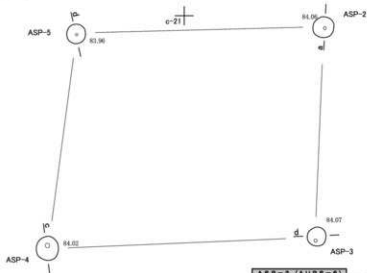
## AUPS-6 (図19 図版8)

位置 c-20・21区 規模 2.96×2.11m  
 柱数 4か所 (ASP-2・3・4・5)  
 付属遺構 なし

**確認・調査** 包含層調査完了後、IV層上面で円形を呈する黒色土が4か所みられた。半載したところ、土層断面から、すべて柱穴であると判断した。他の建物跡AUPSと比べて規模が大きく、倉庫等の建物跡と推定される。

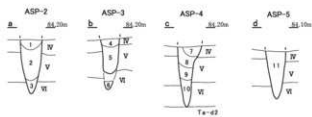


# AUPS-6



AUPS-2 (AUPS-6)						
遺物	土層	時期	層位	発見	数量	備考
遺物	土層	時期	層位	発見	数量	備考
遺物	土層	時期	層位	発見	数量	備考

AUPS-4 (AUPS-6)						
遺物	土層	時期	層位	発見	数量	備考
遺物	土層	時期	層位	発見	数量	備考
遺物	土層	時期	層位	発見	数量	備考



遺構名	遺物種	発見層番号	層位名		地・植生・シルト・炭灰等の状況				埋・覆埋等の状況				遺入物	備考	
			正式層位	副層位	野内土質	彩色	シルトの混入率	粘着性	腐敗性	埋没	炭灰の割合(%)	平均最大			状況
ASP-2		1	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		2	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
ASP-3		3	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		4	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		5	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
AUPS-6		6	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		7	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		8	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		9	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
ASP-4		10	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
		11	表土上	IV層	硬質土	褐色	10YR5/1	中	弱						
ASP-5															

図19 AUPS-6

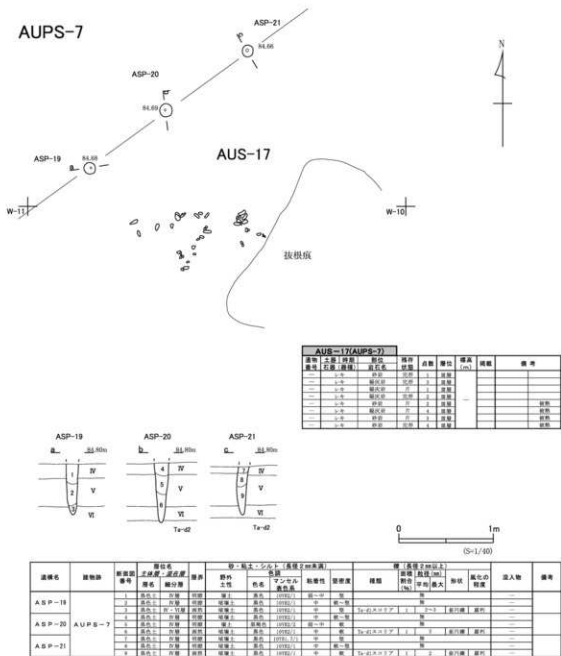
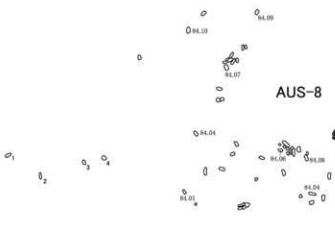


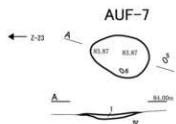
図20 AUPS-7



AUS-8



AUF-7



遺物	土層 (持層)	層位	検出	層位	深さ (cm)	種類	備考
土器	持層	1	持層	1	持層	持層	
土器	持層	2	持層	2	持層	持層	
土器	持層	3	持層	3	持層	持層	
土器	持層	4	持層	4	持層	持層	
土器	持層	5	持層	5	持層	持層	

遺物	土層 (持層)	層位	検出	層位	深さ (cm)	種類	備考
土器	持層	1	持層	1	持層	持層	
土器	持層	2	持層	2	持層	持層	
土器	持層	3	持層	3	持層	持層	
土器	持層	4	持層	4	持層	持層	
土器	持層	5	持層	5	持層	持層	

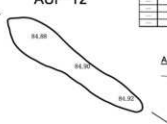
遺物名	検出層	層位	検出層	単一検出層 (長径200mm未満)			複 (長径200mm以上)				遺物の種類	遺物の数	備考	
				色	形状	用途	形状別割合 (%)	平均 最大 検出	検出の状況					
AUF-7	1	持層	持層	色	形状	用途								



AUS-14



AUF-12



遺物	土層 (持層)	層位	検出	層位	深さ (cm)	種類	備考
土器	持層	1	持層	1	持層	持層	
土器	持層	2	持層	2	持層	持層	
土器	持層	3	持層	3	持層	持層	
土器	持層	4	持層	4	持層	持層	
土器	持層	5	持層	5	持層	持層	

遺物名	検出層	層位	検出層	単一検出層 (長径200mm未満)			複 (長径200mm以上)				遺物の種類	遺物の数	備考
				色	形状	用途	形状別割合 (%)	平均 最大 検出	検出の状況				
AUF-12	1	持層	持層	色	形状	用途							



図21 AUFとAUS (1)

**遺物出土状況** 柱穴を結んだ範囲内では、遺物は出土していない。また、ASP-2・4の覆土から石鏃・レキが出土した。下位の縄文時代の包含層から混入したと考えられる。

**時期** III層下位の遺構であり、中世アイヌ文化期と推測される。

(広田良成)

#### AUPS-7 (図20 図版9)

**位置** V・W-10区 **規模** (2.18) × (1.66) m

**柱数** 3か所 (ASP-19・20・21)

**付属遺構** 礫集中1か所 (AUS-17)

AUS-17

**位置** W-10区 **規模** 1.43×0.62m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位で礫集中 (AUS-17) がみられ、単独の遺構として調査した。その後、周囲の包含層調査を進めたところ、IV層上面で、円形の黒色土が直線状に並んでみられた。半截し土層断面を観察したところ、すべて柱穴であった。他の建物跡AUPSと比べて規模が大きいため、倉庫等の建物跡と推定される。

**遺物出土状況** AUS-17は、堆積岩のレキが出土し北東側部分に小さな集中部分がある。また、これらの礫は、調査手順を誤認したため、高さを計測する前に取り上げた。

**時期** III層下位の位置で、層的に中世アイヌ文化期と判断される。

(広田・末光)

### 3. 近接する焼土と礫集中 (図21-23 表18・19 図版10・11)

#### AUF-7とAUS-8 (図21 図版10)

AUF-7

**位置** Y・Z-22区 **規模** 0.62×0.44 / 0.04m **平面形態** 楕円形

AUS-8

**位置** Y-21・22区 **規模** 2.38×1.80m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土した。周囲を掘り広げ範囲を確認し、礫集中 (AUS-8) と判断した。調査後、III層を掘り下げたところ、近くで焼土 (AUF-7) も確認した。周辺をIV層上面で精査したが、柱穴・杭穴等はみつからなかった。北側部分はAUPS-5と近接する。

**遺物出土状況** AUS-8は砂岩・凝灰岩が多く、散在的であるが、集中部分もみられる。

**時期** III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。

#### AUF-9・11とAUS-6 (図22 図版10)

AUF-9

**位置** Y-14区 **規模** 0.90×0.37 / 0.06m **平面形態** 長楕円形

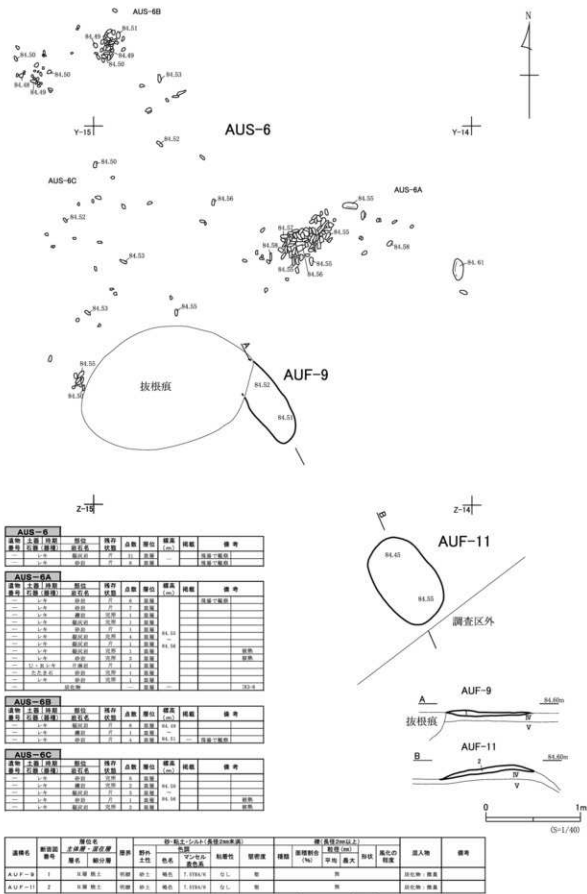
AUF-11

**位置** Z-14区 **規模** 0.95×0.62 / 0.06m **平面形態** 楕円形

AUS-6A

**位置** Y-14区 **規模** 1.84×1.02m

AUS-6B



**AUS-6**

遺物	土層 (時期)	形状	残存状態	点検	層高 (cm)	種類	備考
遺物	土層 (遺棄)	遺棄	状態	点検	層高		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層

**AUS-6A**

遺物	土層 (時期)	形状	残存状態	点検	層高 (cm)	種類	備考
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層

**AUS-6B**

遺物	土層 (時期)	形状	残存状態	点検	層高 (cm)	種類	備考
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層

**AUS-6C**

遺物	土層 (時期)	形状	残存状態	点検	層高 (cm)	種類	備考
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層
---	1-2	遺棄	点	点検	---		遺棄土層

遺物名	調査箇所	層位	土層構造				地盤性状 (標準)			調査結果 (標準)				調査者	備考
			層位	層厚	層位	層厚	粘着力 (kg/cm <sup>2</sup> )	粘着性	塑性	種類	種類 (%)	平均	最大		
AUF-9	1	3.5層	粘土	0.50	粘着	0.5	粘着	1.00	粘着	粘着	粘着	粘着	粘着	粘着	粘着
AUF-11	2	3.5層	粘土	0.50	粘着	0.5	粘着	1.00	粘着	粘着	粘着	粘着	粘着	粘着	粘着

図22 AUFとAUS (2)

位置 X-14・15区 規模 0.56×0.54m

#### AUS-6C

位置 X・Y-14・15区 規模 3.60×2.03m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位でレキが出土した。まとまりと散在する部分がみられた。これらを礫集中(AUS-6)と判断した。また、周囲を掘り広げている時、焼土を2か所確認した(AUF-9・11)。両者は長軸が同一直線上に位置する。なお、AUF-11のすぐ南側は調査区境界の崖である。建物跡の可能性を考え、周辺のIV層上面を精査したが、柱穴・杭穴等は見つからなかった。本遺構の北西側にはAUPS-2がある。

**遺物出土状況** AUS-6は堆積岩が多く、長方形を呈し最も密集し規模が大ききものを「A」、これよりも北西側の小規模なまとまりを「B」、それ以外の散在するものを「C」と細分した。「C」にも十点程度のまとまりが認められる。

**時期** III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。AUS-6出土の炭化物(IK3-8)の放射性炭素年代測定結果は、12世紀末葉または13世紀前半～13世紀半ばである(IV章2節・付篇参照)。

#### AUF-13とAUS-15 (図23 図版11)

##### AUF-13

位置 T-11区 規模 0.48×0.29 / 0.07m 平面形態 楕円形

##### AUS-15

位置 S・T-11区 規模 2.06×1.16m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位でレキの小規模なまとまりを確認した。これを礫集中(AUS-15)と判断し、周囲を掘り広げたところ、焼土(AUF-13)もみつかった。周辺をIV層上面まで掘り下げ精査したが、柱穴・杭穴等は見られなかった。

**遺物出土状況** AUS-15は、数点の小さなまとまりが複数みられる。

**時期** III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。

#### AUF-12とAUS-14 (図21 図版11)

##### AUF-12

位置 S-8区 規模 1.70×0.38 / 0.04m 平面形態 長楕円形

##### AUS-14

位置 S-8区 規模 0.89×0.90m

**確認・調査** 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土した。周囲を掘り広げ範囲を確認し、礫集中(AUS-14)と判断した。調査後、III層を掘り下げたところ、近くで細長い焼土(AUF-12)も確認した。周辺のIV層上面を精査したが、柱穴・杭穴は見つからなかった。なお、礫集中の遺物は調査手順を誤認したため、出土位置の高さを計測する前に取り上げた。

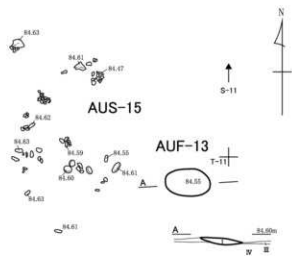
**遺物出土状況** AUS-14は中心に集中部分があり、周辺にむかい散在的である。

**時期** III層下位で、中世アイヌ文化期と考えられる。

(広田・末光)

#### 4. 焼土 (図23 表18 図版11)

##### AUF-5 (図23)



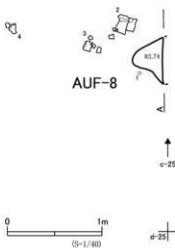
AUF-13							
建物	土層	位置	方位	傾斜	点数	傾斜	備考
---	---	---	---	---	---	---	---

AUF-15							
建物	土層	位置	方位	傾斜	点数	傾斜	備考
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	探査区画番号	方位名 土層層・深層層 層名	層分類	層厚	砂-粘土-シルト(基礎20cm未満)					層(基礎20cm以上)				記入人物	備考	
					砂外土性	色名	シルトの割合	粘着性	層厚	傾斜(%)	平均	最大	形状			高低の程度
AUF-13	1	B層 深土	砂質	約2-3cm	砂質	黄褐色	20%以下	中	約10cm	約2%	平均	最大	形状	高低の程度	記入人物	備考



遺構名	探査区画番号	方位名 土層層・深層層 層名	層分類	層厚	砂-粘土-シルト(基礎20cm未満)					層(基礎20cm以上)				記入人物	備考	
					砂外土性	色名	シルトの割合	粘着性	層厚	傾斜(%)	平均	最大	形状			高低の程度
AUF-5	1	B層 深土	砂質	約2-3cm	砂質	黄褐色	20%以下	中	約10cm	約2%	平均	最大	形状	高低の程度	記入人物	備考



AUF-8							
建物	土層	位置	方位	傾斜	点数	傾斜	備考
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---
---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	探査区画番号	方位名 土層層・深層層 層名	層分類	層厚	砂-粘土-シルト(基礎20cm未満)					層(基礎20cm以上)				記入人物	備考	
					砂外土性	色名	シルトの割合	粘着性	層厚	傾斜(%)	平均	最大	形状			高低の程度
AUF-8	1	B層 深土	砂質	約2-3cm	砂質	黄褐色	20%以下	中	約10cm	約2%	平均	最大	形状	高低の程度	記入人物	備考

図23 AUFとAUS (3)・AUF







**位置** H・I-14区 **規模** 1.80×0.47 / 0.06m **平面形態** 不整な溝状

**確認・調査** 包含層調査中、Ⅲ層下位で細長い褐色土がみられた。半截して断面を観察し、炭化物もみられたことから、焼土と認定した。周囲を精査したが、柱穴・杭穴等の遺構はみられなかった。細長い形状は、円～楕円形ものが平面で連続していると推測され、炉跡を近接させて移動させて、使用していたと推測される。

**遺物出土状況** 本遺構の遺物と判断したものはない。

**時期** Ⅲ層下位にあり、層位的には中世アイヌ文化期である。出土した炭化物（IK3-3）の放射性炭素年代測定結果は、12世紀中頃～13世紀初頭である（Ⅳ章2節・付篇参照）。

（広田）

#### AUF-8（図23）

**位置** c-25区 **規模** (0.32)×0.50 / 0.11m **平面形態** 不整な楕円形？

**確認・調査** 包含層調査中、風倒木痕内に褐色土がみられた。半截して断面を観察し、焼土と判断した。周囲を精査したが、柱穴・杭穴等の遺構はみられなかった。くぼみはなく、風倒木痕を利用したとは考えがたく、偶然にこの場所に造られたと考えらえる。

**遺物出土状況** 焼土のそばでチャートの礫が出土し、火打石の可能性がある。

**時期** Ⅲ層下位にあることから、中世アイヌ文化期と判断される。

### 5. 礫集中（図24～26 表19 図版11・12）

#### AUS-1（図24）

**位置** H・I-17区 **規模** 3.31×2.04m

**確認・調査** 包含層調査中、Ⅲ層下位で、レキが円形を呈しまとまる状況（遺物番号：19）がみられた。周囲を掘り進めたところ、レキやⅦ群土器が散在して確認され、遺構と判断した。

**時期** 層位と出土土器から擦文文化期後期と判断される。

#### AUS-4（図24）

**位置** I-15区 **規模** 1.04×0.38m

**確認・調査** 包含層調査中、Ⅲ層下位でレキがややまとまってみられ、礫集中と判断した。

**時期** Ⅲ層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と推測される。

（末光）

#### AUS-5（図24）

**位置** a・b-21・22区 **規模** 1.77×1.64m

**確認・調査** 包含層調査中、Ⅲ層下位でレキがややまとまってみられ、礫集中と判断した。南側では炭化物集中を2か所確認し、炭化物も出土した。

**時期** Ⅲ層下位にあることから、中世アイヌ文化期であろう。また、本遺構出土の炭化物の放射性炭素年代測定結果は、礫集中内のもの（IK3-5）は、最古で15世紀半ば、最新で17世紀初頭、炭化物集中1のもの（IK3-7）は12世紀後半～13世紀前半、この集中の近く出土の試料（IK3-6）はともに12世紀中頃～13世紀初頭で、大きく三つの時期が想定される（Ⅳ章2節・付篇参照）。

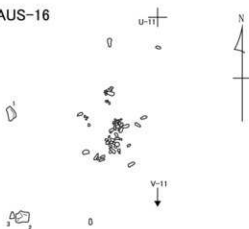
（広田）

### AUS-13



AUS-13							
遺物 番号	土層(深度)	層別	種類	点数	層位	深さ (cm)	備考
---	1-5	砂	磁器	1	遺跡		
---	1-2	砂	磁器	1	遺跡		
---	1-5	砂	刀	14	遺跡		
---	1-5	磁器	刀	8	遺跡		
---	1-5	砂	刀	1	遺跡	84.71	
---	1-5	砂	刀	13	遺跡		遺跡(2)磁器
---	1-5	磁器	刀	8	遺跡		遺跡(2)磁器
---	1-5	砂	磁器	1	遺跡		
---	1-1	黄土層	砂	磁器	1	遺跡	

### AUS-16



AUS-16							
遺物 番号	土層(深度)	層別	種類	点数	層位	深さ (cm)	備考
---	1-1	黄土層	磁器	1	遺跡		
---	1-1	磁器	刀	1	遺跡		
---	1-1	磁器	刀	1	遺跡		
---	1-5	砂	磁器	1	遺跡		
---	1-5	砂	刀	1	遺跡		
---	1-5	砂	刀	1	遺跡		
---	1-5	砂	刀	1	遺跡		

### AUS-18



AUS-18							
遺物 番号	土層(深度)	層別	種類	点数	層位	深さ (cm)	備考
---	1-5	砂	刀	1	遺跡		
---	1-5	砂	磁器	1	遺跡		
---	1-5	砂	磁器	4	遺跡	84.81	
---	1-5	砂	磁器	1	遺跡		
---	1-5	砂	磁器	11	遺跡	84.71	
---	1-5	砂	磁器	4	遺跡		磁器
---	1-5	砂	磁器	2	遺跡		磁器



図26 AUS (3)

## AUS-7 (図24)

位置 d-24区 規模 0.25×0.25m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキのまとまりがあり、礫集中と判断した。

時期 III層下位にあることから、中世アイヌ文化期と考えられる。出土した炭化物 (IK3-9) の放射性炭素年代測定結果は12世紀中頃～13世紀前半である (IV章2節・付篇参照)。

## AUS-10 (図25)

位置 V・W-19区 規模 3.29×2.16m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキが散在的であるが、周囲と比べてやや多くみられたので、礫集中と判断した。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

## AUS-11 (図25)

位置 W-17・18区 規模 3.24×1.93m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキが散在的であるが、周囲と比べてやや多くみられたので、礫集中と判断した。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

## AUS-12 (図25)

## AUS-12B (全体)

位置 b・c-17区 規模 2.55×1.61m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土した。礫集中と判断し、この集中部分「A」とし、周囲に広がりを確認するため掘り広げたが、ここ以外は散在的な出土であった。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

## AUS-13 (図26)

位置 N・O-14・15区 規模 0.40×0.32m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土し、礫集中と判断した。長方形の範囲に集中し、北西側部分は重なるものも多い。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

## AUS-16 (図26)

位置 U-10・11区 規模 1.80×1.58m

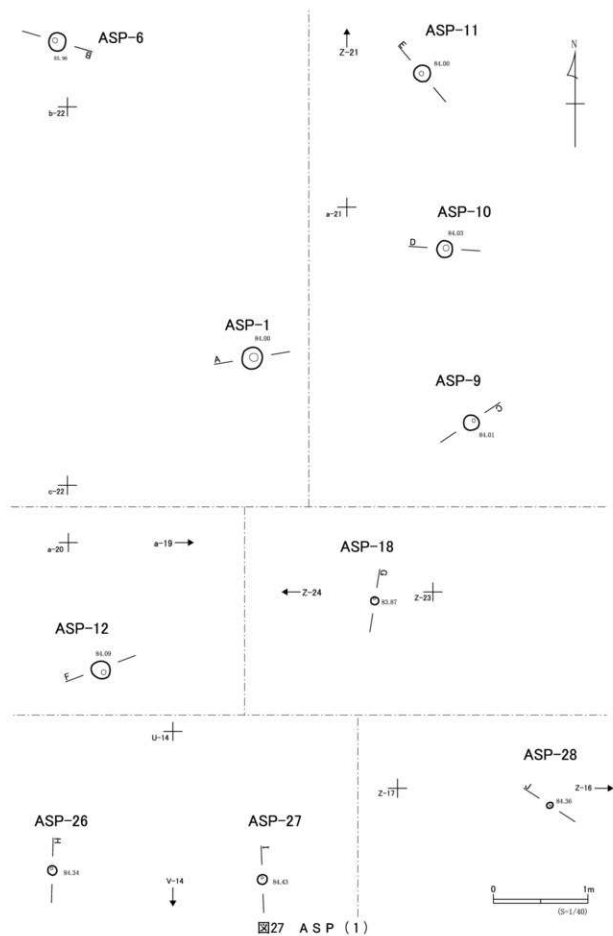
確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがまとまって出土し、礫集中と判断した。集中部分は長方形を呈し、この周囲では散在的な出土である。

時期 III層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

## AUS-18 (図26)

位置 T-10区 規模 1.17×1.03m

確認・調査 包含層調査中、III層下位でレキがややまとまってみられ、礫集中と判断した。集中部分



ASP-41



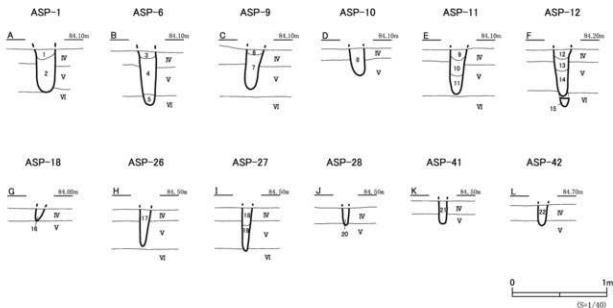
← U-13



ASP-42



← V-11



遺構名	断面図番号	層位名 土体層・底層層		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)		種類	面積・総径(mm)		形状	風化の程度	埋入物	備考
		層名	細分層		野外土性	色名	マンセル表色系	粘着性	堅密度		割合	平均				
ASP-1	1	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
	2	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
ASP-6	3	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
	4	黒色土	—	明瞭	塊土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	堅	無						
ASP-9	5	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
	6	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
ASP-10	7	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
	8	黒色土	IV層	明瞭	塊土～硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
ASP-11	9	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
	10	黒色土	IV層	明瞭	塊土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	無						
ASP-12	11	黒色土	IV層	明瞭	塊土	黒褐色	10YR2/2	弱～中	軟	無						
	12	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
ASP-12	13	黒色土	IV層	明瞭	塊土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	無						
	14	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
	15	黒色土	IV・VI層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無	Ta-41スロリア	1	2~3	底白線	縦約	
ASP-18	16	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
ASP-26	17	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
ASP-27	18	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
	19	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	軟～堅	無						
ASP-28	20	黒色土	IV層	明瞭	塊土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	無						
ASP-41	21	黒色土	IV層	明瞭	硬塊土	黒色	10YR2/1	中	堅	無						
ASP-42	22	黒色土	IV層	明瞭	塊土	黒色	10YR2/1	弱～中	堅	無						

図28 ASP (2)

は南側で、大きさが同じレキがまとまっていた。

時 期 Ⅲ層下位で確認したので、中世アイヌ文化期と考えられる。

## 6. 柱穴・杭穴 (図27・28 表20 図版12・13)

ASP-1・6・9・10・11・12・18・26・27・28・41・42

確認・調査 Ⅲ層の包含層調査で確認に努めたが、発見は難渋し、すべてⅣ層で確認した。焼土や礫集中、遺物が多くみられたところは、特に丹念に精査をした。柱穴・杭穴は42か所確認できた。ここで報告するものは、建物跡や他の遺構との関連性を積極的に見いだせなかった12か所である。

ASP-6・1は近くでみつきり、前者はAUS-5と重複し、これよりも古いと推測される。ASP-9・10・11は同一直線状でほぼ等間隔で確認した。近くから鉄鍋(図29)が出土した。ASP-12はこれらの東側に位置する。ASP-18はAUPS-5・AUF-7・AUS-8の南西側でみつかった。ASP-26・27は周囲に焼土・礫集中がみられない。ASP-28はAUPS-2に近く関連する可能性がある。ASP-41の周囲には他の遺構がみられない。ASP-42は、AUPS-7とAUS-16のほぼ中間に位置する。

断面 大きく分けて、複数に分層できる比較的大型のもの(ASP-1・6・9・11・12・27)と、分層できない小型のもの(ASP-10・18・26・28・41・42)があり、覆土はすべて黒色土が主体である。また、ASP-18のように斜めのものもあるが、数は少ない。

遺物出土状況 これら12か所で遺物が出土したものはない。

時 期 Ⅳ層で確認したが、この地域に位置する他の遺跡の調査成果から、Ⅲ層の遺構と判断され、擦文文化期後期～中世アイヌ文化期と考えられる。

## 7. 土坑

AUP-1 (図29 表21 図版13)

位置 J・K-18区 規模 1.40×0.60 / (1.31)×0.48 / 0.10m

平面形態 長楕円形

確認・調査 包含層調査完了後、不整形な黒色土がみられた。半截したところ、壁の立ち上がり平坦な面を確認したので遺構と判断した。浅いことや覆土、長軸方向の断面形態から、調査区中央の沢への斜面に切り込んで構築された、遺跡の可能性も考えられる。

覆土 Ⅲ層の黒色土が主体で、一部Ⅳ層が混じる。

壁・坑底面 壁はいつでもゆるやかに立ち上がり、坑底面は南西側部分へとゆるやかに傾斜する。

遺物出土状況 遺構全体から炭化物が多く出土した。

時 期 Ⅲ層が主たる覆土であり、擦文文化期後期または中世アイヌ文化期と推測している。

(末光)

## 8. 出土遺物

A地区のⅢ層の調査で出土した遺構・包含層出土の遺物を報告する。

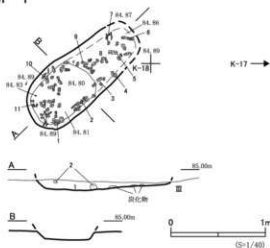
### (1) 土器 (図30 表22・26～28 図版34・37)

土器は3か礫集中AUS-1の出土で、これ以外は包含層出土である。

#### 復原土器 (Ⅶ群)

1は反転する口縁部から直立気味の胴部に至る器形を呈する。外面には半円状の押捺文と平行沈線

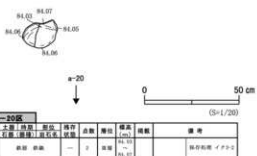
## AUP-1



遺物 番号	土層・時期	部位	保存 状態	品類	単位 量	検出 高さ (cm)	検出 深度 (cm)	備考
1	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
2	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
3	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
4	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
5	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
6	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
7	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
8	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
9	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
10	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---
11	---	---	---	鉄製物	---	94.93	---	---

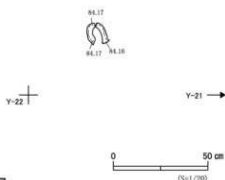
遺構名	断面図 番号	部位名 土層層・遺存層 層名 層分層	層別 土性	鉄・鉛・シムス(遺留70未満)		層(厚度20cm以上)				遺物の 検出 深度	遺入物	備考
				シムス 濃度	鉛濃度	種類	深層割合 (%)	平均 厚さ	最大			
AUP-1	1	II層	砂質 硬質土	検出 0.091, 7.1	無	無	---	---	---	---	検出 鉄製物	遺留土層
AUP-1	2	III層	砂土 硬質土	検出 7.033, 2	なし	鉄-シムス	---	---	---	---	---	遺留土層

## Z-20 区鉄鍋出土状況



遺物 番号	土層・時期	部位	保存 状態	品類	単位 量	検出 高さ (cm)	検出 深度 (cm)	備考
1	---	---	---	鉄製物	---	94.03	---	保存状態 イブコ

## X-21 区鉄先出土状況



遺物 番号	土層・時期	部位	保存 状態	品類	単位 量	検出 高さ (cm)	検出 深度 (cm)	備考
1	---	---	---	鉄製物	---	94.18	---	保存状態 イブコ

図29 AUP・鉄製品出土状況



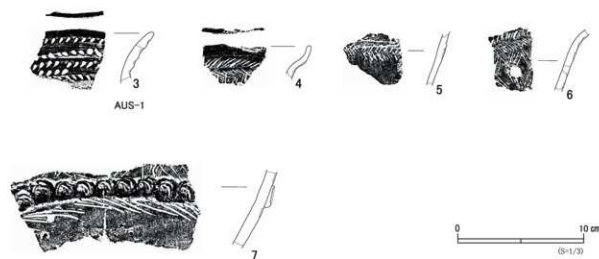
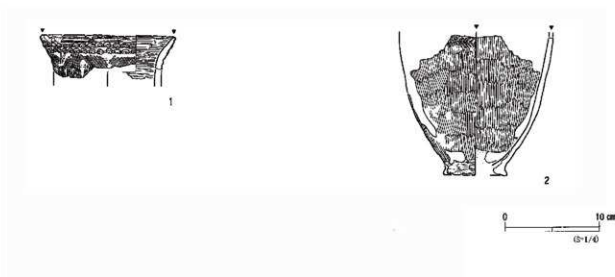


図30 A地区 III層 遺構・包含層出土の土器

文が施され、器面調整はミガキである。2は曲線的に胴部へとすはまる器形で、胴部中位に矢羽根状の刻みがみられ、器面調整はヘラミガキである。ともに遺構が位置する場所から離れて出土した。

#### 破片土器 (VII群)

##### 口縁部

3はナデ調整の後に刺突文が施される。4は口唇部直下の器面が無文で、半截竹管状工具による施文がみられる。

##### 胴部

5・6・7には平行沈線文と刻みがみられ、6には補修孔、7には貼付圍繞帯が施される。

#### (2) 石器等 (図31・32 表23~25・28・29 図版42・45)

##### 遺構出土の石器

1はAUF-1 (AUPS-1) 出土で、石材はチャート、表面と周縁が打ち欠かれており、火打石と考えられる。2・3はAUF-4 (AUPS-4) 出土のたたき石で、2は左右両側面、3は上下両面にたたき痕がみられる。4はAUS-1出土の直方体を呈する台石で、使用痕は部分的である。5はAUS-3 (AUPS-3) 出土のすり石で、表裏両面が凹状を呈する使用痕が観察される。6

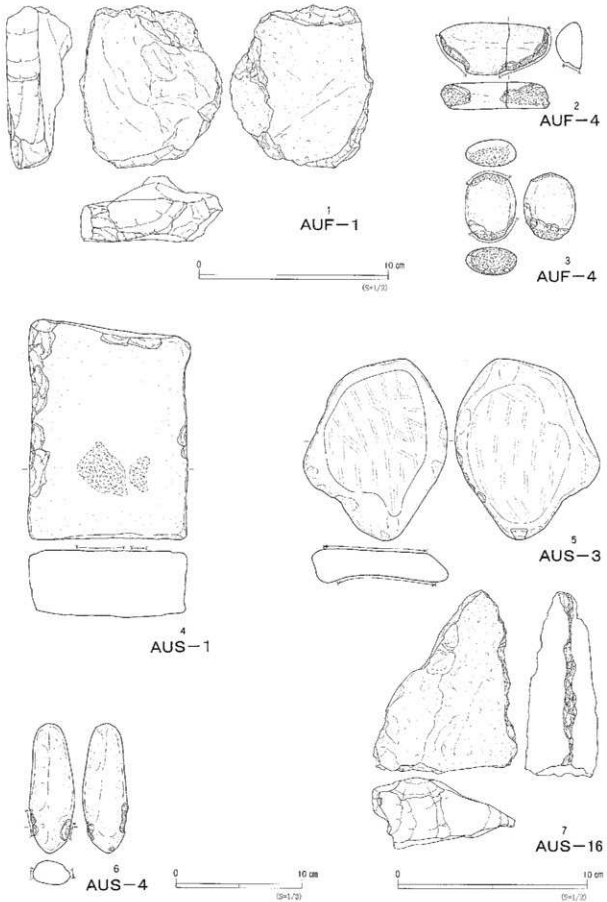


図31 A地区 III層 遺構出土の石器

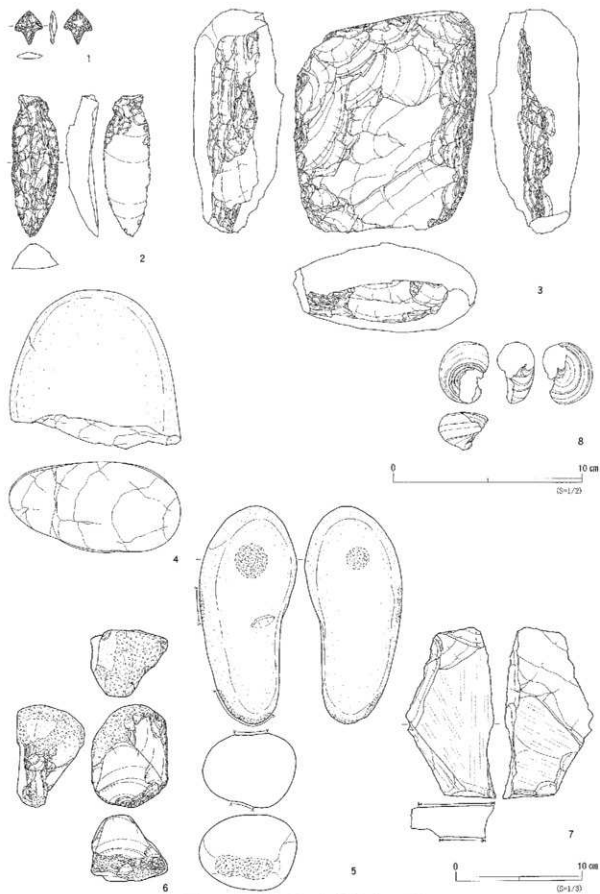


图32 A地区 III層 包含層出土の石器

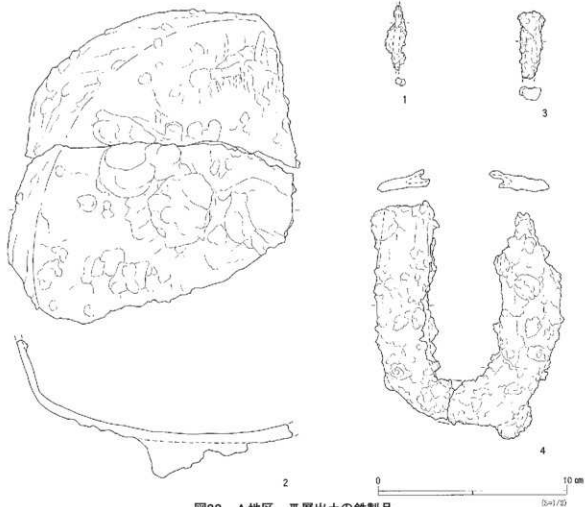


図33 A地区 III層出土の鉄製品

はAUS-4出土のたたき石で、両側縁に部分的な使用痕がある。7はAUS-16出土のチャートで、打ち欠きが見られる。なお、III層遺構出土の礫石器と礫はすべて計測し表29にまとめた。

#### 包含層出土の石器

1は黒曜石製の石鎌で、2は縦長のつまみ付きナイフである。3・4はチャートで、3は表面と周縁に打ち欠きが顕著で、4は割れ口があり、火打石と判断する。5はたたき石で、部分的な使用痕は表裏両面で、位置が同じである。6は緑色泥岩製で、形状や使用痕からたたき石であろう。7は砂岩性の砥石で、8は巻貝化石である。

#### (3) 鉄製品 (図14・15・29・33 表30 カラー図版4・図版33・41)

1は建物跡AUPS-1の炉跡の焼土AUF-1から出土した針である。保存処理前のX線透過写真では上端に孔が観察される。2はZ-20区で出土した鉄鍋で、底部の約1/4が残存する。

3は、建物跡AUPS-2の柱穴ASP-40の上面でみつかった棒状品である。4はX-21区で出土した鋏先である。

以上の鉄製品は調査区の南側、建物跡やその周辺から出土し、これらの遺構に関連するもので、中世アイヌ文化期と考えられる。

(末光)

表16 建物跡一覧表

遺構名	面	図版	グリッド	形態	規模 (m)		柱間数	柱穴	付属遺構	重積・遺積	主な出土遺物	備考	
					長軸	短軸							
AUPS-1	14	ヨウ-3 3・4	X-Y- 10-11K	方形	(4.87)	4.44	(2)・1	1	3か所 礎土: 2か所 礎集中: 2か所 AUS-1・2 ASP-1・2 AUS-2・3・4・5・6・7・8	AUS-2 礎集中	鉄器(針) 石核(火打石) 土器類 ヒ・灰土片 レキ		
AUPS-2	15	ヨウ-3 4	X-Y- 10-11K	長方形	5.70	4.38	(3)・2	(3)・2	9か所 礎土: 1か所 AUS-1 ASP-1 ASP-2 ASP-3 ASP-4 ASP-5 ASP-6 ASP-7 ASP-8 ASP-9 ASP-10 ASP-11 ASP-12 ASP-13 ASP-14 ASP-15 ASP-16 ASP-17 ASP-18 ASP-19 ASP-20 ASP-21 ASP-22 ASP-23 ASP-24 ASP-25 ASP-26 ASP-27 ASP-28 ASP-29 ASP-30 ASP-31 ASP-32 ASP-33 ASP-34 ASP-35 ASP-36 ASP-37 ASP-38 ASP-39 ASP-40	AUS-1 礎集中	鉄器(棒状品) 土器類 たたき石 ヒ・灰土片 レキ		
AUPS-3	16	5	Z-17・18 A-11K	長方形	(3.23)	3.45	(2)	(2)	4か所 礎土: 1か所 礎集中: 1か所 AUS-1 ASP-1 ASP-2 ASP-3 ASP-4 ASP-5 ASP-6 ASP-7 ASP-8 ASP-9 ASP-10 ASP-11 ASP-12 ASP-13 ASP-14 ASP-15 ASP-16 ASP-17 ASP-18 ASP-19 ASP-20 ASP-21 ASP-22 ASP-23 ASP-24 ASP-25 ASP-26 ASP-27 ASP-28 ASP-29 ASP-30 ASP-31 ASP-32 ASP-33 ASP-34 ASP-35 ASP-36 ASP-37 ASP-38 ASP-39 ASP-40	AUS-1 礎集中	すり石 ヒ・灰土片 レキ		
AUPS-4	17	6	s-w- 19-20K	方形	2.96	(2.96)	—	(2)	2か所 礎土: 1か所 AUS-1 ASP-1 ASP-2 ASP-3 ASP-4 ASP-5 ASP-6 ASP-7 ASP-8 ASP-9 ASP-10 ASP-11 ASP-12 ASP-13 ASP-14 ASP-15 ASP-16 ASP-17 ASP-18 ASP-19 ASP-20 ASP-21 ASP-22 ASP-23 ASP-24 ASP-25 ASP-26 ASP-27 ASP-28 ASP-29 ASP-30 ASP-31 ASP-32 ASP-33 ASP-34 ASP-35 ASP-36 ASP-37 ASP-38 ASP-39 ASP-40	—	—	たたき石 ヒ・灰土片 レキ	住居跡の軸方向は、 礎土の軸方向と異なる
AUPS-5	18	ヨウ-3 7	X-Y- 21・22 Y-20K	正方形	3.44	3.44	1	(2)・1	5か所 礎土: 1か所 礎集中: 2か所 AUS-1 ASP-1 ASP-2 ASP-3 ASP-4 ASP-5 ASP-6 ASP-7 ASP-8 ASP-9 ASP-10 ASP-11 ASP-12 ASP-13 ASP-14 ASP-15 ASP-16 ASP-17 ASP-18 ASP-19 ASP-20 ASP-21 ASP-22 ASP-23 ASP-24 ASP-25 ASP-26 ASP-27 ASP-28 ASP-29 ASP-30 ASP-31 ASP-32 ASP-33 ASP-34 ASP-35 ASP-36 ASP-37 ASP-38 ASP-39 ASP-40	AUS-1 礎集中	たたき石 ヒ・灰土片 レキ		
AUPS-6	19	8	v-20・21K	長方形	2.96	2.11	1	1	4か所 礎土: 1か所 AUS-1 ASP-1 ASP-2 ASP-3 ASP-4 ASP-5 ASP-6 ASP-7 ASP-8 ASP-9 ASP-10 ASP-11 ASP-12 ASP-13 ASP-14 ASP-15 ASP-16 ASP-17 ASP-18 ASP-19 ASP-20 ASP-21 ASP-22 ASP-23 ASP-24 ASP-25 ASP-26 ASP-27 ASP-28 ASP-29 ASP-30 ASP-31 ASP-32 ASP-33 ASP-34 ASP-35 ASP-36 ASP-37 ASP-38 ASP-39 ASP-40	—	—	レキ	柱穴の規模 が小さく敷居 長方形の配置
AUPS-7	20	9	v-w -10K	方形	(2.18)	(1.84)	(2)	2	3か所 礎集中: 1か所 AUS-1 ASP-1 ASP-2 ASP-3 ASP-4 ASP-5 ASP-6 ASP-7 ASP-8 ASP-9 ASP-10 ASP-11 ASP-12 ASP-13 ASP-14 ASP-15 ASP-16 ASP-17 ASP-18 ASP-19 ASP-20 ASP-21 ASP-22 ASP-23 ASP-24 ASP-25 ASP-26 ASP-27 ASP-28 ASP-29 ASP-30 ASP-31 ASP-32 ASP-33 ASP-34 ASP-35 ASP-36 ASP-37 ASP-38 ASP-39 ASP-40	—	—	レキ	柱穴の規模が 小さく敷居 柱穴間 縦向き配置

表17 建物跡・付属遺構一覧

遺構名	付属 遺構名	種別	面	図版	特徴	規模 (m)			主な 出土遺物	備 考	
						礎部面	底面	最大深 最大厚			
AUPS-1	AUF-1	炉跡・礎土	14		楕円形 規格 7.53R4/6	0.95	0.54	0.11	鉄器(針) 石核(火打石) レキ		
	AUF-2	—			—	—	—	—	—	—	
	AUS-2A	礎集中			3	長方形の 中央部分	0.82	0.62	—	たたき石 ヒ・灰土片 レキ	
	AUS-2B	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-31	柱穴・穴			3	基礎部分あり	1.70	0.81	—	—	
	ASP-36	—			—	—	—	—	—	—	—
AUPS-2	ASP-39	柱穴・穴	15		円形・丸	0.19	0.04	0.18	—		
	AUF-6	炉跡・礎土			4	灰集中を伴う 楕円形 規格 7.53R5/6	0.73	0.04	0.23	—	
	ASP-29	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-30	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-32	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-33	柱穴・穴			4	円形・丸	0.08	0.01	0.18	—	
	ASP-34	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-35	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-37	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-38	—			—	—	—	—	—	—	
AUPS-3	ASP-40	柱穴・穴	16		円形・丸	0.10	0.02	0.54	—		
	AUF-3	炉跡・礎土			5	灰集中を伴う 楕円形 規格 7.53R4/4	0.70	0.44	0.10	ヒ・灰土片 レキ	
	AUS-3	礎集中			5	—	0.60	0.38	—	すり石 ヒ・灰土片 レキ	
	ASP-22	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-23	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-24	柱穴・穴			—	円形・丸	0.12	0.03	0.24	—	
AUPS-4	ASP-25	柱穴・穴	17		円形・丸	0.09	0.04	0.22	—		
	AUF-4	炉跡・礎土			6	楕円形 規格 7.53R4/6	0.49	0.31	0.04	たたき石 ヒ・灰土片 レキ	
	ASP-7	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-8	柱穴・穴			6	円形・丸	0.16	0.03	0.37	—	
AUPS-5	AUF-10	炉跡・礎土	18		AUF-10	楕円形 規格 7.53R4/6	0.72	0.40	0.07	ヒ・灰土片 レキ	
	AUS-9A	礎集中			7	—	1.66	0.99	—	たたき石 石 ヒ・灰土片 レキ	
	AUS-9B	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-13	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-14	柱穴・穴			—	円形・丸	0.11	0.02	0.48	—	
	ASP-15	—			—	—	—	—	—	—	
AUPS-6	ASP-16	柱穴・穴	19		円形・丸	0.09	0.03	0.42	—		
	ASP-17	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-2	柱穴・穴			7	円形・丸	0.09	0.02	0.53	—	
	ASP-3	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-4	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-5	—			—	—	—	—	—	—	
AUPS-7	AUS-17	礎集中	20		8	円形・尖	0.22	0.03	0.57	石鏡	
	ASP-3	柱穴・穴			8	円形・尖	0.20	0.03	0.54	—	
	ASP-4	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-5	—			—	—	—	—	—	—	
	ASP-19	—			—	—	—	—	—	—	
AUPS-7	ASP-20	柱穴・穴	9		ヨウ-4 9	円形・尖	0.12	0.03	0.54	—	
	ASP-21	—			—	—	—	—	—	—	
	ヨウ-4 9	柱穴・穴			ヨウ-4 9	円形・尖	0.14	0.02	0.64	—	
	ASP-21	—			—	—	—	—	—	—	

表18 A地区 Ⅲ層 焼土一覧表

建物跡	遺構名	焼土 種類	図	図番	グリッド	確認層位 (被褥層)	平面 形状	焼土色相		厚さ (m)		主な 出土遺物	関連する 遺構	備考	
								色名	フェンセル 濃色相	最大 厚さ	最小 厚さ				
AUPS-1	AUF-1	伊原 焼土	14	3・4	X-17区	第・IV層	横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.95	0.54	11.01	新築(計) 石積(A行6) レキ	
	AUF-2	伊原 焼土	14	—	X-17区	伊原	横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.99	0.92	0.92	赤土等 U・Rレキ、レキ	
AUPS-3	AUF-3	伊原 焼土	16	5	Z-17区	伊原	横円形	褐色	7.018	5 / 4	0.70	0.54	0.59	レキ	
AUPS-4	AUF-4	伊原 焼土	17	8	Y-19区	第・IV層	横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.69	0.31	0.64	赤土等 U・Rレキ、レキ	
—	AUF-5	伊原 焼土	23	11	H・I-18区	第・IV層	不整な 横円形	褐色	7.018	4 / 6	1.80	0.47	0.60	—	
AUPS-2	AUF-6	伊原 焼土	18	4	Y-16区	伊原	横円形	褐色	7.018	5 / 4	0.71	0.59	0.51	レキ	
—	AUF-7	伊原 焼土	21	10	Y・Z-22区	第・IV層	横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.62	0.44	0.54	赤土 レキ	AUS-8
—	AUF-8	伊原 焼土	23	11	c-25区	伊原・FV層	不整な 横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.32	0.60	0.51	赤土 レキ	新築A地区内 埋戻部分12に付随
—	AUF-9	伊原 焼土	23	10	Y-14区	伊原	長方形	褐色	7.018	4 / 6	0.90	0.57	0.86	—	AUF-11 AUS-6
AUPS-5	AUF-10	伊原 焼土	18	7	X-22区	伊原	横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.72	0.40	0.67	U・Rレキ	
—	AUF-11	伊原 焼土	22	カウ-4 10	Z-14区	伊原	横円形	褐色	7.018	4 / 6	0.95	0.62	0.66	—	AUF-9 AUS-8
—	AUF-12	伊原 焼土	21	11	S-8区	伊原	長方形	褐色	7.018	4 / 4	1.70	0.58	0.54	—	AUS-14
—	AUF-13	伊原 焼土	23	11	T-11区	第・IV層	横円形	黄褐色	10.018	5 / 6	0.48	0.29	0.47	U・Rレキ	AUS-15

表19 A地区 Ⅲ層 築集中一覧表

関連する 遺構	遺構名	図	図番	グリッド	確認層位	平面 形状	規模 (m)		出土遺物		関連する 遺構	備考	
							長さ	幅	土層	石器等			その他
—	AUS-1	全体 築中部分	24	11	H・I -17区	伊原	—	3.31 2.04	—	フレイク 磁石 U・Rレキ レキ	—	遺物番号19	
AUPS-1	AUS-2	A 全体 築中部分	14	3	Y-17区	伊原	—	0.82 0.62	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	—
		長方形					0.40 0.33						
		長方形					1.70 0.91						
B 全体 築中部分	4	Y- 17-18区	伊原	—	0.66 0.41	—	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	—		
長方形				0.29 0.20									
AUPS-3	AUS-3	全体	16	5	Z-17区	伊原	—	0.60 0.39	—	すり石 U・Rレキ レキ	—	—	
—	AUS-4	全体 築中部分	24	11	I-18区	伊原	—	1.04 0.38	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	遺物番号16 の 一隅	
—	AUS-5	全体	24	11	a・b- 21・22区	伊原	—	1.77 1.64	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	—
		長方形					0.66 0.40						
		長方形					0.29 0.24						
炭化物集中1 炭化物集中2	—	b-22区 伊原	不整な 横円形	0.66 0.40	—	レキ	炭化材	炭化物集中 1・2	—	—	—		
炭化物集中	—	b-22区 伊原	長方形	0.29 0.24									
—	AUS-6	A 全体 築中部分	22	10	X- 14区	伊原	—	0.56 0.54	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	AUF-9 AUF-11
		長方形					0.36 0.20						
		長方形					1.60 0.93						
B 全体 築中部分	—	X・Y -14・15区	伊原	—	0.60 0.41	—	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	—		
長方形				0.25 0.25									
—	AUS-7	全体 築中部分	24	12	d-24区	伊原	—	0.25 0.25	—	U・Rレキ レキ	—	—	
—	AUS-8	全体 築中部分	21	10	Y- 21-22区	伊原	横円形	2.38 1.80	—	U・Rレキ レキ	—	AUF-7	
AUPS-5	AUS-9	A 全体 築中部分	18	7	X-22区 Y-22区	伊原	—	1.66 0.99	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	
		長方形					2.28 0.63						
—	AUS-10	全体	25	12	V・W -19区	伊原	—	3.29 2.16	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	
—	AUS-11	全体	25	12	W- 17・18区	伊原	—	3.24 1.93	—	U・Rレキ レキ	—	—	
—	AUS-12	B 全体 築中部分	25	12	b・c -17区	伊原	—	2.55 1.61	—	U・Rレキ レキ	—	—	
—	AUS-13	全体	26	13	N・O -11・15区	伊原	長方形	0.40 0.32	—	赤土等 U・Rレキ レキ	—	—	
—	AUS-14	全体 築中部分	21	11	S-8区	伊原	—	0.89 0.30	—	レキ	—	AUF-12	
—	AUS-15	全体 築中部分	23	11	S・T -11区	伊原	—	2.06 1.15	—	U・Rレキ レキ	—	AUF-13	
—	AUS-16	全体 築中部分	26	12	U- 10・11区	伊原	—	1.90 1.58	—	石積 レキ	—	—	
AUPS-7	AUS-17	全体 築中部分	20	9	W-19区	伊原	—	1.43 0.62	—	レキ	—	—	
		長方形					0.16 0.15						
—	AUS-18	全体 築中部分	26	12	T-19区	伊原	—	1.17 1.03	—	レキ	—	—	
—	—	全体 築中部分	—	—	—	伊原	—	0.22 0.20	—	—	—	—	

表20 A地区 Ⅲ層 柱穴・杭穴一覧表

開通する遺構名	遺構名	図	図版	グリッド	坑底面形状		規模 (m)			特徴	層位		出土遺物	備考
					平面	断面	確認面長径	坑底面長径	深さ		確認面	坑底面		
AUPS-6	ASP-1	27	—	b-21区	円形	丸	0.23	0.08	0.57	—	IV層	V層	—	
	ASP-2	19	8	e-200K	円形	丸	0.22	0.03	0.57	—	IV層	V層	石鏝	
	ASP-3	19	8	c-200K	円形	丸	0.20	0.03	0.54	—	IV層	V層	—	
	ASP-4	19	8	c-210K	円形	丸	0.20	0.04	0.53	—	IV層	V層	土釘	
AUPS-4	ASP-6	27	—	a-22区	円形	丸	0.20	0.05	0.45	—	IV層	V層	—	AUS-65遺構
	ASP-7	17	6	b-200K	円形	丸	0.10	0.02	0.29	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-8	17	6	b-190K	円形	丸	0.16	0.03	0.37	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-9	27	—	a-200K	円形	丸	0.16	0.04	0.42	—	IV層	V層	—	
AUPS-5	ASP-10	27	—	a-200K	円形	丸	0.18	0.06	0.29	—	IV層	V層	—	
	ASP-11	27	—	Z-200K	円形	丸	0.18	0.05	0.47	—	IV層	V層	—	
	ASP-12	27	13	a-190K	円形	丸	0.11	0.05	0.61	—	IV層	V層	—	
	ASP-13	18	7	X-210K	円形	丸	0.11	0.02	0.48	—	IV層	V層	—	
AUPS-7	ASP-14	18	—	Y-220K	円形	丸	0.11	0.03	0.22	—	IV層	V層	—	
	ASP-15	18	—	X-220K	円形	丸	0.09	0.02	0.19	—	IV層	V層	—	
	ASP-16	18	—	X-220K	円形	丸	0.09	0.03	0.42	—	IV層	V層	—	
	ASP-17	18	7	X-220K	円形	丸	0.09	0.02	0.53	—	IV層	V層	—	
AUPS-3	ASP-18	27	—	Z-220K	円形	丸	0.08	0.02	0.14	斜め	IV層	IV層	—	
	ASP-19	20	カブナ-4	V-100K	円形	丸	0.12	0.03	0.54	—	IV層	V層	—	
	ASP-20	20	カブナ-4	V-100K	円形	丸	0.14	0.02	0.64	—	IV層	V層	—	
	ASP-21	20	9	V-100K	円形	丸	0.13	0.03	0.41	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-22	16	3	Z-170K	円形	丸	0.12	0.03	0.24	—	IV層	V層	—	
	ASP-23	16	—	Z-170K	円形	丸	0.09	0.04	0.22	—	IV層	V層	—	
	ASP-24	16	—	Z-170K	円形	丸	0.11	0.03	0.29	—	IV層	V層	—	
	ASP-25	16	5	a-170K	円形	丸	0.10	0.02	0.39	斜め	IV層	V層	—	
AUPS-1	ASP-26	27	—	U-140K	円形	丸	0.10	0.02	0.39	—	IV層	V層	—	
	ASP-27	27	12	U-130K	円形	丸	0.10	0.02	0.46	—	IV層	V層	—	
	ASP-28	27	—	Z-160K	円形	丸	0.07	0.02	0.18	—	IV層	V層	—	
	ASP-29	15	—	Y-160K	円形	丸	0.07	0.02	0.38	—	IV層	V層	—	
AUPS-1	ASP-30	15	—	Y-160K	円形	丸	0.10	0.04	0.18	断面一部不整形	IV層	V層	—	
	ASP-31	14	—	Y-160K	円形	丸	0.10	0.04	0.18	斜め	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-32	15	4	Y-170K	円形	丸	0.08	0.02	0.17	—	IV層	V層	—	
	ASP-33	15	4	Y-170K	円形	丸	0.08	0.01	0.18	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-34	15	4	X-170K	円形	丸	0.12	0.04	0.20	斜め	IV層	V層	—	
	ASP-35	15	4	X-160K	円形	丸	0.10	0.02	0.26	—	IV層	V層	—	
AUPS-1	ASP-36	14	3	X-160K	円形	丸	0.09	0.02	0.38	—	IV層	V層	—	
	ASP-37	15	—	X-160K	円形	丸	0.11	0.02	0.21	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-38	15	4	X-160K	楕円形	丸	0.13	0.02	0.44	—	IV層	V層	—	
	ASP-39	14	—	X-170K	円形	丸	0.13	0.04	0.23	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-40	15	—	X-180K	円形	丸	0.10	0.02	0.54	—	IV層	V層	—	
	ASP-41	26	—	T-120K	円形	丸	0.10	0.03	0.24	—	IV層	V層	—	
AUPS-2	ASP-42	28	—	U-100K	円形	丸	0.10	0.03	0.22	—	IV層	V層	—	

表21 A地区 Ⅲ層 土坑一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形状	規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考	
					確認面長径	短径	底面・坑底面長径	短径		最大深	土器	石器等		その他
AUP-1	29	13	J-K-18区	長楕円形 楕円形	1.40	0.60	(1.31)	0.48	0.10	—	—	—	炭化材 炭化物	北東部部分 南西側部分
					0.70	0.48								

表22 A地区 Ⅲ層 遺構出土土器点数表

遺構名		AUS-1		合計	
種類	単位	数量	合計	数量	合計
土器類	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0
合計		0	0	0	0

表23 A地区 Ⅲ層 遺構出土土器片石器点数表

遺構名	ASP-2	AUF-1	AUS-1	AUS-18	合計	
						遺構名
土器類	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
	土器類	0	0	0	0	0
石器類	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
	石器類	0	0	0	0	0
その他	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	

表24 A地区 III層 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺物名	形状	ASP-4		AUF-1		AUF-2		AUF-3		AUF-4		AUF-6		AUF-7		AUF-8		AUF-10		AUF-13		合計
		瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	
磨製石斧	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
たがき石	瓦					1				1												2
	砂																					0
	片	0		0		0		1		0		3		0		0		0		0		4
	合計	0		0		1		1		1		3		0		0		0		0		4
すり石	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
玄徳遺式石	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
扁平打製石器	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
石鏃	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
砥石	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
白石石	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
石製品	瓦																					0
	砂																					0
	片	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
	合計	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0
加工・使用痕のあるレキ	瓦					1		1		3						1		1		1		11
	砂																					2
	片	0		0		1		3		1		10		0		1		0		1		18
	合計	0		0		1		3		3		10		0		1		1		1		19
レキ	瓦			1		2		3		2		3		6		4		13		0		22
	砂																					2
	片			2		1		2		1		1		2		1		2		13		26
	瓦																					3
	砂																					1
	片	1		4		12		9		37		3		5		13		13		0		97
	瓦																					1
	砂																					26
	片			1		2		1		2		2		6		4		0		0		16
	合計	1		4		15		12		47		3		8		13		14		1		116
合計	1		4		16		12		50		3		8		22		14		1		129	

表25 AUS出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺物名	形状	AUS-1		AUS-2		AUS-3		AUS-4		AUS-5		AUS-6		AUS-7		AUS-8		AUS-9		AUS-10		AUS-11		AUS-12		AUS-13		AUS-14		AUS-15		合計
		瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂	瓦	砂			
磨製石斧	瓦																															0
	砂																															0
	片	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
	合計	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
たがき石	瓦																															0
	砂																															0
	片	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
	合計	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
すり石	瓦																															0
	砂																															0
	片	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
	合計	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
玄徳遺式石	瓦																															0
	砂																															0
	片	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
	合計	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
扁平打製石器	瓦																															0
	砂																															0
	片	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
	合計	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
石鏃	瓦																															0
	砂																															0
	片	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
	合計	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	14	
砥石	瓦																															



表26 A地区 III層 VII群復原土器観察表 (G-20区・Q-9区)

区	番号	図録	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)								
							器高	口径	底径												
30	1	34	G-20区	Ⅲ層	—	5	(4.5)	14.4	—	160	口縁~胴部	深鉢	埴群								
接合破片総点数		5		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				—													
胎土 (混和材)		繊維		無		粒徑		細粒		種類		胎物主体		量		少量		備考		—	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内		
	七ツギ		(黒灰色)		黒色化炭化物付着		割れ口に丸炭化物付着		口唇部 (40%)												
	太式調文 [平打調文の縮小文 平打調文 七ツギ		灰黄褐色 (10Y5/2)		黒色化炭化物付着		平截竹管状工具による黒文		口縁部 (50%)		七ツギ		(黒褐色)		黒色化炭化物付着		—				
面	平打調文 七ツギ		(黒灰色)		黒色化炭化物付着		平截竹管状工具による黒文		底面 (20%)		七ツギ		(黒褐色)		黒色化炭化物付着		—				

区	番号	図録	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)								
							器高	口径	底径												
30	2	34	Q-9区	Ⅲ層	—	7	(4.7)	—	(6.7)	440	胴部中位~底面	深鉢	埴群								
接合破片総点数		7		接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				—													
胎土 (混和材)		繊維		無		粒徑		細粒		種類		胎物主体		量		少量		備考		—	
外	文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		部位 (残存率)		文様・調整		色調		使用の痕跡		その他		内		
	矢羽状の跡のみ		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		黒色化炭化物付着 赤褐色 (褐色 5YR7/3)		平截竹管状工具による黒文		胴部中位 (5%)		七ツギ		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		黒色化炭化物付着		—				
	へろ七ツギ ナブ		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		黒色化炭化物付着				胴部下位~底面 (20%)		七ツギ		(黒褐色)		黒色化炭化物付着		—				
面	へろ七ツギ ナブ		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		黒色化炭化物付着		(剥離)		底面 (5%)		—		—		—		(剥離)				

表27 A地区 III層 遺構・包含層出土破片土器観察表

区	番号	図録	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)					
						小計	合計										
胎土 (混和材)						文様・調整			色調		使用の痕跡						
繊維		粒徑		種類		外面		内面 (部位)		外面		内面					
30	3	37	AUS-1	Ⅲ層	—	1	1	口縁部	19.5	深鉢	埴群	輪帯孔					
無		細粒		胎物主体		平打調文・縮小ナブ		七ツギ		(口唇部) 七ツギ		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		黒色化炭化物付着	
30	4	37	N-15区	Ⅲ層	—	1	1	口縁部	9.1	深鉢	埴群						
無		細粒		胎物主体		平截竹管状平打調文・縮小ナブ		七ツギ		(口唇部) 七ツギ		(黒灰色)		(黒褐色)		黒色化炭化物付着	
30	5	37	R-11区	Ⅲ層	—	1	1	胴部	12.1	深鉢	埴群						
無		細粒		胎物主体		平截竹管状平打調文・縮小ナブ		ナブ		—		(黒褐色)		(黒褐色)		黒色化炭化物付着	
30	6	37	T-12区	Ⅲ層	—	1	1	胴部	14.2	深鉢	埴群	輪帯孔					
無		中~細粒		胎物主体		平截竹管状平打調文・縮小ナブ		七ツギ		—		(黒褐色)		(黒褐色)		黒色化炭化物付着	
30	7	37	E-17区	Ⅲ層	—	2	2	胴部	121.8	深鉢	埴群	輪帯孔					
無		中粒		胎物主体 (6%)		平打調文・縮小ナブ・七ツギ		七ツギ		(胎打調文) 胴心内位の黒文		にじい・黄褐色 (10Y5/7)		(黒褐色)		黒色化炭化物付着	

表28 A地区 III層 遺構・包含層出土石器等観察表

図 号	地層		出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存 状態	特徴 観察事項	備考
	番号	図版					長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴			
31	1	42	AUF-1	III層	2	石核	8.6	7.5	3.5	236.8	チャート	灰白色 2.5Y8/2	—	表面・背縁 打ち欠き	火打石
31	2	45	AUF-4	III層	1	たたき石	4.1	8.6	2.0	80.6	凝灰岩	に深い黄色 2.5Y6/3 軟質	完形	たたき面 平滑面 被熱	
31	3	45	AUF-4	III層	13	たたき石	5.3	4.0	2.1	49.7	砂岩	暗灰色 2.5Y5/2 硬粒 軟質	完形	たたき面 平滑面	
31	4	45	AUS-1	III層	14	台石・石皿	17.5	12.9	5.5	2380	砂岩	(暗灰色) 硬粒 軟質	完形	たたき面 すり面 平滑面 被熱	
31	5	45	AUS-3	III層	—	すり石	14.4	12.0	2.7	400	凝灰岩	(灰白色) 軟質	完形	すり面 凹状の使用面	
31	6	45	AUS-4	III層	6	たたき石	10.2	3.6	2.4	92.6	砂岩	(暗灰色) 中粒 軟質	完形	たたき面 平滑面	
31	7	42	AUS-16	III層	2	石核	9.8	7.6	3.9	224.4	チャート	(灰白色) 肌理面	—	割れ 打ち欠き	火打石
32	1	42	X-10区	III層	—	石核	1.8	1.4	0.4	0.5	黒曜石	—	完形	—	
32	2	42	Z-14区	III層	—	つまみ付き タイプ	7.5	2.4	1.7	24.2	チャート	陶灰色 7.5Y8/1 細粒質 軟質	完形	背面加工	
32	3	42	I-18区	III層	—	石核	11.8	9.7	4.7	720	チャート	(明暗灰色) 肌理面	—	表面・背縁 打ち欠き	火打石
32	4	45	R-9区	III層	—	石核	8.4	9.0	4.8	480	チャート	灰白色 2.5Y8/1 肌理面	完形	割れ	火打石
32	5	45	W-9区	III層	—	たたき石	17.3	7.7	6.0	780	凝灰岩	に深い黄色 2.5Y6/3 軟質	完形	たたき面 平滑面	
32	6	45	X-14区	I層	—	たたき石	8.1	6.0	5.2	299.9	緑色泥岩	(暗灰色) やや硬質	完形	たたき面 割れ	
32	7	45	Z-21区	I層	—	砥石	(13.5)	(7.2)	(2.5)	264.8	砂岩	緑~中粒 軟質	片	砥面 割れ	
32	8	42	U-13区	III層	—	レキ	3.3	2.6	2.0	13.1	泥岩	に深い黄色 (2.5Y6/3)	完形	—	磨具化石

表30 A地区出土 鉄製品一覧表

図 番号	図版	出土地点		層位	遺物 番号	点数	分類	計測値 (cm)			重量 (g)	備考	分析番号			
		建物跡	グリッド					長さ	幅	厚さ						
33	1	カラ-4 4-33-41	AUPS-1	AUF-1	—	土	6	1	—	針	(3.4)	1.0	0.4	(1.9)	X線透過写真 で孔確認	分析イ33-1
33	2	カラ-4 13-33-41	—	—	Z-20区	III層	1	2	接合	鉄錐	(16.6)	(15.5)	2.5	(650)	—	分析イ33-2
33	3	カラ-4 13-33-41	AUPS-2	(ASP-40)	X-15区	III層	1	1	—	棒状品	(3.5)	1.4	0.7	(9.4)	—	分析イ33-3
33	4	カラ-4 13-33-41	—	—	X-21区	III層	1	2	接合	顕先	12.6	10.2	1.0	112.7	—	分析イ33-4

表29 AUS出土レキ三軸計測表(1)

測線	測位	計測位置				測角	備考	計測時刻				測角	備考	
		測角	測角	測角	測角			時刻	時刻	時刻	時刻			
AUS-1	測線	1	測角	測角	測角	測角	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
AUS-2	測線	1	測角	測角	測角	測角	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00









## V章 A地区 V層の遺構と出土遺物

### 1. 概要 (図34)

A地区のV層では、土坑(ALP)1基、Tピット(ATP)31基、石組炉(ALFRS)1か所、焼土(ALF)5か所を調査した。

ALP-1は調査区の南東側に位置し浅い。Tピットは坑底面の形状から、溝状、長楕円形、楕円形に分けられ、およそ3か所のまとまりが認められる。北側部分ではG～Jライン付近の東西方向にATP-28・19・21・23・22・24・25が、グリッド交点K-10付近から南西方向の同R-16までにATP-4・18・17・6・7・3・2・8・1が、T～W間の11ラインから西方向の22ライン付近まで、ATP-16・13・12・14・29・11・15・9・10・31・26・27がある。切り合う例はATP-11・15がある。また、ATP-5・20・30はまとまりからやや離れて位置する。石組炉ALFRS-1は、調査区中央付近よりもやや南側で確認した。ALFは5か所みられ、すべて灰跡の焼土である。これらは、調査区の北東～南西方向に列状に位置しているともみられる。時期は出土遺物等から縄文時代中期後半～後期初頭と判断される。

(末光)

### 2. 土坑

ALP-1 (図35 表31 図版14)

位置 b・c-19・20区 規模 1.90×1.43 / 1.82×1.57 / 0.20m

平面形態 不整な楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層上面で楕円形の黒色土がみられた。半載したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。南東側部分は楕円形の張り出しがある。

**覆土** 黒色土が主体で、T a - d 2スコリアが微量混じる。

**壁・坑底面** 壁は曲線的な立ち上がりで、坑底面は概ね平坦である。

**遺物出土状況** 覆土から砥石、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(愛場)

### 3. Tピット (図35～50 表32・33 図版14～22)

ATP-1 (図35 図版14・18)

位置 Q-15・16区 規模 2.08×1.40 / 1.50×0.44 / 0.93m

平面形態 楕円形/長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載して土層断面を観察し、平坦な面、壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。完掘後、坑底面を精査し杭穴を調査した。

**覆土** 最上位に再堆積層のS d 2層が薄くみられ、断面図番号8・10はT a - d 2層主体で、これら以外はすべて黒色土が主体である。

**壁・坑底面** 壁は短軸方向で広く立ち上がり、長軸方向の坑底面では北側部分が若干低い。

**付属遺構** 杭穴(s p - 1～6)を確認した。いずれも細く先端部が尖る。



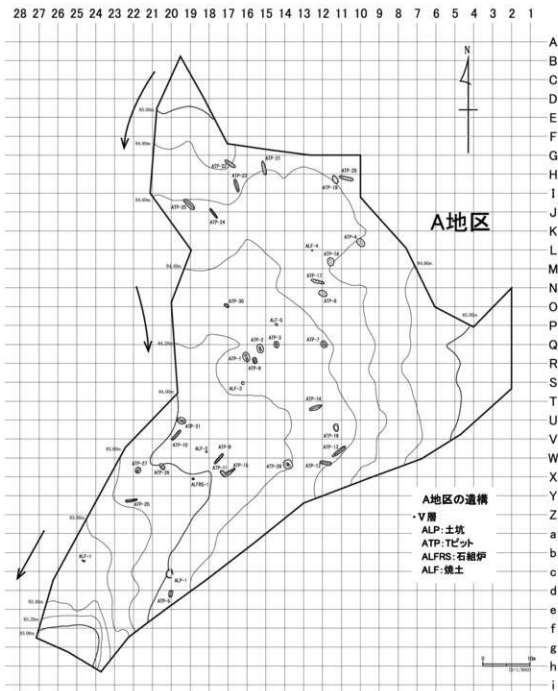
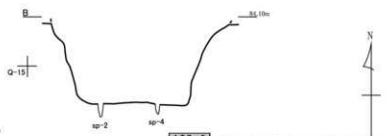
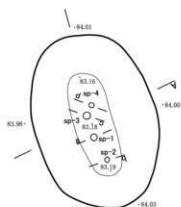


図34 A地区遺構位置図・V層上面地形測量図



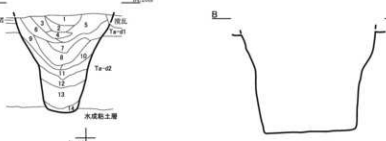
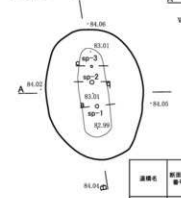
# ATP-2



遺構名	層位	用途	形状	高さ	位置	点別	階別	構造	積載	備考
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

遺構名	層位	用途	形状	断面		高さ	位置	点別	階別	構造	積載	備考
				断面	断面							
ATP-2	1	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	2	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	3	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	4	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	5	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	6	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	7	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	8	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	9	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	10	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	11	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	12	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	13	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
ATP-2 配	14	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	15	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---

# ATP-3



遺構名	層位	用途	形状	断面		高さ	位置	点別	階別	構造	積載	備考
				断面	断面							
ATP-3	1	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	2	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	3	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	4	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	5	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	6	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	7	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	8	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	9	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	10	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	11	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	12	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---
	ATP-3 配	13	0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設
14		0層	0層	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	埋設	---



図36 ATP-2・ATP-3

**遺物出土状況** 上位の覆土からⅢ群土器、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられ、出土土器からは中期と判断される。

#### ATP-2 (図36 図版14・18)

**位置** P・Q-15区 **規模** 1.89×1.30 / 1.13×0.44 / 0.82m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられ、短軸方向で半載したところ、平坦な面や壁の立ち上がりを確認したので遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した後、杭穴を調査した。

**覆土** 断面図番号10・11・13・14はT a - d 2層主体で、壁際で遺構の中央へと傾斜する薄い層でみられる。これら以外はすべて黒色土が主体である。

**壁・坑底面** 壁は緩やかに立ち上がり、北側部分ではやや広い。長軸方向の坑底面は中央付近が若干高い。

**付属遺構** 杭穴 (s p - 1 ~ 4) を確認した。覆土は黒色土または灰色の水成粘土層である。

**遺物出土状況** 上位の覆土からU・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### ATP-3 (図36 図版14・18)

**位置** P・Q-14区 **規模** 1.39×1.03 / 1.14×0.32 / 1.06m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面や壁の立ち上がりが見られたので、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した後、杭穴を調査した。

**覆土** T a - d 2層主体は断面図番号11で、覆土中位付近にみられ、これら以外はすべて黒色土が主体である。

**壁・坑底面** 壁は遺構の中位付近まで直立気味で、そこから開くように立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側がやや低い。

**付属遺構** 杭穴 (s p - 1 ~ 3) を調査した。覆土にはT a - dスコリアが含まれない。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(広田)

#### ATP-4 (図37 図版14・18)

**位置** K-9・10区 **規模** 1.90×1.28 / 1.13×0.44 / 1.06m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

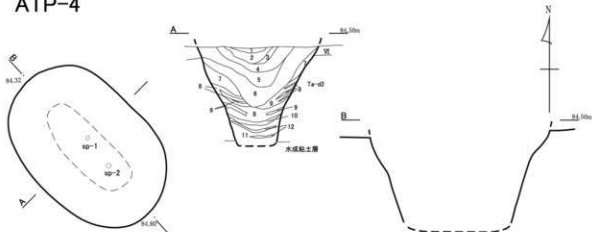
**確認・調査** 包含層調査中、Ⅵ層で黒色土がみられた。短軸方向で半載して土層断面を観察し、遺構と判断した。坑底近くでは地下水が流れており、水中ポンプで排水しながら調査を進めたが、遺構内の水を完全に押し出すことはできなかった。その状況の中、坑底面と判断できる平坦な面を検出した。

**覆土** 最上位にⅣ層が堆積し、上半分は中央が落ち込む堆積で、下半分は概ね水平に堆積がみられる。断面図番号3・8・11がT a - d 2層主体である。

**壁・坑底面** 壁は中位付近まで広く立ち上がり、そこから上位はさらに開口気味に立ち上がる。

**付属遺構** 杭穴 (s p - 1 ~ 2) の平面位置を確認した。地下水のため掘り下げることはできなかった。

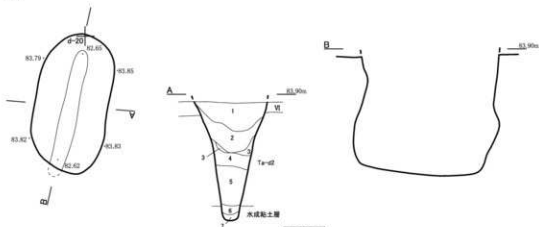
# ATP-4



L-10

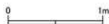
遺構名	調査区 番号	層位名 式採層・遺存層 層名	層分類	層厚	計測・取土状況(基礎2m未満)				計測・取土状況(2m以上)				遺構 形状	遺位の 傾度	出入物	備考			
					野外 土質	地層 色名	マシヤク 色名	粘着性	堅固度	種類	面積 割合 (%)	範囲 平均					最大	形状	
ATP-4	1	浮層	粘性	厚さ不明	黄褐色	10YR4/7	中	堅			砂		砂				—	（埋没品） 遺構	
	2	砂層	粘性	薄	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	3	2~10	底辺線	底辺						
	3	砂層	粘性	砂質土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺						
	4	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺						
	5	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺						
	6	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	2	2~10	底辺線	底辺						
	7	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	5	2~5	底辺線	底辺						
	8	砂層	粘性	砂質土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺						
	9	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅											
	10	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	5	2~5	底辺線	底辺						
	11	砂層	粘性	砂質土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺						
	12	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	5	2~5	底辺線	底辺						

# ATP-5



遺物 属性	土質	時期	形状	検出 層位	検出 高さ	検出 範囲	備考
土器	底面	弥生	片断	1	層上		
土器	底面	弥生	片断	3	層上		
土器	底面	弥生	片断	3	層上		

遺構名	調査区 番号	層位名 式採層・遺存層 層名	層分類	層厚	計測・取土状況(基礎2m未満)				計測・取土状況(2m以上)				遺構 形状	遺位の 傾度	出入物	備考	
					野外 土質	地層 色名	マシヤク 色名	粘着性	堅固度	種類	面積 割合 (%)	範囲 平均					最大
ATP-5	1	浮層	粘性	薄	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	3	2~10	底辺線	底辺				
	2	砂層	粘性	砂質土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺				
	3	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺				
	4	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺				
	5	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺				
	6	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2	底辺線	底辺				
	7	砂層	粘性	砂質土	黄褐色	10YR4/7	中	堅	3p-40.5×0.3	10	2~10	底辺線	底辺				



0 1m  
GS-1/400

図37 ATP-4・ATP-5

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

**A T P-5** (図37 図版14・19)

**位置** c・d-19・20区 **規模** 1.48×0.79 / 1.37×0.19 / 1.26m

**平面形態** 長楕円形／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、細長い平坦面と壁の立ち上がりがみられ、遺構と認定した。土層断面を記録し完掘した。確認面は長楕円形で坑底面は溝状を呈する。

**覆土** 覆土上位と最下層は黒色土が、下位部分はT a-d 2主体である。

**壁・坑底面** 壁はやや広く直線的に立ち上がり、坑底面は曲線的で北側部分が低い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 黒色土主体の覆土からⅢ群土器とレキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられ、出土土器からは中期と判断される。

**A T P-6** (図38 図版14・19)

**位置** N-11・12区 **規模** 1.85×1.17 / 1.20×0.48 / 1.07m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、V～VI層で黒色土がみられ、短軸方向で半載した。坑底近くでは地下水が流れており、水中ポンプで排水しながら調査を進め、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。

**覆土** 覆土の最上位にはS d 2層が堆積する。断面図番号6は黒色土主体の厚い覆土で、これの上下両部分では、それぞれ黒色土層とT a-d 2層が概ね交互にみられる。

**壁・坑底面** 壁は概ね直立気味に立ち上がり、上位付近でさらに曲線的に開口する。

**付属遺構** 本遺構は絶えず地下水が流れ込んでいたが、排水しながら杭穴S p-1を調査した。掘り下げたが流入する水で調査は困難であり、水が澄んだ状態の時、エレベーション図を作成できるように、高さを計測し図化した。

**遺物出土状況** 黒色土主体の覆土からたたき石とレキが出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**A T P-7** (図38 図版15・16・19)

**位置** P・Q-11・12区 **規模** 1.51×1.21 / 0.98×0.47 / 0.97m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

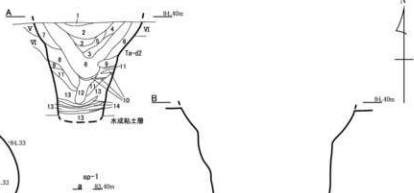
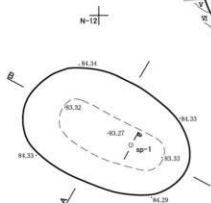
**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した後、杭穴の調査を行った。

**覆土** 覆土上位の各層は遺構の中心へと傾斜し、坑底面から1/3の高さ付近から水平に堆積する。

**壁・坑底面** 壁は曲線で直立気味に立ち上がり、長軸の坑底面は中央がゆるやかに低くなる。

**付属遺構** 杭穴を3か所(s p-1～3)確認した。いずれも覆土は地山の水成粘土層またはT a-d 2が主体である。

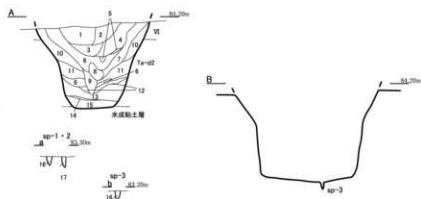
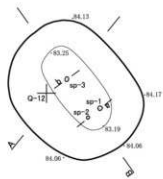
# ATP-6



遺物 属性 (石器)	土層 (層位)	層別 (高さ)	形状 (長さ)	検出 位置	検出 層位	検出 深度 (m)	検出 回数	備考
---	---	---	---	---	---	---	---	石器・土層
---	---	---	---	---	---	---	---	石器・土層
---	---	---	---	---	---	---	---	石器・土層
---	---	---	---	---	---	---	---	石器・土層

遺構名	探査区 番号	遺構名 (正式名)	遺構名 (略称)	野外地 位置	土質			埋蔵 深度	種類	埋蔵 割合 (%)		形状	風化の 程度	採入物	備考
					色名	マンネル 数値	粘着性			平均	最大				
ATP-6	1	802層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	2	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	3	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	4	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	5	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	6	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	7	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	8	802層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	9	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	10	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	11	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	12	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	13	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	14	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---

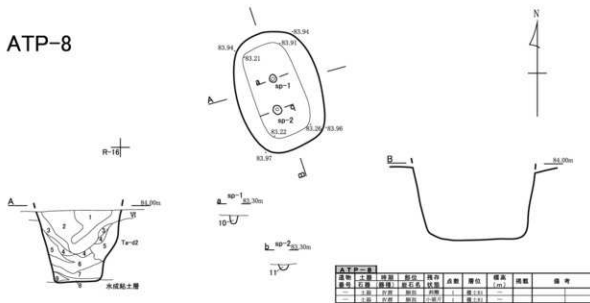
# ATP-7



遺構名	探査区 番号	遺構名 (正式名)	遺構名 (略称)	野外地 位置	土質			埋蔵 深度	種類	埋蔵 割合 (%)		形状	風化の 程度	採入物	備考
					色名	マンネル 数値	粘着性			平均	最大				
ATP-7	1	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	5 x 1 層
	2	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	3	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	4	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	5	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	6	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	7	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	8	802層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	9	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	10	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	11	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	12	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	13	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	14	801層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
ATP-7 sp-1-2	15	802層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---
	17	800層	砂質 硬土	褐色	10YR 5/1	中	粘	30-40%	1	2-3	長円筒	良好	---	---	---

図38 ATP-6・ATP-7

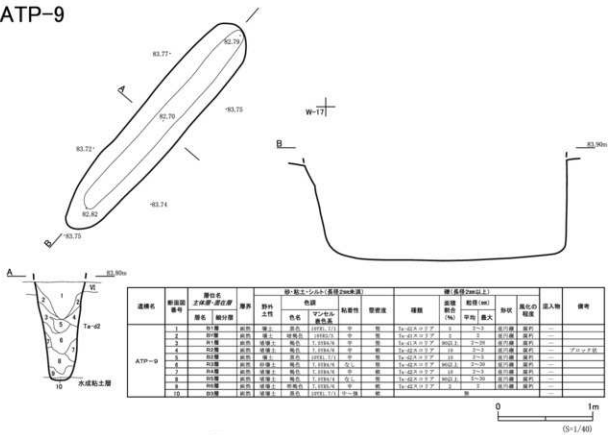
ATP-8



遺構	土層	種類	形状	特徴	点検	発見	高さ	面積	備考
1	1層	穴	楕円形	深さ約1.5m	○	1	1.5m	—	—
2	1層	穴	楕円形	深さ約1.5m	○	1	1.5m	—	—

遺構名	調査区画番号	層位名 正統学/遺存層	層別	野村 土性	計・軸スキャンル(長径2000未満)				横(長径2000以上)				遺入物	備考	
					色名	質感	塑性	種類	面積 割合(%)	総長 平均	最大	形状			発見の 程度
ATP-8	1	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	2	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	3	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	4	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	5	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	6	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	7	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
ATP-9	8	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	9	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	10	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	11	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—

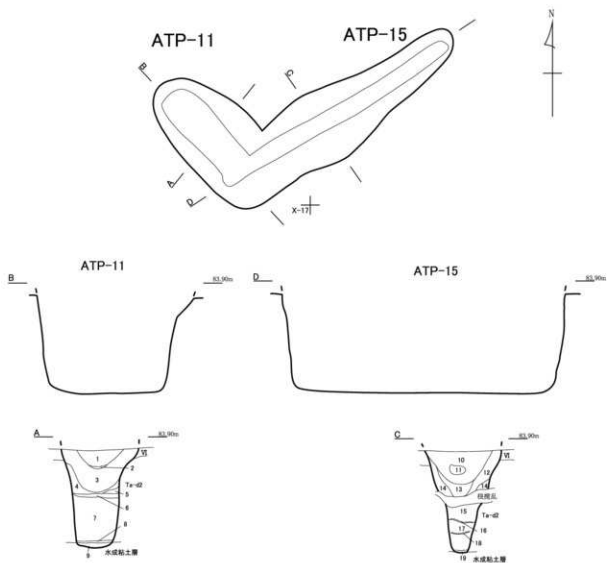
ATP-9



遺構名	調査区画番号	層位名 正統学/遺存層	層別	野村 土性	計・軸スキャンル(長径2000未満)				横(長径2000以上)				遺入物	備考	
					色名	質感	塑性	種類	面積 割合(%)	総長 平均	最大	形状			発見の 程度
ATP-9	1	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	2	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	3	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	4	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	5	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	6	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	7	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
ATP-9	8	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—
	9	1層	穴	硬質	褐色	10000	中	硬	3x40x20	10	2-3	楕円形	底付	—	—

図39 ATP-8・ATP-9





A-11									
遺物	土層	用途	層位	層厚	面積	層位	高さ	状態	備考
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

A-15									
遺物	土層	用途	層位	層厚	面積	層位	高さ	状態	備考
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

遺構名	調査番号	遺構名 主材・副材	層位	層厚	伊・瓢・土(シノキ)長径2m未満				礎(長径2m以上)				
					形状		用途	種類	基礎	高さ	状態	備考	
					形状	用途							
ATP-11	1	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	石造	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	2	石壁	礎上	高さ	1.17m	中	—	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	3	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	4	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-10	残存	遺構	—
	5	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-10	残存	遺構	—
	6	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	3-10	残存	遺構	—
	7	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	3-10	残存	遺構	—
	8	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	3-10	残存	遺構	—
	9	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	3-10	残存	遺構	—
ATP-15	10	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	11	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	12	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	13	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-2	残存	遺構	—
	14	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-20	残存	遺構	—
	15	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-10	残存	遺構	—
	16	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	2-10	残存	遺構	—
	17	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	3-10	残存	遺構	—
	18	石壁	礎上	高さ	1.07m	中	—	礎上	10	3-10	残存	遺構	—



図40 ATP-11・ATP-15

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**ATP-8** (図39 図版15・19)

**位置** Q・R-15区 **規模** 1.28×0.91 / 1.00×0.55 / 0.78m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられ、短軸方向で半載し、土層断面等から、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘し杭穴を確認した。坑底面の平面は方形に近い。

**覆土** 覆土最下層以外の各覆土は中央がくぼむ、または傾斜する堆積である。

**壁・坑底面** 短軸では西側の壁は直立気味に立ち上がり、東側は崩落のためか段状にみられる。坑底面は概ね平坦である。

**付属遺構** 杭穴を2か所 (s p - 1・2) を調査した。他のTピットに比して幅が広い。

**遺物出土状況** 黒色土主体の上位の覆土からIV群土器が出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期で、出土土器からは縄文時代後期初頭と考えられる。

**ATP-9** (図39 図版17・20)

**位置** V・W-17区 **規模** 2.76×0.56 / 2.48×0.22 / 1.07m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で溝状の黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と認定した。その後、土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 覆土最上層に黒色土が厚く堆積し、覆土の下半部はT a - dスコリア主体である。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは直立気味で、長軸の坑底面は中央付近が若干低い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**ATP-11・ATP-15** (図40 図版15・17・20)

**ATP-11** (図版15・20)

**位置** W-17区 **規模** 1.66×0.83 / 1.19×0.41 / 1.03m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

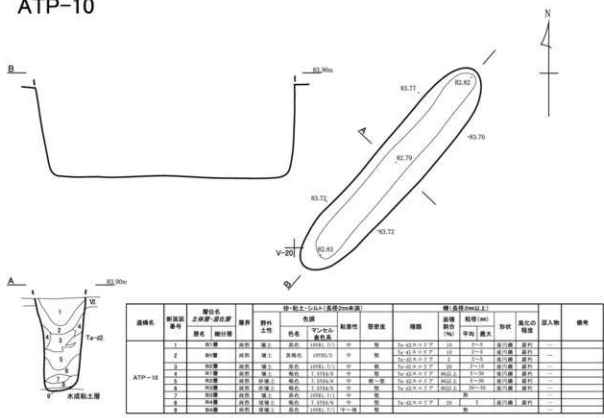
**ATP-15** (図版17・20)

**位置** W-16・17、X-17区 **規模** 3.00×0.80 / 2.76×0.26 / 1.06m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で楕円形を呈する黒色土がみられた。南東部分を掘り下げ、土層断面を確認し遺構 (ATP-11) と認定した。また、遺構の北東側の壁に遺構の断面が観察され、この部分の包含層調査を進めたところ、VI層上面で細長い黒色土が確認された。Tピットが切り合うものと予想したが、ATP-11は半載しており、新旧関係を判断するため連続する土層断面を設けることができなかったため、遺構であるかの確認と坑底面での切り合いを調査するために、細長い黒色土の南西部分を掘り下げた。平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構 (ATP-15) と判断した。

# ATP-10



# ATP-12

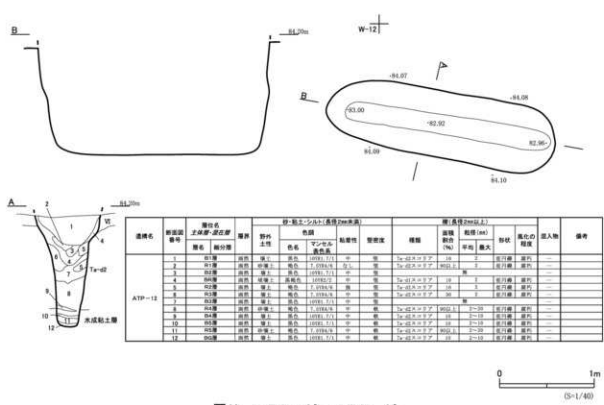


図41 ATP-10・ATP-12

また、坑底面では切り合いがみられず、新旧関係は判断できなかった。

**覆土** ATP-11の断面図番号2とATP-15の断面図番号11・14・17はT a-d主体で、ATP-11の下部部分の覆土は、他のTピットに比べて黒色土が多い。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは、ATP-11は直立気味で、ATP-15は直線的に若干開き、中央付近でさらに開口する。長軸方向の坑底面はともに平坦である。

**付属遺構** ともしなし。

**遺物出土状況** ATP-11からたたき石が、ATP-15からN群土器とU・Rレキが、上位の黒色土主体の覆土から出土した。

**重複** ATP-11の南東部分とATP-15の南西部分が重複する。連続する土層断面を観察できず、坑底面で切り合う状況も確認できなかったため、新旧関係は不明である。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期で、出土土器から縄文時代後期と判断される。

#### ATP-10 (図41 図版17・20)

**位置** U・V-19区 **規模** 2.75×0.57 / 2.52×0.31 / 1.00m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。その後、土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 断面図番号7・9はT a-dが混じらない黒色土である。

**壁・坑底面** 壁は直立気味に立ち上がり、長軸の坑底面は中央がやや高い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### ATP-12 (図41 図版17・20)

**位置** W-11・12区 **規模** 2.46×0.74 / 2.21×0.26 / 1.19m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられ、短軸方向で半載し土層断面等から、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘した。

**覆土** 断面図番号1は覆土最上位の黒色土層で、8はT a-d主体の層で遺構の下部部分で厚くみられる。

**壁・坑底面** 壁は直立気味に立ち上り、確認面近くでさらに開口する。長軸の坑底面は概して平坦である。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

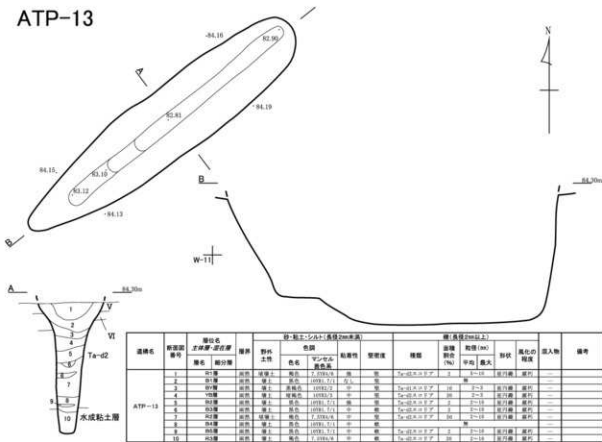
#### ATP-13 (図42 図版17・20)

**位置** V-10・11区 **規模** 3.49×0.79 / 2.89×0.21 / 1.38m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、V層で黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、平坦な面と段が

# ATP-13



# ATP-14

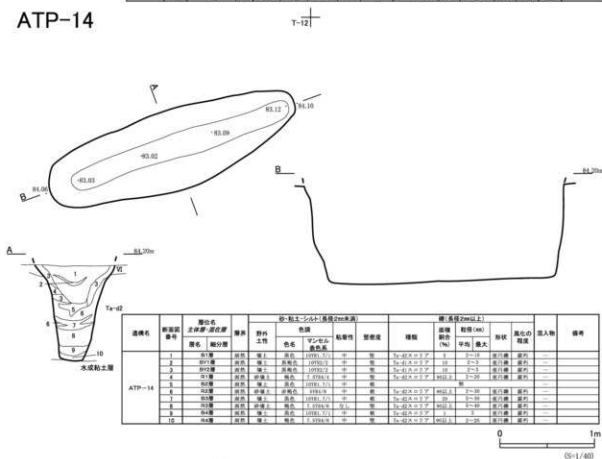


図42 ATP-13・ATP-14

みられ、壁の立ち上がりも確認できたので、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘した。

**覆土** 断面図番号1の最上位以外の覆土の層界は、他のTピットに比して平坦である。

**壁・坑底面** 壁は概ね垂直に立ち上り、確認面近くで広く開口する。長軸の坑底面は曲線的で、南西側に段を有する。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### ATP-14 (図42 図版17・20)

**位置** T-12区 **規模** 2.75×0.85 / 2.43×0.29 / 1.04m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられ、西側部分を掘り下げたところ、壁の立ち上がりや平坦な面がみられたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 断面図番号1は覆土最上位の黒色土層で厚くみられる。下位部分は黒色土層とT a - d主体層が交互にみられる。

**壁・坑底面** 壁は若干広がり気味に立ち上り、長軸の坑底面は概して平坦で、西側が若干低い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### ATP-16 (図43 図版15・19)

**位置** U-11区 **規模** 1.61×1.02 / 1.11×0.68 / 0.66m

**平面形態** 楕円形／楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層上面で楕円形の黒色土がみられ、半掘したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。当初、Tピットと判断したので遺構番号を付したが、土坑の可能性が高い。

**覆土** 覆土の多くは黒色土主体で、断面図番号5のT a - d主体の層は遺構の東側の壁際にみられる。

**壁・坑底面** 曲線的で緩やかにくぼむ坑底面で、壁の立ち上がりも曲線的である。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

#### ATP-17 (図43 図版17・20)

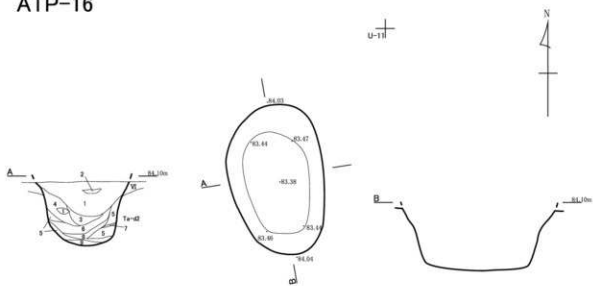
**位置** M-11・12区 **規模** 2.85×0.69 / 2.24×0.24 / 1.03m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向の西側部分を掘り下げ、壁の立ち上がりや平坦な面を確認し遺構と判断した。遺構の坑底面近くに地下水が流れている。土層断面を記録した後、完掘した。

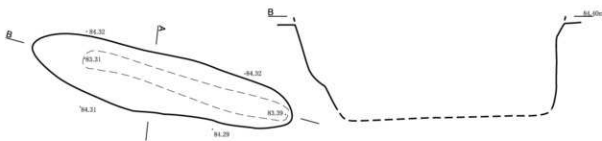
**覆土** 断面図番号9の覆土最下層は唯一T a - d層が混ざらない覆土で、遺構の下半部分は覆土

# ATP-16



遺構名	新調査番号	調査名	調査種別	野村立性	砂・粘土・シルト(基礎2m未満)				硬・高砂(2m以上)					
					色調	粘性	層厚	層位	層位	層厚	層位	層厚		
													色名	サンピルム
ATP-16	1	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	3	2-20	砂	硬	---
	2	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	4	2-8	砂	硬	---
	3	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-8	砂	硬	---
	4	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-10	砂	硬	---
	5	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-8	砂	硬	---
	6	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	20	2-20	砂	硬	---
	7	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	3	2-20	砂	硬	---
	8	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	3	2	砂	硬	---
	9	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	20	20-20	砂	硬	---

# ATP-17

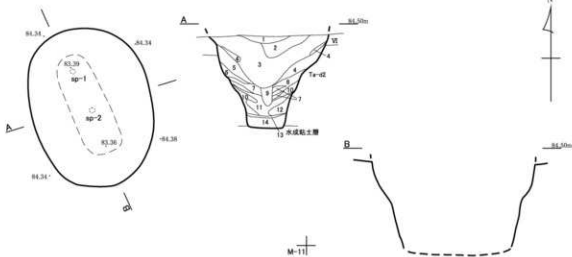


遺構名	新調査番号	調査名	調査種別	野村立性	砂・粘土・シルト(基礎2m未満)				硬・高砂(2m以上)					
					色調	粘性	層厚	層位	層位	層厚	層位	層厚		
													色名	サンピルム
ATP-17	1	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-8	砂	硬	---
	2	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	3	2-20	砂	硬	---
	3	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-10	砂	硬	---
	4	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-10	砂	硬	---
	5	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-8	砂	硬	---
	6	砂層	砂	硬上	黄褐色	100%	0	砂	50-60cm	10	2-10	砂	硬	---
	7	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	3	2-2	砂	硬	---
	8	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	3	2	砂	硬	---
	9	砂層	砂	硬上	黄色	100%	0	砂	50-60cm	3	2	砂	硬	---



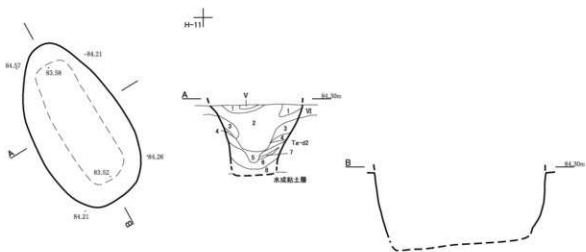
図43 ATP-16・ATP-17

ATP-18



遺構名	新法調査番号	層位名 土体層・遺存層	層別 層名 総分層	層別 土性	中・粘土・シルト(長径200未満)				砂・長径200以上				埋込の程度	埋入物	備考	
					色相	シルト含有率	粘着性	堅硬度	種類	量測割合(%)	程度	形状				
ATP-18	1	600層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.0	中	軟	2φ-6φミメダ	*	*	*	*			
	2	610層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	3	620層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	1-20	底行横	底行			
	4	630層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	5	640層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	10	1-10	底行横	底行			
	6	650層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	10	1-10	底行横	底行			
	7	660層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	1-20	底行横	底行			
	8	670層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	1-10	底行横	底行			
	9	680層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	1-20	底行横	底行			
	10	690層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	11	700層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	1-10	底行横	底行			
	12	710層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	13	720層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	14	730層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	少し正乱層	2φ-6φミメダ	5	0-10	底行横	底行			

ATP-19



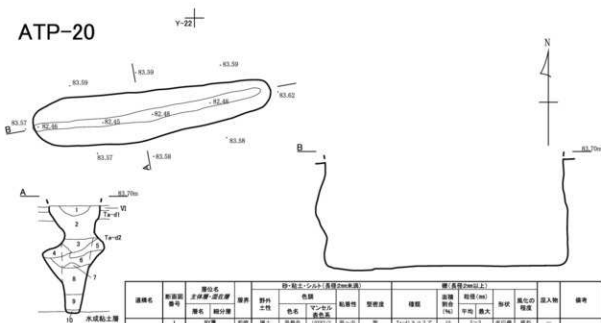
遺構名	新法調査番号	層位名 土体層・遺存層	層別 層名 総分層	層別 土性	中・粘土・シルト(長径200未満)				砂・長径200以上				埋込の程度	埋入物	備考	
					色相	シルト含有率	粘着性	堅硬度	種類	量測割合(%)	程度	形状				
ATP-19	1	600層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.0	中	軟	2φ-6φミメダ	*	*	*	*			
	2	610層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	1-20	底行横	底行			
	3	620層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	10	1-10	底行横	底行			
	4	630層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	5	640層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	10	1-10	底行横	底行			
	6	650層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	20	1-20	底行横	底行			
	7	660層	成土	砂礫土	褐色	1.000/0.5	中	軟	2φ-6φミメダ	10	1-10	底行横	底行			
	8	670層	成土	礫土	褐色	1.000/1.0	中	軟	2φ-6φミメダ	5	0-10	底行横	底行			



図44 ATP-18・ATP-19

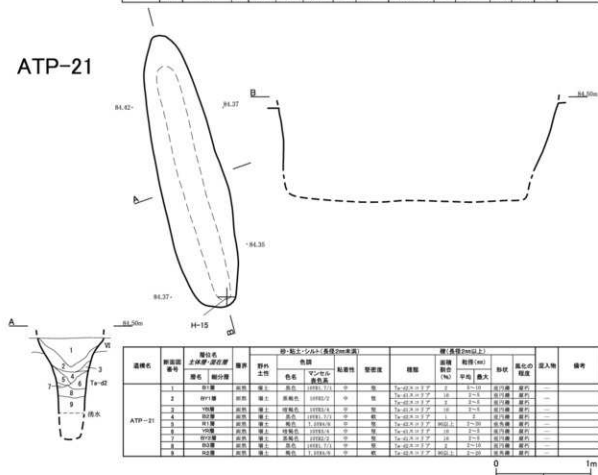


# ATP-20



調査年度	調査区画番号	標高名		標形	野外地質	砂・粘土・シルト(1) 長径(2m未満)			縦長径(2m以上)				備考		
		種名	細分種			色名	円率	粘着性	堅硬度	種類	調査回数 (%)			形状	腐化の程度
											平均	最大			
ATP-20	1	砂質	砂質	黄赤	10YR5/1	中	粘	5~21.0(0.0)	10	2~9	球状	良好	---		
	2	砂質	砂質	黄赤	10YR5/1	中	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	3	砂質	砂質	黄赤	10YR5/2	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	4	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	5	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	6	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	7	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	8	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	9	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	10	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		

# ATP-21



調査年度	調査区画番号	標高名		標形	野外地質	砂・粘土・シルト(1) 長径(2m未満)			縦長径(2m以上)				備考		
		種名	細分種			色名	円率	粘着性	堅硬度	種類	調査回数 (%)			形状	腐化の程度
											平均	最大			
ATP-21	1	砂質	砂質	黄赤	10YR5/1	中	粘	5~20.0(0.0)	1	1~10	球状	良好	---		
	2	砂質	砂質	黄赤	10YR5/1	中	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	3	砂質	砂質	黄赤	10YR5/2	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2~3	球状	良好	---		
	4	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2	球状	良好	---		
	5	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2	球状	良好	---		
	6	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2	球状	良好	---		
	7	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2	球状	良好	---		
	8	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2	球状	良好	---		
	9	砂質	砂質	黄赤	10YR5/3	弱	粘	5~42.0(0.0)	1	2	球状	良好	---		

図45 ATP-20・ATP-21

が水平に堆積する。

**壁・坑底面** 壁は広がって立ち上る。長軸の坑底面は概ね平坦である。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### ATP-18 (図44 図版15・19)

**位置** L-11区 **規模** 1.71×1.30 / 1.11×0.41 / 1.00m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で楕円形の黒色土がみられた。短軸方向で半載し平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。坑底面近くで地下水が流れる。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 覆土最上位はS d 2層で、断面図の両壁際には薄層が多数みられる。断面図番号9は杭穴等の存在を示唆するものかもしれない。

**壁・坑底面** 壁は坑底面近くでは垂直で、そこからは広く開口気味に立ち上がる。長軸の坑底面は概して平坦である。

**付属遺構** 杭穴を2か所 (s p - 1・2)、平面位置と確認面の径を確認できた。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### ATP-19 (図44 図版15・21)

**位置** H-11区 **規模** 1.82×1.01 / 1.40×0.49 / 0.83m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた、短軸方向で半載したところ、壁の立ち上がりや土層断面から、遺構と判断した。坑底面近くでは地下水が流れる。土層断面を記録後、完掘した。他のTピットに比べて浅い。

**覆土** 覆土最上位にはV層、その直下にはS d 2層がみられ、下位まで各覆土は遺構の中央へと低い堆積がみられる。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは曲線的に広がり、長軸の坑底面は南側へと傾斜する。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

#### ATP-20 (図45 図版17・20)

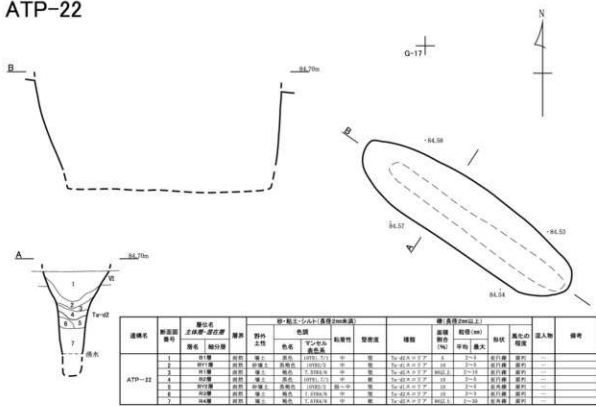
**位置** Y-21・22区 **規模** 2.54×0.81 / 2.44×0.13 / 1.14m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層上面で黒色土がみられた。半載したところ、みられた平坦な面と土層断面から、遺構と認定した。土層断面図の両壁は大きく崩落した部分があり、不整形な形状を呈する。

**覆土** 覆土上位は黒色土主体の層で、覆土下位の断面図番号6・8・9は、T a - d 2が主体または多く、これらは両壁の崩落土と考えられる。中位は崩落した部分と遺構内に堆積した層である。

# ATP-22



# ATP-23

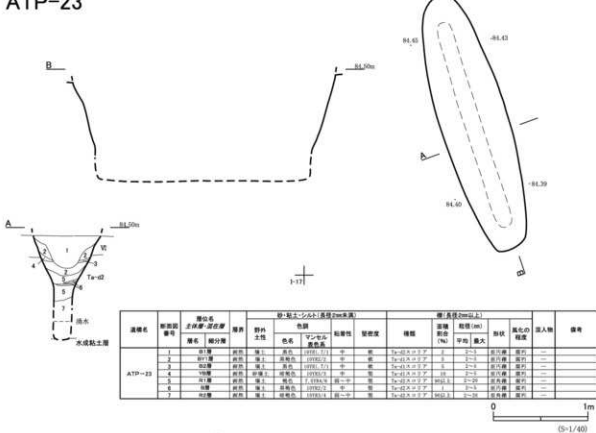


図46 ATP-22・ATP-23

**壁・坑底面** 壁は坑底面近くでは垂直気味で中位に崩落部分があり、上位もやや開口する。長軸方向の坑底面は西側がゆるやかにくぼみ、壁は一部オーバーハングがみられる。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(広田)

#### A T P-21 (図45 図版17・21)

**位置** G・H-14・15区 **規模** 2.96×0.71 / 2.55×0.29 / 1.06m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し壁の立ち上がりや土層断面から、遺構と判断した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 覆土最上位は黒色土が厚く、下位はT a - d 2主体の層である。後者は壁の自然層位もT a - d 2で、かつ地下水もあり明確に土層を確認できなかった。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは坑底面の近くは垂直で、確認面近くで曲線的に開く。長軸方向の坑底面はやや曲線的な凹凸がある。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### A T P-22 (図46 図版15・21)

**位置** G-16・17区 **規模** 2.61×0.73 / 2.23×0.25 / 1.18m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、壁の立ち上がりや土層断面から遺構と判断した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 覆土上位は黒色土、T a - d 2主体の層(断面図番号3・7)は中下位にみられる。

**壁・坑底面** 壁は垂直に立ち上がり中位付近でゆるやかに開口する。長軸方向の坑底面は若干凹凸がある。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### A T P-23 (図46 図版18・21)

**位置** H-16区 **規模** 2.79×0.73 / 2.26×0.21 / 1.13m

**平面形態** 溝状／溝状

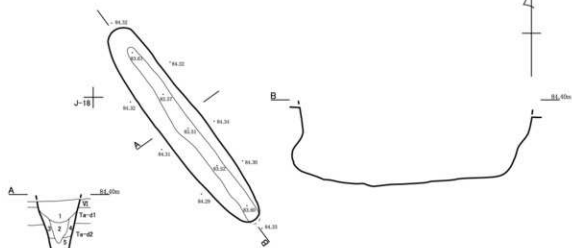
**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。南側部分を掘り下げ、壁の立ち上がりや土層断面を確認し、遺構と判断した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 覆土上位は黒色土、下位はT a - d 2主体である。

**壁・坑底面** 壁は垂直に立ち上がり中位でやや広がり、長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

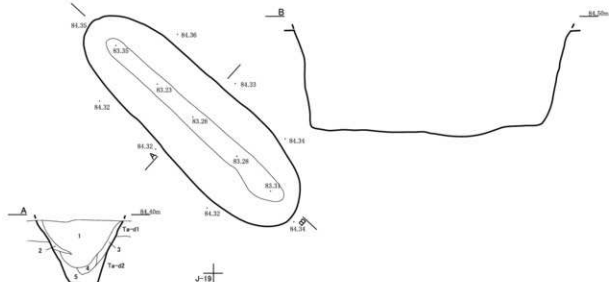
**付属遺構** なし。

# ATP-24



遺構名	発見順 番号	遺構名 (土体層・遺存層)	階層	野付 土質	色図			粘着性	塑性度	種類	遺積 割合 (%)		形状 縦横	高さの 程度	遺人物	備考
					色図		種類				平均	最大				
					色名	マンセル 値色名										
ATP-24	1	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	2	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	3	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	4	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	5	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	6	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	7	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	8	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	9	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—

# ATP-25



遺構名	発見順 番号	遺構名 (土体層・遺存層)	階層	野付 土質	色図			粘着性	塑性度	種類	遺積 割合 (%)		形状 縦横	高さの 程度	遺人物	備考
					色図		種類				平均	最大				
					色名	マンセル 値色名										
ATP-25	1	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	2	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	3	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	マンセル値	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	4	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	5	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	6	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	7	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	無	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	8	砂層	砂層	砂層上	赤褐色	10YR5/3	砂	マンセル値	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—
	9	砂層	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂	マンセル値	無	砂	10	1-2	長円形	埋約	—	—

図47 ATP-24・ATP-25

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

**A T P-24** (図47 図版18・21)

**位置** I・J-17区 **規模** 2.49×0.46 / 2.30×0.21 / 0.82m

**平面形態** 溝状/溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で細長い黒色土がみられ、南側部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。その後、土層断面を記録し、完掘した。

**覆土** T a - d 2主体の層は中位の断面図番号5・7である。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは直線的に広がり、長軸方向の坑底面は凹凸が顕著で、南側はオーバーハングする。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**A T P-25** (図47 図版15・21)

**位置** I-18・19区 **規模** 2.93×0.98 / 2.49×0.30 / 1.07m

**平面形態** 溝状/溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認した。それから土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 覆土上位は広く厚く黒色土が堆積し、各覆土は遺構の中央へと傾斜する。下位は水平な堆積が認められる。

**壁・坑底面** 壁は直立し、中位から大きく広がる。長軸方向の坑底面は凹凸がみられ、北側部分が高い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**A T P-26** (図48 図版16・21)

**位置** W-20区 **規模** 1.44×0.88 / 0.90×0.36 / 0.96m

**平面形態** 楕円形/長楕円形

**確認・調査** 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。その後、土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 覆土上位と最下層は黒色土主体の覆土で、中下位にT a - d 主体の覆土がみられる。

**壁・坑底面** 壁はゆるやかに広がり立ち上がる。長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

**付属遺構** 杭穴 (s p - 1) を、遺構の長軸上で1か所確認した。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

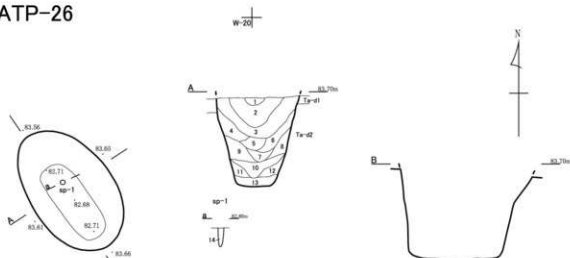
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(広田)

**A T P-27** (図48 図版16・22)

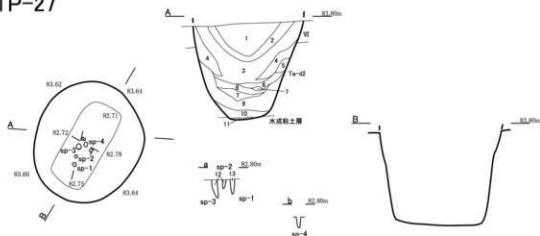
**位置** W-21区 **規模** 1.28×1.12 / 0.95×0.43 / 1.01m

# ATP-26



測点名	調査年度	層位名 土壌層・遊存層 層名 層分層	場所	砂・粘土・シルト(長径200mm未満)				礫(長径200mm以上)				試料 採取 深度	試入層	備考	
				野内 土性	色相 色名	含水率 質量%	粘着性	層構造	層数	割合 (%)	粒径 平均 最大				
ATP-26	1	砂層	砂層	砂層	無色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	2	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	3	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	4	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	5	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	6	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	7	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	8	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	9	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	10	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	11	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	12	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好	-
	ATP-26 sp-1	14	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-3	砂質層	良好

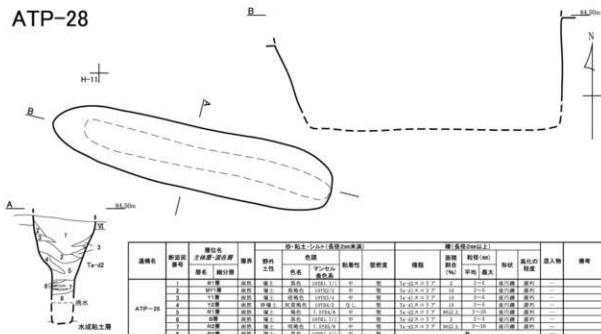
# ATP-27



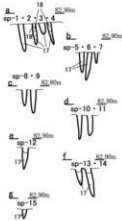
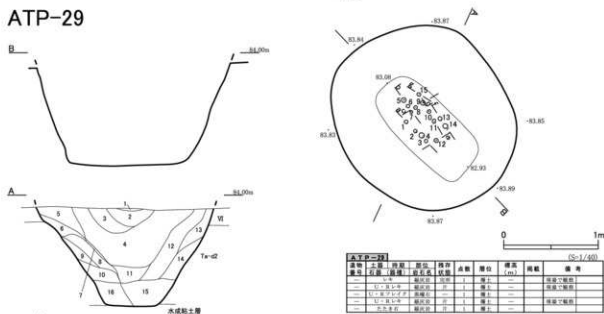
測点名	調査年度	層位名 土壌層・遊存層 層名 層分層	場所	砂・粘土・シルト(長径200mm未満)				礫(長径200mm以上)				試料 採取 深度	試入層	備考	
				野内 土性	色相 色名	含水率 質量%	粘着性	層構造	層数	割合 (%)	粒径 平均 最大				
ATP-27	1	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	2	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	3	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	4	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	5	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	6	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	7	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	8	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	9	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	10	砂層	砂層	砂層	褐色	1.0000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
	11	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-10	砂質層	良好	-
ATP-27 sp-1-4	13	砂層	砂層	砂層	褐色	1000.0	0	無	1	100.0	0	2-6	砂質層	良好	-

図48 ATP-26・ATP-27

### ATP-28



### ATP-29

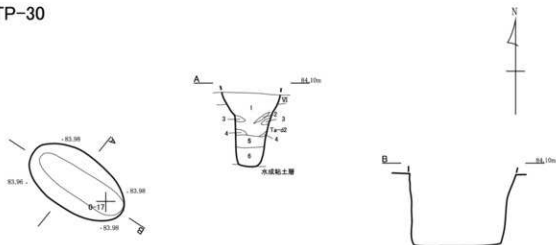


遺構名	断面図番号	層位名 主構造・源成層	層別	野内土性	母・粘土(シルト)(長径2m未満)		粘着性	塑性指数	種類	縦(長径2m以上)		形状	残土の程度	記入者	備考
					色調	質感				距離	幅				
ATP-29	1	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	T-1-a
	2	砂層	砂状	硬土	灰色	JPT91.1	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	3	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	4	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	5	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	6	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	7	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	8	砂層	砂状	硬土	灰色	JPT91.1	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	9	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	10	砂層	砂状	硬土	灰色	JPT91.1	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	11	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	12	砂層	砂状	硬土	灰色	JPT91.1	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	13	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	14	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---
	15	砂層	砂状	硬土	黒褐色	JPT92.2	中	低	3x40x200Z	3	2~3	縦溝	良好	---	---

図49 ATP-28・ATP-29

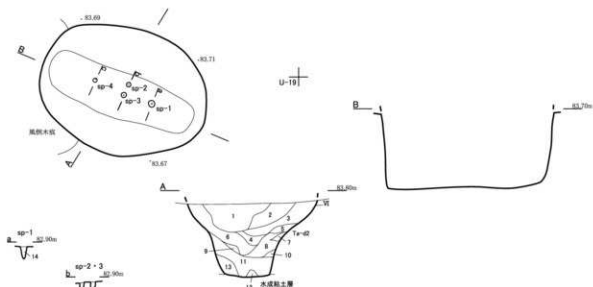


# ATP-30



通機名	新設機 番号	機台名		機材	機材 仕様	機・軸センター上(長さ2m未満)				機・長さ2m以上				備考	
		正式名	縮小係			色紙		粘着性	塗膜厚	種類	塗膜 割合(%)	乾燥 時間(h)	形状		高さの 程度
						色名	マンセル 値								
ATP-30	1	001機	赤色	機上	色紙	11931.7	0	無	50-82.5×3.0	10	2~10	流し機	塗り	---	
	2	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	3	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	4	001機	赤色	機上	色紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	5	001機	赤色	機上	色紙	11931.7	0	無	50-82.5×3.0	10	2~4	流し機	塗り	---	
	6	001機	赤色	機上	色紙	11931.4	0	無	50-82.5×3.0	10	2~20	流し機	塗り	---	

# ATP-31



通機名	新設機 番号	機台名		機材	機材 仕様	機・軸センター上(長さ2m未満)				機・長さ2m以上				備考	
		正式名	縮小係			色紙		粘着性	塗膜厚	種類	塗膜 割合(%)	乾燥 時間(h)	形状		高さの 程度
						色名	マンセル 値								
ATP-31	1	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~10	流し機	塗り	---	
	2	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.4	0	無	50-82.5×3.0	10	2~18	流し機	塗り	---	
	3	001機	赤色	機上	色紙	11931.7	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	4	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.4	0	無	50-82.5×3.0	10	2~18	流し機	塗り	---	
	5	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~20	流し機	塗り	---	
	6	001機	赤色	機上	色紙	11931.7	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	7	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	8	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	9	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	10	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~10	流し機	塗り	---	
	11	001機	赤色	機上	色紙	11931.7	0	無	50-82.5×3.0	10	2~18	流し機	塗り	---	
	12	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	13	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	2~8	流し機	塗り	---	
	ATP-31 00-1-0	14	001機	赤色	機上	粘着紙	11931.3	0	無	50-82.5×3.0	10	1~3	流し機	塗り	---

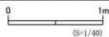


図50 ATP-30・ATP-31

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 上位には黒色土主体の層が厚く広く堆積し、T a - dが多く混じる層（断面図番号4）が両壁際にみられる。

**壁・坑底面** 壁は坑底面の近くで広がり気味に立ち上がる。長軸方向の坑底面は中央から北東側がやや低い。

**付属遺構** 遺構の中央から南側部分で、杭穴を4か所（s p - 1 ~ 4）確認した。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**A T P - 28** (図49 図版18・21)

**位置** H-10・11区 **規模** 3.03×0.73 / 2.68×0.33 / 1.21m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。西側部分を掘り下げ、壁の立ち上がりや土層断面を確認したので、遺構と認定した。遺構の下位部分の約1/3を地下水が流れる。土層断面を記録後完掘した。

**覆土** 覆土上位は黒色土主体、中下位はT a - d 2主体の覆土で、断面図番号6・7はT a - d層中に薄い黒色土層がみられる。

**壁・坑底面** 壁は垂直に立ち上がり中位で若干広がり、長軸方向の坑底面は概ね平坦である。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**A T P - 29** (図49 図版16・22)

**位置** W-13・14区 **規模** 2.04×1.81 / 1.26×0.58 / 1.09m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。北西側部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘し、付属遺構を調査した。

**覆土** T a - d層を多く含む層は、断面図番号9・13・14が両壁際で、同15・16の覆土最下層は色調で分けられる。遺構の中央、上位から中位付近は黒色土主体の覆土が堆積する。

**壁・坑底面** 壁はいずれもゆるやかに広く立ち上がり、長軸方向の坑底面は中央がやや低い。

**付属遺構** 杭穴（s p - 1 ~ 15）が多数確認できた。遺構の南東側部分にはみられない。

**遺物出土状況** 覆土から、U・Rフレイク、たたき石、U・Rレキ、レキが出土した。

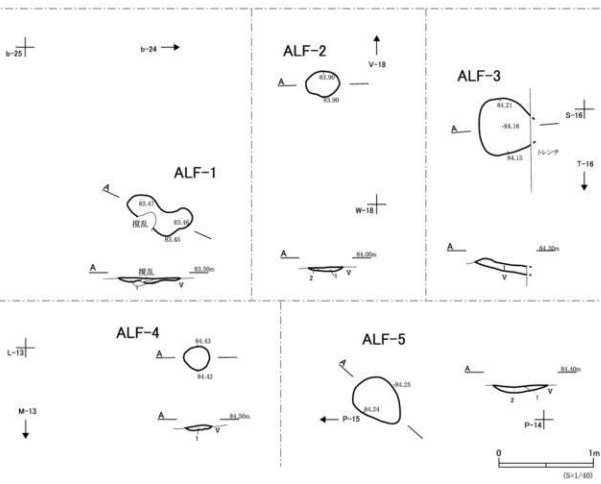
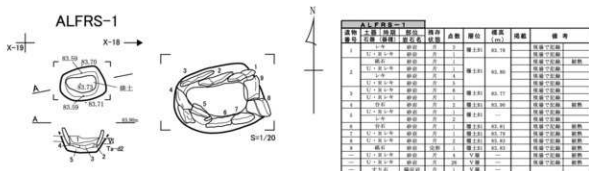
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

**A T P - 30** (図50 図版16・22)

**位置** N・O-16・17区 **規模** 1.15×0.61 / 1.03×0.28 / 0.77m

**平面形態** 楕円形／長楕円形～溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、



遺構名	新調査番号	層位名		発祥	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				備考	
		土層	層別層		野外土性	色	マンセル値色	粘性	堅密度	種類	割合(%)	形状		風化の程度
ALFRS-1	1	R層	R1層	自然	硬粘土	赤褐色	7.5YR5/6	中	堅	無	無	無	無	土
	2	R層	R1層	自然	硬土	褐色	10YR2/1	中	堅	無	無	無	無	V土層主体
	3	R層	R2層	自然	硬土	緑褐色	10YR2/3	中	堅	無	無	無	無	土層存在
	4	R層	R2層	自然	硬粘土	暗褐色	7.5YR5/6	中	堅	無	無	無	無	土
	5	R層	R2層	自然	硬土	赤褐色	10YR2/2	中	堅	無	無	無	無	V土層主体
ALFR-1	1	R層	R層	自然	硬土	赤褐色	5YR5/6	中	堅	無	無	無	無	土
ALF-2	1	R層	R1層	自然	硬粘土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	無	無	無	無	土
ALF-2	2	R層	R2層	自然	硬土	黒褐色	7.5YR4/4	中	堅	無	無	無	無	V土層存在
ALF-3	1	R層	R層	自然	硬土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	無	無	無	無	土
ALF-4	1	R層	R層	自然	硬粘土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	無	無	無	無	土
ALF-4	1	R層	R1層	自然	硬土	褐色	7.5YR4/4	中	堅	無	無	無	無	土
ALF-5	2	R層	R2層	自然	硬土	暗褐色	7.5YR3/4	中	堅	無	無	無	無	V土層存在

図51 ALFRS・ALF

平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。小型である。

**覆土** 上位には黒色土主体の層、覆土最下層にT a - d主体の層がみられ、一般的なTピットの堆積が認められる。

**壁・坑底面** 壁は坑底面の近くで直立気味で上位でやや広がる。長軸方向の坑底面は南東側が若干低い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

#### A T P - 31 (図50 図版16・22)

**位置** T・U-19区 **規模** 1.83×1.38 / 1.62×0.50 / 0.81m

**平面形態** 楕円形/長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。南東部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。土層断面を記録した後、完掘し、付属遺構を調査した。西側部分は風倒木痕を切っている。

**覆土** T a - d層を多く含む層(断面図番号：2・5・10)や、褐色を呈する覆土(同：7・10・12)は局所的で多くみられず、多くは黒色土主体である。

**壁・坑底面** 壁はゆるやかに広く立ち上がり、長軸方向の坑底面は曲線的で中央がやや高い。

**付属遺構** 杭穴(s p e - 1 - 4)を確認した。遺構の長軸を想定すると、規則的に位置していると解される。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

(愛場)

## 4. 石組炉

#### A L F R S - 1 (図51 表34 図版22)

**位置** X-18区

**規模** 掘り方 0.49×0.35 / 0.35×0.25 / 0.17m 石組 0.49×0.30 / 0.19m

**平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で複数の石が長方形～楕円形にままとまっているのがみられた。トレンチを設けて掘り進めたところ、焼土、坑底面、壁の立ち上がりも確認したので、石組炉と判断した。浅い土坑(掘り方)を構築し、この内部に石を配して炉として使用されたと考えられる。用いられている石は砂岩の扁平な礫で、北側部分(1～3)は互い違いに礫を配置しており、被熱しているものもある。

**土層** 石組内では、最上位に明褐色の焼土が厚くみられ、薄い黒色土を挟み、さらに下位にも焼土が一部みられる。両壁から最下層はT a - d 2混じりの黒褐色土で、石組はこれの内側または上位に配置されている。石組炉の調査完了後、周囲の包含層調査では、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できなかった。

**壁・坑底面** 坑底面は中央付近が低く、壁は直線的に開き気味で立ち上がる。

**遺物出土状況** 石組に用いられている礫は、すり石、砥石、台石、U・Rレキがあり、石器として使

用された後、石組に転用されたと考えられる。

**時期** 石組炉は縄文時代中期後半～後期初頭に特徴な遺構である。また、放射性炭素年代測定の結果（IK3-10）では、縄文時代後期初頭と考えられる（付篇参照）。

（愛場）

## 5. 焼土（図51 表35）

### ALF-1

位置 b-24区 規模 0.71×0.36 / 0.06m 平面形態 不整形

### ALF-2

位置 V-18区 規模 0.36×0.21 / 0.05m 平面形態 楕円形

### ALF-3

位置 R・S-16区 規模 0.62×0.60 / 0.09m 平面形態 円形

### ALF-4

位置 K・L-12区 規模 0.28×0.25 / 0.06m 平面形態 円形

### ALF-5

位置 O・P-14区 規模 0.57×0.43 / 0.08m 平面形態 楕円形

**確認・調査** ALF-1～5は、すべて包含層調査中にV層で確認した。ALF-1は不整形で、これ以外は円形か楕円形である。焼土の色調は褐色で、層厚は5～9cmである。焼土の調査完了後、周囲の包含層調査で、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できなかった。

**遺物出土状況** 焼土から遺物は出土していない。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

（末光）

## 6. 出土遺物

### （1）土器

**復原土器**（図52 表39～46 図版34・35）

1・2はⅢ群b類で、3～8はⅣ群a類である。

1は四つ的小突起をもつ波状口縁で、胴部へとゆるやかな曲線の器形である。胴部下半から底部にかけてLR縄文が横走している。2は胴部から底部へとすぼまる器形で、器面にLR縄文が施され、ナデ調整が行われている。3は口縁部から胴部下半までであり、LR・RL羽状縄文を施した後、貼付帯と円形刺突文を施している。4は口縁部から胴部上半まで内湾する器形で、地文はRL縄文が縦走している。5は地文がRLR縄文であり、一部縦位回転が施され、一對の補修孔がある。6は胴部下半から底部へややすぼまる器形であり、LR縄文が施される。7は胴部下半の地文がRLR縄文であり、底部の内面に指頭圧痕がみられる。8は地文にLR・RL羽状縄文が施された後、貼付帯が付される。

**破片土器**（図53～55 表47 図版37・38）

**遺構出土の土器**（図53 表47 図版37）

1～3はATP-5から出土したもので、すべてⅢ群b類と判断する。1・2は地文がLR縄文である。2は沈線文が施されている。3は地文がRL縄文である。

**包含層出土のⅢ群土器**（4～18）

4～11は口縁部である。

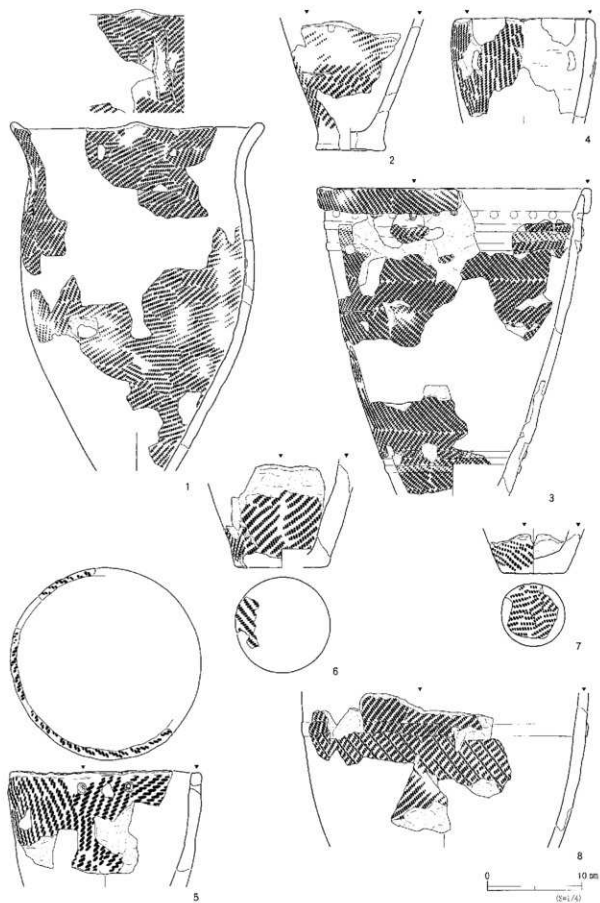


図52 A地区 V層 包含層出土の復原土器

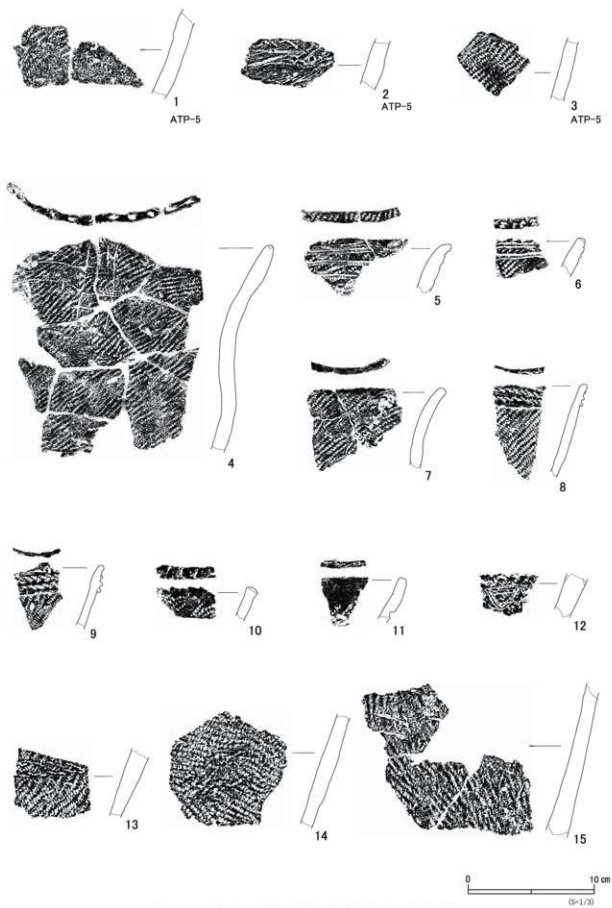


図53 A地区 V層 遺構・包含層出土の破片土器



図54 A地区 V層 包含層出土の破片土器(1)



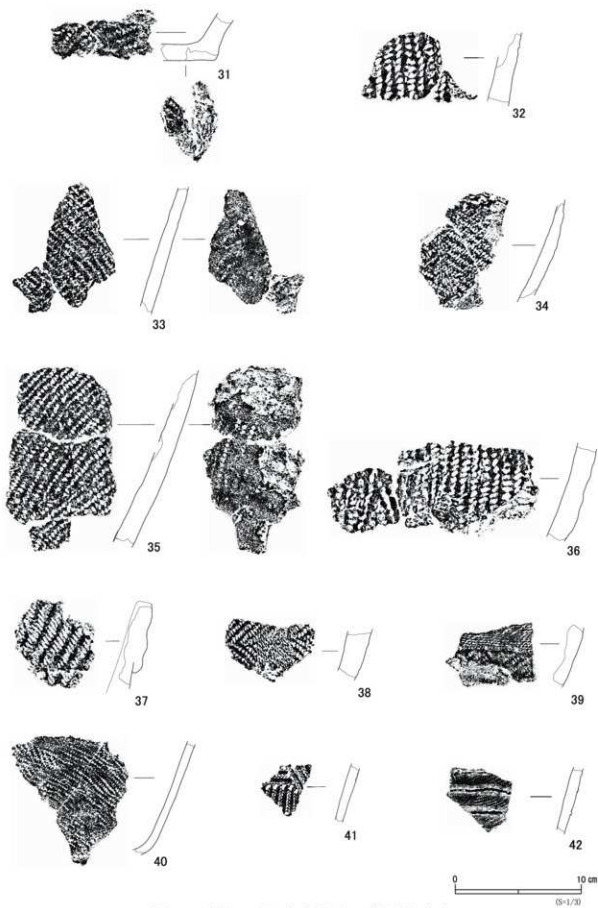


図55 A地区 V層 包含層出土の破片土器(2)

4は器面がL R縄文で口唇部に刺突文が施される。5は沈線文が複数みられる。6は平行沈線文がみられ、口唇部に刺突文が施される。7はR L原体の縦位回転施文である。8・9は貼付帯にL R縄文が施される。10は口唇部に爪形文が確認できる。11は口唇部と内面にナデ調整が行われている。

12～18は胴部である。

12は半截竹管状工具による刺突文と沈線文が施される。13は地文がL R縄文で綾絡文がみられる。14はR L縄文と綾絡文が確認される。15は1段Lの縦位回転施文である。また胎土に石英を多量に含む。16はL R原体の縦位回転施文部分がみられる。17は地文がL R縄文で、L R縄線文が施されている。18は貼付帯と器面にL R縄線文が複数施文される。

#### 包含層出土のM群土器 (19～39)

19～30は口縁部である。

19は口唇部がR L縄文で貼付部分はL R縄文が施される。20は外面が剥離し、口唇部はL R縄文が施されている。21は内面が剥離し外面に縄線文がみられる。22・23はL R縄文地に縄線文が施されている。24はL R原体が縦位回転施文され、円形刺突文が施されている。25はR L原体により外面と口唇部に施文される。26は地文がL R縄文で、口唇部には不整な縄文がみられる。27の口唇部は肥厚し、不整な刺突文がみられる。28は地文がL R縄文で、口唇部にも施文されている。29は焼りの異なる原体による羽状縄文が確認できる。30はL R縄文地に多軸絡条体の回転と考えられる施文がみられ、口唇部も同様である。

31は底部で、胴部と底部にL R縄文が施される。

32～39は胴部である。

32は胴部下位でR L縦走縄文が確認できる。33・34はR L縦位回転の羽状縄文がみられる。35は外面がL R縄文で内面は縦走縄文が施される。36は器壁が厚く、R L原体により縦走する縄文がみられる。37はL R縄文が施文された貼付帯をもち、内面は剥離している。38はL R・R Lの羽状縄文の間に多軸絡条体の回転による施文が確認できる。39は多軸絡条体の回転と考えられる地文に、L R縄文がみられる薄い貼付帯が施される。

#### 包含層出土のI・V群土器 (40～42)

40はV群で胴部下位から底部であり、R L縄文が確認される。41・42はI群b類である。41は横位や斜位の組紐圧痕文が施される。42は微隆起線文が巡り、その間にL R縄文が確認される。

## (2) 石器等

### 剥片石器 (図56～58 表48 図版42・43・46)

1～11は石鏃である。1は小型で基部が長い。2は背面に広い剥離面を残す。3は球果がみられ背面に広く剥離面がある。4は長身である。5は腹面に広い剥離面があり、背面は高まりを残す。6は腹面に広い剥離面がある。7・8は両面に広い剥離面が残る。9は薄く、背面右側縁が一部破損している。10は基部が若干内湾している。11は基部が内湾し、背面左側の基部が一部破損している。12～14は石槍・ナイフである。12は左右非対称である。13は薄く、先端部が少し破損している。14は大型で球果がみられる。15は石錐で、上端部が破損し先端は使用により磨滅している。16～20はつまみ付きナイフである。16は背面右側縁に原礫面が残る。17は背面右側つまみ部分が破損する。18は背面に一部原礫面を残す。19・20は背面に広く剥離が残り、腹面つまみ部分に加工がみられる。21～28はスクレイパーである。21は背面右側に刃部が確認できる。22は背面右側縁に刃部があり、下部が破損している。23は小球果がみられ、背面右側縁に刃部がある。24は背面に原礫面を残す。25は三角形

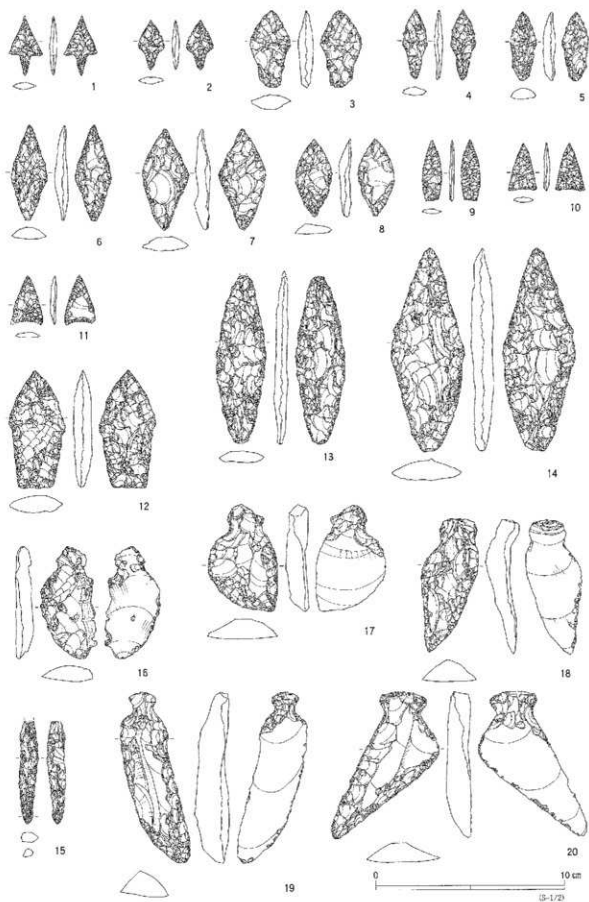


図56 A地区 V層 包含層出土の剥片石器(1)

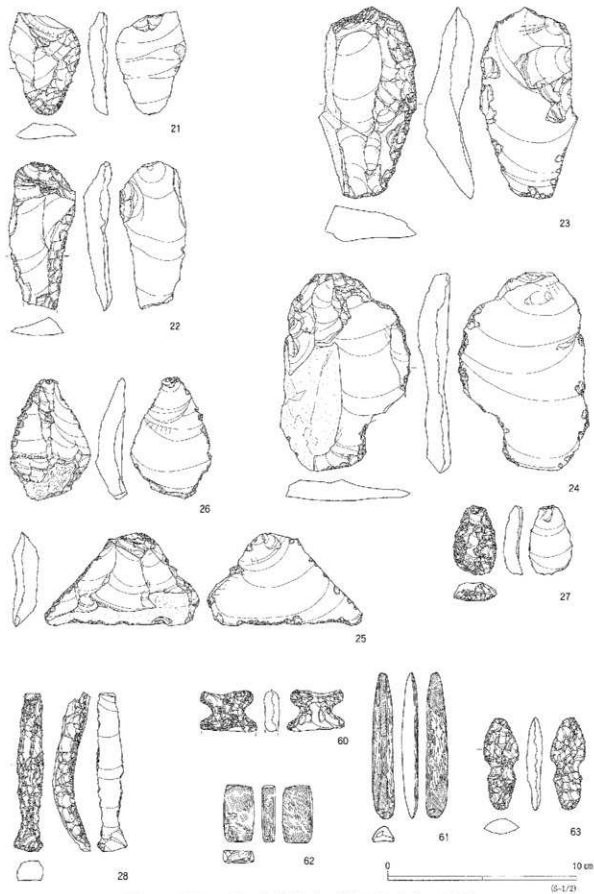


図57 A地区 V層 包含層出土の剥片石器(2)・石製品

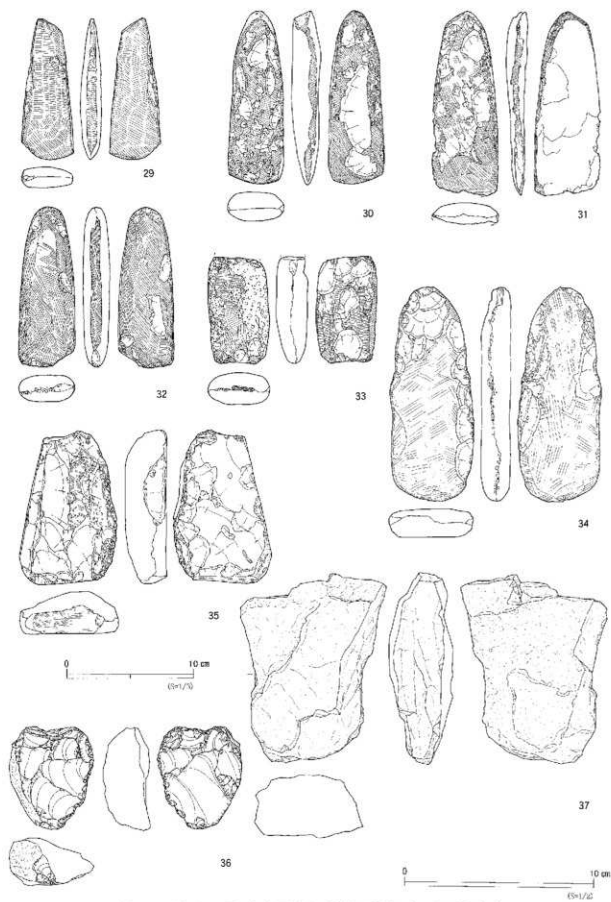


図58 A地区 V層 包含層出土の剥片石器(3)・礫石器(1)

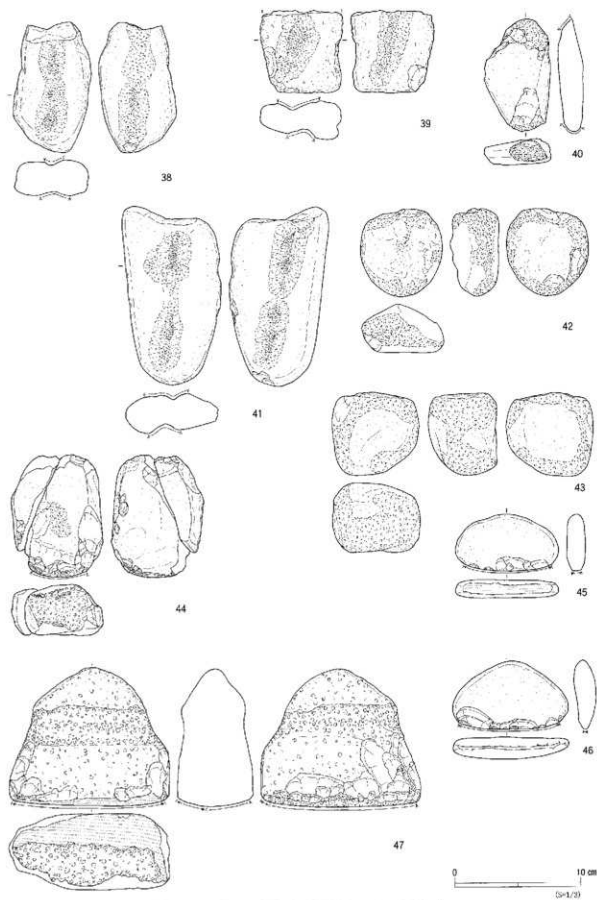


図59 A地区 V層 包含層出土の礫石器(2)

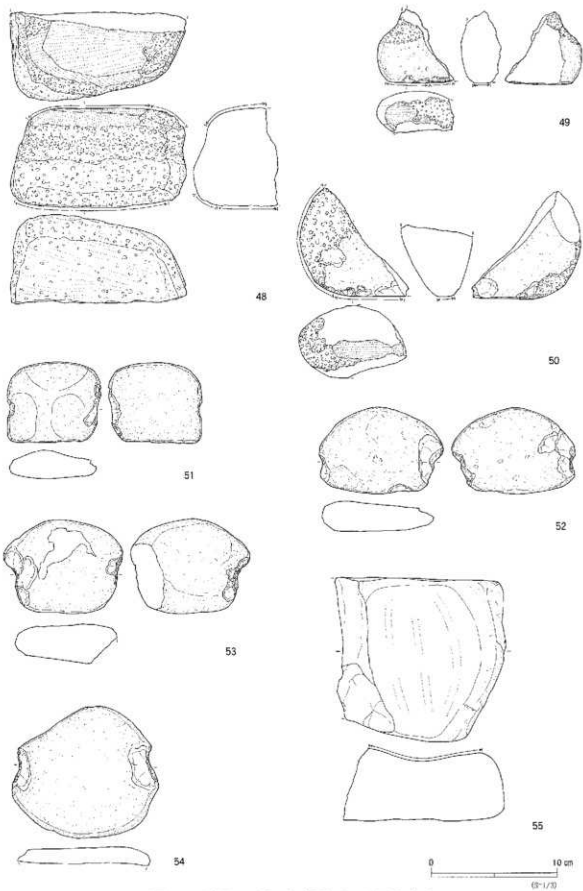


図60 A地区 V層 包含層出土の礫石器 (3)



図61 A地区 V層 包含層出土の礫石器(4)



を呈し、各辺に刃部がみられる。26は背面両側縁に刃部がある。27は背面が全面加工され、背面周縁に刃部が確認できる。28は側縁下部が内湾し、背面周縁に加工がみられる。36・37は黒曜石製、チャート製の石核で、原礫面と剥離面が残る。

#### 礫石器 (図58～61 表48 図版46・47)

29～35は磨製石斧である。29は上端部から刃部まで研磨痕がみられ、両側面に剥落痕がある。30は全体的に敲打痕があり、裏面中央に剥落痕がみられる。31は裏面全体が剥落する。32は上部が被熱により赤色化し、刃部が破損する。33は上部が破損し、敲打痕、剥落痕が顕著である。34は研磨痕、敲打痕があり刃部が加工されていない。35は厚みがあり、左側面に原礫面を残す。38～44はたたき石である。38・39は両面に凹状のたたき痕がみられる。40は上下端部にたたき痕があり、剥離している部分を確認できる。41は両面に凹状のたたき痕がある。42・43は全側面にたたき痕がみられる。44は下端部にたたき痕があり、全体的に摩耗している。45・46は凝灰岩製のすり石で、45は下端部にすり面があり、46は使用による剥離がみられる。47～50は北海道式石冠である。47は全面に敲打による加工が行われ、下端部にすり痕とたたき痕がみられる。48は上下面にすり面が確認できる。49・50は下部にすり面があり、側面に敲打による加工がされている。51～54は石錘である。51・52は左右両側に敲打によって加工がされている。53は裏面左側が破損している。54は裏面全体が破損している。56・57は砥石で表面全体的にすり痕がみられる。55・58・59は台石・石皿で、55は中央に凹状にくぼみすり面がみられる。58は凹状のすり面が確認できる。59は中央付近にたたき痕がみられる。

#### 石製品 (図57 表48 図版43)

60～63は石製品である。60は小球果がある黒曜石製で、両面・両側縁が加工され、つまみ付ナイフの基部だと考えられる。61は全体的に研磨された小型の磨製石斧である。62は橄欖岩製の玉で、長方形を呈し各面に研磨痕がみられる。63は黒曜石製で、中央両側縁にくびれがあり、両面加工がされている。

(奥山さとみ)

表31 A地区 V層 土坑一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面 形態	規模 (m)					付属 遺構	出土遺物			備考
					確認面		底面・坑底面		最大 深		土器	石器等	その他	
					長径	短径	長径	短径						
A L P-1	35	14	b・c- 19・20区	不整形 楕円形	1.90	1.43	1.82	1.57	0.20	—	—	—	一部 張り出す	

表32 A地区 V層 Tピット一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態		規模 (m)					付属 遺構	出土遺物			備考													
				確認面	坑底面	確認面		底面・坑底面		最大 深		土器	石器等	その他														
						長径	短径	長径	短径																			
A T P-1	35	14・18	Q- 15・16区	楕円形	長楕円形	2.08	1.40	1.50	0.44	0.93	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~6	IV群	U・Rレキ シキ	—	—										
A T P-2	36	14・18	P・Q -13区	楕円形	長楕円形	1.89	1.30	1.13	0.44	0.82	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~4									
A T P-3	36	14・18	P・Q -14区	楕円形	長楕円形	1.39	1.03	1.14	0.32	1.06	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~3									
A T P-4	37	14・18	K- 9・10区	楕円形	長楕円形	1.90	1.28	1.13	0.44	1.06	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1・2	地下水								
A T P-5	37	14・19	c・d- 19・20区	長楕円形	溝状	1.48	0.79	1.37	0.19	1.26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IV群								
A T P-6	38	14・19	N- 11・12区	楕円形	長楕円形	1.85	1.17	1.20	0.48	1.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1	地下水							
A T P-7	38	15・16・19	P・Q- 11・12区	楕円形	長楕円形	1.51	1.21	0.98	0.47	0.97	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~3								
A T P-8	39	15・19	Q・R -13区	楕円形	長楕円形	1.28	0.91	1.00	0.55	0.78	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1・2	IV群							
A T P-9	39	17・20	V・W -17区	溝状	溝状	2.78	0.56	2.48	0.22	1.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
A T P-10	41	17・20	U・V -19区	溝状	溝状	2.75	0.57	2.52	0.31	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
A T P-11	40	15・20	W-17区	楕円形	長楕円形	1.66	0.83	1.19	0.41	1.03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	たたま石 —	A T P-15と重複						
A T P-12	41	17・20	W- 11・12区	溝状	溝状	2.46	0.74	2.21	0.26	1.19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
A T P-13	42	17・20	V- 10・11区	溝状	溝状	3.49	0.79	2.89	0.21	1.38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	坑底に段あり						
A T P-14	42	17・20	T-12区	溝状	溝状	2.75	0.85	2.43	0.29	1.04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
A T P-15	40	17・20	W-16・17, X-17区	溝状	溝状	3.00	0.80	2.76	0.26	1.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IV群	U・Rレキ —	A T P-11と重複				
A T P-16	43	15・19	U-11区	楕円形	楕円形	1.61	1.02	1.11	0.68	0.66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土坑か?					
A T P-17	43	17・20	M- 11・12区	溝状	溝状	2.85	0.69	2.24	0.24	1.03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地下水					
A T P-18	44	15・19	L-11区	楕円形	長楕円形	1.71	1.30	1.11	0.41	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1・2	地下水				
A T P-19	44	15・21	H-11区	楕円形	長楕円形	1.82	1.01	1.40	0.49	0.83	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1	地下水			
A T P-20	45	17・20	Y- 21・22区	溝状	溝状	2.54	0.81	2.44	0.13	1.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~4			
A T P-21	45	17・21	G- 14・15区	溝状	溝状	2.96	0.71	2.55	0.29	1.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地下水			
A T P-22	46	15・21	G- 16・17区	溝状	溝状	2.61	0.73	2.23	0.25	1.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地下水			
A T P-23	46	18・21	H-16区	溝状	溝状	2.79	0.73	2.26	0.21	1.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地下水			
A T P-24	47	18・21	I・J -17区	溝状	溝状	2.49	0.66	2.30	0.21	0.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
A T P-25	47	15・21	I- 18・19区	溝状	溝状	2.93	0.96	2.49	0.30	1.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
A T P-26	48	15・21	W-20区	楕円形	長楕円形	1.44	0.88	0.90	0.36	0.96	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1	—		
A T P-27	48	16・22	W-21区	楕円形	長楕円形	1.28	1.12	0.95	0.43	1.01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~4	—		
A T P-28	49	18・21	H- 10・11区	溝状	溝状	3.03	0.73	2.68	0.33	1.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地下水		
A T P-29	49	16・22	W- 13・14区	楕円形	長楕円形	2.04	1.81	1.26	0.58	1.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~15	—	
A T P-30	50	16・22	N・O- 16・17区	楕円形	長楕円形 →溝状	1.15	0.61	1.03	0.28	0.77	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~4	—
A T P-31	50	16・22	T・U -19区	楕円形	長楕円形	1.83	1.38	1.62	0.50	0.81	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	柱穴・坑穴 s p-1~4	—

表33 A地区 V層 Tピット付属遺構一覧表

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態		規模 (m)			特徴	出土遺物	備考
					平面	断面	確認面	坑底面	最大深			
A T P - 1	s p - 1	柱穴・杭穴	35	—	円形	尖	0.03	—	0.21	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.02	—	0.19	斜め	—	—
	s p - 3				円形	尖	0.04	—	0.20	斜め	—	—
	s p - 4				円形	尖	0.03	—	0.08	—	—	—
	s p - 5				円形	尖	0.03	—	0.07	—	—	—
	s p - 6				円形	丸	0.04	—	0.08	—	—	—
A T P - 2	s p - 1	柱穴・杭穴	36	—	円形	尖	0.09	—	0.14	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.07	—	0.15	—	—	—
	s p - 3				円形	尖	0.09	—	0.14	—	—	—
	s p - 4				円形	尖	0.04	—	0.09	—	—	—
A T P - 3	s p - 1	柱穴・杭穴	36	—	円形	尖	0.04	—	0.13	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.06	—	0.22	—	—	—
	s p - 3				円形	尖	0.02	—	0.05	—	—	—
A T P - 4	s p - 1	柱穴・杭穴	37	—	円形	*	0.05	*	*	—	—	湧水のため 平面のみを確認
	s p - 2				円形	*	0.06	*	*	—	—	—
A T P - 6	s p - 1	柱穴・杭穴	38	—	円形	尖	0.05	—	0.07	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.05	—	0.10	—	—	—
A T P - 7	s p - 1	柱穴・杭穴	38	16	円形	尖	0.04	—	0.12	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.05	—	0.10	—	—	—
	s p - 3				円形	尖	0.05	—	0.12	—	—	—
A T P - 8	s p - 1	柱穴・杭穴	39	—	円形	丸	0.08	—	0.09	—	—	—
	s p - 2				円形	丸	0.10	—	0.06	—	—	—
A T P - 18	s p - 1	柱穴・杭穴	44	—	円形	*	0.05	*	*	—	—	湧水のため 平面のみを確認
	s p - 2				円形	*	0.05	*	*	—	—	—
A T P - 26	s p - 1	柱穴・杭穴	48	—	円形	尖	0.06	—	0.20	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.04	—	0.16	—	—	—
A T P - 27	s p - 1	柱穴・杭穴	48	—	円形	尖	0.04	—	0.10	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.06	—	0.19	—	—	—
	s p - 3				円形	尖	0.06	—	0.19	—	—	—
	s p - 4				楕円形	尖	0.05	—	0.11	—	—	—
A T P - 29	s p - 1	柱穴・杭穴	49	16	円形	丸	0.04	—	0.29	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.04	—	0.23	—	—	—
	s p - 3				円形	丸	0.06	0.02	0.12	—	—	—
	s p - 4				円形	尖	0.04	—	0.24	斜め	—	—
	s p - 5				円形	尖	0.05	—	0.21	—	—	—
	s p - 6				円形	尖	0.04	—	0.30	斜め	—	—
	s p - 7				円形	尖	0.03	—	0.11	—	—	—
	s p - 8				円形	尖	0.04	—	0.16	—	—	—
	s p - 9				円形	尖	0.05	—	0.25	—	—	—
	s p - 10				円形	尖	0.04	—	0.26	—	—	—
	s p - 11				楕円形	丸	0.04	—	0.22	—	—	—
	s p - 12				円形	尖	0.04	—	0.23	—	—	—
	s p - 13				円形	尖	0.04	—	0.17	—	—	—
	s p - 14				円形	尖	0.05	—	0.30	—	—	—
	s p - 15				円形	尖	0.04	—	0.20	—	—	—
A T P - 31	s p - 1	柱穴・杭穴	50	—	円形	尖	0.07	—	0.13	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.05	—	0.12	—	—	—
	s p - 3				円形	尖	0.06	—	0.12	—	—	—
	s p - 4				円形	尖	0.05	—	0.07	—	—	—

表34 A地区 V層 石組炉一覧表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	構造種別	平面形態	規模 (m)			焼土色調		主な出土遺物	付属遺構関連する遺構	備考	
							確認面	底面	最大深	色名	マンセル表色系				
A L F R S - 1	51	22	X-18区	V層 ～ T <sub>1</sub> -23層	石組 焼土	梅円形	確認面	0.49	0.30	0.19	—	—	すり石 砥石 台石・L・R・レキ レキ 炭石類	—	—
							底面	0.49	0.35	0.30	0.25	0.17			
							最大深	0.32	0.30	0.28	0.08	0.08			

表35 A地区 V層 焼土一覧表

遺構名	焼土種別	図	図版	グリッド	確認層位(被褥層)	平面形態	焼土色調		規模 (m)			主な出土遺物	関連する遺構	備考	
							色名	マンセル表色系	長さ	短径	最大厚				
A L F - 1	伊類	51	—	b-24区	V層	不規則	褐色	7.0YR	5 / 6	0.71	0.36	0.06	—	—	—
A L F - 2	伊類	51	—	V-18区	V層	梅円形	褐色	7.0YR	4 / 4	0.36	0.21	0.05	—	—	—
A L F - 3	伊類	51	—	R・S-10区	V層	円形	褐色	7.0YR	4 / 6	0.62	0.60	0.09	—	—	周囲の包含層から 礎石類・レキ
A L F - 4	伊類	51	—	K・L-12区	V層	円形	褐色	7.0YR	4 / 4	0.28	0.25	0.06	—	—	—
A L F - 5	伊類	51	—	O・P-14区	V層	梅円形	褐色	7.0YR	4 / 4	0.57	0.43	0.08	—	—	—

表36 A地区 V層 遺構出土土器点数表

遺構名 通称/層位 時期 部位 現存状態	ATP-1		ATP-5		ATP-8		ATP-15		合計	
	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2		
III 群	口縁部	片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
	底面	片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
	胴部	片	3	1	4	4	0	0	0	7
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	片	0	0	0	0	0	0	0	0
片		0	0	0	0	0	0	0	0	
片		0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	3	1	4	4	0	0	0	0	7	
IV 群	口縁部	片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
	底面	片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
	胴部	片	0	0	1	2	1	2	2	4
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
		片	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	片	0	0	0	0	0	0	0	0
片		0	0	0	0	0	0	0	0	
片		0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	2	2	2	2	4	
合計	3	1	4	4	2	2	2	2	11	

表37 A地区 V層 遺構出土剥片石器点数表

遺構名 器種名・分類 / 層位 器種 部位 現存状態 岩石	ATP-29		合計		
	遺土	合計			
石鏝	完形	0	0		
	準完形	0	0		
	半形	0	0		
石鏝・ナイフ	完形	0	0		
	準完形	0	0		
	半形	0	0		
石鏝	完形	0	0		
	準完形	0	0		
	半形	0	0		
つまみ付き ナイフ	完形	0	0		
	準完形	0	0		
	半形	0	0		
スクレイパー	完形	0	0		
	準完形	0	0		
	半形	0	0		
U-Rフレイク	黒曜石	1	1	1	1
石核					
フレイク					
原石					
合計		1	1	1	1

表38 A地区 V層 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺構名 層位 部位 現存状態 岩石	ALP-1		ALFRS-1		ATP-1		ATP-2		ATP-5		ATP-6		ATP-11		ATP-15		ATP-26		ATP-29		合計	
	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2	合計	遺土 目1	目2		
磨削石片	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
丸石	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Y石	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北海道式 石鏝	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
扁平 打製石鏝	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石鏝	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫石	片	2	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
砂石 石鏝	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
石製品	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・使用済 のあるレキ	片	1	14	15	3	1	5	1	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	1	30	31	47	1	5	2	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レキ	片	4	4	8	9	9	2	1	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	56	61	7	10	11	8	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	62	69	7	10	11	8	1	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表39 N-17区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	1	34	N-17区	V層	—	87	36.6	27.8	—	2,970	口縁～胴部下位	燗鉢	器群A類
接合破片総点数		87	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				—						
胎土 (泥和材)		繊維	中量	粒径	細粒	種類	赤石・黒物 土に混入	量	少量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナブナ 七ツギナ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	底径口縁 面つゝの突起	口唇部 (40%)		—					
	L.R織文		(褐色)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (40%)							ナブナ
	L.R織文		(褐色)	黒色化 炭化物付着	—	胴部 (50%)		ナブナ	にぶい・黄褐色 (5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—		
	L.R織文		にぶい・褐色 (7.5YR5/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (90%)		ナブナ (ナブナ方向)	にぶい・黄褐色 (5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—		
L.R 縞織文		赤赤褐色 (2.5YR5/8 褐色)	赤色化 (2.5YR5/8 褐色)	—	胴部下半 ～底部 (80～60%)		ナブナ (ナブナ方向)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			

表40 Y-16区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	2	34	Y-16区	V層	—	7	13.7	—	7.0	420	胴部中位～底径	燗鉢	器群A類
接合破片総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				—						
胎土 (泥和材)		繊維	多～中量	粒径	細粒	種類	黒物主体	量	少～中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	L.R織文 ナブナ		浅黄褐色 (5YR8/4)	黒色化ナブナ	—	胴部中位 ～底部 (30～40%)		ナブナ	にぶい・黄褐色 (5YR7/4)	炭化物付着	—		
内	ナブナ		浅黄褐色 (5YR8/4)	—	—	底面 (20%)		ナブナ	にぶい・黄褐色 (5YR7/4)	—	—	内	

表41 F-19区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	3	34	F-19区	V層	—	138	32.5	29.3	—	2,550	口縁～胴部下位	燗鉢	器群A類
接合破片総点数		138	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)				G-19区・V層(3)						
胎土 (泥和材)		繊維	無	粒径	粗粒	種類	赤石主体 (黒河砂状 黒色の混入)	量	中量	備考	—		
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	ナブナ		浅黄褐色 (5YR8/3)	黒色化	底径の 磨損面	口唇部 (80%)		—					
	點付帯 点刻斜交文 R.L織文・縞文帯		にぶい・黄褐色 (5YR7/3)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (80%)							ナブナ (調整帯)
	L.R-RL 斜交織文		にぶい・褐色 (7.5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (80～80%)		ナブナ	浅黄褐色 (5YR8/3)	黒色化	剥離 多い		
内	L.R-RL 斜交織文		浅黄褐色 (5YR8/3)	—	—	胴部下半 ～底部 (30～20%)		—	(褐色)	黒色化	剥離 多い	内	

表42 Z-17区出土復元土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	4	34	Z-17区	V層	—	6	(18.3)	(18.3)	—	310	口縁～ 胴部上位	陶鉢	IV群a型
接合破片 総点数			7	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Y-17区・V層(1)						
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	粗粒	種類	岩石主体 (母体砂)		量	多量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ナデ		黄褐色 (04YR7/3)	—	—	口唇部 (20%)							
	比 類土陶文		比色・黄褐色 (04YR7/3)	—	—	口縁部 (20%)	ナデ	黄褐色 (04YR6/2)	黒色化	—			
内	比 類土陶文		比色・黄褐色 (04YR7/3)	—	—	胴部上位 (10%)	ナデ	黄褐色 (04YR6/2)	黒色化	—	内		

表43 Y-21区出土復元土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	5	34	Y-21区	V層	—	6	(11.0)	(22.0)	—	910	口縁～ 胴部上位	陶鉢	IV群a型
接合破片 総点数			8	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	粗粒	種類	岩石・重砂 2.5mm以下 (母体砂)		量	多量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	比 類土陶文		淡黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	口唇部 (40%)							
	比 類土陶文 → 類土陶文		比色・黄褐色 (10YR6/3)	黄褐色 脱化物付着	補修孔 一対	口縁部 (40%)	ナデ 指痕付着	淡黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—			
内	比 類土陶文 → 類土陶文		淡黄褐色 (10YR6/3)	黒色化	—	胴部上位 (30%)	ナデ	淡黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	内		

表44 R-17区出土復元土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	6	35	R-17区	V層	—	5	(10.5)	—	(18.1)	660	胴部下位 ～底面	陶鉢	IV群a型
接合破片 総点数			3	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—						
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	粗粒	種類	岩石・重砂 2.5mm以下		量	多量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	比 類土陶文		比色・黄褐色 (7.5YR7/4)	赤色化 (2.5YR6/6 褐色)	—	胴部下位 ～底面 (20%)	ナデ	淡黄色 (2.5YR7/3)	黒色化	—			

表45 Y-16区出土復元土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
52	7	35	Y-16区	V層	—	1	(4.2)	—	(8.7)	180	底面	陶鉢	IV群a型
接合破片 総点数			2	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			X-1905・V層(1)						
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	中～粗粒	種類	家畜主体		量	多量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	比 類土陶文		比色・黄褐色 (04YR7/4)	—	—	胴部下位 ～底面 (20%)	ナデ	比色・黄褐色 (04YR6/3)	—	—			
内	比 類土陶文		(黄灰色)	黒色化	—	底面 (40%)	指痕付着	比色・黄褐色 (04YR6/3)	—	—	内		

表46 U-14区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
82	8	35	U-14区	V層	—	7	14.0	—	—	1,600	胴部中位	深鉢	B群A型
複合破片数			8		複合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			U-15・V層(3)					
胎土 (温和材)		種類	色	粒徑	粗粒	種類	量	中～多量	備考				
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	胎付巻 LR-RL 筋状織文		浅黄褐色 (D1978/4)	黒色化	—	—	胴部下半 ～底部 (25%)	十字	浅黄褐色 (D1978/3)	黒色化	—	—	

表47 A地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)
						小計	合計					
胎土 (温和材)		文様・調整			色調		使用の痕跡					
種類		粒徑	種類	外面	内面	(部位)	外面	内面	外面	内面	外面	内面
53	1	27	A T P-B	遺土 層(1層)	—	1	3	胴部	18.2	深鉢	B群B型	黒色化
少量		中粒	胎土主 (白色部)	丸瓦文	—	ナゾ	—	—	—	(黄褐色)	紅褐色 (T.598/4)	黒色化 炭化物付着
53	2	27	A T P-B	遺土 層(1層)	—	1	3	胴部	40.3	深鉢	B群B型	—
少～中量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	—	—	—	紅褐色 (D1977/2)	(黄褐色) 褐色 (D1978/4)	—
53	3	27	A T P-B	遺土 層(1層)	—	1	3	胴部	23.1	深鉢	B群B型	黒色化
中量		中粒	胎石主	丸瓦文	—	ナゾ	—	—	—	紅褐色 (D1977/4)	紅褐色 (D1977/2)	黒色化
53	4	27	a-206 b-206 c-206	V層 遺土層	—	1	10	胎部～ 胴部上段	325.6	深鉢	B群B型	黒色化
第一少量		中粒	胎石主	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主	浅黄褐色 (D1978/3)	紅褐色 (D1977/3)	黒色化	炭化物付着	—
53	5	27	a-24区	V層	—	2	2	口縁部	36.6	深鉢	B群B型	黒色化
少量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主	紅褐色 (D1975/3)	紅褐色 (D1975/3)	黒色化	炭色化	—
53	6	27	a-22区	V層	—	1	1	口縁部	12.6	深鉢	B群B型	—
中量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主	紅褐色 (D1976/3)	紅褐色 (D1976/3)	黒色化	炭化物付着	—
53	7	27	Y-22区	V層	—	3	3	口縁部	39.2	深鉢	B群B型	—
中～多量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文 胎石付着	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主	褐色 (D1978/4)	褐色 (T.598/8)	黒色化	—	—
53	8	27	B-13区	V層	—	1	1	口縁部	23.5	深鉢	B群B型	—
微量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主 丸瓦文	紅褐色 (D1978/4)	(黄褐色)	黒色化	炭色化 炭化物付着	—
53	9	27	T-14区	V層	—	1	1	口縁部	12.6	深鉢	B群B型	—
微量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主 丸瓦文	紅褐色 (D1976/4)	(黄褐色)	—	黒色化 炭化物付着	—
53	10	27	Z-206	V層	—	1	1	口縁部	16.4	深鉢	B群B型	黒色化
中～多量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主	紅褐色 (D1976/3)	紅褐色 (D1977/4)	紅褐色 (D1977/4)	炭化物付着?	—
53	11	27	X-22区	V層	—	1	1	口縁部	12.4	深鉢	B群B型	—
少量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	(口唇部) 胎石主	紅褐色 (D1973/3)	紅褐色 (D1976/4)	黒色化	—	—
53	12	27	X-14区	V層	—	1	1	胴部	33.7	深鉢	B群B型	—
少量		中粒	胎石主	丸瓦文	—	ナゾ	—	—	—	紅褐色 (D1976/4)	紅褐色 (D1976/4)	—
53	13	27	a-22区	V層	—	1	1	胴部	46.6	深鉢	B群B型	—
中量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文	—	ナゾ	—	—	—	褐色 (D1978/4)	丸瓦文 (D1978/4)	—
53	14	27	Z-14区	V層	—	1	1	胴部	102.0	深鉢	B群B型	—
中量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	丸瓦文 網目文	—	ナゾ	—	—	—	紅褐色 (D1975/4)	(黄褐色)	黒色化 炭化物付着?
53	15	27	Z-22区	V層	—	3	3	胴部	205.0	深鉢	B群B型	右翼多量
中量		中粒	胎石主	1段L 胎石付着	—	ナゾ	—	—	—	黄褐色 (D1973/3)	紅褐色 (D1976/4)	黒色化 炭化物付着
54	16	27	X-22区	V層	—	1	1	胴部	47.6	深鉢	B群B型	—
少量		中粒	胎石・磁物 主にもあり	網目文 丸瓦文付着	—	ナゾ	—	—	—	(黄褐色)	紅褐色 (D1976/4)	黒色化 炭化物付着

表47 A地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(2)

層	番号	遺構	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	種類	分類	備考 (土器型式)
						小野	合計					
始土(遺物群)												
編號	船名	種類	外周	内周	(部数)	外周	内周	色類	使用の破片			
54	17	37	U-13段	V層	—	1	脚底	31.4	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質 3.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(黒褐色) (黒褐色)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒褐色 灰土粉行草	—	
54	18	37	V-17段 U-13段	V層	—	3	脚底	103.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質 3.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	灰青褐色 (1997/3)	灰青褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	—	
54	19	37	U-10段	V層	—	1	口縁部	69.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	—	
54	20	37	W-19段	V層	—	1	口縁部	28.3	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	灰青褐色 (1997/3)	—	
54	21	37	W-19段	V層	—	2	口縁部	29.9	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	—	黒色紅	
54	22	37	H-15段	V層	—	3	口縁部	39.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	灰青+赤	—	
54	23	37	Z-22段	V層	—	1	口縁部	13.7	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	灰青褐色 (1997/3)	黒色紅	
54	24	37	b-11段	V層	—	2	口縁部	68.4	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅	—	
54	25	37	b-24段	V層	—	4	口縁部 脚底上段	211.2	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	
54	26	37	Q-15段	V層	—	2	口縁部	26.3	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	14.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	
54	27	37	a-20段	V層	—	1	口縁部	39.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	
54	28	37	P-17段	V層	—	4	口縁部	72.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	灰青褐色 (1997/3)	黒色紅	
54	29	38	a-15段	V層	—	1	口縁部	39.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	灰青褐色 (1997/3)	黒色紅	
54	30	38	V-21段	V層	—	1	口縁部	20.2	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(口縁部) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	
55	31	38	Y-21段	V層	—	3	底面	81.5	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	(底面) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	
55	32	38	Y-21段	V層	—	2	脚底上段	47.8	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅	—	
55	33	38	X-22段	V層	—	2	脚底	33.9	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	—	
55	34	38	X-22段	V層	—	2	脚底	58.2	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	(黒褐色)	黒色紅 灰土粉行草	—	
55	35	38	Y-21段	V層	—	3	脚底	212.4	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	(黒褐色)	黒色紅 灰土粉行草	—	
55	36	38	Y-21段	V層	—	3	脚底	217.4	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	黒色紅 灰土粉行草	—	
55	37	38	U-10段	V層	—	1	脚底	69.4	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(脚底) 赤土質	(黒褐色)	—	—	
55	38	38	W-17段 U-13段	V層	—	2	脚底	26.3	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	12.赤+黄褐色 (1997/3)	—	—	
55	39	38	Y-17段	V層	—	1	脚底	26.1	深鉢	灰青+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	(脚底) 赤土質	12.赤+黄褐色 (1997/3)	—	—	
55	40	38	a-20段	V層	—	3	脚底上段	26.7	深鉢	V層	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	灰青褐色 (1997/3)	黒色紅	—	
55	41	38	a-25段	V層	—	2	脚底	52.8	深鉢	1脚+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質	1.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	—	1脚+赤 灰土粉行草	—	
55	42	38	b-24段	V層	—	1	脚底	25.7	深鉢	1脚+赤	—	
なし	中絶	赤土・黒物 赤土に灰土	1.赤土質 2.赤土質	1.赤土質 2.赤土質	—	—	—	12.赤+黄褐色 (1997/3)	(黒褐色)	黒色紅 灰土粉行草	—	



表48 A地区 V層 包含層出土石器等観察表(1)

図号	調査年度	出土地点	層位	遺物番号	種類	計測値 (g, cm)			重量 (g)	石材	特徴	保存状態	特徴観察事項	備考
						長さ	幅	厚さ						
36	1	42	Q-6区	V層	—	石鏃	3.1	1.7	0.4	1.0	黒曜石	—	片断	—
36	2	42	Z-21区	V層	—	石鏃	2.6	1.4	0.4	0.9	黒曜石	—	片断	小型
36	3	42	W-15区	V層	—	石鏃	4.0	2.1	0.8	5.0	黒曜石	壊傷	片断	表面割傷
36	4	42	F-19区	V層	—	石鏃	3.6	1.2	0.5	1.4	黒曜石	赤色化	片断	—
36	5	42	X-21区	V層	—	石鏃	3.6	1.4	0.6	2.8	黒曜石	—	片断	表面割傷 背面磨らむ
36	6	42	a-17区	V層	—	石鏃	5.0	1.9	0.7	4.1	黒曜石	—	片断	表面割傷
36	7	42	Y-20区	V層	—	石鏃	5.3	2.4	0.8	7.4	黒曜石	—	片断	両面に割傷
36	8	42	X-22区	V層	—	石鏃	4.0	1.9	0.8	3.8	黒曜石	—	片断	表面割傷
36	9	42	G-14区	V層	—	石鏃	3.2	1.0	0.3	0.7	黒曜石	—	片断	背面右側上部破損 磨らむ
36	10	42	U-13区	V層	—	石鏃	2.5	1.0	0.3	0.7	黒曜石	—	片断	基部少し内傷
36	11	42	P-19区	V層	—	石鏃	2.5	1.6	0.3	1.0	黒曜石	—	片断	基部内傷 背面左側一部破損 磨らむ
36	12	42	K-12区	V層	—	石鏃・ナイフ	6.2	3.0	0.9	16.3	黒曜石	—	片断	両面に割傷
36	13	42	V-10区	V層	—	石鏃・ナイフ	8.9	2.6	0.7	13.7	黒曜石	—	片断	両面に少く破損 両面に割傷
36	14	42	V-10区	V層	—	石鏃・ナイフ	10.7	3.8	1.2	37.9	黒曜石	壊傷	片断	両面に少く破損
36	15	42	V-14区	V層	—	石鏃	10.4	1.0	0.5	13.0	黒曜石	—	片断	上部破損 先端磨損
36	16	42	T-14区	V層	—	つまみ付きナイフ	9.9	3.0	0.9	14.0	黒曜石	小破傷 磨損	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
36	17	42	J-19区	V層	—	つまみ付きナイフ	3.6	3.7	1.2	23.2	頁岩	黒褐色 磨損	片断	背面右側つまみ部分破損 磨らむつまみ部分加工
36	18	42	a-25区	V層	—	つまみ付きナイフ	7.1	3.0	1.3	18.5	頁岩	にぶい黒褐色 1079/3	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
36	19	42	X-14区	V層	—	つまみ付きナイフ	8.1	3.6	1.8	34.8	頁岩	灰黄褐色 1079/2	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
36	20	42	b-23区	V層	—	つまみ付きナイフ	7.7	3.7	1.3	33.5	頁岩	黒褐色 1079/1	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
37	21	42	c-24区	V層	—	ステインパー	3.4	3.8	1.3	15.8	チャート	黒灰色 1079/1-5	片断	背面右側加工
37	22	42	V-20区	V層	—	ステインパー	7.9	3.5	1.5	25.3	頁岩	灰黄色 1079/2	片断	背面右側加工 下部磨損
37	23	42	V-15区	V層	—	ステインパー	10.1	5.1	2.6	95.4	黒曜石	小破傷	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
37	24	43	Y-18区	V層	—	ステインパー	10.5	6.9	1.7	89.3	黒曜石	小破傷	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
37	25	43	Y-18区	V層	—	ステインパー	4.9	8.2	1.4	38.9	黒曜石	—	片断	背面右側上部 磨らむつまみ部分加工
37	26	43	Z-20区	V層	—	ステインパー	6.4	4.2	1.4	28.2	黒曜石	—	片断	背面右側上部
37	27	43	Z-17区	V層	—	ステインパー	3.6	2.2	1.0	7.3	黒曜石	—	片断	背面右側加工 背面全面加工
37	28	46	Y-18区	V層	—	ステインパー	8.4	1.6	1.2	15.1	黒曜石	—	片断	背面右側加工 背面内傷
38	29	46	a-23区	V層	—	磨製石斧	11.1	4.0	1.6	105.7	片岩	黄灰色 1067/1	片断	研磨面 割傷
38	30	46	O-14区	V層	—	磨製石斧	13.7	4.4	2.3	186.0	緑色頁岩	緑褐色 7.5074/1	片断	研磨面 磨打痕 磨製面 基部右側磨削
38	31	46	c-24区	V層	—	磨製石斧	14.5	5.1	1.7	127.4	緑色頁岩	橙オリーブ灰色 521/1	片断	研磨面 割傷 磨製面
38	32	46	V-20区	V層	—	磨製石斧	12.6	4.4	2.1	199.0	緑色頁岩	橙オリーブ灰色 2.5194/1	片断	研磨面 磨打痕 磨製面 上部磨損 基部赤色化
38	33	46	V-19区	V層	—	磨製石斧	8.4	4.8	2.5	164.0	緑色頁岩	緑灰色 1076/1	片断	研磨面 磨打痕 磨製面 上部磨損 基部なし
38	34	46	Z-23区	V層	—	磨製石斧	16.8	6.6	2.3	480	片岩	オリーブ灰色 2.5076/1	片断	研磨面 磨打痕 磨製面 基部なし
38	35	46	X-15区	V層	—	磨製石斧	12.1	7.7	3.3	430	緑色頁岩	緑灰色 7.5076/1	片断	研磨面 磨打痕 磨製面 基部なし
38	36	46	V-11区	V層	—	石鏃	3.4	4.5	2.5	52.0	黒曜石	—	片断	基部なし
38	37	46	c-23区	V層	—	石鏃	19.1	7.7	3.4	253.8	チャート	灰黄色 2.5178/2	片断	基部なし
39	38	46	b-21区	V層	—	たたき石	116.3	8.2	12.0	326.2	緑頁岩	暗灰色 2.5179/2	片	両面にたたき痕
39	39	46	Z-19区	V層	—	たたき石	16.5	6.5	12.0	165.0	緑岩	灰黄色 2.5178/1	片	両面にたたき痕
39	40	46	Z-21区	V層	—	たたき石	8.9	5.2	2.0	111.0	片岩	黄灰色 1067/1	片断	上部面にたたき痕 研磨面

表48 A地区 V層 包含層出土石器等観察表(2)

図録 図号	図名	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		製作 状態	特徴 観察事項	備考	
						長さ	幅	厚さ		岩石名	特徴				
59	41	46	Z-22区	V層	—	たたき石	14.2	7.9	3.2	390	礫岩	灰色 S14/1	片削	両面凹状のたたき板	
59	42	46	P-3区	V層	—	たたき石	6.9	6.5	3.8	267.1	片削	黄褐色 10B2/1	片削	全面にたたき板	
59	43	46	a-22区	V層	—	たたき石	6.5	6.9	5.3	450	片削	黄褐色 2B2/1	片削	全面にたたき板	
59	44	46	H-14区	V層	—	たたき石	9.6	7.3	4.9	390	片削	緑褐色 10B1/1	片削	下部凹みかき板 全体的に磨耗	
59	45	46	X-17区	V層	—	すり石	4.5	8.2	1.4	86.8	磨突	暗灰黄色 2.5B5/2	片削	下部凹みすり面 すりによる割傷?	
59	46	46	a-22区	V層	—	すり石	3.4	8.1	1.7	74.0	磨突	黄褐色 2.5B5/2	片削	下部凹みすり面 すりによる割傷?	
59	47	46	e-24区	V層	—	北海道式石冠	10.9	12.7	6.9	1150	砂岩	黄褐色 2.5B5/2	片削	全面磨打による加工 下部すり面・たたき板	
60	48	46	d-25区	V層	—	北海道式石冠	7.9	13.6	10.0	1000	砂岩	暗灰黄色 2.5B4/2	片削	上下すり面 全面磨打による加工	
60	49	46	Z-32区	V層	—	北海道式石冠	13.7	16.0	13.1	138.3	片削	暗オリーブ灰色 5G1/1	片削	下部すり面 全面磨打による加工	
60	50	46	W-22区	V層	—	北海道式石冠	18.5	18.5	13.7	348.0	片削	オリーブ灰色 5G1/1	片削	下部すり面 全面磨打による加工	
60	51	46	J-19区	V層	—	石鏃	8.3	7.8	2.2	142.6	礫岩	灰色 S11/1	片削	左右磨打による加工	
60	52	46	e-24区	V層	—	石鏃	6.9	9.8	2.4	186.3	礫岩	黄褐色 2.5B5/2	片削	左右磨打による加工	
60	53	46	b-14区	V層	—	石鏃	7.4	9.4	3.1	236.1	砂岩	暗灰黄色 2.5B5/2	片削	表面左側磨打	
60	54	47	X-18区	V層	—	石鏃	10.3	11.6	1.9	226.2	砂岩	灰オリーブ色 S15/2	片削	表面磨打 左右磨打による加工	
60	55	47	Y-23区	V層	—	台石・石蓋	(13.4)	(13.7)	(6.3)	1480	砂岩	灰オリーブ色 S15/2	片削	すり面	
61	56	47	T-17区	V層	—	礫石	(18.3)	(18.0)	(2.8)	1245	礫岩	灰オリーブ色 S14/2	片削	すり面 表面磨打	割傷
61	57	47	b-21区	V層	—	礫石	21.8	(14.2)	(4.2)	1710	砂岩	灰オリーブ色 S15/2	片削	すり面 左右磨打	
61	58	47	b-21区	V層	—	台石・石蓋	(18.7)	19.8	(4.3)	2120	砂岩	灰色 S14/1	片削	凹状のすり面 一部灰色化 上下磨打	
61	59	47	O-17区	V層	—	台石・石蓋	34.1	31.6	7.7	18000	砂岩	暗灰黄色 2.5B5/2	片削	中央付近にたたき板	
67	60	43	U-20区	V層	—	つまみ付きナイフ	(2.2)	3.9	(0.8)	4.7	黒曜石	小黒葉	片削	つまみの部分 磨打加工	石製品
57	61	43	Z-22区	V層	—	磨製石斧	11.3	1.7	1.2	32.3	片削	青灰色 10B2/1	片削	磨打 割傷	石製品
57	62	43	Y-21区	V層	—	瓦	3.0	1.4	0.7	6.4	燧石	青灰色 10B2/1	片削	表面磨打 磨打	石製品
67	63	43	S-8区	V層	—	石製品	4.9	1.8	0.8	5.8	黒曜石	—	片削	磨打加工 中央部磨打に欠け	石製品

## Ⅵ章 B地区 V層の遺構と出土遺物

### 1. 概要 (図62)

B地区のV層では、掘り上げ土 (BLM) 1か所、竪穴住居跡 (BLH) 4か所、土坑 (BLP) 3基、Tピット (BTP) 13基、石組炉 (BLFRS) 1か所、焼土 (BLF) 3か所、フレイク集中 (BLFC) 4か所を調査した。さらに、調査区のW-Xライン付近より南側部分では、礫石器が多数出土し「大規模な礫集中」と呼称した。

BLM-1は竪穴住居跡BLH-1に伴うと考えられる掘り上げ土である。BLH-1は北側部分のみが確認でき、平面や付属遺構のあり方から4軒が切り合っていると判断される。BLH-2は調査区南側に位置し、近接するBLP-3はこの住居跡の付属遺構である。BLH-3も先端部ピットをもち、BLH-4はⅢ群b類土器がまとも出土した。BLP-1は浅く、BLP-2は坑底の一部分が深い。Tピットは坑底面の形状から、溝状、長楕円形、楕円形に分けられ、数か所のまとまりが認められる。北側部分ではLライン付近にBTP-1・2・6・7が調査区中央の沢の形状に沿うように位置し、BTP-9・4・10・11・12は北東から南西方向に列をなす。BTP-13は単独で、BTP-3・8は大規模な礫集中との境界付近に位置する。石組炉BLFRS-1と焼土BLF-1は調査区の北西側に、BLF-3は調査区中央の沢近くに位置する。フレイク集中はBLFC-1が広範囲で、BLFC-3・4は北側の調査区際で確認された。大規模な礫集中は調査区の南側部分、その範囲は53個のグリッドにまたがり、面積は642.6㎡である。BLH-2 (BLP-3)・BLP-2・BTP-5・BLF-2・BLFC-2がこの範囲内に位置する。これらはすべて、縄文時代中期後半から後期初頭と考えられる。

### 2. 掘り上げ土

**BLM-1** (図63 表49 図版1)

**位置** L・O-28・29区 **規模** 9.15×(3.15)/0.16m **面積** 9.04㎡

**平面形態** 不整形

**確認・調査** 竪穴住居跡BLH-1・3の調査とその周辺の包含層調査中、V層上位で、T a-d スコリアと炭化物を含み、V層とは色調が異なる土層がみられた。T a-d スコリアが混入し、近くに住居跡があることから、掘り上げ土層と考えた。平面の広がり把握し、土層断面を記録した。

**土層** 九つに分層した。これらは比較することで区別できうる程度の差である。含まれるT a-d 1または2スコリアは、遺構構築時に下位の層から混入したもので、マンセル表色系での違いはないが、概して明るく黒色が弱い。また、一部含まれるT a-c と判断した微細な軽石は、上位層の形成時に混じったと判断する。

**関連する遺構** 付近にはBLH-1・3とBTP-12があり、斜面を考慮するとBLH-1の掘り上げ土であると判断される。

**遺物出土状況** 包含層調査のようにグリッドで掘り下げ、V層と区別して遺物を取り上げた。V層より遺物は少なく、IV群土器、U・Rフレイク、磨製石斧、たたき石、砥石、U・Rレキ等が出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器から縄文時代後期初頭である。

44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20

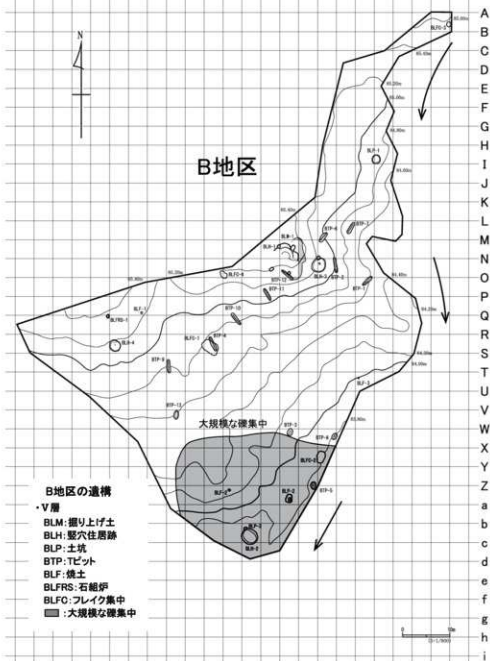
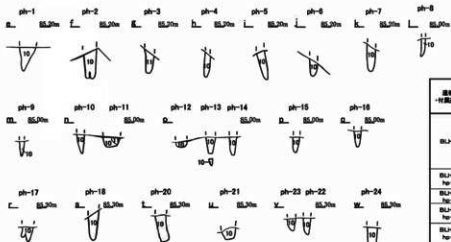
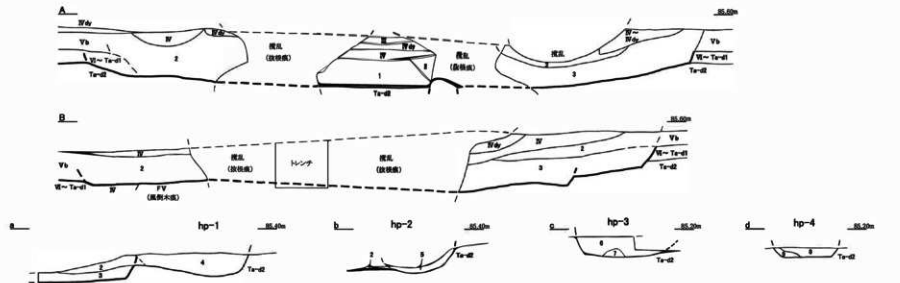


図62 B地区遺構位置図・V層上面地形測量図

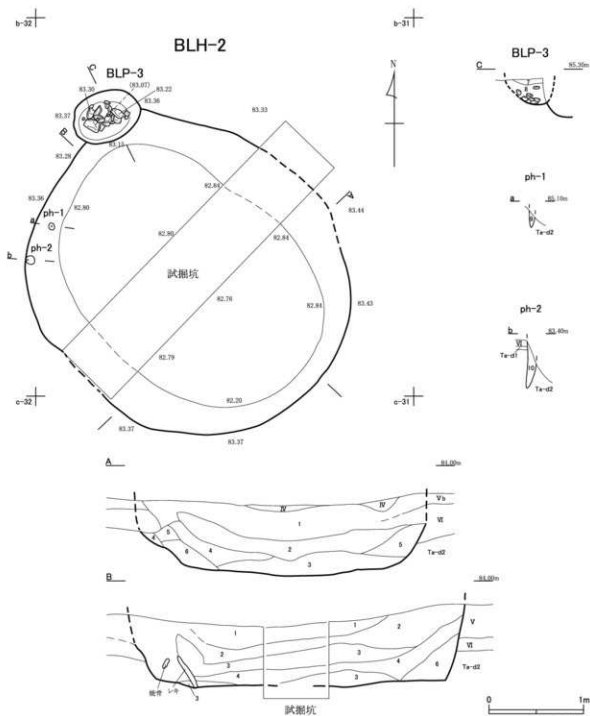






発掘色 - 採掘場所	調査 番号	調査 期	調査 方法	砂・粘土・シルト(直径2mm未満)				砂(直径2mm以上)				採取 層	備考	
				色	構造	粘着性	塑性	層	層厚 (cm)	層位	形状			採取 位置
砂														
一次堆積の砂質粘土、黄褐色のシルト質粘土、粘土質砂質粘土														
BLH-1	1	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
	2	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	10~15	5~8	底内層	底内層	黄褐色	---
	3	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
BLH-1	4	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	10~15	5~8	底内層	底内層	黄褐色	---
	5	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
BLH-1	6	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
	7	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
BLH-1	8	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	---	---	---	---	---	---	
	9	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
BLH-1	10	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	1~5	2~3	底内層	底内層	黄褐色	---
	11	砂	砂	黄褐色	1000/1	粘	粘	5~10cm	10~15	5~8	底内層	底内層	黄褐色	---

図65 BLH-1 (2)



遺構名・付属遺構名	断面図番号	遺構名		地層・土質				構造・形状				備考	
		遺構名	断面図番号	地層	土質	色	層厚	構造	形状	高さ	位置		備考
BLH-2 BLP-3	1	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	2	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	3	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	4	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	5	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	6	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
BLH-2 BLP-3	7	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	8	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
BLH-2 ph-1-2	9	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層
	10	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層

図66 BLH-2 (1)





### 3. 竪穴住居跡 (図64～69 表50・51 図版23～28)

**BLH-1** (図64・65 図版23・24)

**位置** M・N-29・30区 **規模** (6.17)×(6.72) / - / - m

**平面形態** 複数の楕円形

**BLH-1A 規模** 2.06×(1.82) / (2.02)×(1.78) / (0.60) m **平面形態** 楕円形?

**BLH-1B 規模** (2.46)×(2.42) / (1.34)×(1.24) / (0.47) m **平面形態** 楕円形?

**BLH-1C**

**規模** (3.24)×(1.10) / (3.18)×(1.04) / (0.62) m **平面形態** 円形～楕円形?

**BLH-1D 規模** (1.69)×(1.20) / (1.63)×(1.16) / (0.25) m **平面形態** 楕円形?

**確認・調査** V層の包含層調査中、くぼみにⅢ・Ⅳ層が堆積するのがみられた。竪穴住居跡の可能性を考え、東西(A)と南北(B)の両方向に先行トレンチ調査を行った。北側と東側では明瞭な壁の立ち上がりが確認できたが、南と西側では不明で若干の層界の段差を壁と推定した。その後、このトレンチから広げられるように、床面と予想したT a - d 2層上面まで掘り進めたが、N-30杭付近には複数の抜根痕の攪乱により、ここから西及び南側では認識できなかった。一方、北側では平坦な面や壁の立ち上がりが認められたので、遺構と認定した。北側部分では平坦面は段差があり複数面みられ、壁も連続しない複数の円弧が認められ、少なくとも4軒(末尾にA～D)が重複していると判断した。土層断面を記録してベルトを掘り下げ、遺物出土位置図を作成し完掘した。最後に付属遺構を調査した。

**覆土** 最上位のくぼみにはⅢ・Ⅳ層がみられ、遺構の覆土はすべて黒色土主体で、混在する礫で細分し、住居跡ごとの覆土の相違は確認できなかった。

**壁・床面** 壁は、残りの良い北側と東側で明瞭に立ち上がり、坑底面は東西方向では中央がゆるやかに低く、南北方向では曲線的な凹凸がある。

**付属遺構** 先端部ビットあるいは軸上の土坑4基(h p-1～4)と柱穴・杭穴24か所(p h-1～24)を調査した。平面からh p-1は北東側にありBLH-1C、h p-2は同Bに属すると考えられる。南側のh p-3・4は層属する住居跡を特定できない。h p-1・2は坑底面が曲線的にくぼみ、同3・4は概ね平坦である。柱穴・杭穴の覆土は黒色土主体で、斜めのものや先端部が二又のものみられる。重複を考慮するとどの住居跡に属するものか断定はできない。また、炉跡は抜根等で攪乱され確認できなかった。

**重複** BLH-1A・Bの床面は同Cに切られるので古く、CとDは床面での切り合い関係が確認できず不明である。また、BはDに切られていると判断される。すなわち、古いのがAまたはBで、新しいのがCとDである。

**関連する遺構** 遺構の東側の緩斜面にBLM-1があり、本住居跡の掘り上げ土と判断される。また、h p-4は平面がBTP-12と接する。

**遺物出土状況** 床面出土の遺物は、スクレイパー、フレイク、磨製石斧、石皿、U・Rレキ、レキがあり、土器は覆土からⅣ群が出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器から縄文時代後期初頭である。

**BLH-2・BLP-3** (図66・67 図版25・26)

**位置** b・c-31、b-32区 **規模** 3.52×3.14 / 3.09×2.19 / (0.76) m

## 平面形態 楕円形

## BLP-3 (BLH-2の先端部ビット)

位置 b-31区 規模 0.72×0.53 / 0.54×0.38 / 0.27m

## 平面形態 楕円形

**確認・調査** 人力による表土除去作業完了後、V層のくぼみとそこにIV層が堆積する状況がみられた。堅穴住居跡である可能性が考えられた。範囲確認調査の試掘坑があったのでこれを利用し、北東～南西方向に先行トレンチ(A)を設け掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが認められたので、遺構と判断した。これに直交する土層観察用のベルト(B)を残し、掘り進めた。土層断面を記録した後、完掘し付属遺構を調査した。なお、単独の土坑として調査したBLP-3は本住居跡の先端部ビットと判断される。

**覆土** 遺構の上位には黒色土主体の覆土が厚く堆積し、断面図番号4はT a-d 2主体の層、最下層は黒色土にT a-d 2が多く混じる覆土である。

**壁・床面** 壁の立ち上がりは南東側では直立気味で、これ以外は曲線的である。また、北東と北西側の壁には段状の構造がみられる。床面は凹凸がやや顕著である。

**付属遺構** 先端部ビット1基(BLP-3)、柱穴・杭穴を2か所(ph-1・2)確認した。BLP-3は本住居跡の北西側に接する。壁や坑底面は曲線的で、覆土から礫石器・レキが多く出土した。ph-1・2は壁際で確認され、細く先端部が尖る形状である。また、炉跡は試掘坑のある位置にあったと推測され、確認できなかった。

**関連する遺構** 本遺構は大規模な礫集中が位置する範囲にあり、堅穴住居跡が新しいと判断した(Ⅵ章5節)

**遺物出土状況** 覆土から礫石器・レキが大量に出土し、これは周囲の大規模な礫集中から流れ込んだと考える。床面出土の遺物は少なく、土器は覆土からⅢ群、剥片石器は礫石器に比して出土量は少ない。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭で、出土土器から縄文時代中期後半と考えられる。

## BLH-3 (図68 図版26・27)

位置 M・N-27・28区 規模 2.96×2.96 / 2.66×2.43 / 0.26m

## 平面形態 不整な円形

**確認・調査** 包含層調査完了後、T a-d 2上面で円形の広い黒色土がみられた。中央で直交する土層観察用のベルトを残し、これ沿いの先行トレンチを掘り進めたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 本遺構の主体的な覆土は、断面図番号2の黒色土層である。

**壁・床面** 壁は曲線的に開くように立ち上がり、床面は凹凸がみられる。

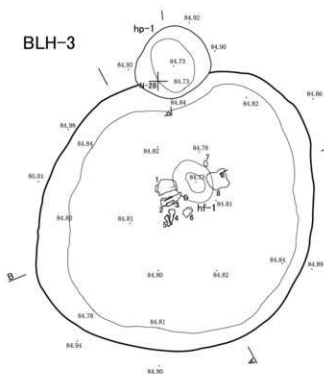
**付属遺構** 炉跡である焼土を1か所(hf-1)、先端部ビットを1基(hp-1)調査した。hf-1は住居跡のほぼ中央に位置する地床炉で、hp-1は坑底面が平坦である。

**遺物出土状況** 炉跡付近の覆土出土の遺物は位置を記録して取り上げ、床面出土の遺物はない。土器はⅢ・Ⅳ群があり、石器等ではフレイク、レキが多い。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(末光)

BLH-3



遺物	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
1	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
2	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
3	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
4	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
5	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
6	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
7	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
8	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
9	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
10	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
11	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣
12	土器	石器	銅器	鉄器	漆器	骨角器	貨幣	文書	鏡	印	印章	銭貨	紙幣	貨幣

0-20

A



hp-1



B



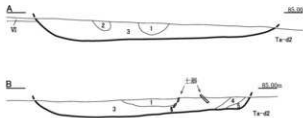
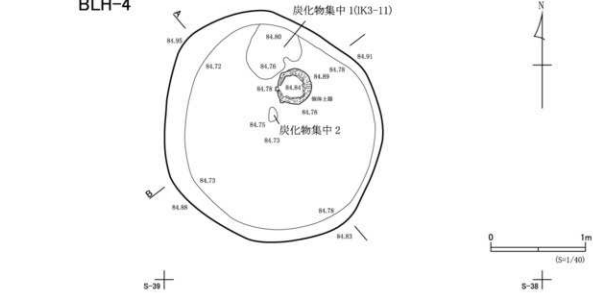
hp-1



遺構名・付属遺構名	断面図番号	層位名 主体層・存在層 層名 総分層	層厚	砂・粘土・シルト (長径200未満)				砂 (長径200以上)						
				野砂土性	色 色名 マンセル 着色系	粘着性	堅密度	種類	総径(mm) 篩網割合 (%)	粒度 平均 最大	形状	風化の程度		
BLH-3	1	Ta-02	砂層	明黄	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	中~弱	Ta-01ヌロリア	5	3	近円筒	腐敗	*
	2	砂層	—	褐色	シルト質 壤土	褐色 10YR1/1	弱	弱	Ta-02ヌロリア	1~3	3~10	近円筒	腐敗	*
	3	Ta-02	砂層	褐色	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	弱	Ta-01ヌロリア	3~5	3~10	近円筒	腐敗	*
	4	Ta-02	—	褐色	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	弱	Ta-02ヌロリア	*	*	*	*	*
	5	砂層	—	褐色	シルト質 壤土	褐色 10YR1/1	弱	弱	Ta-01ヌロリア	1~3	3~4	近円筒	腐敗	*
	6	砂層	—	褐色	シルト質 壤土	褐色 10YR1/1	弱	弱	Ta-02ヌロリア	3~5	3~10	近円筒	腐敗	*
	7	Ta-02	砂層	褐色	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	弱	Ta-02ヌロリア	*	*	*	*	*
BLH-3 Hf-1	8	砂層	—	褐色	壤土	褐色 10YR1/1	弱	弱	—	—	—	—	—	*
	9	硬土	Ta-02	褐色	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	中~弱	Ta-02ヌロリア	*	*	*	*	*
BLH-3 hp-1	10	砂層	—	褐色	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	弱	Ta-02ヌロリア	1	2~3	近円筒	腐敗	*
	11	砂層	—	褐色	壤土	暗褐色 10YR5/3	弱	弱	Ta-02ヌロリア	1	2~3	近円筒	腐敗	*
	12	砂層	—	褐色	壤土	褐色 10YR1/1	弱	弱	Ta-02ヌロリア	1~3	3~5	近円筒	腐敗	*

図68 BLH-3

BLH-4



遺物	土層	時期	形状	内容	層位	高さ (m)	採取	備考
...	...	...	...	...	...	...	...	...

遺構名 ・付属遺構名	断面図 番号	層位名 ・土床層・底層		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				遺入物	備考		
		層名	細分層		野外 土性	色調		粘着性	堅硬度	種類	含量割合 (%)				形状	風化の 程度
						色名	Munsell 色名表				平均	最大				
BLH-4	1	砂層	砂層	境界土	黄褐色	7.5YR2/2	中	堅	Te-d1, スロニア	3	2~3	点状	微少	---		
	2	砂層	砂1層	砂層土	黄褐色	7.5YR2/2	中	堅	Te-d1, スロニア	13	3~4	点状	微少	---		
	3	砂層	砂層	砂層土	褐色	10YR2/1	中	堅	Te-d1, スロニア	7	2~3	点状	微少	---		
	4	砂層	砂2層	砂層土	黄褐色	10YR2/2	中	堅	Te-d1, スロニア	1	3~5	点状	微少	---		
	5	砂層	砂層	砂層土	褐色	10YR2/1	中	堅	Te-d1, スロニア	2	2~3	点状	微少	---		

図69 BLH-4



**BLH-4** (図69 カラー図版4 図版27・28)

位置 R-38区 規模 2.56×2.34 / 2.18×2.05 / 0.24m

平面形態 円形

**確認・調査** 包含層調査完了後、円形を呈する黒色土と土器がみられた。住居跡であると予想し、十字に先行トレンチを設け掘り進めたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し遺構と認定した。土層断面を記録して完掘し、付属遺構を調査した。確認面でみられた土器は口縁から胴部上位がまどまどしており(個体土器)、土層断面では掘り方はみられなかった。この土器は、本住居跡に覆土が堆積することに伴い埋没したと考える。

**覆土** 主体的な覆土は、断面図番号3の黒色土層でT a - d 1が少量混じり、これ以外の覆土は部分的にみられる。

**壁・床面** 壁は曲線的に広がって立ち上がり、床面は概ね平坦で西側が低い。

**付属遺構** 炭化物集中2か所を調査した。これらと個体土器の下位部分は焼土等を確認するために精査したが、みられなかった。また、柱穴・杭穴と認定できたものもない。

**遺物出土状況** 床面からⅢ群土器、石器等は覆土からU・Rフレイク、レキが出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭で、出土土器からは縄文時代中期後半と考えられる。また、放射性炭素年代測定(IK3-11)の結果とも矛盾しない。

(広田)

**4. 土坑** (図70 表52 図版29)**BLP-1** (図70 図版29)

位置 H-24・25区 規模 1.89×1.74 / 1.51×1.42 / 0.36m

平面形態 円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層上面で楕円形の黒色土がみられた。半載したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。北側と南東側部分に擾乱がある。

**覆土** 黒色土が主体で、T a - d 2スコリアが微量混じる。

**壁・坑底面** 壁は曲線的な立ち上がりで、坑底面は概ね平坦である。

**遺物出土状況** 覆土からⅣ群土器、U・Rレキ、レキが出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(末光)

**BLP-2** (図70 図版29)

位置 Z-29区 規模 1.76×1.43 / 1.61×1.18 / 0.21m

平面形態 円形

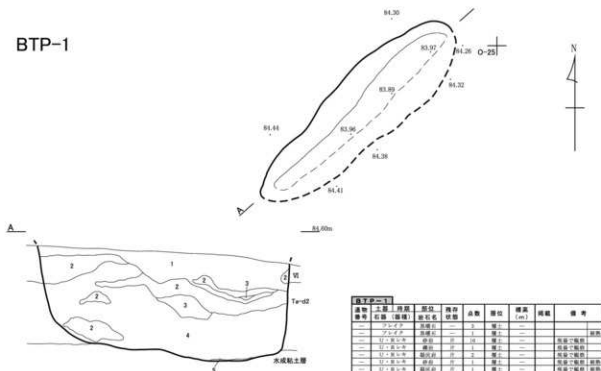
**確認・調査** 包含層調査中、VI層上面で黒色土がみられた。半載したところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と認定した。中央から南東側部分が一段低い。

**覆土** 黒色土が主体の覆土である。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは曲線的に広がり、坑底面は概ね平坦、低い部分は曲線的で中央が低い。

**遺物出土状況** 覆土から磨製石斧、たたき石、砥石、台石・石皿、U・Rレキ、レキが出土し、南西側壁際には形状を留める炭化材が確認された。

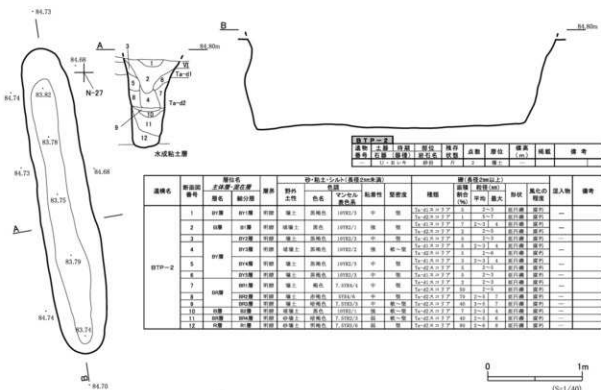
# BTP-1



遺物	土層・時期	層位	層位	出土	数量	厚さ	規格	備考
属性	名称(層位)	名称	名称	位置	(個)	(cm)		
—	17・8000	遺跡	1	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	2	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	3	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	4	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	5	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	6	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	7	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	8	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	9	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	10	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	11	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	12	層	—	—	—	—

遺構名	断面番号	層位名	土層・時期	層位	野外	壁・柱・土台(2m未満)			壁・柱(2m以上)			備考	
						形状	色	厚さ	形状	色	厚さ		
BTP-1	1	V層	—	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	2	V層	17・8000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	3	17・8000	—	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	4	17・8000	—	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	5	V層	—	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—

# BTP-2



遺物	土層・時期	層位	層位	出土	数量	厚さ	規格	備考
属性	名称(層位)	名称	名称	位置	(個)	(cm)		
—	17・8000	遺跡	1	層	—	—	—	—
—	17・8000	遺跡	2	層	—	—	—	—

遺構名	断面番号	層位名	土層・時期	層位	野外	壁・柱・土台(2m未満)			壁・柱(2m以上)			備考
						形状	色	厚さ	形状	色	厚さ	
BTP-2	1	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	2	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	3	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	4	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	5	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	6	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	7	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	8	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	9	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	10	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	11	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—
	12	1000	1000	1000	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	—

図71 BTP-1・BTP-2



**時 期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。また、炭化材の放射性炭素年代測定（I K 3-12）を行ったが、非常に古い値が出て再検討を要する（付篇 参照）。

（広田）

## 5. Tピット（図71～77 表53・54 図版30～32）

### BTP-1（図71 図版29・31）

**位 置** N・O-25区 **規 模** 2.67×0.81 / 2.41×0.30 / 1.12m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。長軸方向で半截して土層断面を観察し、平坦な面、壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した。

**覆 土** 覆土は上位が黒色土主体、中・下位がT a-d 2層主体である。

**壁・坑底面** 壁は南西側が曲線的、北東側は直立気味に立ち上がり、坑底面は凹凸がみられる。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 覆土からフレイク、U・Rレキが出土した。

**時 期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期～後期と考えられる。

（末光）

### BTP-2（図71 図版30・31）

**位 置** M-27、N-26・27区 **規 模** 3.26×0.60 / 2.83×0.34 / 0.94m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。南側部分を掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

**覆 土** 覆土の多くは黒色土主体で、最下層はT a-d 2層主体である。

**壁・坑底面** 壁は直立気味に立ち上がり、長軸方向の坑底面は凹凸があり、南側が最も低い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 覆土からU・Rレキが出土した。

**時 期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

（広田）

### BTP-3（図72 図版29・30）

**位 置** V・W-29区 **規 模** 1.59×1.10 / 1.02×0.37 / 1.15m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた。半截し平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘し、付属遺構を調査した。

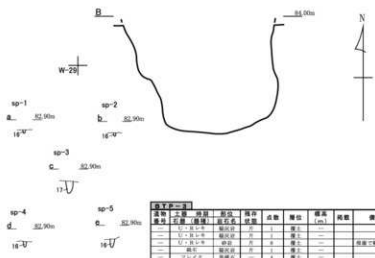
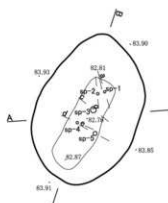
**覆 土** 覆土の多くが遺構の中央へと傾斜する堆積で、水平な堆積のものは最下層の黒色土主体の層（断面図番号15）である。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりはゆるやかに開き気味で、長軸方向の坑底面は曲線的で中央が低い。

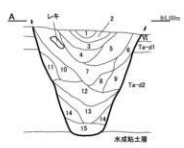
**付属遺構** 杭穴を5か所（s p-1～5）確認した。s p-1・2・4・5は細くて浅く、中央付近のs p-3はこれらに比して大きい。

**遺物出土状況** 覆土からフレイク、砥石、U・Rレキが出土した。

### BTP-3



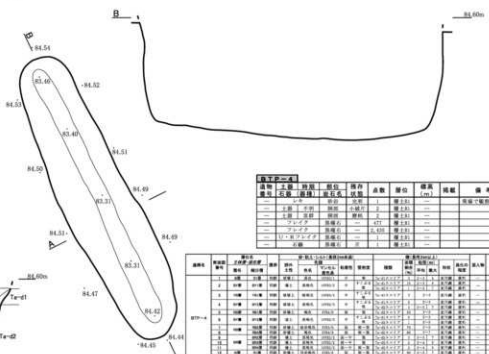
番号	土質	粒径	割合	備考	点数	層位	高さ	試験	備考
番号	土質	(層位)	(高さ)	(試験)			(cm)		
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	試験丁種表
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	---
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	---
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	---



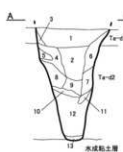
層位	層番号	土質	粒径	割合	備考	層位		高さ		試験	備考
						番号	高さ	番号	高さ		
1	1	砂	中粒	100%		1	82.90	1	82.90	---	---
2	2	砂	中粒	100%		2	82.85	2	82.85	---	---
3	3	砂	中粒	100%		3	82.81	3	82.81	---	---
4	4	砂	中粒	100%		4	82.81	4	82.81	---	---
5	5	砂	中粒	100%		5	82.81	5	82.81	---	---
6	6	砂	中粒	100%		6	82.81	6	82.81	---	---
7	7	砂	中粒	100%		7	82.81	7	82.81	---	---
8	8	砂	中粒	100%		8	82.81	8	82.81	---	---
9	9	砂	中粒	100%		9	82.81	9	82.81	---	---
10	10	砂	中粒	100%		10	82.81	10	82.81	---	---
11	11	砂	中粒	100%		11	82.81	11	82.81	---	---
12	12	砂	中粒	100%		12	82.81	12	82.81	---	---
13	13	砂	中粒	100%		13	82.81	13	82.81	---	---
14	14	砂	中粒	100%		14	82.81	14	82.81	---	---
15	15	砂	中粒	100%		15	82.81	15	82.81	---	---
16	16	砂	中粒	100%		16	82.81	16	82.81	---	---
17	17	砂	中粒	100%		17	82.81	17	82.81	---	---

### BTP-4

H-34



番号	土質	粒径	割合	備考	点数	層位	高さ	試験	備考
番号	土質	(層位)	(高さ)	(試験)			(cm)		
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	試験丁種表
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	---
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	---
---	U	粘土	細粒	1	---	---	---	---	---

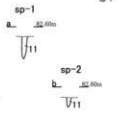
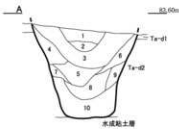
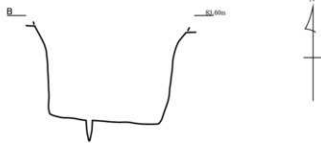
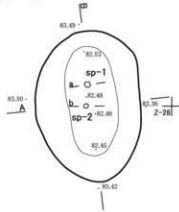


層位	層番号	土質	粒径	割合	備考	層位		高さ		試験	備考
						番号	高さ	番号	高さ		
1	1	砂	中粒	100%		1	84.51	1	84.51	---	---
2	2	砂	中粒	100%		2	84.40	2	84.40	---	---
3	3	砂	中粒	100%		3	84.32	3	84.32	---	---
4	4	砂	中粒	100%		4	84.31	4	84.31	---	---
5	5	砂	中粒	100%		5	84.30	5	84.30	---	---
6	6	砂	中粒	100%		6	84.27	6	84.27	---	---
7	7	砂	中粒	100%		7	84.21	7	84.21	---	---
8	8	砂	中粒	100%		8	84.19	8	84.19	---	---
9	9	砂	中粒	100%		9	84.17	9	84.17	---	---
10	10	砂	中粒	100%		10	84.14	10	84.14	---	---
11	11	砂	中粒	100%		11	84.11	11	84.11	---	---
12	12	砂	中粒	100%		12	84.09	12	84.09	---	---
13	13	砂	中粒	100%		13	84.03	13	84.03	---	---



図72 BTP-3・BTP-4

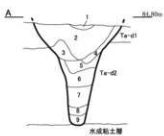
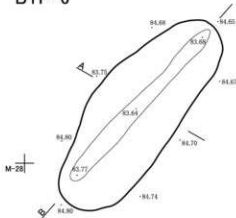
BTP-5



遺構・土層・地層									
遺構番号	土層・地層	位置	形状	高さ	厚さ	層位	層高 (cm)	構成	備考
11	B-10	砂土	円	1	薄	1	10	砂土	遺構・地層
12	B-10	砂土	円	1	薄	2	10	砂土	遺構・地層
13	B-10	砂土	円	1	薄	3	10	砂土	遺構・地層
14	B-10	砂土	円	1	薄	4	10	砂土	遺構・地層
15	B-10	砂土	円	1	薄	5	10	砂土	遺構・地層
16	B-10	砂土	円	1	薄	6	10	砂土	遺構・地層
17	B-10	砂土	円	1	薄	7	10	砂土	遺構・地層
18	B-10	砂土	円	1	薄	8	10	砂土	遺構・地層
19	B-10	砂土	円	1	薄	9	10	砂土	遺構・地層
20	B-10	砂土	円	1	薄	10	10	砂土	遺構・地層
21	B-10	砂土	円	1	薄	11	10	砂土	遺構・地層
22	B-10	砂土	円	1	薄	12	10	砂土	遺構・地層
23	B-10	砂土	円	1	薄	13	10	砂土	遺構・地層
24	B-10	砂土	円	1	薄	14	10	砂土	遺構・地層
25	B-10	砂土	円	1	薄	15	10	砂土	遺構・地層
26	B-10	砂土	円	1	薄	16	10	砂土	遺構・地層
27	B-10	砂土	円	1	薄	17	10	砂土	遺構・地層
28	B-10	砂土	円	1	薄	18	10	砂土	遺構・地層
29	B-10	砂土	円	1	薄	19	10	砂土	遺構・地層
30	B-10	砂土	円	1	薄	20	10	砂土	遺構・地層

遺構番号	層位	土層・地層	形状	高さ	断面形状(単位:m)				層位	層高 (cm)	構成	備考
					最大径	最小径	平均径	最大径				
BTP-5	1	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	1	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	2	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	2	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	3	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	3	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	4	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	4	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	5	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	5	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	6	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	6	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	7	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	7	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	8	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	8	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	9	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	9	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	10	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	10	10	砂土	遺構・地層
BTP-5	11	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	11	10	砂土	遺構・地層

BTP-6



遺構・土層・地層									
遺構番号	土層・地層	位置	形状	高さ	厚さ	層位	層高 (cm)	構成	備考
1	B-10	砂土	円	1	薄	1	10	砂土	遺構・地層
2	B-10	砂土	円	1	薄	2	10	砂土	遺構・地層
3	B-10	砂土	円	1	薄	3	10	砂土	遺構・地層
4	B-10	砂土	円	1	薄	4	10	砂土	遺構・地層
5	B-10	砂土	円	1	薄	5	10	砂土	遺構・地層
6	B-10	砂土	円	1	薄	6	10	砂土	遺構・地層
7	B-10	砂土	円	1	薄	7	10	砂土	遺構・地層
8	B-10	砂土	円	1	薄	8	10	砂土	遺構・地層

遺構番号	層位	土層・地層	形状	高さ	断面形状(単位:m)				層位	層高 (cm)	構成	備考
					最大径	最小径	平均径	最大径				
BTP-6	1	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	1	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	2	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	2	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	3	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	3	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	4	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	4	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	5	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	5	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	6	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	6	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	7	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	7	10	砂土	遺構・地層
BTP-6	8	砂土	円	1	0.15	0.15	0.15	0.15	8	10	砂土	遺構・地層



図73 BTP-5・BTP-6

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

**BTP-4** (図72 図版31・32)

位置 R-33区 規模 3.22×0.78 / 2.96×0.12 / 1.19m

平面形態 溝状／溝状

確認・調査 B L F C-1 と包含層の調査完了後、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、土層断面を確認し、平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 覆土の上位と最下層は黒色土主体で、下に T a - d 2層主体のものが厚く堆積する。

壁・坑底面 壁はゆるやかに立ち上がり、中～上位でさらに開く。長軸方向の坑底面は傾斜があり、南側付近が低い。

付属遺構 なし。

遺物出土状況 覆土からⅢ群土器、石鏃、U・Rフレイク、フレイク、レキが出土した。

重複 上位にフレイク集中B L F C-1があり、これよりもTピットが古いと判断される。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器から縄文時代中期の可能性がある。

**BTP-5** (図73 図版29・30・32)

位置 Y・Z-28区 規模 1.60×1.11 / 1.15×0.55 / 1.01m

平面形態 楕円形／楕円形

確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で楕円形を呈する黒色土がみられた。短軸方向で半載したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

覆土 いずれの覆土も遺構の中央に傾斜するように堆積し、壁際と下に T a - d 2層主体の層がある。

壁・坑底面 壁はゆるやかに開くように立ち上がり、長軸方向の坑底面は南側へと傾斜する。

付属遺構 杭穴を2か所 (s p - 1・2) 確認した。覆土は T a - d 2スコリアが混じる黒色土である。

遺物出土状況 覆土から石鏃、フレイク、磨製石斧、たたき石、U・Rレキ、レキが出土した。

時期 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

**BTP-6** (図73 図版30・31)

位置 L・M-27区 規模 2.41×1.00 / 2.15×0.20 / 1.08m

平面形態 長楕円形／溝状

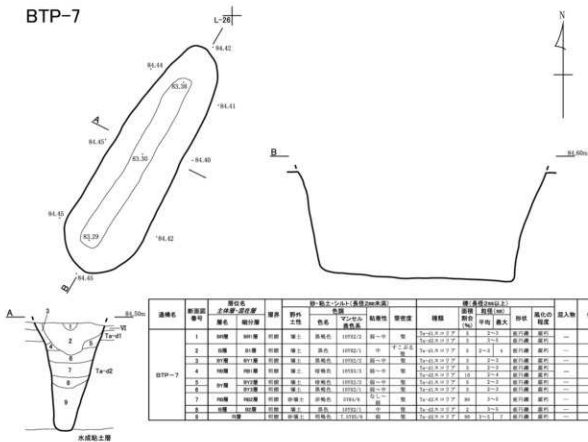
確認・調査 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。土層断面を記録した後、完掘した。

覆土 上位は遺構の中央へと傾斜し、下位部分は水平な堆積で、後者は T a - d 2層主体である。

壁・坑底面 壁の立ち上がりは直立気味で、遺構の上位で大きく広がる。長軸方向の坑底面は若干凹凸があり、北東側へと傾斜する。

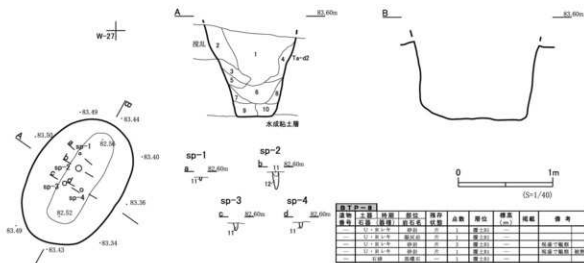
付属遺構 なし。

BTP-7



遺構名	断面図番号	層位名 土壌層・遺存層	層別	中・動エントロピー(長径2mm未満)				層・長径2mm以上		出土物	備考				
				野外土性	土名	土質	土質	層別	層別			平均	最大		
BTP-7	1	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	2	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	3	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	4	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	5	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	6	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	7	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	8	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—
	9	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—	—

BTP-8



遺構名	断面図番号	層位名 土壌層・遺存層	層別	野外土性	土名	土質	土質	層別	層別	平均	最大	出土物	備考	
BTP-8	1	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	2	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	3	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	4	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	5	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	6	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	7	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	8	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	9	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—

遺構名	断面図番号	層位名 土壌層・遺存層	層別	中・動エントロピー(長径2mm未満)				層・長径2mm以上		出土物	備考			
				野外土性	土名	土質	土質	層別	層別			平均	最大	
BTP-8	1	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	2	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	3	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	4	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	5	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	6	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	7	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	8	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	9	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	10	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—
	11	砂層	砂層	砂土	赤褐色	1992/3	中	中	34-62.0×3.7×F	4	2-3	灰土層	灰土	—

図74 BTP-7・BTP-8

**遺物出土状況** 覆土から磨製石斧が出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

**BTP-7** (図74 図版30・31)

**位置** L-26区 **規模** 2.68×0.81 / 2.06×0.25 / 1.15m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で細長い黒色土がみられた。南側部分を掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られ、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した。

**覆土** 覆土はやや高い位置から、水平堆積が認められる。坑底面近くはT a - d 2層主体の覆土が厚い。

**壁・坑底面** 壁はゆるやかに広がって立ち上がり、長軸方向の坑底面は北側へ傾斜する。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

**BTP-8** (図74 図版30・32)

**位置** W-26・27区 **規模** 1.44×0.98 / 1.07×0.36 / 0.97m

**平面形態** 楕円形／長楕円形

**確認・調査** 包含層調査完了後、T a - d 2層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半載し、平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘し付属遺構を調査した。なお、北西側には浅い攪乱がある。

**覆土** 覆土最下層は二つに分層でき、これの上位の層界まで、遺構の中央が落ち込む堆積である。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりはゆるやかに開く。長軸方向の坑底面は凹凸がみられ、中央が高い。

**付属遺構** 杭穴を4か所 (s p - 1～4) 確認した。覆土は黒色土主体で、s p - 2のみ規模が大きい。

**遺物出土状況** 覆土から石核、U・Rレキが出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

**BTP-9** (図75 図版31・32)

**位置** S・T-35区 **規模** 2.81×0.76 / 2.35×0.18 / 1.15m

**平面形態** 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で細長い黒色土がみられ、短軸方向で半載したところ、平坦な面と壁の立ち上がりが見られたので、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

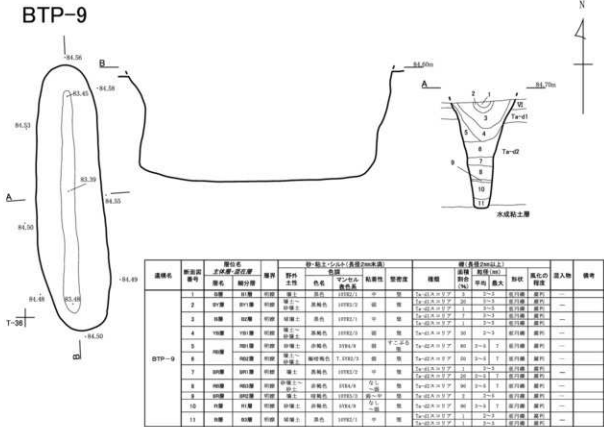
**覆土** 上位の断面図番号1～4の覆土は中央が厚い、下位の同5～11は水平の堆積で、後者のうち5・8・10はT a - d 2層主体である。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりは直立気味で上位部分はさらに開口する。長軸方向の坑底面は中央が若干くぼみ、南側の壁はオーバーハングがみられる。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。



### BTP-10

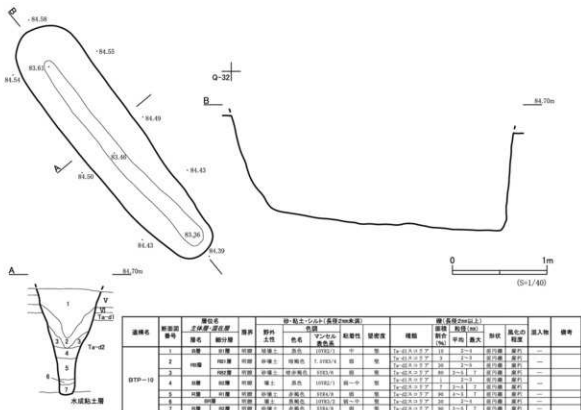
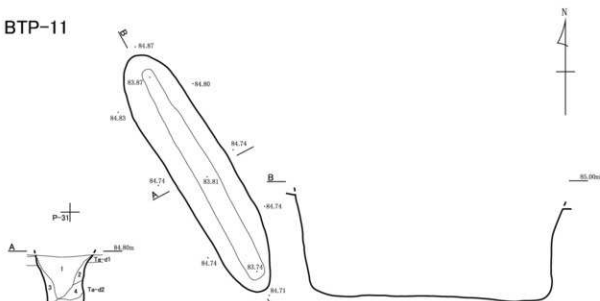


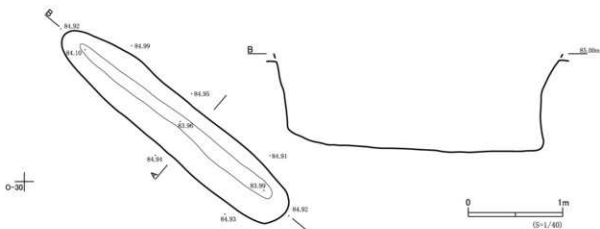
図75 BTP-9・BTP-10

# BTP-11



遺構名	新調査番号	層位名		層厚	土質	形状	色	マンデル強度	粘着性	硬軟度	種類	埋藏 深さ(m)		形状	方位の程度	出入物	備考	
		正式層位	副層位									平均	最大					
BTP-11	1	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	2	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	3	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	4	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	5	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	6	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	7	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	8	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	9	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---

# BTP-12



遺構名	新調査番号	層位名		層厚	土質	形状	色	マンデル強度	粘着性	硬軟度	種類	埋藏 深さ(m)		形状	方位の程度	出入物	備考	
		正式層位	副層位									平均	最大					
BTP-12	1	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~4	1	長方形	表層	---
	2	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	3	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	4	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	5	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	6	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	7	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	8	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---
	9	地盤	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	1	2~3	1	長方形	表層	---

図76 BTP-11・BTP-12



## BTP-10 (図75 図版31・32)

位置 P・Q-32区 規模 2.98×0.81 / 2.51×0.24 / 1.13m

平面形態 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査中、V層で細長い黒色土がみられた。南側部分を掘り下げたところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられ、遺構と判断した。土層断面を記録して完掘した。

**覆土** 覆土はやや高い位置から、水平堆積が認められる。坑底面近くはT a - d 2層主体の覆土が厚い。

**壁・坑底面** 壁はゆるやかに広がって立ち上がり、長軸方向の坑底面は南東側へ傾斜する。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

## BTP-11 (図76 図版31・32)

位置 O・P-30区 規模 2.82×0.69 / 2.50×0.24 / 0.96m

平面形態 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で細長い黒色土がみられた。南東側部分を掘り上げて、土層断面を確認し、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と判断した。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 壁際と最下層の覆土はT a - d 2層主体である。

**壁・坑底面** 壁はゆるやかな立ち上がりで、上位で若干広くなる。長軸方向の坑底面は曲線的で中央がやや高い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

## BTP-12 (図76 図版31・32)

位置 N・O-29区 規模 3.00×0.64 / 2.58×0.19 / 0.98m

平面形態 溝状／溝状

**確認・調査** 包含層調査完了後、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。短軸方向で半掘したところ、平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と認定した。土層断面を記録後、完掘した。

**覆土** 覆土は全体的にT a - d 2層の混入が多い。

**壁・坑底面** 壁の立ち上がりはゆるやかで、上位は開口する。長軸方向の坑底面は概ね平坦で南東側が低い。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

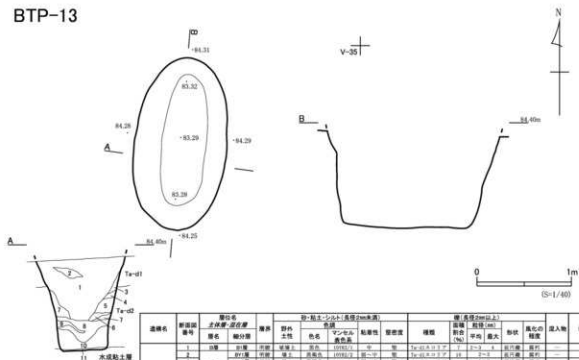
**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

## BTP-13 (図77 図版30・32)

位置 V-35区 規模 1.82×0.99 / 1.40×0.48 / 1.00m

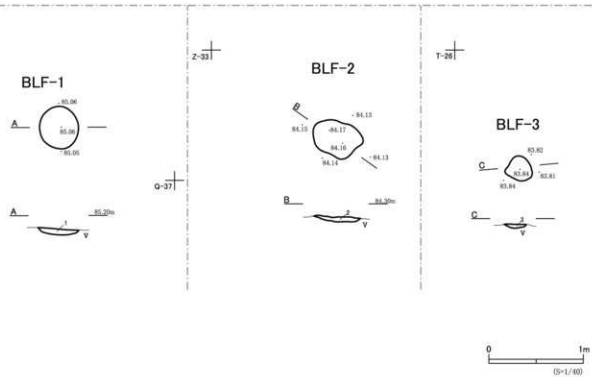
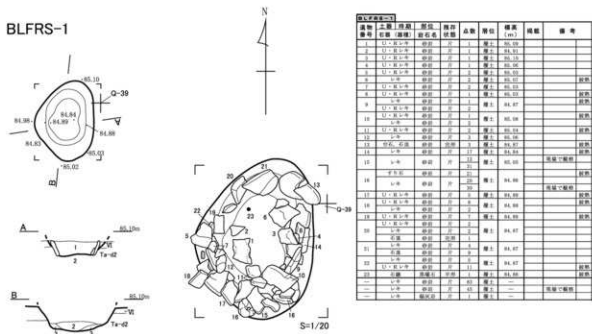
平面形態 楕円形／楕円形

BTP-13



遺構名	経緯度 番号	層位名		層厚	計・積土・シフト(基礎20m未満)			壁(基礎20m以上)			備考				
		層名	細分類		形状 工性	名称	形状 工性	種類	面積 割合(%)	形状 高さ		風化の 程度			
BTP-13	1	10層	10層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	1	0-1	良好	良好	---
	2	9層	9層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	10	0-1	良好	良好	---
	3	8層	8層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	2	0-1	良好	良好	---
	4	7層	7層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	2	0-1	良好	良好	---
	5	6層	6層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	1	0-1	良好	良好	---
	6	5層	5層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	6	0-1	良好	良好	---
	7	4層	4層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	3	0-1	良好	良好	---
	8	3層	3層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	10	0-1	良好	良好	---
	9	2層	2層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	2	0-1	良好	良好	---
	10	1層	1層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	10	0-1	良好	良好	---
	11	0層	0層	吹積	埴土	埴土	1000/0	中	塊	1x(0.0x0.0)F	1	0-1	良好	良好	---

図77 BTP-13



遺構名	断面図番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径 2mm未満)				礫 (長径 2mm以上)				遺人物	備考		
		主体層・居住層			野外土性	色調		粘着性	堅密度	種類	磨蝕割合 (%)				形状	腐化の程度
		層名	層分層			色名	マンセル表色系				平均	最大				
BLFRS-1	1	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	黒色	10YR1.7/1	中	堅	Ⅴa-02スロリア	3	3~3	近円錐	腐行	炭化材少量	V b層主体	
	2	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	シト土質	褐色	7.5YR4/4	中	堅	Ⅴa-02スロリア	1	2	近円錐	腐行	—	V b層主体
	3	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	赤褐色	10YR2/3	中	堅	Ⅴa-02スロリア	3	3	近円錐	腐行	—	V b層主体	
BLF-1	1	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	褐色	7.5YR6/6	中~強	軟~堅	Ⅴa-02スロリア	3	2~3	近円錐	腐行	—	V b層主体	
	2	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	明褐色	7.5YR8/6	中	堅	無	—	—	—	—	炭化物少量	—	
BLF-3	3	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	褐色	7.5YR4/6	弱~中	堅	Ⅴa-01スロリア	3	3~3	近円錐	腐行	炭化材少量	—	

図78 BLFRS-1・BLF-1・2・3

**確認・調査** 包含層調査中、T a - d 1層上面で黒色土がみられた。南側部分を掘り下げ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と認定した。土層断面を記録し完掘した。

**覆土** 上位部分は黒色土主体の層が厚く、下位はT a - d 2層主体の覆土である。

**壁・坑底面** 壁は直立気味に立ち上がり、約1/4の高さから開き気味である。長軸方向の坑底面は曲線的でゆるやかな凹凸がある。

**付属遺構** なし。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

## 6. 石組炉

**B L F R S - 1** (図78 表55 図版33)

**位置** P・Q-39区

**規模** 掘り方 0.84×0.65 / 0.59×0.43 / 0.27m 石組 0.81×0.65 / 0.16m

**平面形態** 楕円形

**確認・調査** 包含層調査中、VI層で複数の石が長方形～楕円形に位置する状況がみられた。これを記録後、トレンチを設けて掘り進めたところ、焼土や壁の掘り方を確認し石組炉と判断した。すべての石を取り上げた後、掘り方を半載し、内部の焼土とともに断面を検出した。土坑(掘り方)を構築しこの内部に石を組んで炉と使用されたと考えられる。用いられている石は砂岩の扁平な礫が多く、北西側の一部は石が少ない。また被熱しているものも多い。石組炉の調査完了後、周囲の包含層調査で、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できたものはない。

**土層** 石組内では、最上位は黒色土主体で覆土が厚く、その下位に明褐色の焼土がある。

**壁・坑底面** 坑底面は中央付近が若干低く、壁の立ち上がりは曲線的である。

**遺物出土状況** 石組に用いられている礫は、すり石、石皿、U・Rレキがあり、石器として使用された後、石組に転用されたと考えられる。

**時期** 石組炉は縄文時代中期後半～後期初頭に特徴な遺構で、この時期と考えられる。

(愛場)

## 7. 焼土 (図78 表56)

**B L F - 1**

**位置** P-37区 **規模** 0.71×0.36 / 0.06m **平面形態** 円形

**B L F - 2**

**位置** Z-32区 **規模** 0.53×0.38 / 0.05m **平面形態** 不整な楕円形

**B L F - 3**

**位置** T-25区 **規模** 0.27×0.25 / 0.04m **平面形態** 不整な円形

**確認・調査** B L F - 1～3 すべては、包含層調査中にV層で確認した。B L F - 1は円形で、これ以外はやや不整形である。焼土の色調は橙色または褐色で層厚は5cm前後である。B L F - 2は大規模な礫集中の範囲のV層でみつきり、関連する遺構の可能性がある。焼土の調査完了後、周辺の包含層調査時に、柱穴・杭穴等の発見に注意を払ったが、確認できなかった。

**遺物出土状況** 焼土から遺物は出土していない。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられる。

(末光)

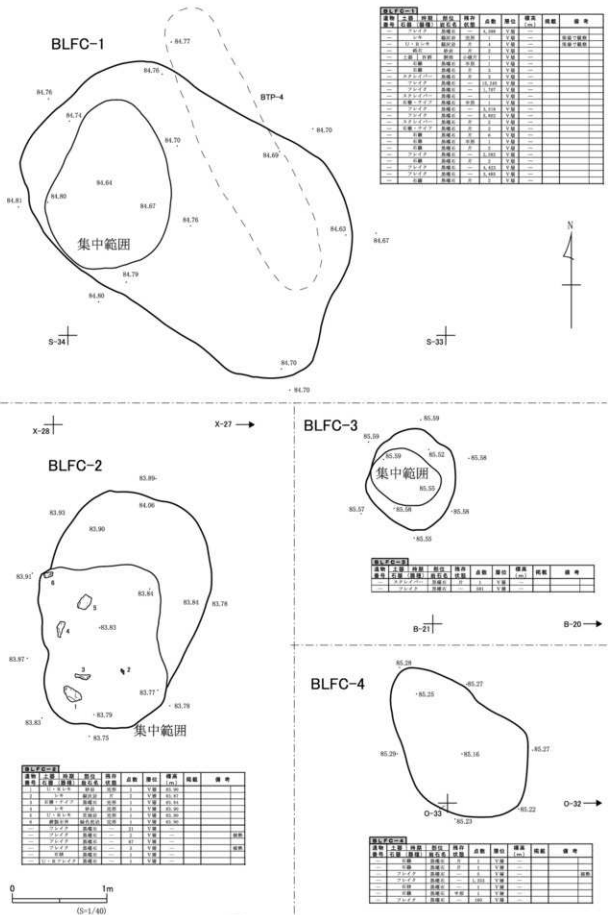


図79 BLFC-1～4

## 8. フレイク集中 (図79 表57)

### BLFC-1

位置 R-33・34、S-33区 規模 3.78×2.41m 平面形態 不整な楕円形

### BLFC-2

位置 X-27・28区 規模 2.52×1.84m 平面形態 不整な楕円形

### BLFC-3

位置 A-20・21区 規模 1.08×0.95m 平面形態 不整な楕円形

### BLFC-4

位置 N・O-32・33区 規模 1.87×1.29m 平面形態 不整な楕円形

**確認・調査** BLFC-1～4の4か所をまとめて報告する。包含層調査中、フレイクが集中して出土する場所が認められた。フレイクを多量に含む土をそのまま取り上げ、水洗選別で遺物を回収した。遺構の範囲は、フレイクがみられなくなるまで掘り進め、その範囲・高さを実測し、特に多い場所は集中部分とした。

BLFC-1は広範囲で、R-33区の包含層の遺物としたものもある。黒曜石製のフレイクが40,000点以上、残存状態が半形・片の石鏃や石槍・ナイフ、IV群土器も出土した。また、下位にBTP-4が位置し、これよりも新しいと考えられる。BLFC-2は楕円形で、大規模な礫集中があるV層でみつかった。この周囲の包含層よりもフレイクが多くみられたので記録したが、点数は約100点と少ない。BLFC-3は調査区の北側でみづかり、黒曜石製のフレイクなどが約500点出土した。BLFC-4は集中部分がなく、黒曜石製のフレイクが約1,500点と石鏃も出土した。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器からBLFC-1は後期初頭の可能性がある。

## 9. 大規模な礫集中 (図12・62 表8 カラー図版2 図版1・2)

位置 W-27～35、X-26～35、Y-27～35、Z・a-28～34、b-28～33、c-28～35、d-30区

規模 37.8×24.1m (642.6m<sup>2</sup>) 平面形態 不整な楕円形

**確認・調査** B地区で先行トレンチ調査を行わなかった調査区の南側部分のV層包含層調査中、礫石器やレキが大量にみつかった(Ⅲ章3節)。礫石器やレキの中に土があるとの表現は過剰かもしれないが、かような印象を受けた。土層断面観察のため二本のベルトを残し、調査区の南側を少し掘り広げ、平面の広がり把握することとした。およそ東西のWラインより南側すべてに、これら遺物の集中が認められ、「大規模な礫集中」と呼称した。盛土等の人為的な二次堆積層の確認も行ったが、みられなかった。ベルトの観察では南側へと遺物が多く、残存状態が悪い長径4mm以下の焼骨が、ほぼ全域に認められた。これらは多くがシカと推測される。本遺構の調査は包含層調査と同様で、遺物はグリッドで取り上げた。

**他の遺構との関連性** 礫集中の範囲に位置する遺構は、BLP-3を先端部ピットとするBLH-2・BLP-2・BTP-5・BLF-2・BLFC-2である。これらのうちV層でみられた焼土BLF-2とフレイク集中BLFC-2は本礫集中に伴うと考える。

**出土遺物** 土器は1,865点出土した。群ごとの割合はIV群が46%、Ⅲ群34%、I群18%である。IV・I群は胴部の小破片が、Ⅲ群は胴部の良好が最も多い。出土地点ではbラインが35%、cラインが24%で、後者の過半数はI群である。剥片石器は2,610点出土し、約81%がフレイク、次いでつまみ付きナ

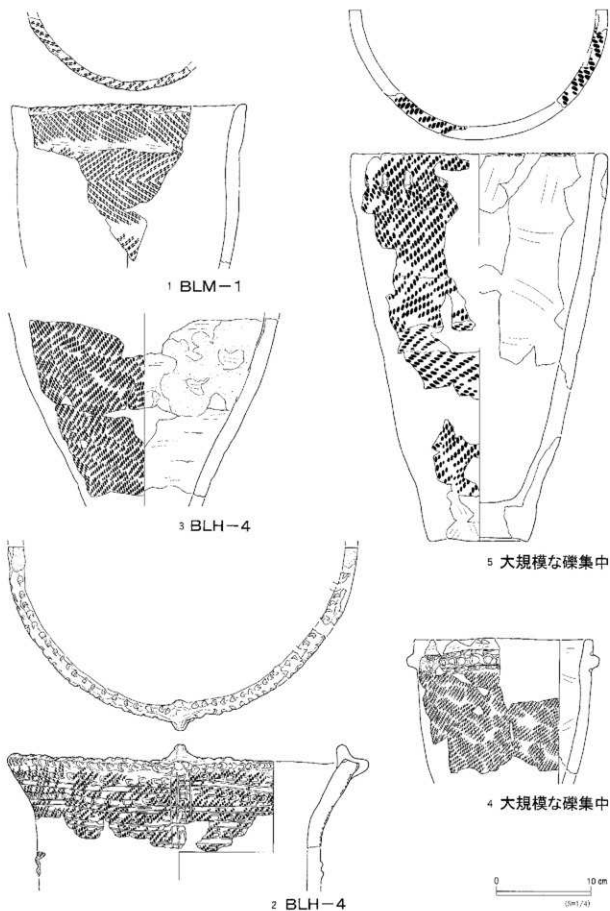
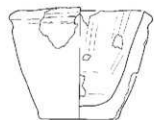


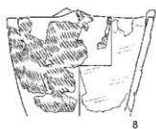
図80 B地区 V層 遺構出土の復原土器



6 大規模な礫集中



7 大規模な礫集中



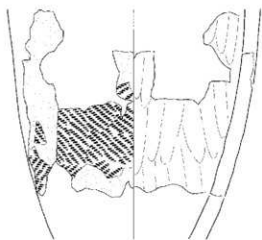
8



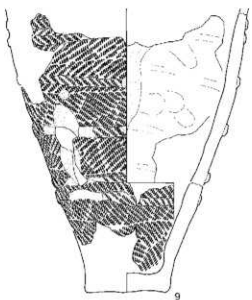
10



11



12



9



図81 B地区 V層 遺構・包含層出土の復原土器



イフ5%、次いで石鏝4%である。過半数以上がbライン出土である。礫石器・レキは33,884点出土した。U・Rレキとレキがそれぞれ45%で、残りの10%が礫石器である。多いものは砥石、台石・石皿、たたき石である。

**時期** 本遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と考えられ、出土土器からも同様に判断される。

## 10. 出土遺物

### (1) 土器

**復原土器** (図80・81 表69～80 図版35・36)

1・3・5～12はⅣ群a類、2・4はⅢ群b類である。

1の地文は口唇部にLRL縄文、口縁部にRLR縄文がみられ、胴部上半にはLRL・RLR縄文が施される。口縁部には無文帯があり、粘土の継ぎ目が確認できる。2は口唇部から胴部上位まであり、LRL縄文の地文に半截竹管状工具によって、刺突文・平行沈線文が施される。3は胴部から底部へとすはまる器形であり、地文はLRL縄文である。4は口縁部に貼付帯と刺突文があり、ともに半截竹管状工具によって施され、胴部はLRL縄文である。5は口唇部から底面までLRL縄文が施され、口縁部に縄端圧痕文がみられる。6は胴部中位のみで、地文はRL縄文である。7は器面が剥離しており、地文が不明である。内面はナデ調整がされ、炭化物が付着している。8は口唇部に八つの波頂部があり、ナデ調整が行われ、胴部の器面はLRL縄文である。9は胴部に六つの貼付帯があり、器面にLRL・RL縄文が羽状にみられる。10はLRL・RL羽状縄文が地文でナデ調整が行われている。11は胴部下位から底部で、指頭圧痕文がみられ、底部付近は無文である。12の胴部下位にはLRL縄文が施され、一部縦位回転軸文が確認できる。

**破片土器** (図82～87 表81 図版38～41)

**遺構出土土器** (図82 表81 図版38)

1はⅣ群a類土器、2・3・5～9はⅢ群b類土器、4はⅠ群土器である。

1はBLH-1Bから出土し、地文がLRL縄文である。2～8はBLH-2から出土した。2はLRL縄文地に貼付がされ、内面もLRL縄文が施される。3は外面がLRL縄文で、内面はナデ調整が行われている。4は絡糸体による圧痕文が施される。5～7は器面にLRL・RL結束第1種羽状縄文がみられ、内面には条痕文が確認できる。8は外面・内面ともにLRL縄文である。9はLRL縄文の地文に内面がナデ調整されている。

**包含層出土のⅢ群土器** (10～41・71・72・75)

10～30は口縁部である。

10は口縁部で器面にLRL縄文が施され、口唇部には刺突文と摺紐の刻みがみられる。11は貼付と半截竹管状工具により刺突文が施される。12は口唇部に半截竹管状工具による沈線文が確認できる。13はナデ調整が行われ、口唇部に刺突文がある。14はLRL縄文地に貼付があり、半截竹管状工具によって刺突される。15はLRL縄文地に貼付が施される。16は内面にナデ調整が行われ、口唇部に刺突文がある。17の器面はLRL縄文で、刺突文が施された貼付帯がある。18は口唇部にナデ調整が行われ、器面は黒色化し炭化物付着がみられる。19はLRL縄文地に、刺突文がある貼付帯が施される。20は二又状工具によって刺突文が連続的にあり、口唇部にはミガキ調整される。21はLRL縄文地に、円形刺突文がある貼付帯がめぐる。22は不整な条がみられ、貼付が確認できる。23はLRL縄文地に綾絡文があり、口唇部にナデ調整が行われる。24は内面にミガキ調整が行われ、口唇部に刺突文がある。25の

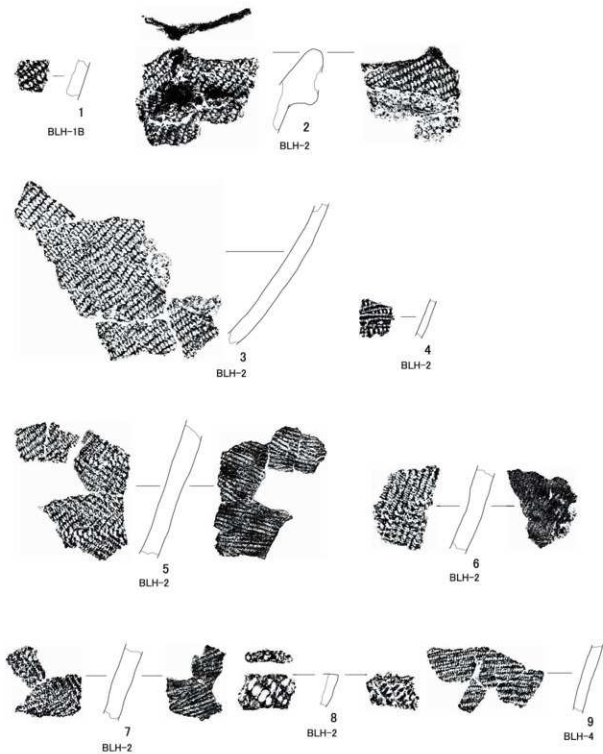


図82 B地区 V層 遺構出土の破片土器

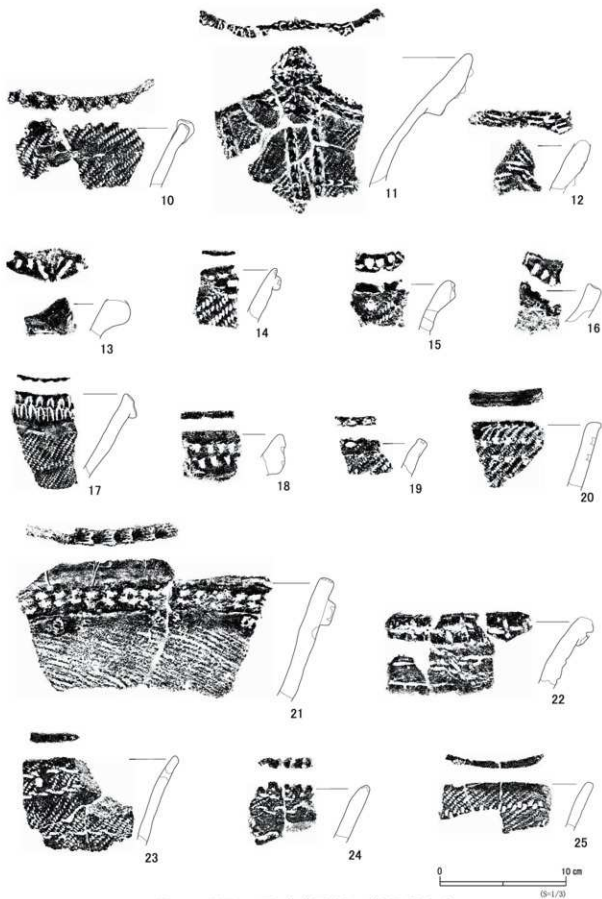


図83 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (1)

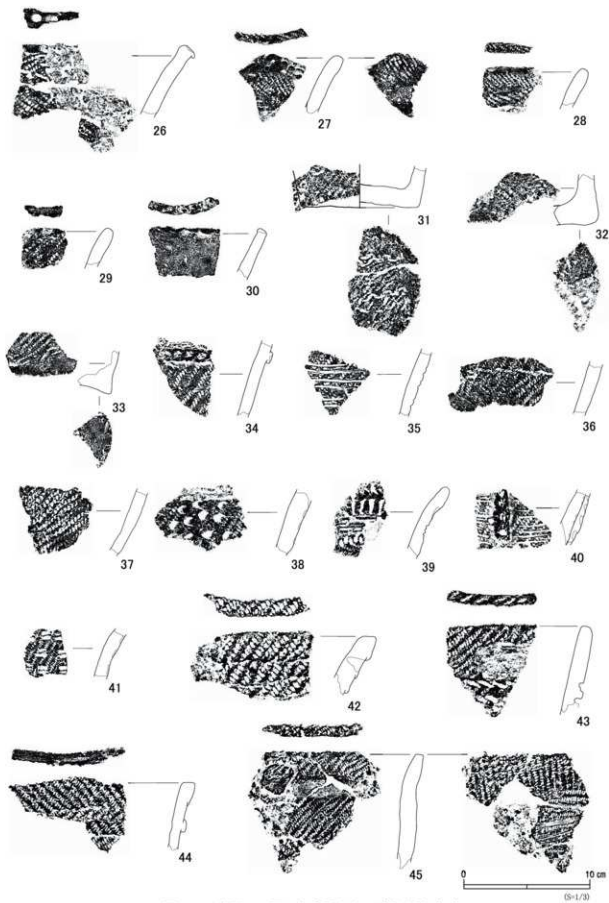


図84 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (2)

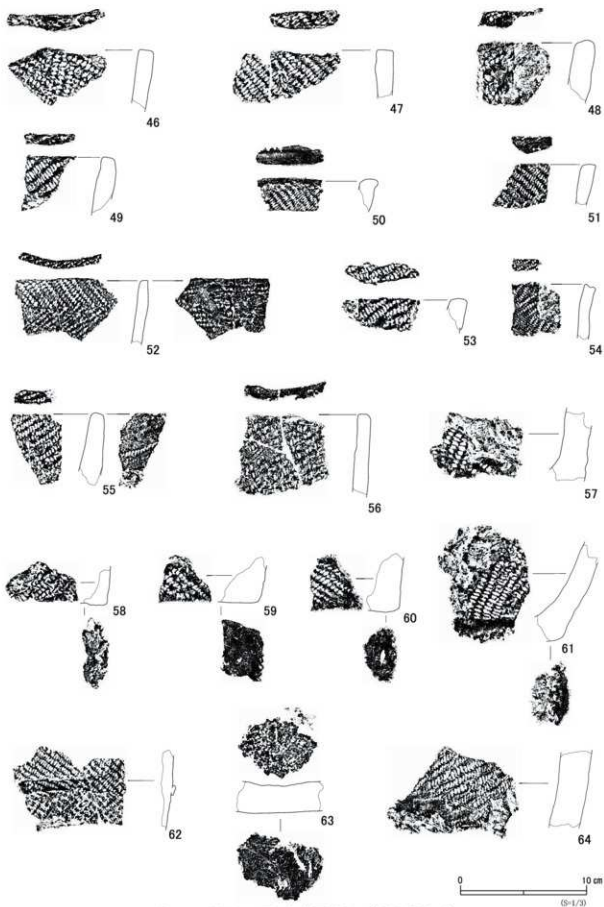


図85 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (3)

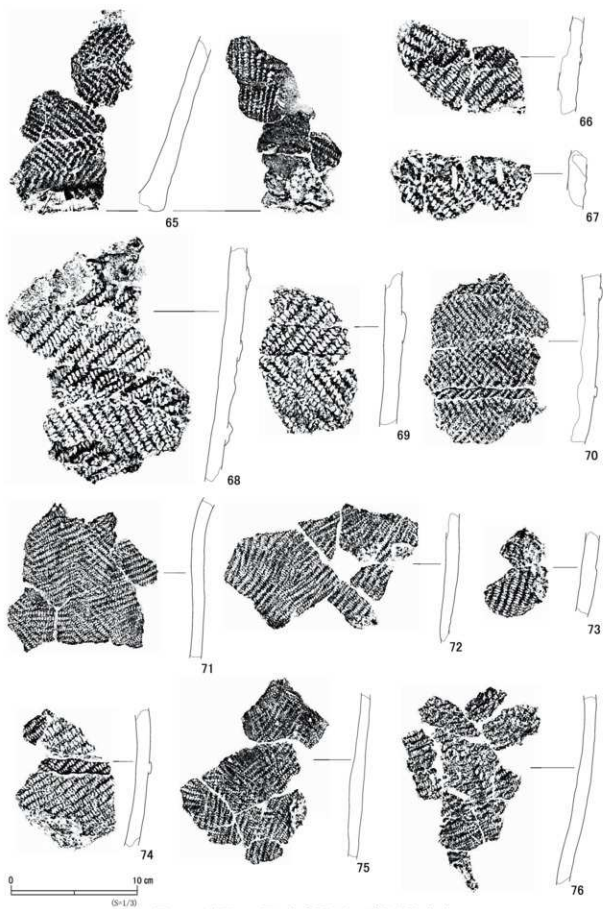


図86 B地区 V層 包含層出土の破片土器(4)

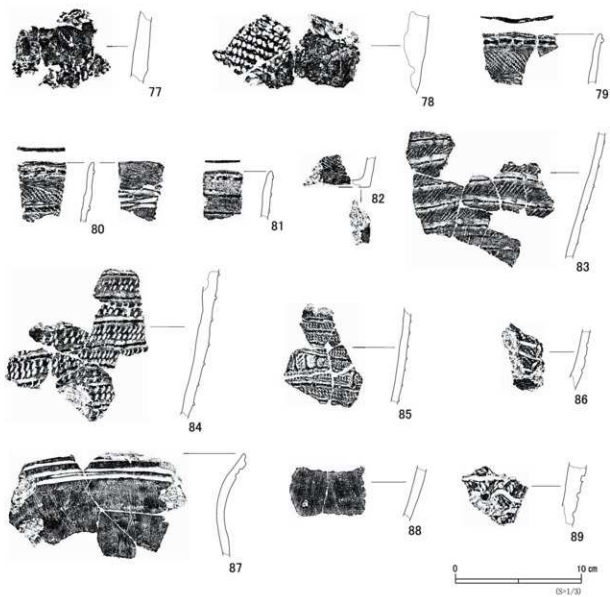


図87 B地区 V層 包含層出土の破片土器 (5)

地文は結束第1種の羽状縄文である。26は口唇部に指頭圧痕によりへこみがみられる。27・28は外面と内面にR L縄文が施され、内面にはミガキ調整がされている。29は口唇部にヘラ状工具による調整がされている。30は無文地にナデ調整がされている。

31～33は底部である。

31は底外面にR L縄文と綾絡文がある。32は底内面に指頭圧痕が残る。33は底外面にミガキ調整が確認できる。

34～41・71・72・75は胴部である。

34は鉱物が多い胎土で、貼付帯に縄端圧痕文がみられる。35はL R縄文地に半載竹管状工具によって沈線文がみられる。36はL R縄文地に綾絡文が確認できる。37の器面はL R L縄文である。38は外面が黒色化し炭化物が付着する。39は器面に押し文が連続して施される。40はL R縄文地に縄端圧痕文が施された貼付があり、半載竹管状工具により沈線文がみられる。41はL R縄文に二又状工具によって、刺突文が確認できる。71の内面にはナデとミガキ調整がみられる。72はL R縄文地である。75は羽状縄文に一部縦回転施文がみられる。

#### 包含層出土のⅣ群土器 (42～70・73・74・76～78)

42～56は口縁部である。

42はL R縄文地に貼付帯が施され、円形刺突文がみられる。43は器面・口唇部ともにL R縄文である。44はL R・R L縄文に貼付帯があり、貼付帯はR L縄文が施されている。45は内面にL R・R L縄文の縦横回転が行われ、沈線文状の調整痕がみられる。46・47はR L縄文地である。48は口唇部にL R縄文にナデ調整が行われている。49はL R縄文に縄線文がみられる。50・51はともにR L縄文が施される。52は器面にL R・R L縄文が羽状に施され、内面・口唇部にL R縄文がみられる。53～55はL R縄文が器面・口唇部に確認できる。56はR R縄文の1段Rの絡条体が施文される。

57～60・61・63は底部である。

57はL R縄文である。58はL R・R L縄文が羽状にみられる。59・60は器面にL R縄文が縦回転されている。61は底外面にナデ調整が行われている。63は底内面にR L縄文とミガキ調整が行われる。

62・64～70・73・74・76～78・86は胴部である。

62は貼付帯があり、R L縄文がみられる。64は外面・内面にナデ調整が行われる。65は内面にL R・R L縄文が確認できる。66の貼付帯はL R縄文である。67はR L縄文地に刺突文が施される。68・69はL R・R L縄文に貼付帯があり、貼付帯はL R縄文がみられる。70の内面は大きく剥離する。73・74はL R縄文地に貼付帯にはL R縄文が確認できる。76はL R縄文地である。77は不整な条が確認できる。78はL R・R L縄文でナデ調整が行われる。86はR L縄文地に沈線文が確認でき、Ⅳ群B類と思われる。

#### 包含層出土のⅠ群土器 (79～85)

79～81は口縁部である。79・80はR L縄文地に微隆起線文があり、80の内面には条痕文がみられる。81は微隆起線文と絡条体圧痕文が施される。82は底部で底外面にはミガキ調整がみられる。83はL R縄文地に微隆起線文があり、絡条体圧痕文がみられる。84は微隆起線文が連続して巡る。85は器面に短縄文と微隆起線文が確認できる。

#### 包含層出土のⅤ・Ⅶ群土器 (87～89)

87はⅦ群の頸部で、器面に沈線文がありナデ・ミガキ調整がされている。88はⅦ群の胴部で外面・内面にミガキ調整が確認できる。89はⅤ群と考えられる胴部片で、L R縄文地に沈線文がみられる。



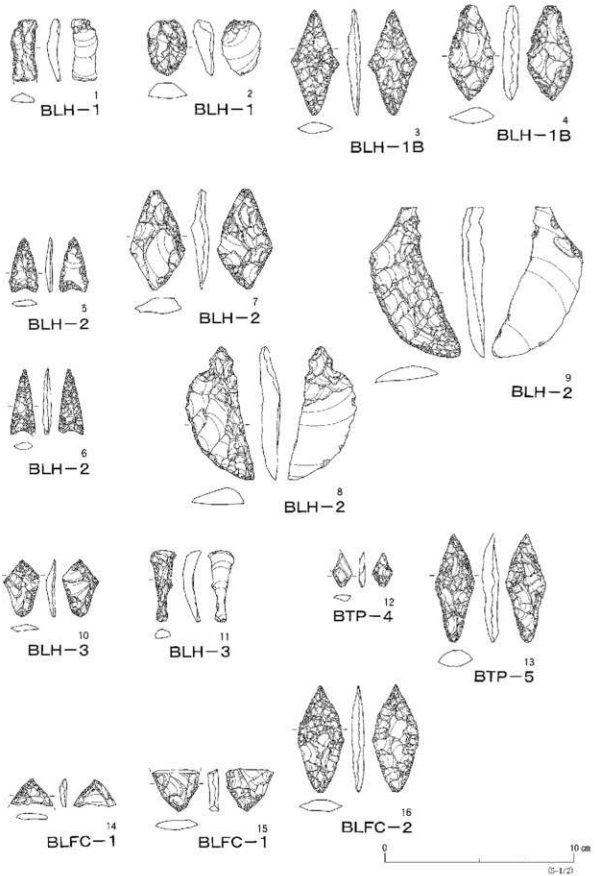


図88 B地区 V層 遺構出土の剥片石器

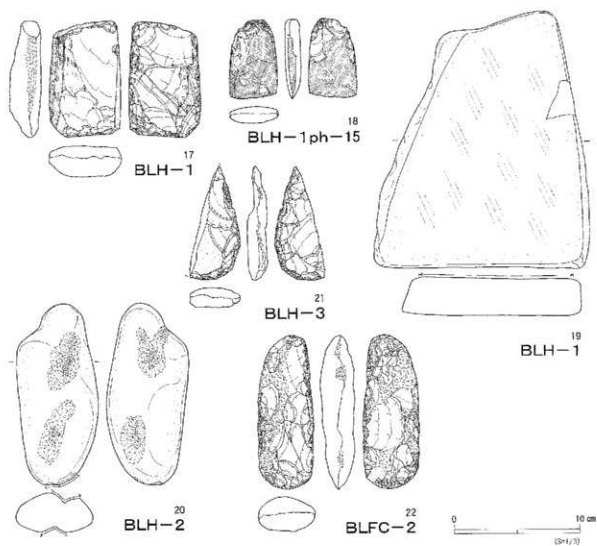


図89 B地区 V層 遺構出土の礫石器

## (2) 石器等

## 遺構出土石器 (1~22)

## 剥片石器 (図88 表82 図版48)

1・2はBLH-1出土で、ともにスクレイパーである。1は背面両側縁に刃部があり、下部が破損している。2は背面周縁に刃部があり、背面に一部原礫面を残す。3・4はBLH-1B出土で、石槍・ナイフである。3は背面に高まりを残す。4は両面に広い剥離面がある。5~9はBLH-2出土である。5・6は石鏃で、5は腹面に広い剥離面を残す。6は梨肌状であり、背面右側縁の基部が破損している。7は石槍・ナイフで、背面に広い剥離面がある。8・9はつまみ付きナイフであり、背面周縁に刃部がある。9は背面左側縁のつまみ部分が破損している。10・11はBLH-3出土である。10は石鏃で背面に高まりがあり、腹面に広い剥離面がある。11はスクレイパーで両側縁に刃部が確認できる。12はBTP-4出土の石鏃で、両面に剥離痕があり背面左側縁が破損している。13はBTP-5出土の石鏃で左右対称な形状である。14・15はBLFC-1から出土した石鏃で薄い。14は先端部のみで、腹面に広い剥離痕がみられる。15は先端部が破損し、両面に剥離痕がある。16はBLFC-2出土の石槍・ナイフで左右対称な形である。

## 礫石器 (図89 表82 図版48)

17~19はBLH-1から出土した。17は磨製石斧で、敲打痕と剥落痕が確認される。18はBLH-1p h-15出土の磨製石斧で、上部から刃部まで細かく研磨されている。19は台石・石皿で表面全体が剥離し、被熱が確認できる。20はBLH-2出土のたたき石で、両面に凹状のたたき痕がある。21はBLH-3出土の磨製石斧で、敲打痕と剥落痕が顕著で原礫面を残す。22はBLFC-2出土の磨製石器で、全面に敲打痕が確認できる。

## 包含層出土石器 (1~131)

## 剥片石器 (図90~93 表82 図版43~45)

1~15は石鏃である。1は腹面に広い剥離面がある。2は長身で基部が長い。3は腹面に剥離面がある。4は小型で基部を破損している。5は赤色化している。6は背面左側縁の破損がみられる。7は多量の小球果が筋状にみられる黒曜石裂で、基部が内湾する。8は腹面に高まりが確認できる。9は薄く、基部が内湾する。10は先端部が破損する。11は背面に高まりがみられ、基部が破損する。12は長身で基部が破損している。13は小型である。14は長身である。15は基部が内湾し、背面左側縁が破損する。16~20は石槍・ナイフである。16は両面に広い剥離痕がある。17は背面に高まりがみられる。18は左右非対称である。19は小球果が筋状にみられる黒曜石裂で、先端部が破損する。20は両面に厚みがある。21~23は石鏃である。21は上端部・先端部が破損する。22は腹面に加工があり、上端部が破損する。23は背面にふくらみがあり、腹面にも加工が確認できる。24~36はつまみ付きナイフである。24は原礫面があり、つまみ部分が破損している。25は背面・腹面の上半部に加工がみられる。26は背面右側縁が破損し、黒色化している。27は腹面つまみ部分に加工がある。28は赤色化し、背面右側縁が破損する。29は先端部が少し破損している。30は背面に広い剥離痕がある。31は背面周縁に刃部が形成される。32は背面全体に加工がある。33・34は腹面つまみ部分に加工がされる。35は腹面にも右側縁とつまみ部分に加工が確認できる。36は腹面左側縁とつまみ部分に加工がある。37~46はスクレイパーである。37は赤色化し小球果がみられる。38は背面両側縁に刃部が確認できる。39は背面右側面に刃部があり、左側縁には原礫面が残る。40は背面に広い剥離痕がある。41は上下が破損し、両側縁に刃部がみられる。42は両面に加工があり、腹面左側縁に刃部が確認される。43は背面周縁に刃部があり、原礫面を残す。44は小球果が筋状に残る黒曜石裂で、背面下部に刃部がある。45は両面

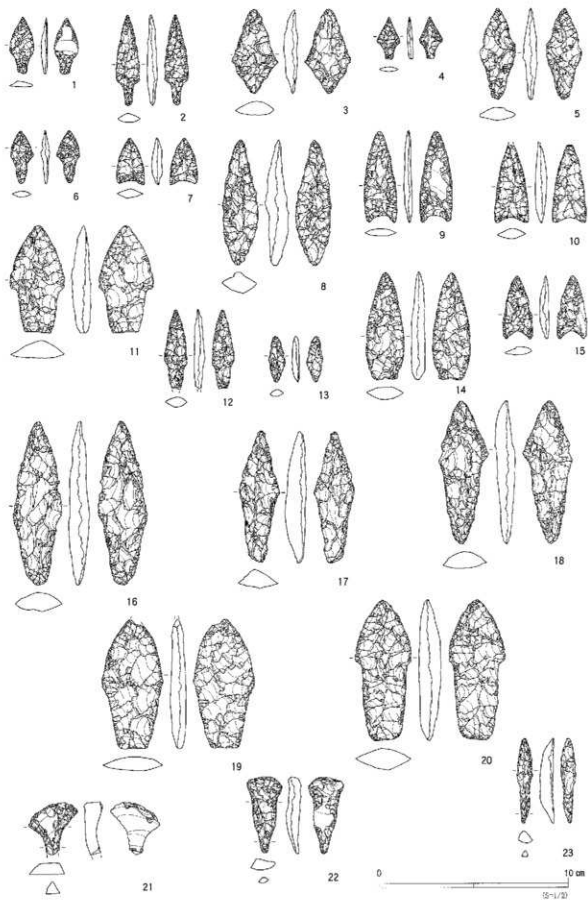


図90 B地区 V層 包含層出土の剥片石器(1)

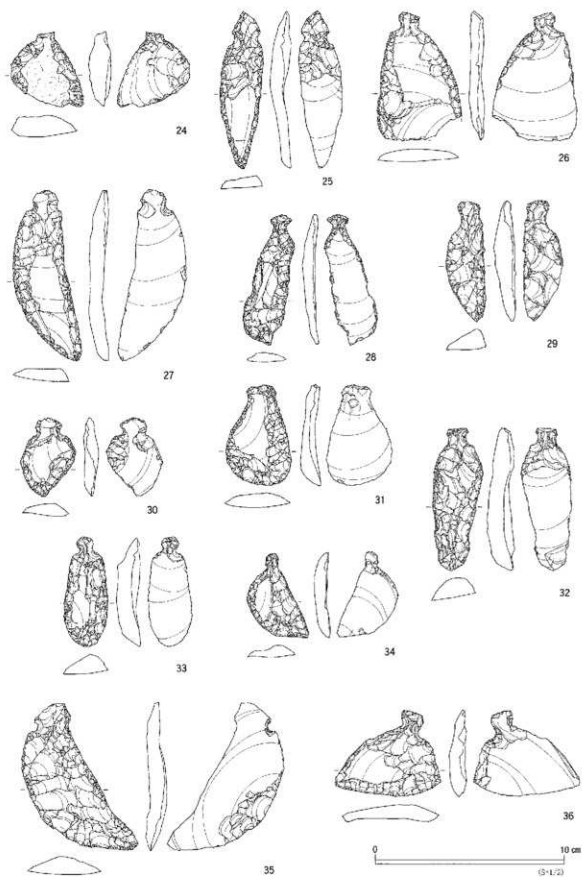


図91 B地区 V層 包含層出土の剥片石器(2)

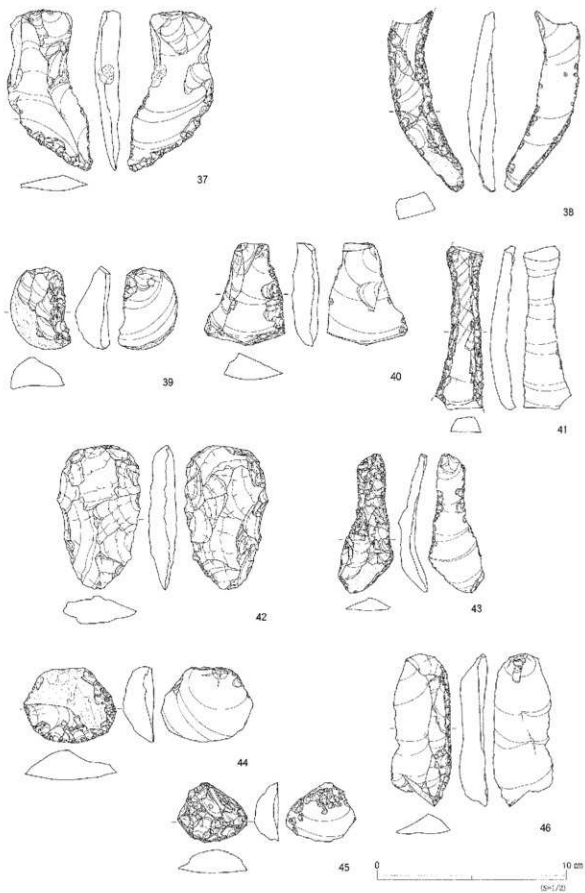


図92 B地区 V層 包含層出土の剥片石器(3)

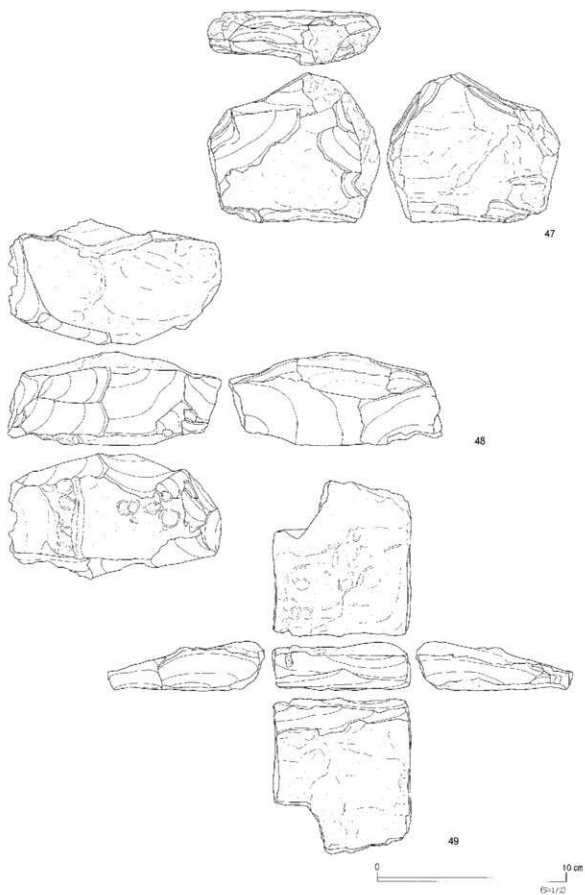


図93 B地区 V層 包含層出土の剥片石器(4)

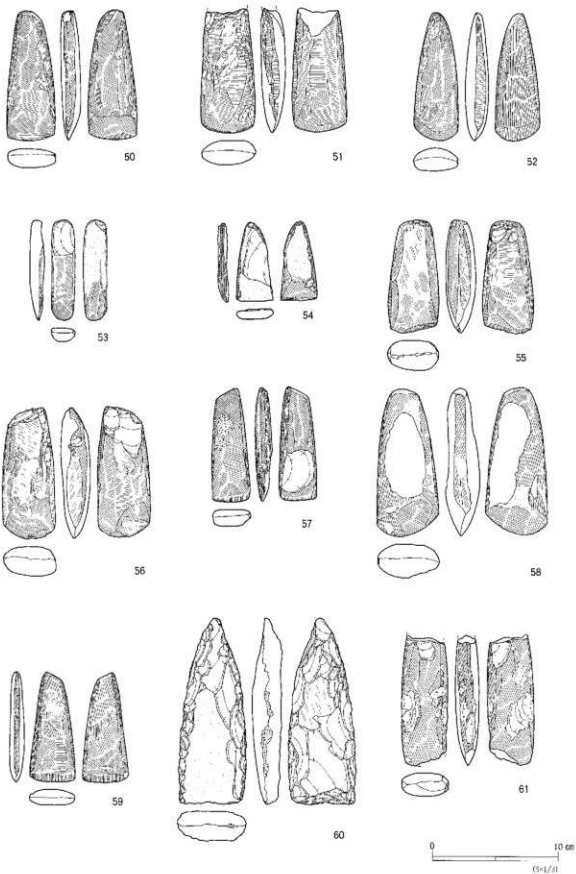


図94 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (1)



に被熱によるはじけが確認できる。46は背面に広い剥離痕がある。47～49はチャート製の石核で、原礫面と剥離面がみられる。

#### 礫石器 (図94～107 表82 図版48～54)

50～61は磨製石斧である。50は上端部から刃部まで研磨される。51は上端部が破損する。52は全面研磨され、一部剥落が確認できる。53は小型で裏面上端部が剥落し、被熱している。54は上端部から刃部へ広がる形状で、被熱している。55は厚みがある。56は上端部が破損し、剥落している部分もある。57は擦切り技法が行われている。58は両面が広く剥落している。59は薄く、擦切り技法が行われている。60は全面に敲打痕と剥離痕がみられる。61は上端部と刃部が破損する。62～74はたたき石である。62は断面が三角形で全面に凹状のたたき痕がみられる。63は上下面が破損し、裏面左側にたたき痕がある。64は断面が正方形で、各面に凹状のたたき痕がみられる。65は両面にたたき痕が確認できる。66は下部にたたき痕がある。67は両面にたたき痕があり、一部剥離している。68は上部が破損し、下部にたたき痕がある。69は両面と下部にたたき痕がみられる。70は上下にたたき痕がみられる。71は形状が長方形で、各面に研磨痕・敲打痕がある。72は主に上下面にたたき痕がみられる。73は円形を呈し、全面にたたき痕が確認できる。74は花崗岩製で表面右側にたたき痕がある。75～83はすり石である。75は下部にすり面があり、被熱している。76は表面右側が破損している。77は下部にすり面がある。78は小型で表面にすり面がみられる。79は左右が破損し、一部黒色化する。80は上部にたたき痕が確認できる。81は裏面が剥離する。82はすり痕付近に剥離がみられる。83は下部にすり面があり、裏面が剥離する。84～96は北海道式石冠である。84は主に側面・裏面に敲打による加工がされている。85は上部・側面に敲打痕が残る。86は下部にすり面がみられる。87・88は両側面に敲打痕がある。89は被熱している。90は上下にすり面があり、側面に敲打による加工が行われている。91は上部のみで、側面に加工がみられる。92は下部が破損し、上下にすり面がある。93は上部・側面に加工が確認できる。94は下部にすり面があり、両面は研磨されている。95は側面に敲打痕が残る。96は表面右側が破損する。97～102は石錘で、左右敲打による加工がされている。97は上部に敲打痕があり、下部は破損する。98は裏面が剥離する。99は表面右側が破損する。100は下部が破損する。101は裏面に破損がみられる。102は凝灰岩製で小型のものである。103～112は砥石である。103はすり面が2か所あり、上下破損する。104は両面にすり面があり、一部黒色化する。105は両面がすり面である。106・107は裏面が破損する。108は両面にすり面があり、被熱している。109は棒状にすり面があり、裏面に礫面を残す。110はゆるやかな凹状のすり面がある。111・112はすり面があり、上下と裏面が破損する。113～121は台石・石皿である。113は両面に凹状のたたき痕がみられる。114は片麻岩製で中央にすり面が確認できる。115はたたき痕がある。116はすり面があり、一部黒色化する。117はたたき痕が数か所ある。118は大型で、ゆるやかなすり面がある。119は広いたたき痕が残る。120は大型で中央にすり面がある。121はたたき痕がある。

#### 石製品 (図108 表82 図版45)

122は小型の磨製石斧で、上端部から刃部まで研磨される。123は蛇紋岩製の玉で、裏面は剥離している。124は黒曜石製の棒状原石で、各面原礫面がみられる。125は小型の石錘で、左右敲打による加工がされている。126はチャート製の原石である。127はタルク岩製の玉で、全面研磨がみられる。128は石錘で左右に敲打によって加工が行われる。129は砂岩製のいかり石で、表面と左側にたたき痕がある。130は小型の磨製石斧で、上端部から刃部へ広がる形状である。

(奥山さとみ)

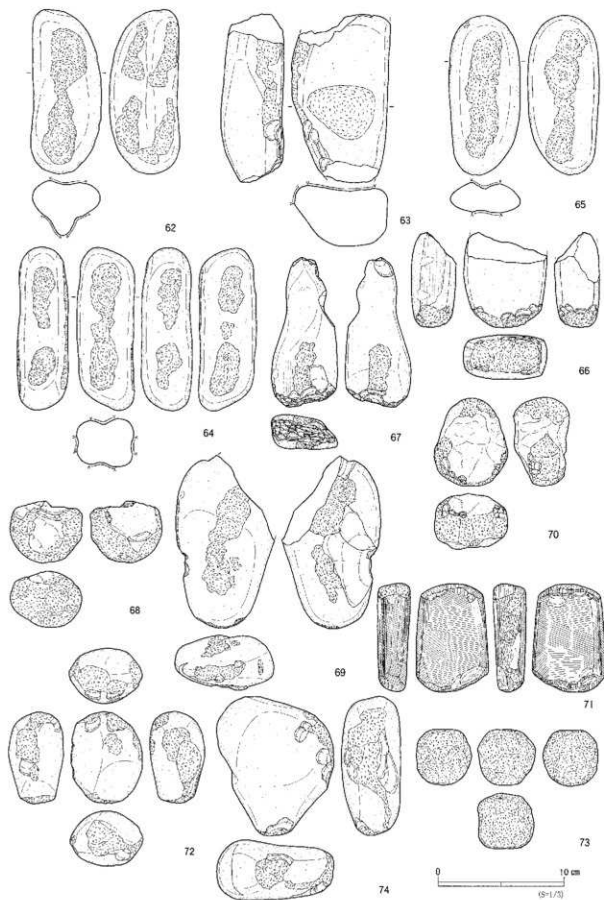


図95 B地区 V層 包含層出土の礫石器(2)

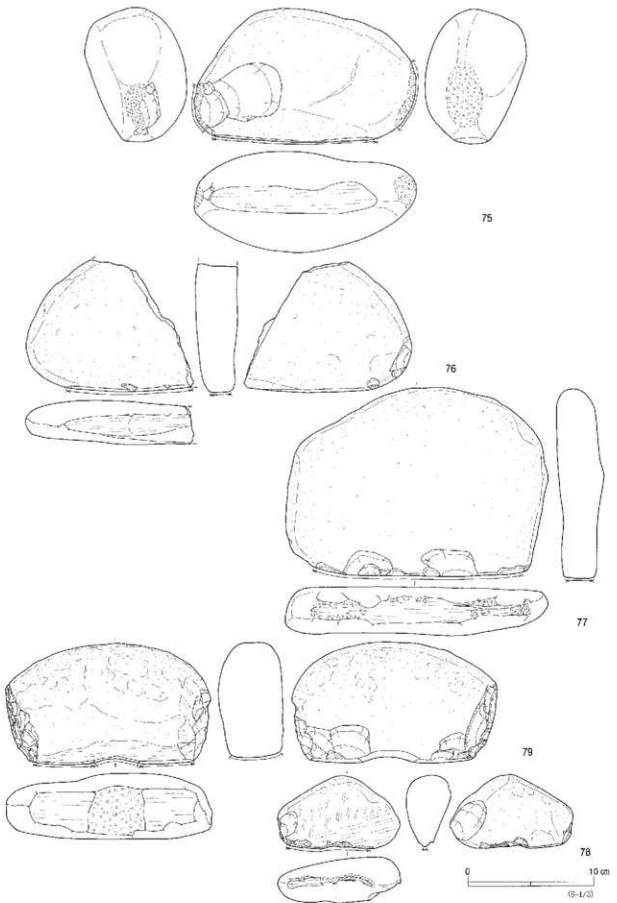
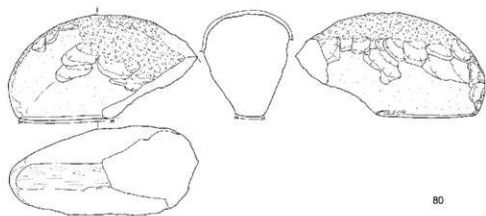
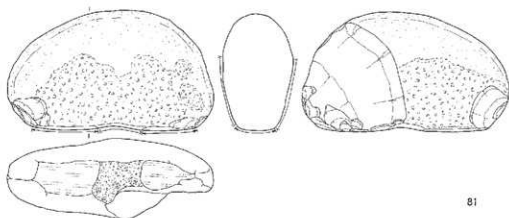


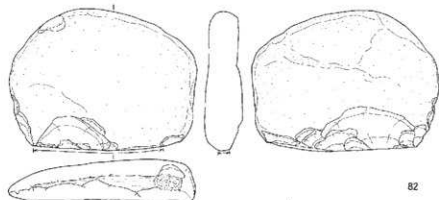
図96 B地区 V層 包含層出土の礫石器(3)



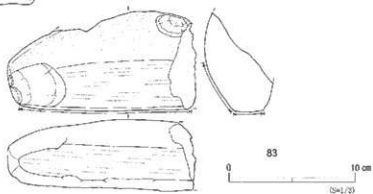
80



81



82



83



図97 B地区 V層 包含層出土の礫石器(4)

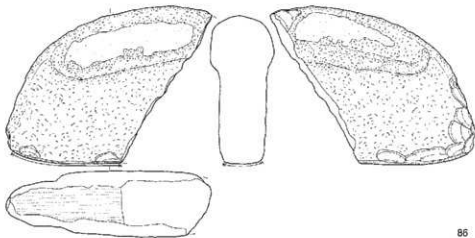
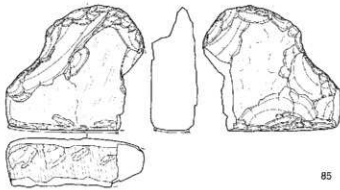
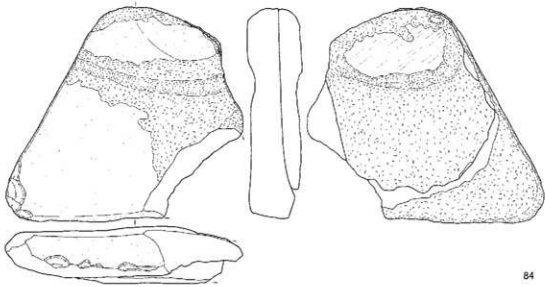
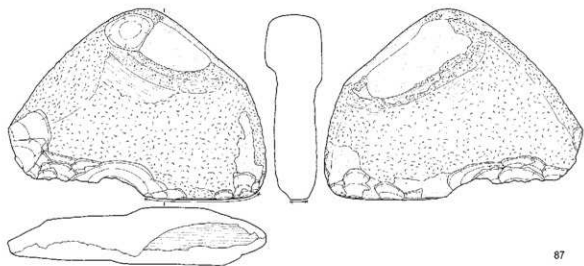
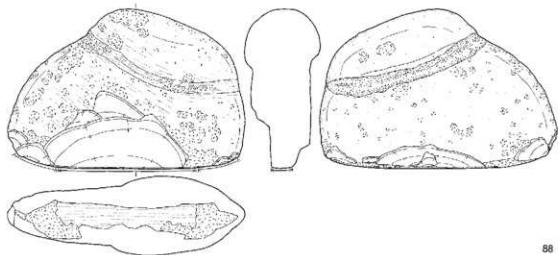


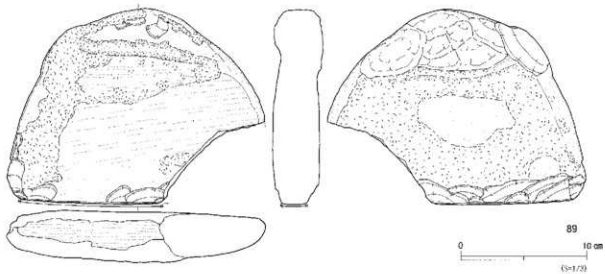
図98 B地区 V層 包含層出土の礫石器(5)



87



88



89

0 10 cm  
(s=1/3)

図99 B地区 V層 包含層出土の礫石器(6)

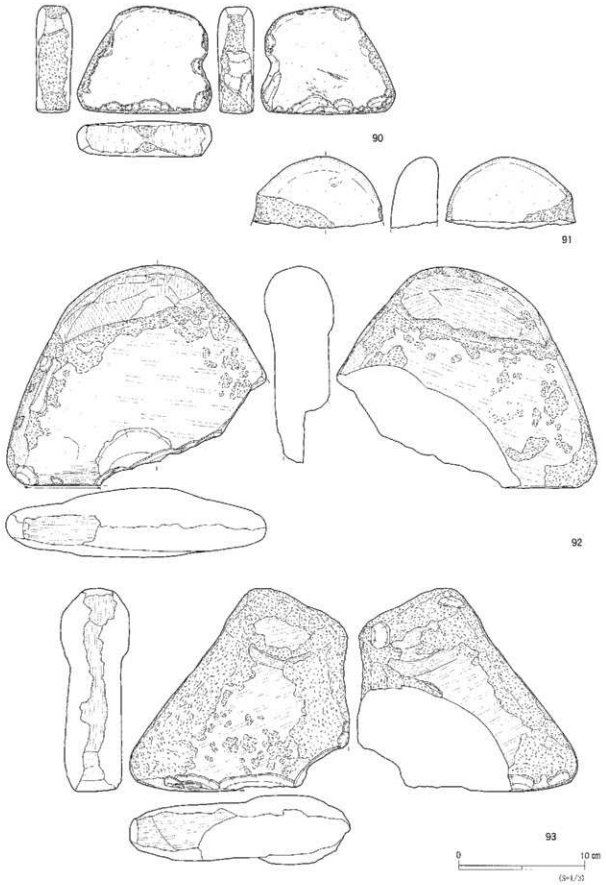
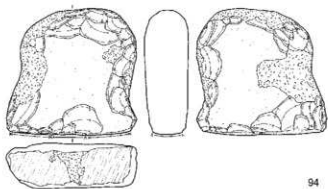
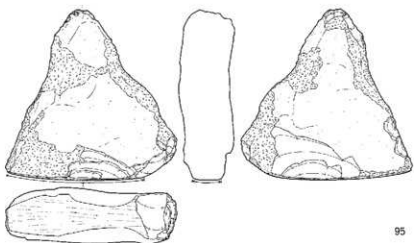


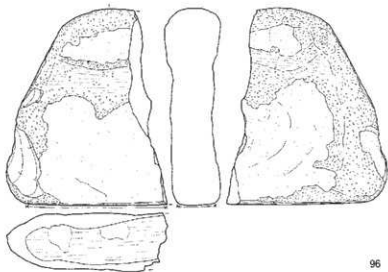
図100 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (7)



94



95



96



図101 B地区 V層 包含層出土の礫石器(8)



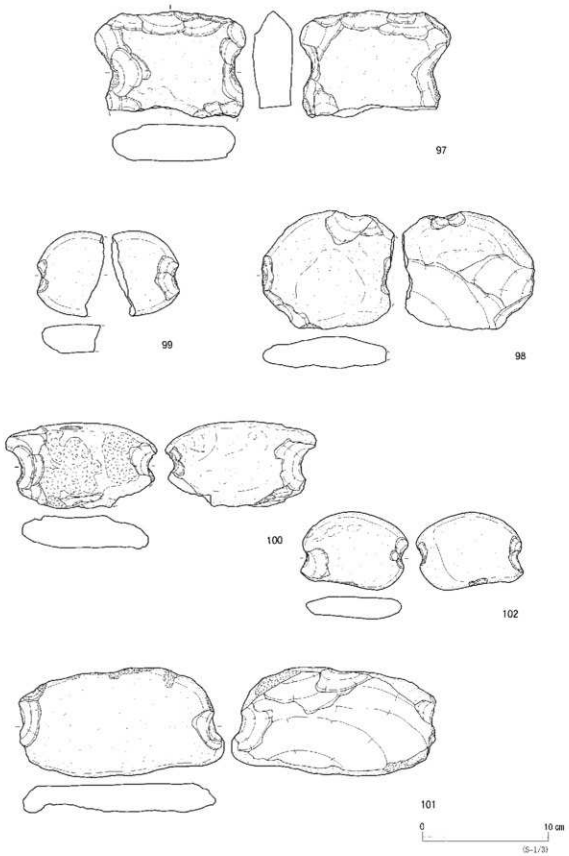


図102 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (1)

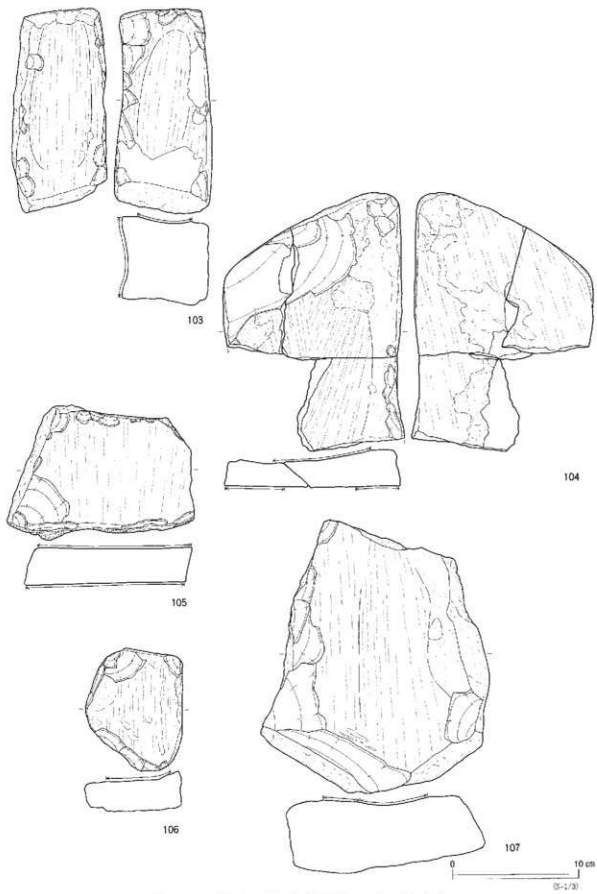


図103 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (10)

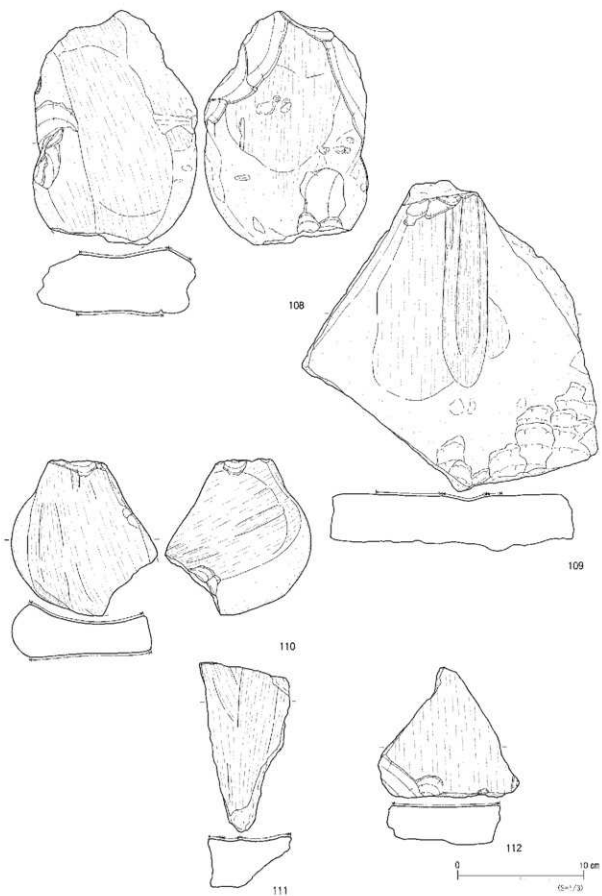


図104 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (11)

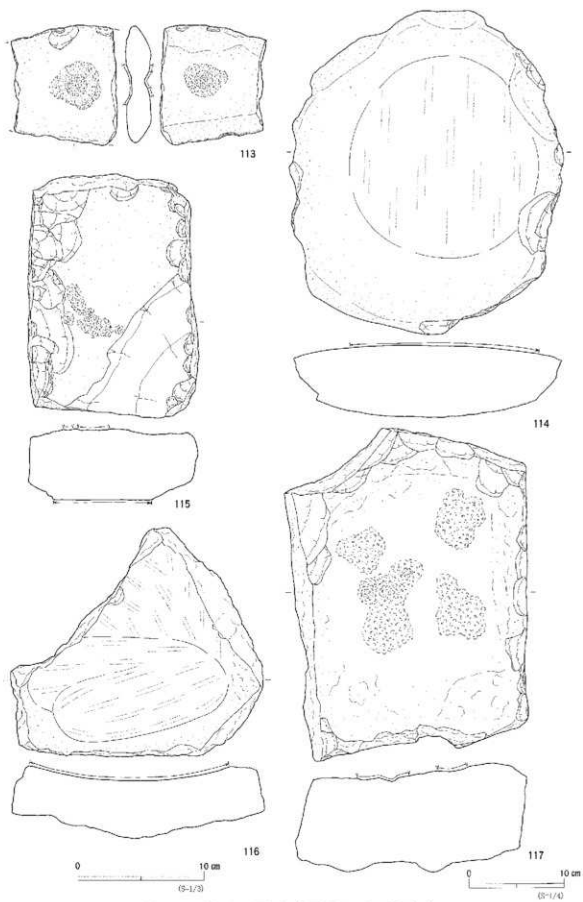


図105 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (12)

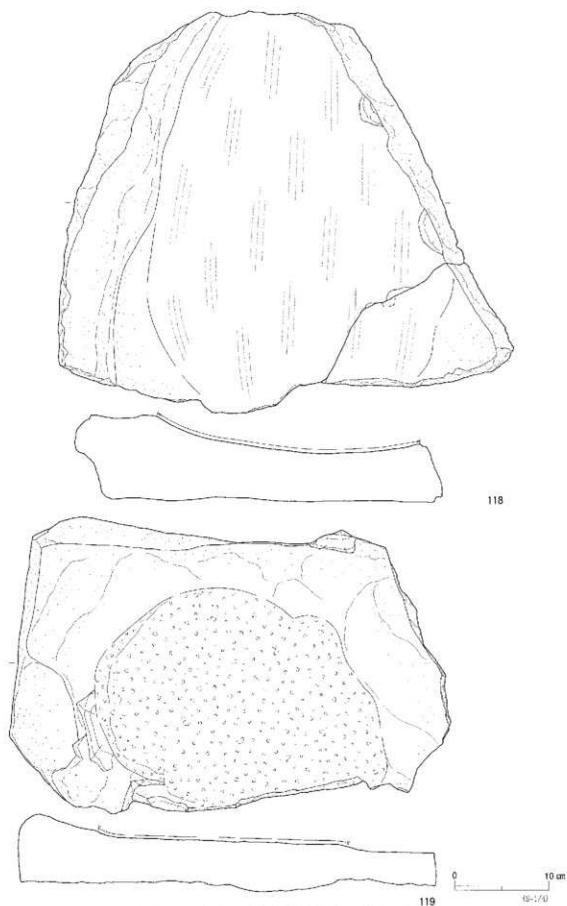


図106 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (13)

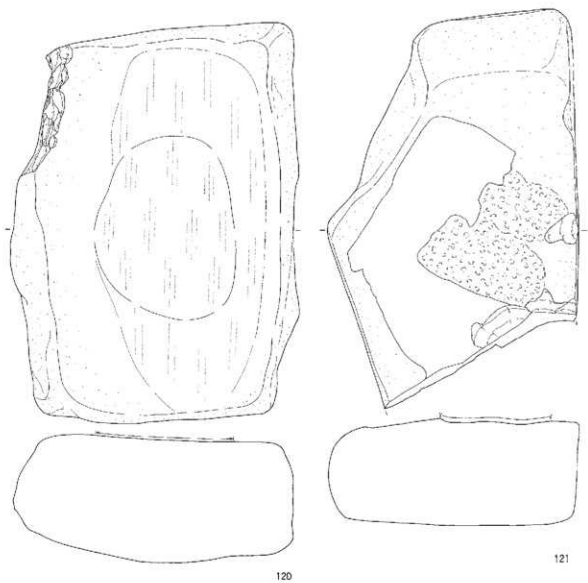


図107 B地区 V層 包含層出土の礫石器 (14)

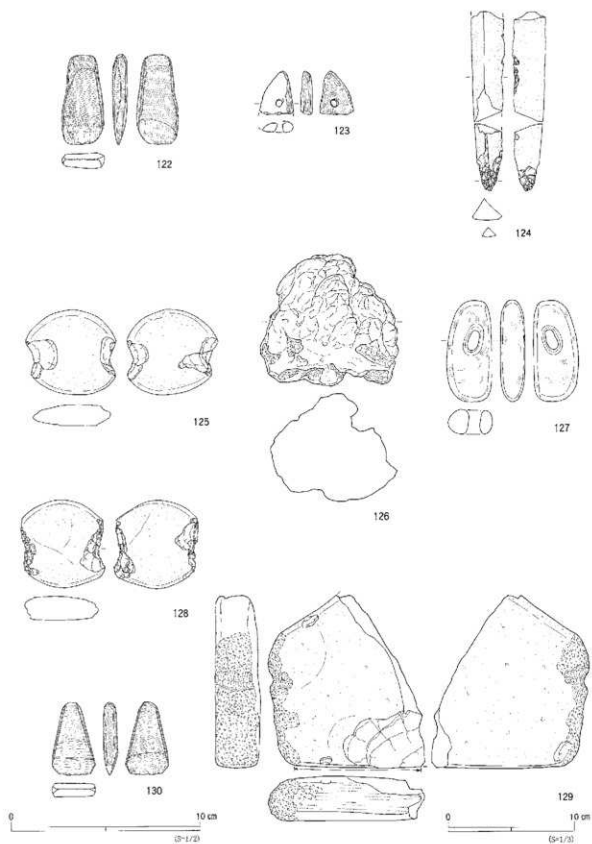


図108 B地区 V層 包含層出土の石製品

表49 B地区 V層 掘り上げ土一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	平面 形状	規模 (m)			出土遺物			関連する 遺構	備考
					長径	短径	最大厚	土器	石器等	その他		
BLM-1	63	1	L-O- 28・29区	不整形	9.15	(3.15)	0.16	IV群	U・Rフレイク フリート 磨製石斧 たたき石 磁石 U・Rレキ レキ	BLH-1 BLH-3	BLH-1周囲の 掘り上げ土	

表50 B地区 V層 竪穴住居跡一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	平面 形状	規模 (m)			付属 遺構	基礎層				出土遺物			備考				
					長径	短径	最大厚		切石	切られぬ	遺構	薪炭	土器	石器等	その他					
BLH-1 全層 土層部分					長径	短径	最大厚													
BLH-1A					2.88	0.82	0.20	0.20	0.40											
BLH-1B					0.40	0.40	0.10	0.10	0.40											
BLH-1C					0.20	0.10	0.10	0.10	0.40											
BLH-1D					0.40	0.20	0.10	0.10	0.20											
BLH-2					0.2	0.2	0.1	0.1	0.10											
BLH-3					0.28	0.28	0.10	0.10	0.10											
BLH-4					0.28	0.28	0.10	0.10	0.10											

表51 B地区 V層 竪穴住居跡付属遺構一覽表

遺構	付属 遺構名	種類	住居跡	図	図版	形状		規模 (m)			土器	出土遺物			備考				
						平面	断面	基礎面 長径	基礎面 短径	基礎面 最大厚		石器等	その他						
hp-1	先端部 ピット	C		64	24	円形	曲線的	0.30	0.90	0.20	0.25								
hp-2		B				円形	曲線的	0.82	0.71	0.05	0.49								
hp-3	軸上の土坑?	不明		65		円形	不明	0.90	0.66	0.60	0.49								
hp-4		不明				円形	平直	0.72	0.62	0.36	0.40								
ph-1		C				円形	尖	0.18	—	—	0.27								
ph-2		B?C?				円形	丸	0.14	0.02 / 0.02	0.02	0.32								
ph-3		B				円形	隅丸	0.11	0.02	0.26	0.18								
ph-4		B?C?				円形	尖	0.06	—	—	0.27								
ph-5		B				円形	尖	0.08	—	—	0.36								
ph-7		B?C?				円形	隅丸	0.09	0.03	0.28	0.18								
ph-8		B				円形	尖	0.04	—	—	0.19								
ph-9		C?D?				円形	尖	0.05	—	—	0.18								
ph-10		C?D?				円形	尖	0.08	—	—	0.20								
ph-11		C?D?				円形	平直	0.18	0.14	0.18	0.18								
ph-12		B?C?D?				円形	丸	0.07	0.02	0.19	—								
ph-13		B?C?D?				円形	尖	0.10	—	—	0.30								
ph-14		B?C?D?				円形	隅丸	0.12	0.04	0.06	—								
ph-15		B?C?				円形	尖	0.07	—	—	0.18								
ph-16		B?C?				円形	尖	0.07	0.01	0.17	—								
ph-17		B?C?				円形	平・尖	0.12	0.02 / 0.11	0.11 / 0.16	—								
ph-18		B				円形	丸	0.11	0.02	0.32	—								
ph-19		A?C?																	
ph-20		A				円形	平	0.11	0.05	0.28	—								
ph-21		A?C?				円形	平	0.15	0.08	0.13	—								
ph-22		A				円形	尖	0.08	—	—	0.18								
ph-23		A				円形	尖	0.09	—	—	0.13								
ph-24		C?D?				円形	丸	0.11	0.01	0.26	—								
ph-6	外部 竪穴・竪穴	B				円形	丸	0.08	0.02	0.18	—								
BLH-2	先端部 ピット			66	28	円形	—	0.72	0.53	0.34	0.38								
ph-1	竪穴・竪穴					円形	尖	0.06	—	—	0.18								
ph-2						円形	尖	0.10	—	—	0.58								
BLH-3	先端部 ピット			68	27	円形	—	0.72	0.62	0.57	0.43								
hp-1	伊勢 焼土				27	円形	—	0.69	0.39	0.25	0.16								
BLH-4	土器集中 炭化物集中1 炭化物集中2			69	27	円形	—	0.38	0.38	—	0.17								
						不明な円形	—	0.38	0.56	—	—								
						円形	—	0.10	0.10	—	—								



表52 B地区 V層 土坑一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考	
					確認面		底面・坑底面			最大深	土器	石器等		その他
					長径	短径	長径	短径						
B L P - 1	70	29	H-24・25区	円形	1.89	1.74	1.51	1.42	0.36	—	IV群	U・Rレンキ レンキ	—	—
B L P - 2	70	29	Z-29区 (土坑状の落ち込み)	円形	1.76	1.43	1.61	1.18	0.21	土坑状の落ち込み	—	磨製石斧 たたき石 磁石 台石 石皿 U・Rレンキ	炭化物	放射性炭素 年代測定 IK3-12
B L P - 3	66	26	b-31区 (離集中)	楕円形	0.72	0.53	0.54	0.38	0.27	離集中	—	フレイク たたき石 すそ石 磁石 台石・石皿 U・Rレンキ	—	B L H-2の 先端部ビット (軸上の土坑)

表53 B地区 V層 Tピット一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態		規模 (m)				付属遺構	出土遺物			備考	
				確認面	坑底面	確認面		底面			最大深	土器	石器等		その他
						長径	短径	長径	短径						
BTP-1	71	29・31	N・O -21区	溝状	溝状	2.67	0.81	2.41	0.30	1.12	不明	—	フレイク U・Rレンキ	—	—
BTP-2	71	30・31	M-27区 N-26・27区	溝状	溝状	3.26	0.60	2.83	0.34	0.94	—	—	U・Rレンキ	—	—
BTP-3	72	29・30	V・W -29区	楕円形	長楕円形	1.59	1.10	1.02	0.37	1.15	柱穴・杭穴 s p - 1 ~ 5	—	フレイク 磁石 U・Rレンキ	—	—
BTP-4	72	31・32	R-33区	溝状	溝状	3.22	0.78	2.96	0.12	1.19	—	II群	石鏝 U・Rフレイク フレイク レンキ	—	上位に B L P C - 1
BTP-5	73	29・30 ・32	Y・Z -28区	楕円形	楕円形	1.60	1.11	1.15	0.55	1.01	柱穴・杭穴 s p - 1・2	—	磨製石斧 たたき石 U・Rレンキ レンキ	—	—
BTP-6	73	30・31	L・M -27区	長楕円形	溝状	2.41	1.00	2.15	0.20	1.08	—	—	磨製石斧	—	—
BTP-7	74	30・31	L-26区	溝状	溝状	2.68	0.81	2.06	0.25	1.15	—	—	—	—	—
BTP-8	74	30・32	W- 26・27区	楕円形	長楕円形	1.44	0.98	1.07	0.36	0.97	柱穴・杭穴 s p - 1 ~ 4	—	石鏝 U・Rレンキ	—	—
BTP-9	75	31・32	S・T -35区	溝状	溝状	2.81	0.76	2.33	0.18	1.15	—	—	—	—	—
BTP-10	75	31・32	P・Q -32区	溝状	溝状	2.98	0.81	2.51	0.24	1.13	—	—	—	—	—
BTP-11	76	31・32	O・P -30区	溝状	溝状	2.82	0.69	2.50	0.24	0.96	—	—	—	—	—
BTP-12	76	31・32	N・O -29区	溝状	溝状	3.00	0.64	2.58	0.19	0.98	—	—	—	—	—
BTP-13	77	30・32	V-35区	楕円形	楕円形	1.82	0.99	1.40	0.48	1.00	—	—	—	—	—

表54 B地区 V層 Tピット付属遺構一覽表

遺構名	付属遺構名	種別	図	図版	形態		規模 (m)			特徴	出土遺物	備考
					平面	断面	確認面	坑底面	最大深			
BTP-3	s p - 1	柱穴・杭穴	72	—	円形	丸	0.03	—	0.03	—	—	—
	s p - 2				円形	丸	0.02	—	0.04	—	—	—
	s p - 3				円形	丸	0.08	—	0.13	—	—	—
	s p - 4				円形	丸	0.03	—	0.06	—	—	—
	s p - 5				円形	丸	0.05	—	0.09	—	—	—
BTP-5	s p - 1	柱穴・杭穴	73	32	円形	尖	0.06	—	0.24	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.05	—	0.10	—	—	—
BTP-8	s p - 1	柱穴・杭穴	74	—	円形	尖	0.02	—	0.04	—	—	—
	s p - 2				円形	尖	0.06	—	0.18	—	—	—
	s p - 3				円形	丸	0.05	—	0.08	—	—	—
	s p - 4				円形	丸	0.03	—	0.06	—	—	—

表55 B地区 V層 石組炉一覽表

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	構造種別	平面形態	規模 (m)				最大深	焼土色調 色名 マンセル 表色系	主な 出土遺物	付属遺構 関連する遺構	備考
							確認面		底面						
							長径	短径	長径	短径					
B L F R S - 1	78	33	P・Q -30区	V3層 掘り方 Te-02	右舷 楕円形	楕円形	0.81	0.65	0.59	0.43	0.18	—	石鏝 すり石 石皿 U・Rレンキ レンキ	—	—
					楕円形	楕円形	0.84	0.65	0.59	0.43	0.17	—			
					楕円形	楕円形	0.83	0.34	—	—	0.19	褐色 T. 0YR 4/1			

表56 B地区 V層 焼土一覽表

遺構名	焼土種別	区	図版	グリッド	破綻層位 (破断層)	平面 形態	焼土色調		規模 (m)			主な 出土遺物	関連する 遺構	備考
							色名	マンセル 値色相	長径	短径	最大 厚			
BLF-1	伊部	78	—	P-37区	V層	円形	褐色	5YR 5 / 6	0.21	0.36	0.66	—	—	—
BLF-2	伊部	78	—	Z-32区	V層	不整な 楕円形	明褐色	7.5YR 5 / 6	0.53	0.38	0.65	—	大規模な 竪穴	—
BLF-3	伊部	78	—	T-25区	V層	不整な 円形	褐色	7.5YR 4 / 6	0.27	0.25	0.64	—	—	—

表57 B地区 V層 フレイク集中一覽表

遺構名	区	図版	範囲 区分	グリッド	層位	平面 形態	規模 (m)		出土遺物			備考
							長径	短径	土器	石器等	その他	
BLFC-1	79	—	分布範囲	R-33・34、 S-33区	V層	不整な 楕円形	3.78	2.41	IV群	石鏃 石槍・ナイフ スクレイパー フリイク 砥石 U・瓦シキ	—	包含層R-33区 多数出土 下位にBTP-4
				楕円形		1.78	1.34					
BLFC-2	79	—	分布範囲	X- 27・28区	V層	不整な 楕円形	2.52	1.84	—	石鏃・ナイフ U・Rフリイク 石核 フリイク 磨製石斧 U・瓦シキ	—	大規模な 竪穴集中
				楕円形		1.72	1.35					
BLFC-3	79	—	分布範囲	A- 20・21区	V層	不整な 楕円形	1.08	0.95	—	スクレイパー フリイク	—	—
				楕円形		0.72	0.56					
BLFC-4	79	—	分布範囲	N・O- 32・33区	V層	不整な 楕円形	1.87	1.29	—	石鏃 石核 フリイク	—	—

表59 B地区 V層遺構出土土器点数表

遺構名	BLP-1		BTP-4		BLM-1		BLFC-1		合計
	遺物種別 / 層位	土器	遺物種別 / 層位	土器	遺物種別 / 層位	土器	遺物種別 / 層位	土器	
時期	部位	残存状況	遺物種別 / 層位	土器	遺物種別 / 層位	土器	遺物種別 / 層位	土器	合計
III群	口縁部	残存部位	0	0	0	0	0	0	0
		良好							
		剝離							
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片							
	底部	良好							
		剝離							
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片							
		不明							
	胴部	良好							
		剝離	0	2	0	0	0	0	2
		磨耗							
		小破片							
		不明	0	0	0	0	0	0	0
不明	良好								
	剝離								
	磨耗	0	0	0	0	0	0	0	
	小破片								
	小計	0	0	2	2	0	0	0	2
IV群	口縁部	残存部位	0	0	0	0	0	0	0
		良好							
		剝離							
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片							
	底部	良好							
		剝離	0	0	0	0	0	0	0
		磨耗							
		小破片							
		不明							
	胴部	良好							
		剝離	1	0	2	2	1	2	4
		磨耗							
		小破片	1			1		2	
		不明							
不明	良好								
	剝離	0	0	0	0	0	0	0	
	磨耗								
	小破片								
	小計	1	1	0	2	2	1	1	4
不明	口縁部	残存部位	0	0	0	0	0	0	0
		良好							
		剝離							
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片							
	底部	良好							
		剝離	0	0	0	0	0	0	0
		磨耗							
		小破片							
		不明							
	胴部	良好							
		剝離	0	2	0	0	0	0	2
		磨耗							
		小破片							
		不明	0	0	0	0	0	0	0
不明	良好								
	剝離								
	磨耗								
	小破片								
	小計	0	0	2	2	0	0	0	2
合計		1	4	2	2	1	1	6	

表58 B地区 B L H出土土器点数表

遺構名		BLH-1						BLH-2					BLH-3		BLH-4		合計							
遺物種別 / 層位		—		A	B	合計	覆土 B	覆土 BR	覆土 G	覆土 R	床面	合計	覆土	覆土 BR	合計	覆土		床面	合計					
時期	部位	残存状態	覆土 B	覆土 BR	床面												付属 遺構			覆土 B	覆土 B			
I 群	口縁部	覆数部位										0							0					
		良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
	底部	良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
		良好																		0				
	胴部	良好											1							1				
		割壊 磨耗 小破片											1							1				
		良好																		0				
	不明	良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
		良好																		0				
	小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1				
	II 群	口縁部	覆数部位											0						0				
良好													1							1				
割壊 磨耗 小破片														1						1				
底部		良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
		良好																		0				
胴部		良好											10	1	1	3	2			17				
		割壊 磨耗 小破片																		0				
		良好																		0				
不明		良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											1							1				
		良好											2							2				
小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	1	1	3	2	21	0	2	2	212	21	233	256
IV 群		口縁部	覆数部位																		0			
	良好												1							1				
	割壊 磨耗 小破片													1						1				
	底部	良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
		良好																		0				
	胴部	良好																		3				
		割壊 磨耗 小破片											17		1					18				
		良好																		0				
	不明	良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片																		0				
		良好																		0				
	小計		0	0	0	0	0	0	17	17	1	0	1	0	0	2	3	0	3	21	0	21	43	
	不明	口縁部	覆数部位																		0			
良好																				0				
割壊 磨耗 小破片													0							0				
底部		良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
		良好																		0				
胴部		良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											1							1				
		良好																		0				
不明		良好																		0				
		割壊 磨耗 小破片											0							0				
		良好																		0				
小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計													17								5		254	301

表60 B地区 大規模な礫集中出土土器点数表

遺物種別 / ワッドラウン		W-27~35区	X-26~35区	Y-27~35区	Z-28~34区	a-28~34区	b-28~33区	c-28~35区	d-30区	合計	
土器		V層	V層・I層	V層・I層	V層	V層・I層	V層・I層	V層・I層	V層		
跡部	部位	保存状態									
I群	種数部位										
	口縁部	良好	1	1	4						6
		割壊									0
		磨耗	1	2	9		0	0	4	0	16
		小破片		1	5						10
	底部	良好							1		1
		割壊	0	1	0	0	0	0		0	1
		磨耗		1						1	0
		小破片									0
	胴部	良好	6	18	15	3			24		116
		割壊			1	23		0	40	258	41
		磨耗	6	30	1	3		0			1
		小破片		11	7				144		162
	不明	良好									0
割壊		0		0	0		0		0	0	
磨耗										0	
小破片										0	
小計		7	33	32	3	0	0	263	0	338	
種数部位											
口縁部	良好	4	1		6	1	6	6		24	
	割壊			1						1	
	磨耗	4	1	1	10	2	8	6	0	32	
	小破片				2					2	
底部	良好			2		3		3		16	
	割壊	0	0	1	3		3	1	17	2	
	磨耗							8		8	
	小破片									8	
胴部	良好	10	21	8	27	23	92	27		208	
	割壊			7	15	66	11	66		127	
	磨耗	1	14	35	7	29	5	15	183	49	
	小破片	3	21	7	19	23	62	38		183	
不明	良好									0	
	割壊	0		0	0		0		0	0	
	磨耗									0	
	小破片									0	
小計		18	56	53	76	83	210	149	0	625	
種数部位											
口縁部	良好	4	4	1			8			17	
	割壊					2	5	15		7	
	磨耗	4	4		1	0	2			0	
	小破片						2			2	
底部	良好			1						1	
	割壊	3	3		1	0	2	27	30	32	
	磨耗							3		3	
	小破片									3	
胴部	良好	31	32			11	32	2		128	
	割壊	18	66	2	6	5	34	87	20	213	
	磨耗	89	142		6	12	14	3	691	22	
	小破片	20	63	4	3	62	11	279		434	
不明	良好									0	
	割壊	0		0	0		0		0	0	
	磨耗									0	
	小破片									0	
小計		96	166	8	12	125	446	22	4	859	
種数部位											
口縁部	良好									0	
	割壊			0	0	0	0	0	0	0	
	磨耗	0	0							0	
	小破片									0	
底部	良好									0	
	割壊	0	0	0	0	1	1	0	0	1	
	磨耗									1	
	小破片									5	
胴部	良好	2					1			5	
	割壊	1		2	8	2	3	6	1	11	
	磨耗									2	
	小破片	2	2	8	2	2	5	10		32	
不明	良好									0	
	割壊	0		0	0		0	0	0	0	
	磨耗									0	
	小破片									0	
小計		5	2	8	2	9	8	11	0	43	
合計		126	237	81	93	217	662	945	4	1,865	

表61 B地区 BLH出土剥片石器点数表

遺構名			BLH-1					BLH-2					BLH-3			BLH-4			合計				
器種	残存状態	岩石	覆土 B	覆土 BR	床面	付属 遺構	A 覆土 B	B 覆土 B	合計	覆土 B	覆土 BR	覆土 G	覆土 R	床面	合計	覆土 B	覆土 R	なし		合計	床面	合計	
石鏝	完形	黒曜石							1		1											2	3
		頁岩							1													1	
	準完形	黒曜石													4	1			1			0	1
		頁岩																				0	2
	片	黒曜石					1															0	1
石棒・ナイフ	完形	黒曜石						2	1													3	3
	準完形														2				0			0	0
	半形																		0			0	0
	片	黒曜石							1													0	0
石鏝	完形														0							0	0
	準完形														0							0	0
	半形														0							0	0
	片														0							0	0
つまみ付き ナイフ	完形	頁岩 砂岩							1													1	2
	準完形														2				0			0	0
	半形																					0	0
	片																					0	0
スクレイパー	完形	黒曜石							1						2				1			1	1
	準完形	頁岩 砂岩										1										1	1
		*	1		1																	0	2
	半形																					0	0
	片																					0	0
U・Rフレイク	黒曜石	2		3	1				6	1		1		2	4		4	1		1	12	12	13
	頁岩					1			1						0	1					1	1	2
石核	黒曜石														0	1					0	2	2
	黒曜石	66	5	1	12	23	21		130	14	2	4	1	1	30	185					0	325	325
フレイク	頁岩 チャート	2								1		3	1								0	3	3
									0						0						0	0	0
原石									0						0						0	0	0
	合計								142						42						1		377

表62 B地区 遺構出土剥片石器点数表

遺構名			BLP-3		BTP-1		BTP-3		BTP-4		BTP-5		BTP-8		BLM-1		BLFRS-1		合計
器種	残存状態	岩石	覆土 BR1	合計	覆土	合計	覆土 B1	合計	覆土	合計	覆土	合計	H層	HBR 層	合計	覆土	合計		
石鏝	完形	黒曜石							1									1	
	準完形		0		0			1		1			0		0		1	0	
	半形	黒曜石														1	1	1	
		黒曜石																1	
	片							1										1	
石棒・ナイフ	完形																	0	
	準完形		0		0				0				0		0		0	0	
	半形																	0	
	片																	0	
石鏝	完形																	0	
	準完形		0		0			0		0		0		0	0		0	0	
	半形																	0	
	片																	0	
つまみ付き ナイフ	完形																	0	
	準完形		0		0			0		0		0		0	0		0	0	
	半形																	0	
	片																	0	
スクレイパー	完形																	0	
	準完形		0		0			0		0		0		0	0		0	0	
	半形																	0	
	片																	0	
U・Rフレイク	黒曜石	0		0		0	1	1		0		0	1		1		0	2	
	黒曜石	0		0		0		0		0	1	1			0		0	1	
フレイク	黒曜石	1		4		4		2,912		1		2	4		175	1	176	0	
	頁岩									1								1	
原石		0		0		0		0		0		0		0	0		0	0	
	合計		1	4		4		2,914		3		5		177	1		1	3,109	

表63 B地区 フレイク集中出土剥片石器点数表

遺跡名	調査年度	W-27-25区		X-26-25区		Y-27-25区		Z-28-25区		合計
		V層	合計	V層	合計	V層	合計	V層	合計	
和歌山	高塚古墳	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	高塚古墳	1	1	0	0	0	0	0	0	1
和歌山-アイフ	高塚古墳	1	1	1	1	0	0	0	0	4
	高塚古墳	1	1	0	0	0	0	0	0	1
つまみけきアイフ	高塚古墳	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	高塚古墳	1	1	0	0	0	0	0	0	1
スクリレイバー	高塚古墳	0	0	0	0	1	1	0	0	1
	高塚古墳	0	0	1	1	0	0	0	0	1
合計		6	6	2	2	1	1	0	0	10

表64 B地区 大規模な礫集中出土剥片石器点数表

遺跡名・発掘/フッドプラン	層位	遺物状態	形状	W-27-25区		X-26-25区		Y-27-25区		Z-28-25区		a-29-24区		b-28-34区		c-29-22区		d-29-21区		合計	
				V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層	V層-1層	V層-2層		
石橋	完物	剥片	---	3		5		8		10		14		2		5		1		49	
			高塚古墳	1				1		1		2		2		1					6
	準完物	剥片	---			1		1		1		1		1		1				7	
			高塚古墳	1		2		2		2		2		2		2		2		2	15
	半物	剥片	---			2		4		7		2		1				1		10	
			高塚古墳	1		2		4		7		2		1				1		2	14
	片	剥片	---			2		3		6		1		1		1				13	
			高塚古墳	1		2		3		6		1		1		1				1	15
	石橋-アイフ	完物	剥片	---			1		1		1		1							2	4
				高塚古墳	1		1		1		1		1								2
準完物		剥片	---					1		1		1							2	2	
			高塚古墳	1		2		1		1		1		1		3		0		1	9
半物		剥片	---			2		1		1		1		1					0	1	9
			高塚古墳	1		2		1		1		1		1						0	1
片	剥片	---			1				1										2	3	
		高塚古墳	1		1				1										1	1	
石橋	完物	剥片	---			0		0		0		0		2		2		0		0	4
			高塚古墳	1		0		0		0		0		2		2		0		0	0
つまみけきアイフ	完物	剥片	---					1				1		1		1		1		5	
			高塚古墳	1				1		1		1		1		1		1		1	5
	準完物	剥片	---			2		5		11		10		12		11		4		3	59
			高塚古墳	1		2		5		11		10		12		11		4		3	59
	半物	剥片	---			1		4		24		17		21		25		10		6	14
			高塚古墳	1		1		4		24		17		21		25		10		6	14
	片	剥片	---			1		2		1		6		4		2				14	
			高塚古墳	1		1		2		1		6		4		2				14	
	スクリレイバー	完物	剥片	---																	3
				高塚古墳	1																
準完物		剥片	---																	17	
			高塚古墳	1																	17
半物		剥片	---			2		2		1		1		2		2				8	
			高塚古墳	1		3		7		10		4		11		12		11		4	0
片		剥片	---			1		1		1		2								5	
			高塚古墳	1		1		1		1		2								5	
ウロレイク		完物	剥片	---			4		6		6		3		2		2			1	20
				高塚古墳	1		5		12		13		17		7		12		11		1
フレイク	完物	剥片	---			118		89		77		88		129		1,223		79		5	1,810
			高塚古墳	1		118		89		77		88		129		1,223		79		5	1,810
	準完物	剥片	---			1		4		3		14		7		12		4		2	32
			高塚古墳	1		1		4		3		14		7		12		4		2	32
	半物	剥片	---			2		2		2		1		2		2				8	
			高塚古墳	1		2		2		2		1		2		2				8	
	片	剥片	---			1		1		1		2		1		1				1	
			高塚古墳	1		1		1		1		2		1		1				1	
	石橋	完物	剥片	---			11		10		10		33		18		18		19		8
				高塚古墳	1		11		10		10		33		18		18		19		8
準完物	剥片	---						1		1		2		2		2				3	
		高塚古墳	1					1		1		2		2		2				3	
片	剥片	---			0		1		1		0		1		1		0		0	2	
		高塚古墳	1		0		1		1		0		1		1		0		0	2	
合計			159		165		207		252		280		1,280		138		23		2,810		









表69 BLM-1 O-29区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	1	35	BLM-1 O-29区	V層	—	3	(16.6)	35.0	—	1,280	口縁～胴部中位	須鉢	IV群・類
接合破片総点数		10	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			O-29区・V層(3), 9-29区・V層(1), 未注記・不明:1							
胎土 (混和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	胎土主体 (有色胎土)		量	多～中量		備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	L.R.L調文		にぶい黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	口 唇 部 (40%)		—					
	R.L調文 黒文帯		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	黒色化 炭化物付着	胎土の 残ざり	口 縁 部 (40～30%)							ナズ
L.R.L・R.L調文		にぶい黄褐色 (10YR7/2)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上平 (15～5%)		ナズ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	面		

表70 B L H-4 出土復原土器観察表 (1)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	2	35	BLH-4	墓土	—	23	(15.5)	38.0	—	2,200	口縁～胴部上位	須鉢	III群・類
接合破片総点数		55	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			BLH-4・塚内(7), 未注記・不明:25							
胎土 (混和材)		織織	少量	粒徑	細～細粒	種類	胎土主体		量	少～中量		備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	小突起 刺突文 ナズ		浅黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	半截竹管状 工具による彫文	口 唇 部 (100%)		—					
	小突起 刺突文 L.R調文 平行波線文		浅黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	半截竹管状 工具による彫文	口 縁 部 (100%)							七びき
	小突起 刺突文 L.R調文 平行波線文		浅黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴 部 (100%)		七びき	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	赤色化? (7.5YR6/6 褐色)	—		
星付帯 L.R調文		浅黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上位 (10%)		七びき	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	—	—	面		

表71 B L H-4 出土復原土器観察表 (2)

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	3	35	BLH-4	墓土	—	4	(19.0)	—	—	1,100	胴部中位～下位	須鉢	IV群・類
接合破片総点数		9	接合・同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			O-34区・V層(3), R-38区・V層(4)							
胎土 (混和材)		織織	無	粒徑	細粒	種類	胎土主体 (白色胎片)		量	少量		備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	L.R調文		にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	胎土の 残ざり	胴 部 中位～下位 (40～60%)		ナズ	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化 炭化物付着	—		面

表72 大規模な礫集中 X-34区出土復原土器観察表

図	番号	断面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	4	33	大規模な礫集中 X-34区	V層	—	9	(14.2)	19.0	—	750	口縁～胴部中位	陶鉢	IV群a型
接合破片破片数			12				接合-同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			大規模な礫集中 X-34区-V層(12), 未注記(不明)1			
胎土 (泥和材)		織理	無		粒径	細粒	種類	砂石主体 (白色系土)		量	少量	備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	L.R7 縄文		にじい・褐色 (7.5Y7/4)	—	—	口唇部 (10%)		—	—	—	—		
	ナデ(弥文) 刷行巻 刷行文		黄褐色 (7.5Y5/2)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 (20%)		ナデ	黄褐色 (7.5Y5/2)	黒色化	—		
内	L.R縄文		にじい・黄褐色 (7.5Y5/4)	—	—	胴部上半 (20~40%)		ナデ	(黄褐色)	黒色化	—	内	

表73 大規模な礫集中 b-29区出土復原土器観察表

図	番号	断面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
80	5	35	大規模な礫集中 b-29区	V層	—	14	41.0	27.0	10.5	2,000	口縁～胴部	陶鉢	IV群a型
接合破片破片数			28				接合-同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			未注記(不明)14			
胎土 (泥和材)		織理	無		粒径	細粒	種類	砂石主体 (白色系土)		量	多量	備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	L.R縄文		にじい・褐色 (7.5Y7/4)	黒色化	—	口唇部 (20%)		—	—	—	—		
	L.R 刷行巻 刷行文		黄褐色 (7.5Y5/2)	黒色化 炭化物付着	粘土の 継目	口縁部 (20~25%)		ナデ	黄褐色 (7.5Y5/2)	—	—		
	L.R縄文		黄褐色 (7.5Y5/2)	黒色化 炭化物付着	粘土の 継目	胴部上半 (15%)		ナデ	黄褐色 (7.5Y5/2)	—	—		
	L.R縄文 ナデ		黄褐色 (7.5Y5/2)	—	—	胴部下半 ～ 底部 (10%)		ナデ	黄褐色 (7.5Y5/2)	黒色化?	—		
内	ナデ		黄褐色 (7.5Y5/2)	—	—	底面 (10%)		—	黄褐色 (7.5Y5/2)	—	—	内	

表74 大規模な礫集中 b-32区出土復原土器観察表

図	番号	断面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	6	36	大規模な礫集中 b-32区	V層	—	8	(10.1)	—	—	940	胴部中位	陶鉢	IV群a型
接合破片破片数			19				接合-同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			9-32区-V層(1), 未注記(不明)1			
胎土 (泥和材)		織理	無		粒径	細粒	種類	砂石主体		量	多量	備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	L.R縄文		にじい・褐色 (7.5Y7/4)	—	—	胴部中位 (20%)		ナデ	(黄褐色)	黒色化 炭化物付着	—		

表75 大規模な礫集中 W-29区出土復原土器観察表

図	番号	断面	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	7	36	大規模な礫集中 W-29区	V層	—	12	12.8	14.5	8.3	600	口縁～胴部	陶鉢	IV群a型
接合破片破片数			17				接合-同一器体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			大規模な礫集中 X-29区-V層(14), 未注記(不明)1			
胎土 (泥和材)		織理	無		粒径	細粒	種類	砂石主体 (赤土層)		量	多量	備考	—
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内	
	9		黄褐色 (7.5Y5/4)	黒色化	(陶鉢)	口縁 ～ 胴部 (40~60%)		ナデ	黄褐色 (7.5Y5/2)	黒色化 炭化物付着	—		
内	—		(黄褐色)	黒色化	—	底面 (80%)		ナデ	にじい・黄褐色 (7.5Y7/4)	黒色化 炭化物付着	—	内	

表76 T-24区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (mm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	8	36	T-24区	V層	—	34	(11.8)	15.6	—	290	胴部中位	深鉢	IV期A類
接合破片総点数		23	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			未記載・不明:1							
胎土 (混和材)		織織	無	粒徑	細~中粒	種類	灰石・灰物 と土中の 白色灰物		量	中量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	ナデ		なし(褐色) (7.3/36/4)	黒色化	人への 磨痕跡	口唇部 (80%)	—	—	—	—			
	刷漉文		褐色 (2.3/36/4)	黒色化	—	口唇部 (80%)	ナデナ	(褐色)	黒色化 磨化物付着	—			
内	刷漉文		褐色 (2.3/36/4)	—	—	胴部上平 (50%)	—	—	—	上部 (深鉢文状の 磨痕跡)	(褐色)	黒色化 磨化物付着	—

表77 T-39区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (mm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	9	36	T-39区	V層	—	33	(29.5)	—	9.0	1,890	胴部上中 ~底面	深鉢	IV期A類
接合破片総点数		20	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			S-39区-V層-①, T-39区-V層-②, 7-37区-V層-①, 7-39区-V層-①, 未記載・不明:1							
胎土 (混和材)		織織	無	粒徑	細~中粒	種類	灰石・灰物 と土中の		量	中~多量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	刷漉文 L.R-RL 刷漉文		浅黄褐色 (7.3/38/4)	黒色化 磨化物付着	—	胴部上平 (40~50%)	ナデ	なし(褐色) (1.9/37/4)	—	—			
	刷漉文 L.R-RL 刷漉文		なし(黄褐色) (1.9/37/4)	赤色化 (褐色) 9/37/4)	—	胴部下平 ~底面 (90~95%)	—	なし(黄褐色) (1.9/37/4)	黒色化ナ	刷織			
内	—		(褐色)	黒色化ナ	—	底面 (80%)	—	—	—	浅黄褐色 (1.9/38/4)	—	刷織	—

表78 R-38区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (mm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	10	36	R-38区	V層	—	6	(12.9)	—	6.7	410	胴部中位 ~底面	深鉢	IV期B類 全体出土 全体出土・磨化
接合破片総点数		9	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			Q-38区-V層-①							
胎土 (混和材)		織織	少~中量	粒徑	細粒	種類	灰物主体 (白色灰物)		量	少量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	なし(赤褐色) ナデ		なし(赤褐色) (7.3/36/4)	—	—	胴部下平 ~底面 (40~25%)	ナデ (L, 3/37/4)	褐色 (7.3/37/4)	黒色化	—			
	ナデ		なし(黄褐色) (1.9/37/4)	—	—	底面 (20%)	—	(褐色)	黒色化	—			
内	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表79 J-25区出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (mm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
81	11	36	J-25区	V層	—	7	(3.5)	—	7.6	140	胴部下位 ~底面	深鉢	IV期A類
接合破片総点数		7	接合・同一個体破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			—							
胎土 (混和材)		織織	無	粒徑	中~粗粒	種類	灰石主体 (白色灰物)		量	少量	備考	—	
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	刷漉文 刷文		浅黄褐色 (1.9/38/3)	黒色化	(磨痕?)	胴部下位 ~底面 (50%)	—	灰白色 (1.9/38/3)	黒色化	刷織			
	ナデ		なし(黄褐色) (1.9/37/4)	黒色化	—	底面 (80%)	—	(褐色)	—	刷織			
内	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表80 R-27区出土復原土器観察表

図	番号	図例	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	口径					
	41	12	36	R-27区	V層	—	11	(口)	—	—	1,740	胴部中央	須弥	赤褐色
接合破片破片数		13	接合・同一器種破片 出土地点・層位・遺物番号(点数)		R-28区・V層(1), 未詳(計:不明)1									
胎土 (泥和材)		織織	無	粒徑	中～粗粒	種類	卵石主体 (白色石灰)		量	多量	備考			
外	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内		
	—		にぶい・黄褐色 (19YR7/3)	—	剥離	胴部上半 (5~30%)		ナブ(趾方向) (工具のアツ)	にぶい・黄褐色 (19YR7/3)	黒色化	—			
面	L土質文 一部 彫文 刷刻文		にぶい・黄褐色 (19YR7/3)	—	剥離	胴部下半 ~底縁 (30%)		ナブ(趾方向) (工具のアツ)	にぶい・黄褐色 (19YR7/3)	黒色化	—	面		

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(1)

図	番号	図例	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類		備考 (土器型式)		
						小計	合計				外周	内周			
胎土 (泥和材)															
織織						文様・調整			色調		使用の痕跡				
種類						外周		内周 (部位)		外周		内周			
R2	1	38	B L H-1 区	破土 区層	—	1	胴部	6.4	須弥	IV形(部)	—				
なし						中粒	胎土・泥和 土にあり	L土質文	—	—	赤褐色 (10YR7/3)	—	—		
R2	2	38	B L H-2 2-31区 大規模空堀集中	破土 区層	—	2	口縁部	47.8	須弥	IV形(部)	—				
中量						粗粒	卵石・泥和 土にあり	L土質文 刷付	L土質文	(口唇部) (趾付) L土質文	赤褐色 (10YR6/3)	黒褐色 (10YR3/4)	—	黒色化	
R2	3	38	B L H-2 2-37区 大規模空堀集中	破土 区層	—	1	胴部	187.0	須弥	IV形(部)	—				
中量						中粒	卵石主体	L土質文	ナブ	—	緑黄色 (10YR6/4)	赤褐色 (10YR3/4)	黒色化 炭化物付着	—	
R2	4	38	B L H-2	破土 区層	—	1	胴部	4.9	須弥	I形	—				
なし						粗粒	泥和土	ナブ	胴部中央部 刷刻文(胎土・泥和)	黄褐色 (10YR6/4)	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	—	—		
R2	5	38	B L H-2	産層	—	1	胴部	123.0	須弥	IV形(部)	—				
中量						中粒					胎土・泥和(産層)1層 刷付文	L土質文	赤褐色 (10YR6/4)	黒褐色 (10YR3/4)	黒色化
なし						中粒					胎土・泥和(産層)1層 刷付文	L土質文	赤褐色 (10YR6/4)	黒褐色 (10YR3/4)	黒色化
R2	6	38	B L H-2	破土 区層	—	1	胴部	48.5	須弥	IV形(部)	—				
少量						中粒	卵石主体	L土質文	—	—	赤褐色 (10YR6/4)	(黒褐色)	黒色化	炭化物	
R2	7	38	B L H-2	産層	—	1	口縁部	42.0	須弥	IV形(部)	—				
少量						中粒					胎土・泥和(産層)1層 刷付文	L土質文	赤褐色 (10YR6/4)	—	黒色化
R2	8	38	B L H-2	破土 区層	—	1	口縁部	19.0	須弥	IV形(部)	—				
なし						中～粗粒	卵石主体	L土質文	—	(口唇部) ナブ 刷付文 刷刻文	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	
R2	9	38	B L H-4	産層	—	1	胴部	33.7	須弥	IV形(部)	—				
少量						中粒					胎土・泥和(産層)1層 刷付文	L土質文	ナブ	—	褐色 (7.5YR6/4)
R3	10	38	P-33区 P-34区	V層	—	1	口縁部	28.3	須弥	IV形(部)	—				
なし						中粒					胎土・泥和(産層)1層 刷付文	L土質文	ナブ	(口唇部) ナブ 刷付文 刷刻文	赤褐色 (10YR6/4)
R3	11	38	Z-32区 大規模空堀集中	V層	—	6	口縁部	114.7	須弥	IV形(部)	—				
中量						中粒					卵石主体	L土質文 刷付 平輪竹管 刷付文	ナブ	(口唇部) (趾付) 平輪竹管 刷付文	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)
R3	12	38	R-24区	V層	—	1	口縁部	26.5	須弥	IV形(部)	—				
少量						粗粒	卵石主体	L土質文	ナブ	(口唇部) 平輪竹管 刷付文	褐色 (7.5YR6/4)	赤褐色 (7.5YR3/3)	—	—	

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(2)

層	番号	階級	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類		備考 (土器型式)	
						小計	合計				外周	内周		
粘土(凝和材)														
編年			形状	種類	文様・装飾		外周	内周	(部位)	色調	外周	内周	使用の痕跡	
83	13	39	b-29区 大塚儀与塚儀中	V層	—	1	1	口縁部	20.4	深鉢	黄群土層			
少量	細～中粒	磁石主体	底縁文字 ナブ	ナブ	(口縁部) 底縁文 新装文	褐色 (T. 1938/6)	褐色 (T. 1938/4)	褐色土	黒色土					
83	14	39	b-19区 大塚儀与塚儀中	V層	—	1	1	口縁部	21.7	深鉢	黄群土層			
少量	中粒	磁石主体	L.耳縄文 貼付 中縁竹笠 新装文	ナブ	(口縁部) 底縁文 新装文	褐色 (T. 1938/4)	褐色 (T. 1938/4)	—	褐色土	黒色土				
83	15	39	b-29区 大塚儀与塚儀中	V層	—	1	1	口縁部	30.4	深鉢	黄群土層	破砕孔		
少量	中～中粒	磁石主体	L.耳縄文 貼付	ナブ	(口縁部) 底縁竹笠 新装文	黄褐色 (1938/3)	比呂+黄褐色 (1938/3)	褐色土	褐色土					
83	16	39	a-30区 大塚儀与塚儀中	V層	—	1	1	口縁部	13.4	深鉢	黄群土層			
少量	細粒	磁石主体	—	ナブ	(口縁部) 中縁竹笠 新装文	褐色 (T. 1938/4)	比呂+褐色 (T. 1938/4)	—	褐色土	黒色土				
83	17	39	W-23区 大塚儀与塚儀中	V層	—	1	1	口縁部	44.3	深鉢	黄群土層			
少量	細～中粒	磁石・灰物 土に混在	L.耳縄文 貼付	ナブ	(口縁部) 底縁竹笠 新装文	黄褐色 (1938/2)	比呂+黄褐色 (1938/2)	褐色土	褐色土					
83	18	39	H-24区	V層	—	1	1	口縁部	24.3	深鉢	黄群土層			
中量	細粒	磁石主体	中縁竹笠 新装文	ナブ	(口縁部) ナブ	褐色 (T. 1938/6)	褐色 (T. 1938/4)	褐色土	褐色土 底縁貼付者					
83	19	39	H-31区	V層	—	1	1	口縁部	12.1	深鉢	黄群土層			
少量	細粒	磁石・灰物 土に混在	L.耳縄文 貼付	ナブ	(口縁部) 底縁竹笠 新装文	黄褐色 (1938/2)	比呂+黄褐色 (1938/2)	褐色土 底縁貼付者	褐色土					
83	20	39	P-37区	V層	—	1	1	口縁部	34.9	深鉢	黄群土層			
少量	細～中粒	磁石主体	L.耳縄文 二又杖土高 新装文	土芽	(口縁部) L.土芽	(黄褐色)	(黄褐色)	褐色土 底縁貼付者	褐色土					
83	21	39	T-37区	V層	—	2	2	口縁部	265.9	深鉢	黄群土層	底縁式 出溝多量		
少量	中～中粒	磁石・灰物 土に混在	L.耳縄文 片断新装文 貼付ナブ (右裏)	ナブ	(口縁部) 底縁竹笠 新装文 中縁竹笠 新装文	(黄褐色)	比呂+黄褐色 (1938/4)	褐色土 底縁貼付者	褐色土					
83	22	39	H-33区	V層	—	4	4	口縁部	97.9	深鉢	黄群土層			
少～中量	粗粒	磁石主体	中縁竹笠 新装文	ナブ	—	比呂+黄褐色 (1938/3)	黄褐色 (1938/2)	褐色土	褐色土					
83	23	39	C-25区	V層	—	3	3	口縁部	89.6	深鉢	黄群土層	破砕孔		
少量	細粒	磁石主体	L.耳縄文 新装文	ナブ	(口縁部) ナブ	黄褐色 (T. 1938/4)	褐色 (T. 1938/4)	褐色土	—					
83	24	39	H-34区 U-24区	V層	—	1	2	口縁部	24.9	深鉢	黄群土層			
少量	細粒	磁石主体	L.耳縄文 新装文	土芽	(口縁部) 新装文	黄褐色 (1938/2)	比呂+黄褐色 (1938/2)	—	褐色土					
83	25	39	B-35区	V層	—	3	3	口縁部	39.6	深鉢	黄群土層			
少量	細粒	磁石主体	L.耳縄文(1) 新装文	ナブ	(口縁部) ナブ	褐色 (1938/4)	黄褐色 (1938/3)	褐色土	褐色土					
84	26	39	H-39区	V層	—	4	4	口縁部	69.1	深鉢	黄群土層			
多量	磁石主体	土芽・灰土 新装文	L.耳縄文 新装文	土芽	(口縁部) 底縁竹笠 新装文 土に混在	黄褐色 (1938/6)	黄褐色 (1938/4)	底縁貼付者	褐色土					
84	27	39	H-28区	V層	—	1	1	口縁部	31.3	深鉢	黄群土層			
中量	細粒	磁石・灰物 土に混在	L.耳縄文	土芽	(口縁部) L.耳縄文 新装文	褐色 (1938/4)	褐色 (1938/4)	—	褐色土					
84	28	39	H-29区	V層	—	1	1	口縁部	39.3	深鉢	黄群土層			
多量	細～中粒	磁石・灰物 土に混在	L.耳縄文	ナブ	(口縁部) L.耳縄文 ナブ	比呂+黄褐色 (1938/4)	比呂+黄褐色 (1938/4)	—	褐色土					
84	29	39	G-42区	V層	—	1	1	口縁部	11.8	深鉢	黄群土層			
少量	細粒	磁石主体	L.耳縄文	ナブ	(口縁部) ナブ 新装文	黄褐色 (1938/2)	(黄褐色)	—	褐色土					
84	30	39	E-26区	V層	—	1	1	口縁部	27.5	深鉢	黄群土層			
多量	粗粒	磁石主体	ナブ	ナブ	(口縁部) ナブ 新装文	比呂+黄褐色 (1938/3)	比呂+黄褐色 (1938/4)	褐色土	—					
84	31	39	P-30区	V層	—	2	2	底唇	82.9	深鉢	黄群土層			
多量	粗粒	磁石・灰物 土に混在	L.耳縄文	ナブ	(口縁部) L.耳縄文 新装文	比呂+黄褐色 (1938/3)	比呂+黄褐色 (1938/4)	褐色土	褐色土 底縁貼付者					
84	32	39	P-37区	V層	—	1	1	底唇	47.1	深鉢	黄群土層			
中量	中粒	磁石主体	L.耳縄文	ナブ	(底唇部) 新装文	褐色 (1938/4)	比呂+黄褐色 (1938/4)	—	褐色土					

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(3)

層	層号	遺構	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考 (土器型式)
						小計	合計					
出土(遺物材)												
			文様・模様		破片数		色別		使用の産地			
			文様		模様		色別		表面		内面	
			文様		模様		色別		表面		内面	
84	33	39	W-21区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	底面	24.1	磁鉢	内貯斗型	—
多量	磁粒	磁粒主体	5.月縄文 ナツ	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	—
84	34	30	W-25区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	側面	20.8	磁鉢	内貯斗型	石灰多量
多量	中～粗粒	磁粒主体 (石灰)	5.月縄文 粘付物	ナツ	(白線部) 縄線区底文	ナツ	—	底面	17.0(黄褐色 10193/4)	17.0(黄褐色 10193/3)	—	黒色化
84	35	30	W-25区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	側面	32.6	磁鉢	内貯斗型	石灰多量
中量	中粒	磁粒主体	5.月縄文 平織文 粘付物	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	—
84	36	30	T-32区	V層	—	1	1	側面	45.8	磁鉢	内貯斗型	—
中量	磁粒	磁粒主体	5.月縄文 粘付物	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	黒色化 石灰化物付
84	37	39	G-32区	V層	—	1	1	側面	26.2	磁鉢	内貯斗型	—
中量	磁粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月縄文	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	黒色化
84	38	30	W-24区	V層	—	1	1	側面	49.7	磁鉢	内貯斗型	—
多量	中粒	磁粒主体	5.月縄文 粘付物	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	黒色化 石灰化物付
84	39	30	W-31区	V層	—	2	2	側面	18.3	磁鉢	内貯斗型	—
少量	中粒	磁粒主体	比叢文 粘付物	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	—
84	40	39	X-28区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	側面	30.2	磁鉢	内貯斗型	石灰多量
多量	粗粒	磁粒主体	5.月縄文 粘付物 比叢文 平織文	ナツ	(白線部) 縄線区底文	ナツ	—	底面	12.0(黄褐色 10193/4)	12.0(黄褐色 10193/3)	—	黒色化 石灰化物付
84	41	39	T-34区	V層	—	1	1	側面	15.8	磁鉢	内貯斗型	—
中量	磁粒	磁粒主体	5.月縄文 又粘付物	ナツ	—	—	—	底面	—	—	—	—
84	42	39	P-37区	V層	—	1	1	口縁部	69.0	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月縄文 粘付物 比叢文	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	黒色化
84	43	39	W-27区	V層	—	1	1	口縁部	37.4	磁鉢	内貯斗型	—
なし	磁粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月縄文 粘付物	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—
84	44	39	T-38区	V層	—	1	1	口縁部	43.4	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月・8.月 縄文 粘付物	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	黒色化 石灰化物付
84	45	39	X-28区 大規模な埋藏中	V層	—	5	5	口縁部	94.9	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中～粗粒	磁粒主体	5.月・8.月 粘付物 比叢文	ナツ	5.月・8.月縄文 粘付物 比叢文	ナツ	(白線部) 粘付物	底面	12.0(黄褐色 10193/4)	12.0(黄褐色 10193/3)	—	黒色化 石灰化物付
85	46	39	U-24区	V層	—	1	1	口縁部	36.0	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中～粗粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月縄文	ナツ	5.月縄文	ナツ	(白線部) 粘付物	底面	12.0(黄褐色 10193/4)	12.0(黄褐色 10193/3)	—	黒色化 石灰化物付
85	47	39	W-37区	V層	—	2	2	口縁部	37.2	磁鉢	内貯斗型	—
なし	粗粒	磁粒主体	5.月縄文 粘付物	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—
85	48	39	W-29区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	口縁部	46.1	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中～粗粒	磁粒主体	5.月縄文	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—
85	49	39	W-28区	V層	—	1	1	口縁部	26.9	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中～粗粒	磁粒主体	5.月縄文 粘付物	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—
85	50	39	V-27区	V層	—	1	1	口縁部	14.0	磁鉢	内貯斗型	—
なし	粗粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月縄文	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—
85	51	39	T-39区	V層	—	1	1	口縁部	16.9	磁鉢	内貯斗型	—
なし	中粒	磁石・磁物 石灰多量	5.月縄文	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—
85	52	40	T-32区	V層	—	1	1	口縁部	37.4	磁鉢	内貯斗型	—
なし	粗粒	磁粒主体	5.月・8.月 粘付物	ナツ	5.月縄文 粘付物	ナツ	(白線部) 粘付物	底面	12.0(黄褐色 10193/4)	12.0(黄褐色 10193/3)	—	黒色化
85	53	40	P-37区	V層	—	1	1	口縁部	16.7	磁鉢	内貯斗型	—
なし	粗粒	磁粒主体	5.月縄文	ナツ	(白線部) 粘付物	ナツ	—	底面	—	—	—	—

表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(4)

図	番号	図面	出土地点	層位	遺構番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器型式)							
						小計	合計					使用の産地							
粘土(産地別)						文様・顔装			色別			使用の産地							
編織		粘粒		種類		外面		内面		(部位)		外面		内面		内面			
85	54	40	○-31区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	口縁部	16.9	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
少量						中粒		粘土主体 L系縄文		L系縄文 土芽		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文	
85	55	40	○-40区	V層	—	1	1	口縁部	33.8	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文	
85	56	40	○-34区	V層	—	3	3	口縁部	63.9	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		藍物主体 土にあり		L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文		口縁部 L系縄文	
85	57	40	P-25区	V層	—	1	1	底面	66.8	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	58	40	I-24区	V層	—	1	1	底面	19.1	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	59	40	G-29区	V層	—	1	1	底面	48.1	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土主体		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	60	40	Y-29区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	底面	37.0	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	61	40	R-25区	V層	—	1	1	底面	84.5	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
少量						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	62	40	V-35区	V層	—	2	2	底面	31.8	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	63	40	b-29区 大規模な埋藏中	V層	—	1	1	底面	78.2	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
少量						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	64	40	○-25区	V層	—	1	1	底面	102.3	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
中量						中～粗粒		粘土・藍物 土にあり		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	65	40	W-29区 大規模な埋藏中	V層	—	4	4	底面	177.4	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土主体		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	66	40	R-25区 Q-25区	V層	—	2	3	底面	84.5	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中～粗粒		粘土主体		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	67	40	R-37区	V層	—	3	3	底面	61.9	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						粗～中粒		粘土主体		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	68	40	R-37区	V層	—	9	9	底面	345.9	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土主体		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	69	40	M-28区	V層	—	2	2	底面	145.6	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土・藍物 土にあり		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	70	40	V-27区	V層	—	3	3	底面	64.1	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
少量						中～粗粒		粘土・藍物 土にあり		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	71	40	*-31区 大規模な埋藏中	V層	—	3	3	底面	103.8	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
中量						細粒		粘土主体		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	72	40	U-31区	V層	—	6	6	底面	134.4	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
中量						細粒		粘土主体		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	73	40	C-25区	V層	—	2	2	底面	37.5	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土主体		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	74	40	V-27区	V層	—	1	2	底面	91.3	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
なし						中粒		粘土主体		L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	
85	75	40	*-31区 大規模な埋藏中	V層	—	7	7	底面	123.8	深鉢	青群+藍	—	—	—	—	—	黒色土		
中量						中粒		粘土主体		L系・R系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文		底面 L系縄文	



表81 B地区 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(5)

圃	番号	調査	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類		備考 (土器型式)
						小計	合計				内面	外面	
助土(遺和村)					文様・観察				色録		使用の痕跡		
編制		経性	種類	V層	外面	内面	(部位)	外面	内面	外面	内面		
86	76	40	U-27区	V層	—	11	胴部	132.8	茶鉢	IV群A類		黒色化	
中量	中粒	岩石主体	L片焼文 赤片焼	ナゲ	—			明褐色 (T.1016/4)	(黒褐色)				
87	77	40	D-26区	V層	—	2	胴部	84.0	茶鉢	IV群A類		黒色化	
少量	細粒	岩石主体 赤片焼	不整な赤 ナゲ	ナゲ	—			明褐色 (1016/4)	にぶい黄褐色 (1016/2)	黒色化	黒色化		
87	78	41	J-25区	V層	—	3	胴部	86.7	茶鉢	IV群A類			
少量	中粒	岩石主体	L片・L片焼文 ナゲ	—	—			明褐色 (1017/4)		—	—	—	
87	79	41	Y-28区 大規模な跡集中	V層	—	4	口縁部	12.0	茶鉢	I群B類		中央部式	
なし	細粒	岩石・灰物 ともにあり	L片焼文 焼痕跡赤文 ナゲ	ナゲ	(口縁部) ナゲ			褐色 (T.1014/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 灰化物付着		
87	80	41	W-27区 大規模な跡集中	V層	—	2	口縁部	12.0	茶鉢	I群B類		中央部式	
なし	細粒	灰物主体	L片焼文 焼痕跡赤文 ナゲ	赤褐色 ナゲ	(口縁部) ナゲ			明褐色 (1016/4)	褐色 (1016/4)	黒色化 灰化物付着	黒色化		
87	81	41	X-34区 大規模な跡集中	V層	—	1	口縁部	10.4	茶鉢	I群B類		中央部式	
なし	中粒	岩石・灰物 ともにあり	焼痕跡赤文 赤褐色赤文 ナゲ	ナゲ	(口縁部) ナゲ			にぶい黄褐色 (1016/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化		
87	82	41	e-30区 大規模な跡集中	V層	—	1	底部	7.1	茶鉢	I群B類			
なし	細粒	岩石・灰物 ともにあり	L片焼文 焼痕跡赤文 ナゲ	ナゲ	(口縁部) L片焼			明褐色 (T.1016/4)	褐色 (T.1016/4)	—	—	黒色化 灰化物付着	
87	83	41	H-29区 V層	—	1								
			W-31区 大規模な跡集中	V層	—	1							
			W-32区 大規模な跡集中	V層	—	1	胴部	66.4	茶鉢	I群B類			
少量	細～中粒	岩石主体	L片焼文 焼痕跡赤 赤褐色赤文 ナゲ	L片焼	—			明褐色 (1017/4)	(黒褐色)	—	—	黒色化 灰化物付着	
87	84	41	e-30区 大規模な跡集中	V層	—	4	胴部	84.2	茶鉢	I群B類			
少量	細粒	岩石主体	L片焼文 焼痕跡赤文 ナゲ	ナゲ	—			にぶい黄褐色 (1016/2)	(黒褐色)	黒色化 (赤褐色)	黒色化 灰化物付着		
87	85	41	X-28区 大規模な跡集中	V層	—	5	胴部	26.5	茶鉢	I群B類			
			Y-28区 大規模な跡集中	V層	—	1							
少量	細粒	岩石主体	焼痕跡 焼痕跡赤文 ナゲ	L片焼	—			にぶい黄褐色 (1014/2)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 灰化物付着		
87	86	41	—	V層	—	4	胴部	11.1	茶鉢	IV群B類		平部式	
なし	中粒	岩石主体	L片焼文 赤片焼	L片焼	—			灰褐色 (1016/2)	(黒褐色)	—	—	黒色化 灰化物付着	
87	87	41	U-26区	I層	—	2	胴部	86.1	甕	V群			
なし	細粒	岩石・灰物 ともにあり	赤褐色 ナゲ	L片焼	—			にぶい黄褐色 (1016/4)	(黒褐色)	黒色化	黒色化 灰化物付着		
87	88	41	—	V層	—	1	胴部	25.2	茶鉢	V群			
なし	細粒	岩石主体	L片焼文 赤片焼	L片焼	—			にぶい黄褐色 (1016/2)	(黒褐色)	黒色化 灰化物付着	黒色化 灰化物付着		
87	89	41	P-21区	V層	—	1	胴部	21.8	茶鉢	V群?			
微量	中～粗粒	岩石主体	L片焼文 赤片焼	ナゲ	—			にぶい黄褐色 (1016/4)	(黒褐色)	—	—	黒色化 灰化物付着	

表82 B地区 V層 遺構・包含層出土石器等観察表(1)

調査 年度	調査 箇所	出土地点	層位	遺構 番号	層種	計測値(単位)			重量 (g)	石種	特徴	保存 状態	特徴 観察事項	備考
						長さ	幅	厚さ						
98	1	43	01H-1	遺土状態	—	スライバー	13.1	1.4	0.5	3.1	黒褐色	小破片	磨光面	背面両縁に刃部
98	2	43	01H-1	遺土	15	スライバー	2.9	2.0	1.0	5.2	黒褐色	—	—	背面両縁に刃部
98	3	43	01H-1-B	遺土状態	—	石鏃・ナイフ	5.5	3.5	0.7	8.5	黒褐色	—	—	背面ふくらむ
98	4	43	01H-1-B	遺土状態	—	石鏃・ナイフ	3.0	2.4	0.4	8.9	黒褐色	—	—	背面ふくらむ
98	5	43	01H-2	遺土状態	—	—	2.9	1.0	0.3	1.2	黒褐色	—	—	磨光した面あり
98	6	43	01H-2	遺土状態	—	石鏃	15.0	11.0	0.9	1.3	黒褐色	取付部	背面両縁に刃部	背面両縁に刃部
98	7	43	01H-2	遺土状態	—	石鏃・ナイフ	5.2	3.9	0.8	9.0	黒褐色	—	—	背面ふくらむ
98	8	43	01H-2	遺土状態	—	つまみ付きナイフ	7.0	3.8	1.0	18.5	黒色	褐色斑	—	磨光した面あり
98	9	43	01H-2	遺土状態	—	つまみ付きナイフ	3.9	3.7	1.1	19.1	黒褐色	褐色斑	—	磨光した面あり
98	10	43	01H-3	遺土	—	—	3.9	1.9	0.4	1.7	黒褐色	—	—	磨光した面あり
98	11	43	01H-3	遺土	—	スライバー	3.8	1.8	0.7	2.2	黒褐色	—	—	両縁に刃部あり
98	12	43	01P-4	遺土状態	—	—	11.0	11.0	0.3	0.4	黒褐色	—	片	背面に刃部あり
98	13	43	01P-4	遺土	—	—	3.7	2.1	0.8	0.9	黒褐色	—	—	両面磨光
98	14	43	01P-C-1	V層	—	—	11.41	11.23	0.31	0.8	黒褐色	—	—	両面磨光
98	15	43	01P-C-1	V層	—	—	12.13	12.13	0.43	2.9	黒褐色	—	—	両面磨光
98	16	43	01P-C-2	V層	3	石鏃・ナイフ	5.6	3.4	0.0	4.5	黒褐色	—	—	磨光面あり
99	17	48	01H-1	遺土	11	磨製石片	8.2	3.7	2.0	197.0	緑褐色	—	—	磨製 磨光面あり 断面なし
99	18	48	01H-1,gh-15	遺土状態	—	磨製石片	6.2	3.8	1.2	45.4	緑褐色	—	—	磨製 磨光面あり
99	19	48	01H-1	遺土状態	11	石・石鏃	20.0	17.0	4.1	1,960	砂色	—	—	磨光面あり
99	20	48	01H-2	遺土状態	—	天然石	14.2	8.8	3.2	281.8	緑褐色	—	—	両面磨光した面あり
99	21	48	01H-3	遺土	—	磨製石片	18.92	14.92	11.82	168.8	緑褐色	—	—	磨製 磨光面あり
99	22	48	01P-C-2	V層	6	磨製石片	12.1	6.8	2.7	207.0	緑褐色	—	—	全面磨光
99	1	42	J-24	V層	—	—	3.0	1.3	0.8	0.9	黒褐色	—	—	磨光した面あり
99	2	42	P-23	V層	—	—	4.8	1.3	0.3	2.3	黒褐色	—	—	—
99	3	42	P-23	V層	—	—	4.5	2.4	0.2	2.4	黒褐色	—	—	—
99	4	42	Q-22	V層	—	—	3.2	1.2	0.5	0.4	黒褐色	—	—	小片
99	5	42	Q-22	V層	—	—	4.8	1.8	0.8	4.2	黒褐色	—	—	両面磨光
99	6	42	Y-21	V層	—	—	3.8	1.2	0.6	0.7	黒褐色	—	—	両面磨光
99	7	42	大規模な遺構中	V層	—	—	2.5	1.5	0.6	1.6	黒褐色	小破片	—	両面磨光
99	8	42	大規模な遺構中	V層	—	—	6.7	1.9	1.5	11.5	黒色	—	—	磨光面あり
99	9	42	大規模な遺構中	V層	—	—	4.9	1.7	0.5	3.2	黒褐色	—	—	磨光面あり
99	10	42	大規模な遺構中	V層	—	—	14.1	1.8	0.8	3.7	黒色	褐色斑	—	両面磨光
99	11	42	大規模な遺構中	V層	—	—	5.7	2.9	1.1	12.8	黒色	褐色斑	—	磨光した面あり
99	12	42	大規模な遺構中	V層	—	—	14.202	12.4	2.1	12.8	黒褐色	—	—	両面磨光
99	13	42	大規模な遺構中	V層	—	—	3.4	0.9	0.4	0.6	黒褐色	—	—	小片
99	14	42	大規模な遺構中	V層	—	—	3.7	2.0	0.7	4.4	黒色	両面磨光	—	—
99	15	42	大規模な遺構中	V層	—	—	3.4	1.6	0.3	1.9	黒褐色	—	—	両面磨光
99	16	42	M-22	V層	—	石鏃・ナイフ	3.7	2.0	1.1	19.1	黒褐色	—	—	磨光面あり
99	17	42	T-23	V層	—	石鏃・ナイフ	7.0	3.1	1.1	11.3	黒褐色	—	—	磨光した面あり
99	18	42	S-24	V層	—	石鏃・ナイフ	1.8	1.1	1.1	13.8	黒褐色	—	—	—
99	19	42	S-24	V層	—	石鏃・ナイフ	16.92	8.9	0.9	14.3	黒褐色	小破片	—	両面磨光
99	20	42	大規模な遺構中	V層	—	石鏃・ナイフ	7.5	3.0	1.3	22.9	チャート	—	—	磨光面あり
99	21	42	M-22	V層	—	—	12.0	3.0	1.0	4.0	黒褐色	—	—	上縁部・先端部 磨光
99	22	42	大規模な遺構中	V層	—	—	4.1	1.9	0.6	3.6	黒褐色	—	—	磨光面あり
99	23	42	大規模な遺構中	V層	—	—	4.0	0.8	0.7	2.1	黒色	—	—	磨光した面あり
99	24	42	M-22	V層	—	つまみ付きナイフ	3.9	4.8	1.2	13.4	黒褐色	—	—	磨光面あり
99	25	42	X-20	V層	—	つまみ付きナイフ	6.3	3.2	0.9	18.2	黒色	褐色斑	—	磨光した面あり
99	26	42	X-21	V層	—	つまみ付きナイフ	6.8	4.4	0.7	21.4	黒色	褐色斑	—	磨光した面あり
99	27	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	8.0	3.6	0.8	22.6	黒色	—	—	磨光した面あり
99	28	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	6.9	2.9	0.7	8.1	黒褐色	—	—	磨光した面あり
99	29	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	6.4	2.1	1.1	11.0	チャート	褐色斑	—	磨光した面あり
99	30	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	4.1	0.8	0.8	7.9	黒色	—	—	磨光した面あり
99	31	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	5.3	3.3	0.9	14.9	黒色	—	—	磨光した面あり
99	32	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	3.5	2.8	1.2	24.0	チャート	(両面磨光)	—	磨光した面あり
99	33	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	3.0	2.3	1.1	14.9	チャート	(両面磨光)	—	磨光した面あり
99	34	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	4.0	3.2	0.7	7.2	黒色	—	—	磨光した面あり
99	35	42	大規模な遺構中	V層	—	つまみ付きナイフ	7.9	6.2	1.0	28.0	黒色	—	—	磨光した面あり
99	36	42	M-22	V層	—	スライバー	4.4	3.4	1.7	21.2	黒褐色	小破片	—	磨光した面あり
99	37	42	V-23	V層	—	スライバー	4.4	4.2	1.3	23.6	黒褐色	小破片	—	磨光した面あり
99	38	42	V-23	V層	—	スライバー	4.4	4.2	1.3	23.6	黒褐色	小破片	—	磨光した面あり
99	39	42	V-23	V層	—	スライバー	4.4	4.2	1.3	23.6	黒褐色	小破片	—	磨光した面あり
99	40	42	M-22	V層	—	スライバー	18.82	12.13	11.13	22.4	黒褐色	小破片	—	磨光した面あり
99	41	42	大規模な遺構中	V層	—	スライバー	18.82	12.13	11.13	16.2	黒褐色	小破片	—	磨光した面あり

表82 B地区 V層 遺構・包含層出土石器等観察表(2)

図号	遺構番号	出土地点	層位	遺物番号	種別	計測値(φ)		重量(g)	石材		状態	特徴	備考
						長さ	厚さ		原色名	性質			
92	42	44	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	スチールバー	7.8	4.4	1.0	43.8	黒褐色石	小断面	沈没 両面加工
92	43	44	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	スチールバー	7.3	2.9	1.1	12.9	黒褐色石	—	沈没 両面加工
92	44	44	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	スチールバー	4.9	4.9	1.0	26.6	黒褐色石	小断面	沈没 両面加工
92	45	44	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	スチールバー	3.1	3.6	1.3	13.1	黒褐色石	断面 100%?	沈没 両面加工
92	46	44	W-30区 大規模な遺構中	V層	—	スチールバー	6.9	3.1	1.4	32.1	チャート	(灰褐色)	沈没 両面加工
93	47	45	S-37区 大規模な遺構中	V層	—	石核	7.9	9.1	2.9	247.6	チャート	(灰白色)	—
93	48	45	Y-39区 大規模な遺構中	V層	—	石核	6.0	11.2	6.7	416	チャート	(灰白色)	—
93	49	45	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	石核	2.8	7.3	8.2	398	チャート	(灰白色)	—
94	50	46	S-29区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	10.3	3.0	1.0	103.4	緑色頁岩	ナリフア刃状	沈没 両面加工
94	51	46	S-30区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	10.8	4.5	1.0	134.7	緑色頁岩	ナリフア刃状 60%?	沈没 両面加工
94	52	46	T-30区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	16.1	3.5	1.8	96.9	緑色頁岩	磨製石片 20%?	沈没 両面加工
94	53	46	X-29区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	7.9	1.9	1.1	24.3	緑色頁岩	断面	沈没 両面加工
94	54	46	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	6.7	2.9	0.8	20.1	緑色頁岩	ナリフア刃状 60%?	沈没 両面加工
94	55	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	8.9	4.1	2.4	194.8	緑色頁岩	緑灰色 7.0%?	沈没 両面加工
94	56	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	10.4	4.2	2.3	182.7	緑色頁岩	ナリフア刃状 60%?	沈没 両面加工
94	57	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	6.0	3.0	1.3	63.2	緑色頁岩	磨製石片 60%?	沈没 両面加工
94	58	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	11.7	4.9	2.7	211.9	緑色頁岩	磨製石片 60%?	沈没 両面加工
94	59	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	6.7	3.6	1.2	63.1	緑色頁岩	ナリフア刃状 60%?	沈没 両面加工
94	60	46	W-30区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	14.7	3.4	2.4	235.4	緑色頁岩	ナリフア刃状 60%?	沈没 両面加工
94	61	46	W-32区 大規模な遺構中	V層	—	磨製石片	10.3	3.7	1.9	133.4	片岩	磨製石片 60%?	沈没 両面加工
95	62	46	X-29区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	15.9	6.0	4.3	350	凝灰岩	広い溝	沈没 両面加工
95	63	46	Y-39区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	10.3	7.8	5.0	740	砂岩	異色 2.0%?	沈没 両面加工
95	64	46	Y-30区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	12.9	4.0	4.0	360	砂岩	磨製石片 2.0%?	沈没 両面加工
95	65	46	Y-31区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	12.8	5.0	2.8	290	凝灰岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
95	66	46	Y-31区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	12.3	6.6	3.5	216.4	砂岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
95	67	46	Y-34区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	11.8	5.2	2.8	166.4	凝灰岩	広い溝	沈没 両面加工
95	68	46	W-30区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	6.9	3.7	4.4	173.9	緑色頁岩	溝子ア刃状 2.0%?	沈没 両面加工
95	69	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	13.4	7.9	4.3	400	凝灰岩	広い溝 2.0%?	沈没 両面加工
95	70	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	7.6	3.7	4.4	205.0	緑色頁岩	ナリフア刃状 2.0%?	沈没 両面加工
95	71	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	9.4	5.7	2.8	248.9	緑色頁岩	磨製石片 100%?	沈没 両面加工
95	72	46	W-30区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	7.3	3.7	4.3	234.3	凝灰岩	(灰白色)	沈没 両面加工
95	73	46	W-32区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	4.4	4.0	4.4	144.7	緑色頁岩	異色 100%?	沈没 両面加工
95	74	46	W-32区 大規模な遺構中	V層	—	片たき石	11.2	9.3	4.7	630	—	—	沈没 両面加工
96	75	46	G-27区 大規模な遺構中	V層	—	平石	16.6	17.8	8.0	1,400	砂岩	異色 2.0%?	沈没 両面加工
96	76	46	T-24区 大規模な遺構中	V層	—	平石	10.3	13.3	13.0	940	砂岩	異色 2.0%?	沈没 両面加工
96	77	46	X-30区 大規模な遺構中	V層	—	平石	15.9	20.5	3.9	1,430	砂岩	異色 2.0%?	沈没 両面加工
96	78	46	X-31区 大規模な遺構中	V層	—	平石	8.9	9.0	3.0	180.4	凝灰岩	広い溝 2.0%?	沈没 両面加工
96	79	46	Y-30区 大規模な遺構中	V層	—	平石	9.5	16.1	5.2	1,030	凝灰岩	磨製石片 2.0%?	沈没 両面加工
97	80	46	Y-31区 大規模な遺構中	V層	—	平石	6.2	13.0	7.0	1,040	砂岩	ナリフア刃状 2.0%?	片 両面加工
97	81	46	Y-32区 大規模な遺構中	V層	—	平石	8.4	11.3	6.4	940	砂岩	磨製石片 2.0%?	沈没 両面加工
97	82	46	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	平石	11.2	14.9	3.3	870	砂岩	磨製石片 2.0%?	沈没 両面加工
97	83	46	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	平石	11.40	12.60	10.0	730	片岩	断面 100%?	片 両面加工
98	84	46	S-29区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	17.0	15.6	4.5	1,510	砂岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
98	85	46	S-32区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	8.9	16.4	2.9	820	砂岩	異色 2.0%?	片 両面加工
98	86	46	S-30区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	12.5	16.3	5.2	980	砂岩	磨製石片 2.0%?	沈没 両面加工
98	87	46	T-30区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	15.1	20.3	4.0	1,400	砂岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
98	88	46	X-29区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	15.4	18.7	6.3	1,420	凝灰岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
98	89	46	X-30区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	15.3	20.3	6.1	1,430	凝灰岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
100	90	46	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	6.6	8.6	2.8	310	緑色頁岩	ナリフア刃状 2.0%?	沈没 両面加工
100	91	46	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	10.0	16.2	4.0	830	凝灰岩	溝子ア刃状 2.0%?	片 両面加工
100	92	46	Z-30区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	17.4	26.5	8.6	1,800	砂岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
100	93	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	16.1	17.3	5.4	1,240	砂岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
101	94	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	16.9	26.3	3.6	743	緑色頁岩	磨製石片 100%?	沈没 両面加工
101	95	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	13.9	13.0	8.0	830	砂岩	磨製石片 2.0%?	沈没 両面加工
101	96	46	W-31区 大規模な遺構中	V層	—	北海道式石	16.8	12.0	6.7	1,100	砂岩	磨製石片 2.0%?	片 両面加工
102	97	46	S-27区 大規模な遺構中	V層	—	石核	18.4	11.8	2.2	430	砂岩	異色 2.0%?	平部 両面加工
102	98	46	Y-29区 大規模な遺構中	V層	—	石核	9.4	16.4	3.0	281.9	凝灰岩	異色 2.0%?	沈没 両面加工

表82 B地区 V層 遺構・包含層出土石器等観察表(3)

調査 区画	調査 区画	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (0.1m)		重量 (g)	石材		形状 特徴	保存 状態	特徴 観察事項	備考	
						高さ	幅		厚さ	石石名					特徴
102	99	06	X-29底	V層	—	石製	6.8	15.3	2.3	124.3	片断形	(黄褐色)	平形	左側磨打による加工 不規則形	
102	100	31	大規模な埋藏中	V層	—	石製	8.9	11.9	2.1	278.0	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	左側磨打による加工 上縁直線	
102	101	31	大規模な埋藏中	V層	—	石製	8.6	16.1	2.5	450	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	左側磨打による加工 表面直線	
102	102	31	Z-21底	V層	—	石製	6.2	8.5	1.9	119.3	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	右側磨打による加工	
102	103	31	P-29底	V層	—	凝灰	16.2	7.7	7.5	1,360	凝灰岩	灰色 2.15(1.7)	両面	平ら面より小片 下縁直線	
103	104	31	Q-29底	V層	—	凝灰	126.0	14.3	3.4	1,090	凝灰岩	灰白色 3.15(2.7)	片	両面より小片 一箇面直線	
103	105	31	T-31底	V層	—	凝灰	15.6	14.7	3.6	650	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	両面より小片 上下直線	
103	106	31	X-31底	V層	—	凝灰	9.7	7.6	2.3	274.7	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	平ら面 表面直線	
103	107	31	大規模な埋藏中	V層	—	凝灰	24.6	18.9	6.3	2,620	砂岩	灰白色 2.15(1.7)	片	表面直線	
104	106	31	大規模な埋藏中	V層	—	凝灰	18.5	12.9	5.0	1,340	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	両面より小片	
104	109	31	大規模な埋藏中	V層	—	凝灰	24.3	23.3	4.7	2,940	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	平ら面 表面直線	磨蝕
104	110	31	大規模な埋藏中	V層	—	凝灰	12.3	11.5	4.9	500	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	両面より小片	
104	111	31	大規模な埋藏中	V層	—	凝灰	13.4	7.9	4.0	323	凝灰	灰白色 3.15(2.7)	片	平ら面 上下一箇面直線	磨蝕
104	112	31	大規模な埋藏中	V層	—	凝灰	10.3	11.1	3.1	360	凝灰岩	灰白色 3.15(2.7)	片	上下一箇面直線	
105	113	32	R-33底	V層	—	台石・石製	8.6	16.4	2.0	240	砂岩	オリーブ褐色 3.15(2.7)	片	両面磨打のたき身 点状磨蝕	
105	114	32	V-29底	V層	—	台石・石製	25.6	21.5	5.7	4,820	片断形	(灰白色)	両面	平ら面	
105	115	32	X-24底	V層	—	台石・石製	19.4	13.3	5.8	2,500	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	たき身	
105	116	32	大規模な埋藏中	V層	—	台石・石製	18.2	18.6	3.6	1,720	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	平ら面 一箇面直線	
105	117	32	U-35底	V層	—	台石・石製	33.7	25.3	11.5	14,400	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	たき身	
106	118	33	X-15底	V層	—	台石・石製	43.7	48.2	11.0	18,900	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	平ら面	磨蝕
106	119	33	大規模な埋藏中	V層	—	台石・石製	31.5	46.6	9.6	11,700	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	たき身	
107	120	34	Q-34底	V層	—	台石・石製	40.3	39.4	13.5	26,000	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	平ら面より小片	
107	121	34	R-40底	V層	—	台石・石製	41.3	39.3	13.0	25,000	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	たき身	
108	122	45	Q-27底	V層	—	石製品	4.7	2.2	6.9	10.3	凝灰岩	黄褐色 2.15(1.7)	両面	磨蝕 表面直線	磨蝕石片
108	123	45	Q-43底	V層	—	瓦	0.0	(1.7)	(0.4)	2.6	凝灰岩	オリーブ灰色 3.15(2.7)	磨蝕片	表面直線	
108	124	45	R-27底	V層	—	石製品	(0.3)	(1.7)	(1.2)	14.5	基層石	—	磨蝕片	表面直線 磨蝕石 表面直線	
108	125	45	R-27底	V層	—	石製品	4.5	6.9	1.1	29.3	凝灰岩	灰白色 2.15(1.7)	両面	左側磨打による加工	石製
108	126	45	V-22底	V層	—	磨石	10.4	10.3	6.3	810.0	片断形	(灰白色)	両面	点状磨蝕	
108	127	45	W-31底	V層	—	石製品	6.3	2.9	1.3	27.0	オリーブ灰色 3.15(2.7)	片断形	両面	全面磨蝕	瓦
108	128	45	大規模な埋藏中	V層	—	石製	4.6	4.4	1.3	28.9	凝灰岩	灰白色 2.15(1.7)	両面	左側磨打による加工	石製品
108	129	34	大規模な埋藏中	V層	—	いかり石	(15.0)	(12.2)	3.6	760	砂岩	黄褐色 2.15(1.7)	片	表面・左側より小片 下縁より小片	
108	130	45	大規模な埋藏中	V層	—	石製品	2.8	2.2	0.7	6.8	凝灰岩	灰白色 2.15(1.7)	両面	磨蝕 表面直線	磨蝕石片

## Ⅶ章 まとめ

### 1. 出土遺物の集計・分布

本遺跡の包含層出土の遺物は、A地区は土器5,101点、石器等12,200点、B地区は土器13,434点、石器等186,948点で、合わせて土器18,535点、石器等199,148点、合計217,683点が出土した。これらの遺物はⅣ～Ⅵ章で地区と層位ごとに掲載した。ここでは、これらの包含層出土の遺物のあり方を示すため、遺物登録台帳を元に出土点数表・出土分布図を作成した。二次整理作業を進めていくにつれ、遺物の一次分類作業での判断、認識、記載等で誤りがみられたが、時間的な猶予がないため、これらは訂正していない。しかし、遺物の出土傾向を述べるのに支障はないと考える。

#### (1) 出土点数表 (表83～88)

A地区の土器はⅣ群が約81%で最も多く、ついでⅢ群約16%、Ⅶ群約1%である。他にⅠ・Ⅱ・Ⅴ群があり、Ⅱ群としたものは時期分類の誤りである。B地区は約85%がⅣ群と最多で、ついでⅢ群が約11%、Ⅰ群が約2.8%である。また極少数Ⅴ群・Ⅵ群も出土した。両地区の土器は小破片が約70%で、Ⅳ群は剥離も多い。

剥片石器は石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、フレイクがある。A地区ではフレイクが約96%で、ついで石鏃、スクレイパーである。いずれも黒曜石裂が多い。B地区もフレイクが約13万点出土し99%を占める。ついで多いのは石鏃245点で、U・Rフレイク、つまみ付きナイフ、石核、スクレイパーの順である。

礫石器は、両地区ともに磨製石斧、たたき石、砥石、台石・石皿が多く、すり石、北海道式石冠、石鍾は少ない。石製品は、A地区から巻貝化石、B地区では玉などがみられ、点数は少ない。

レキは多く出土し、両地区ともに礫石器等の90%以上を占める。加工・使用痕がみられるもの(U・Rレキ)と、人為的に持ち込まれた自然礫(レキ)があり、石材は、遺跡が立地する厚真川上流の山間部に多い砂岩、凝灰岩等の脆弱な堆積岩である。

両地区の石器等の点数はA地区に比してB地区が多く、これは堅穴住居跡やフレイク集中、大規模な礫集中等の遺構がB地区にあり、A地区にはこれらがなく、Tピットが多いことに関連があると推測される。

#### (2) 出土分布図 (図109～129)

共通する事項として、A地区は調査区の北東側部分、B地区は北側部分からの出土が少ない。すなわち既に遺跡の中央付近から南側部分に多い。またB地区のK～N・25～29ライン部分も遺物が少ない。これはグリッド交点M・N-25で調査区中央の沢へ流れ込む沢の影響と考えられる。

**土器** 「Ⅰ群」はQラインより南側から出土し、特にB地区のc-30区に多い。「Ⅲ群」は、A地区は中央から南側付近、B地区は北側と中央～南側部分にみられる。100点を超えるのは、A地区のN-17区、d-20区、B地区のB L H-4が位置するR-38区である。「Ⅳ群」はA・B両地区の北側と中央～南側付近から出土し、点数が多いグリッドであっても、その周囲では全く出土していない地点もみられ、小破片が多いⅣ群の特徴といえる。A地区のF-19区、B地区のP-37・39区が特に多い。「Ⅴ群」はA地区の南側とB地区の北側で少数出土した。「Ⅶ群」はA地区のUラインから北側で散在的な出土である。B地区は調査区中央の沢近くで少量出土した。

**剥片石器** 「石鏃」は散在的な出土で、若干多いのはR-32・33区で、ここにはB L F C-1があ

# 土器 I 群

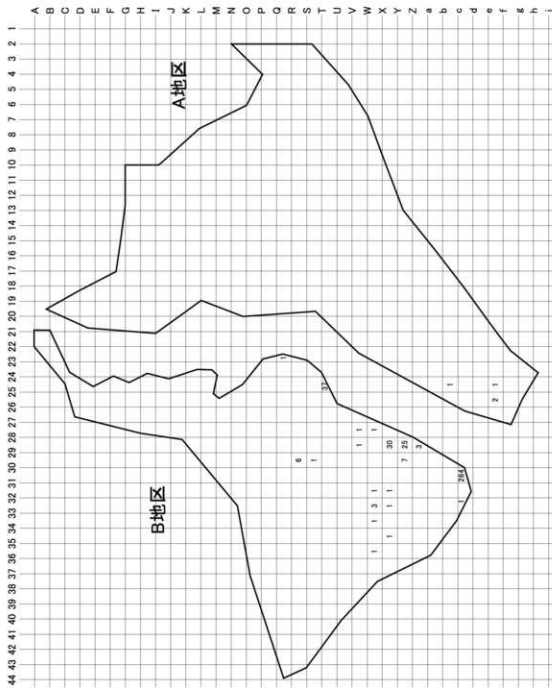


图109 包含層 I 群土器出土分布图

# 土器Ⅲ群

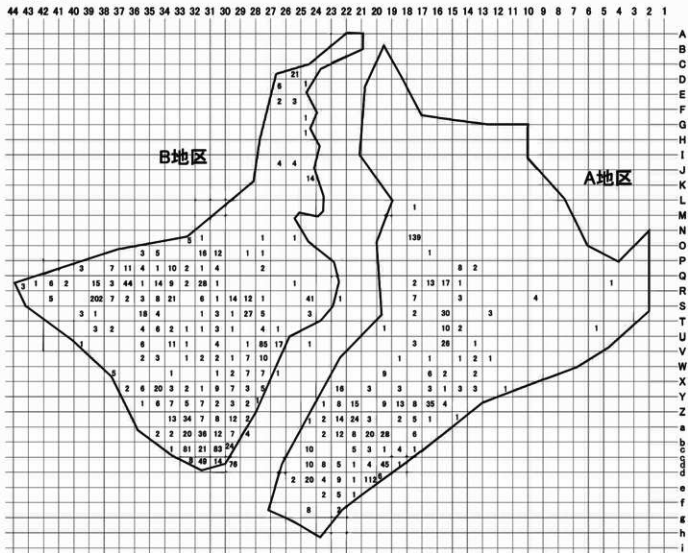


图110 包含層Ⅲ群土器出土分布图

# 土器Ⅳ群

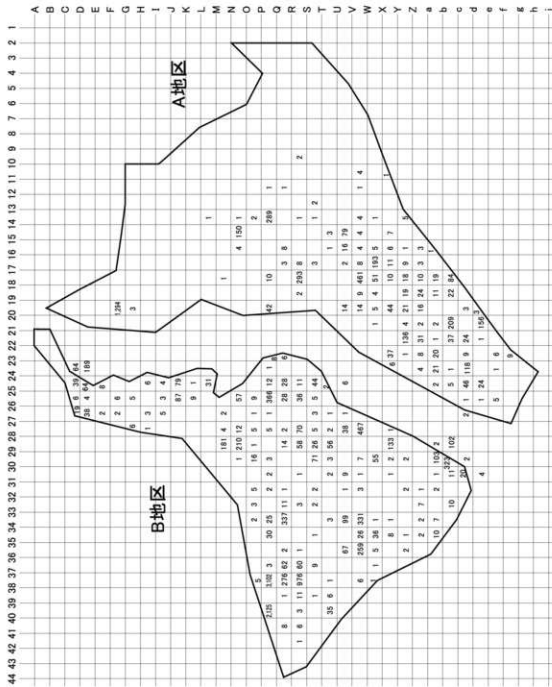


图111 包含層Ⅳ群土器出土分布图



# 土器V群

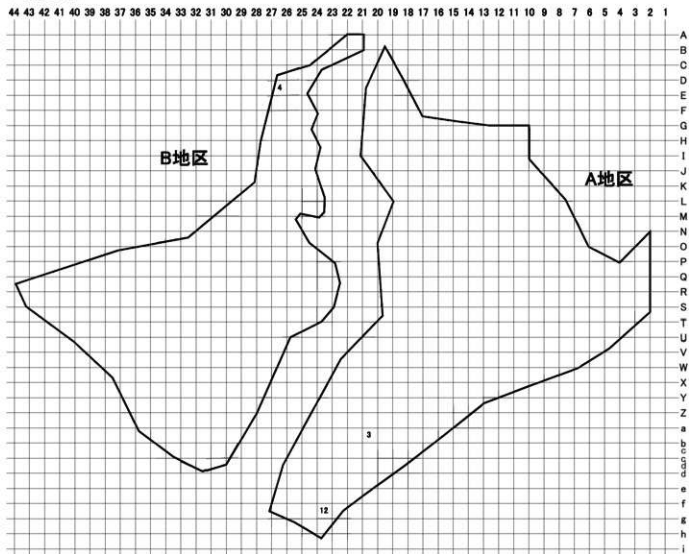


图112 包含層V群土器出土分布图







# つまみ付きナイフ

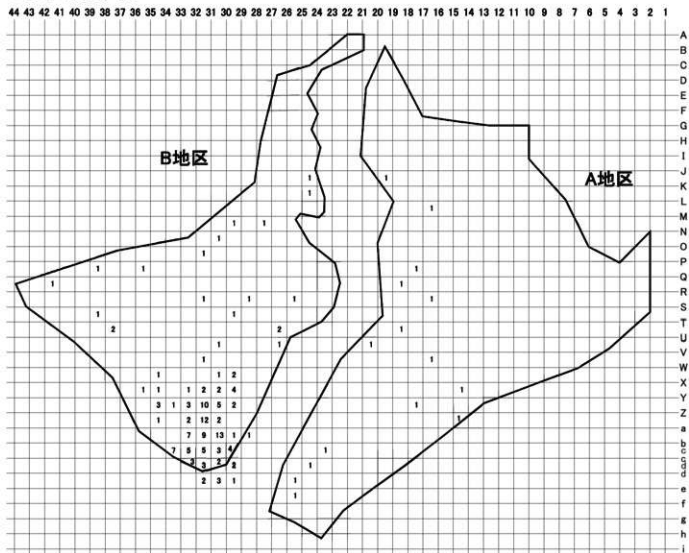


図116 包含層つまみ付きナイフ出土分布図

スクレイパー

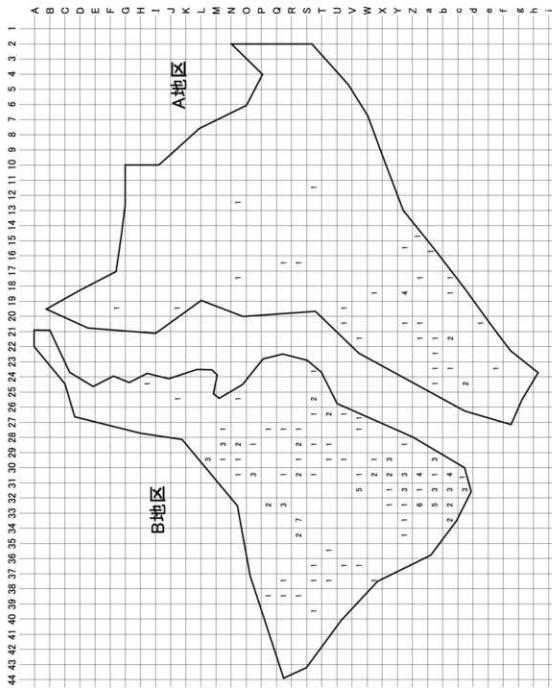


図117 包含層スクレイパー出土分布図

# U・Rフレイク

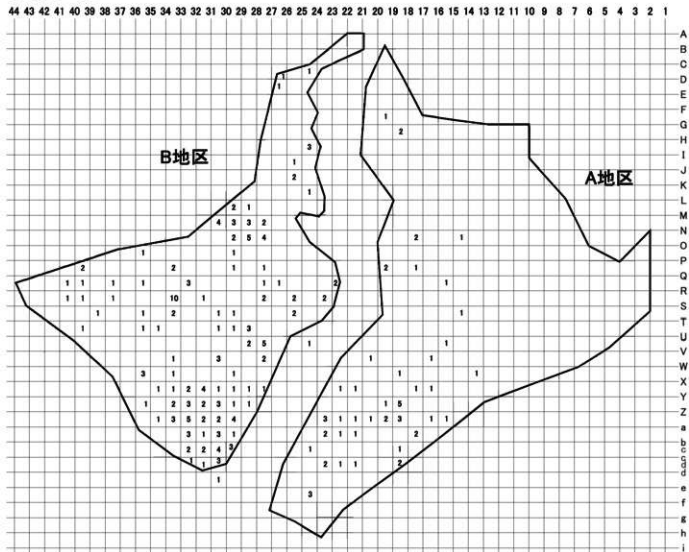


図118 包含層U・Rフレイク出土分布図

# フレイク

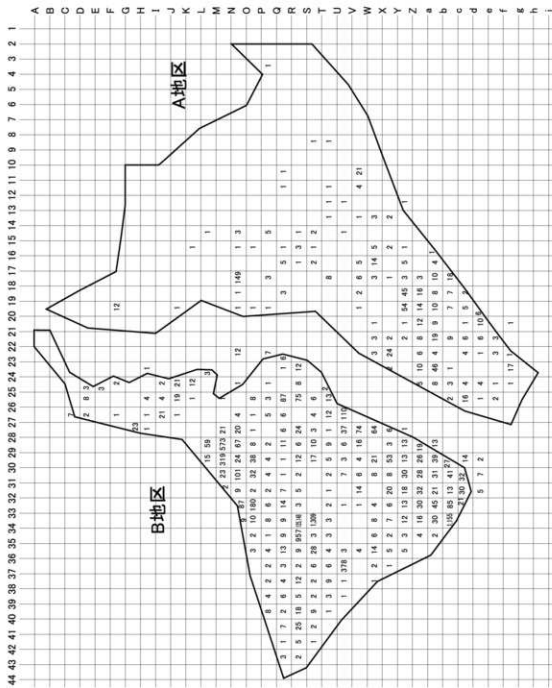


図119 包含層フレイク出土分布図





磨製石斧

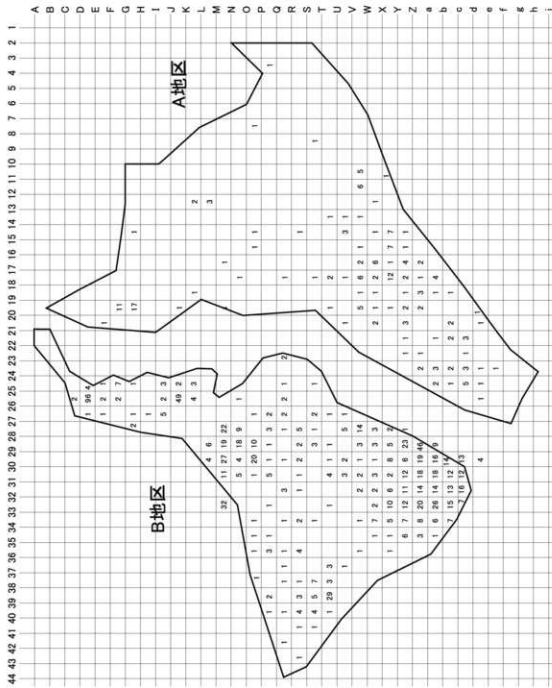


图121 包含磨製石斧出土分布图

# たたき石

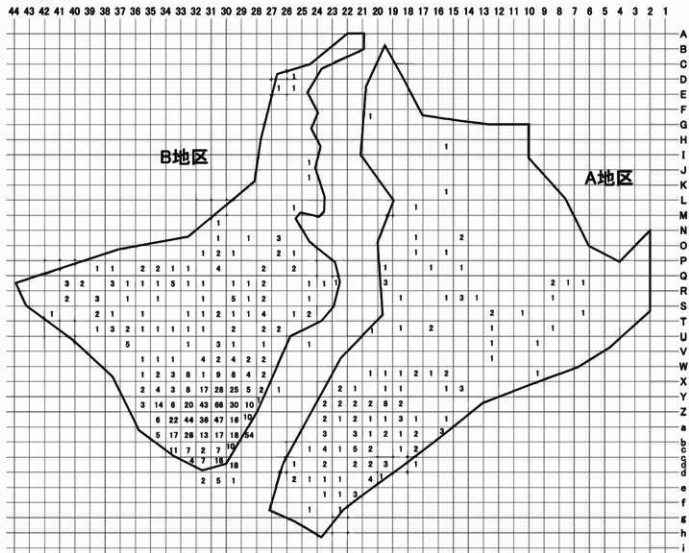


図122 包含層たたき石出土分布図

## すり石

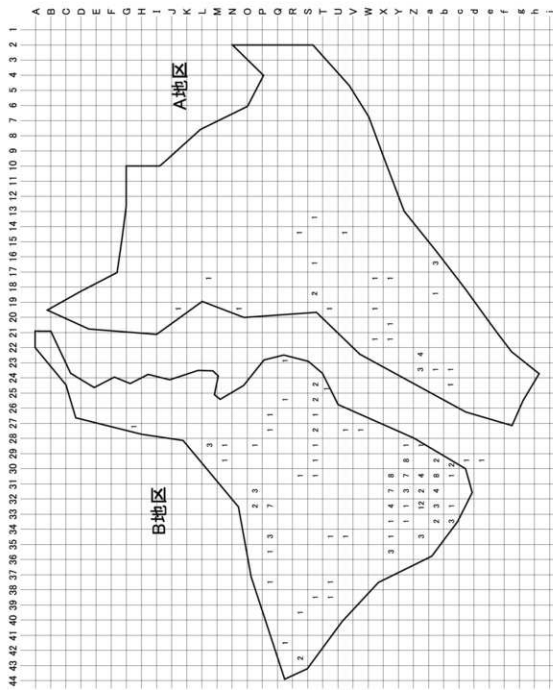


図123 包含すり石出土分布図



## 石鏃

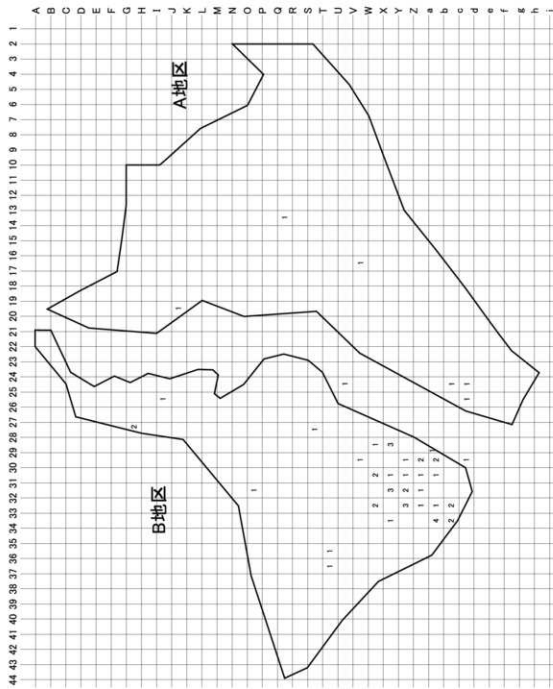


图125 包含层石鏃出土分布图

# 砾石

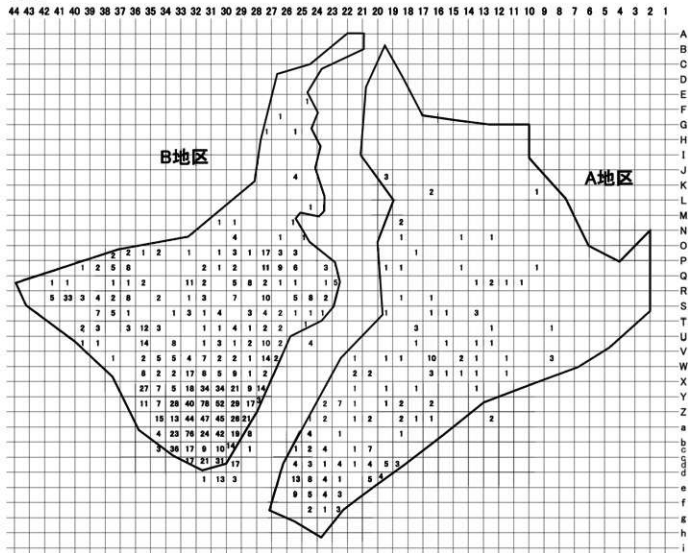


图126 包含层砾石出土分布图





# U・レキ

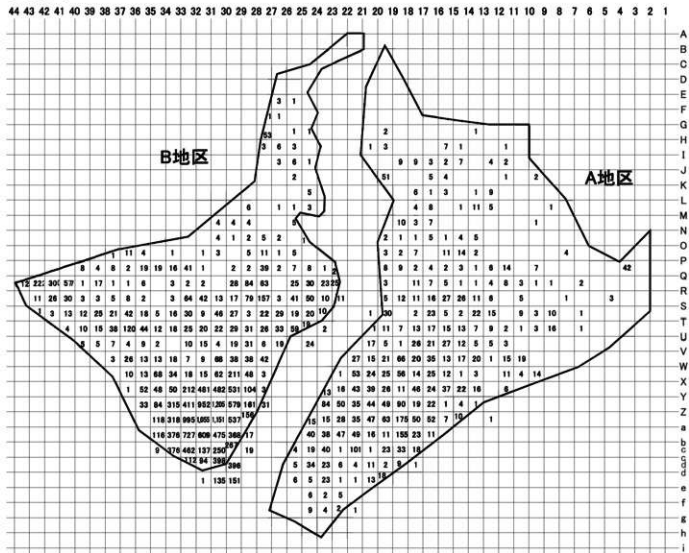


図128 包含層U・レキ出土分布図



る。「石槍・ナイフ」は調査区全体から散漫な出土である。「つまみ付きナイフ」は、A地区では調査区中央の沢沿いのグリッドでみられ、B地区では大規模な礫集中の場所に多い。「スクレイパー」と「U・Rフレイク」は、A・B両地区ともに散在的で、BLH-1・3・4、BLFC-1、大規模な礫集中付近に多い。「フレイク」はさらに広く、A地区ではN-17区が最多で、B地区ではBLFC-1が位置するグリッドから125,148点が出土し、その西と南側のグリッドも多い。また、BLH-1とBLFC-4、大規模な礫集中の地点でも多い。

**礫石器・レキ** 「Ⅲ層礫石器」はA地区のほぼ全体にみられ、東側と北側部分では少なく、多いのはH・I-11・12・15・16区、T・U-10~13区、W-9・12区、W~Y-15・16区、X-19区、b-18区、d-23区で、擦文文化期後期~中世アイヌ文化期の遺構の位置と一致する。「磨製石斧」・「たたき石」は概ね全体にみられ、A地区の中央からやや南側、B地区はBLH-1・3と大規模な礫集中付近に多い。「すり石」・「北海道式石冠」・「石錘」は大規模な礫集中付近に多い。「砥石」・「台石・石皿」・「U・Rレキ」・「レキ」は調査区全体にみられ、大規模な礫集中に多い。

## 2. 自然遺物

### (1) 動物遺存体 (表89・90)

炉跡AUFの土壌は水洗浮遊選別法で自然遺物を回収した。被熱した「焼骨」がほとんどで、陸獣骨(シカ)と考えられ、AUF-1・4・11・12・13以外からみつまっている(AUF-5は未実施)。また、AUF-12でみられた「マイマイ」は、餌を求めて自ら移動し混入したと判断される。

大規模礫集中のV層で多くみられた骨片は、大きいものでも長径0.5cm程度、脆弱で白色味が強く内部組織がつぶれている。「被熱した「焼骨」には魚骨等はみられず、多くが陸獣骨、特にシカと推定され、部位は四肢の破片と判断される」(東海大学 内山准教授による簡易鑑定)。

### (2) 植物遺存体 (表90)

確認した種子は、アカザ、エノコログサ、カヤツリグサ、コメ?、スギナ、タラノキ、ハギ、ブドウ、ホオノキ、マタタビで、科まで同定したのは、オオバコ科・キク科・シナノキ科?・タデ科・バラ科である。カヤツリグサ以外は食用と推測する。

また、縄文時代のBLH-3からは動物遺存体はみつからなかった。

### 水洗浮遊選別法で出土した人工遺物について (表90)

黒曜石の微細なフレイクが、Ⅲ層のAUF-3・13から極微量、縄文時代後期初頭のBLH-3から出土した。また、AUF-7では鉄器の小破片がみつかった。

## 3. 自然科学的分析結果の評価

### (1) 放射性炭素年代測定結果の評価について (表91) (付篇1・2)

本遺跡で調査した、A地区Ⅲ層の遺構と両地区の縄文時代の遺構について詳細な年代を知るため、放射性炭素年代測定を行った。付篇で示された結果のうち、暦年較正年代について、標準偏差をもとに新しいものから順に並べたものが表91である。

#### アイヌ文化期~擦文文化期

最も新しいのはAUS-5の礫の集中部分から出土した試料(IK3-5)の15世紀末葉~17世紀初頭で、標準偏差の百分率の値が低いことを踏まえても最新値である。ついで、建物跡AUPS-4の焼土AUF-4(IK3-2)、建物跡AUPS-2の焼土AUF-6(IK3-4)、建物跡AUPS-3の焼土AUF-3(IK3-1)で、14世紀末葉~15世紀中頃である。さらに、礫集中AUF

S-6 (IK3-8)、礫集中AUS-5の炭化物集中出土の2点の試料 (IK3-7・6) で、前者は13世紀前半～後半であり、後二者は12世紀中頃～13世紀前半・中頃である。AUF-5 (IK3-3) と礫集中AUS-7 (IK3-9) はともに12世紀中頃～13世紀前半である。

以上の結果を、時代の古い順から整理すると、当該時期で最も古い年代の遺構はAUF-5とAUS-7である。AUF-5は北側に位置し、付近にAUS-1・4があり、周辺の包含層からはⅦ群の掟文土器も出土した。AUS-7は南側に位置し、周辺は遺構や遺物が少ない。AUS-5の炭化物集中 (IK3-6・7) は同時期と判断され、これらは礫の集中部分から若干離れた南側に位置し、礫の集中部分出土の試料 (IK3-5) と約400年の差がある。AUS-5として調査した遺構は、北側の礫の集中部分と南側の炭化物集中部分は時期が異なると思われる。AUS-6は近くにAUF-9・11がある。AUF-3 (建物跡AUPS-3) とAUF-6 (建物跡AUPS-2) は測定結果からは同時期で、両建物跡は近接する。AUF-4 (建物跡AUPS-4) は、これらよりもやや南側にあり、最も新しいものがAUS-5の礫の集中部分である。本遺跡のⅢ層は他の遺跡と比べて、遺構数は少ないが、掟文文化期後期～中世アイヌ文化期末葉の間、継続して人が活動していたと推測される。1標準偏差での年代値の幅は50年以内で、一つの遺構が利用された時間 (一代) を示唆するものかもしれない。

#### 縄文時代

A地区の石組炉ALFRS-1 (IK3-10) は3千8百年前で縄文時代後期初頭、B地区の竪穴住居跡BLH-4 (IK3-11) は4千5百年前で同中期後半である。後者からは柏木川式土器の復原個体が出土している。

#### その他

B地区で調査したBLP-2 (IK3-12) は約4万9千年の結果である。1標準偏差での「ばらつき」は68.2%で、2標準偏差 (95.4%) では、今回採用したプログラム「IntCal13」(平成25 (2013) 年) が校正可能な範囲を超えたことある。BLP-2 (図70 図版29) は大規模な礫集中の範囲内にある土坑で、遺構の南西部分の壁ぞいから、炭化材が形状を保って出土した。土器は出土していないが、磨製石斧・たたき石・砥石等の礫石器が出土し、縄文時代の遺構と考えられる。遺構の坑底面はT a - d 2層である。分析結果の「pMC (percent Modern Carbon)」と「Libby Age (yrBP)」付篇2表1・2) に注目すると、前者は「 $0.35 \pm 0.02\%$ 」で、現代 (1950AD) の炭素試料を100%とした場合の割合で1%未満と極端に小さく、「Libbyの半減期」から算出される年代は「 $45,530 \pm 460\text{yrBP}$ 」である (1標準偏差)。現状では、発掘方法や分析の手順に問題点が見つからないため、結果値の要因を評価できないが、本例のように予想と違った結果の事例も、原因を究明していかねばならない。

#### (2) 鉄製品の保存処理と材質分析 (付篇3)

本遺跡から出土した鉄製品は、針 (No.1)・鉄鍋 (No.2)・棒状品 (No.3)・鉄先 (No.4) である。これらは中世アイヌ文化期と考えられる。鉄製品は保存処理と成分分析を外部委託業務で行ったので、その概要を記す。

##### 保存処理の工程

①遺物の現状と記録類の確認→②デジタルカメラによる処理前写真撮影→③X線透過写真撮影→④さび落とし→⑤脱塩処理→⑥含浸処理 (パラロイドNA D-10 30%ソルベントナフサ溶液) →⑦充填補強 (エポキシパテ)・着色 (岩絵具) →⑧デジタルカメラによる処理後写真撮影→⑨梱包 (ポリプロピレン製に、酸素吸着剤・シリカゲルとともに収納)

##### (分析の方法)

組織観察は金属顕微鏡を用い、非金属の介在物質をみつけ「EPMA分析」で特定し、化学分析は「ICP発光分析法」により、含有する元素（20種類）の量を測定した。

#### （分析の結果）

針・棒状品・鉄先は鋼製で、セメントイトやその痕跡から炭素量0.5%未満の「亜共析鋼」が素材である。非金属介在物質の種類は、針・鉄先はガラス質ケイ酸塩、棒状品はチタノマグネタイト様の鉱物相、鉄先には鉄チタン化合物がみられ、針は、棒状品や鉄先とは異なる製作場所である可能性が高い。鉄鍋は鉄を素材として铸造され、リン（P）の含有量が多い。鉄製品に含有されるニッケル（Ni）・コバルト（Co）・銅（Cu）の含有量の比のプロット図では、針・鉄鍋（領域A）、棒状品（領域B）は近接し、鉄先（領域C）が離れる。これら三元素の相関関係は高く、領域A～Cは概ね同じ原料である。しかし、同原料であっても鉄チタン酸化物を含有する遺物とそうでないものがある。これは、製錬の段階で混入した可能性が高く、原料の違いを示すものではない。古代から近世まで、素材としての鉄の流通は一般的で、本遺跡の鉄製品もこれを原料としていと考えられる。

## 4. Ⅲ層の調査について

A地区のⅢ層では、擦文文化期後期～中世アイヌ文化期の遺構・遺物を調査し、B地区でもⅤ群土器（図87-87・88）や火打石と推測される打ち欠かれたチャート（図93-47～49）が出土した。

A地区のⅢ層の遺構は、調査区の北側部分、南東側部分、南側中央、南西側部分の4地点がある。北側部分：焼土・礫集中が散在的にみられ、擦文文化期後期の土器が出土した。南東側部分：建物跡1軒と焼土、礫集中がみられる。南側中央：遺構が最も多く、建物跡6軒、焼土、礫集中、柱穴・杭穴がみつかった。南西側部分：焼土や礫集中が散在的である。擦文土器は、北側のAUS-1からと、北側と南東側の遺構の周囲では復原個体が出土し、北側と南東側部分は擦文文化期後期、南側中央と南西側は土器が出土しておらず、年代測定の結果等から中世アイヌ文化期と判断する。

南側中央のW-dラインと14～23ラインまでの範囲は、遺構・遺物が多く、南東を調査区境界の崖、北西を調査区中央の沢に挟まれた緩斜面～平地である。

上位の黒色土層であるⅢ層は、本事業での厚真町教育委員会の調査で三つに細分されている。上位のⅢa層は黒色（7.5YR2/1）の砂質シルト層で、上位層起源のT a-b層軽石の細礫を斑状に含む。中位のⅢb層は黒色（10YR1.7/1）のやや粘性のあるシルトで、下位には部分的にB-Tm（白頭山小牧火山灰 10世紀降下）がある。Ⅲc層は黒褐色（10YR2/3）の砂質シルトである（厚真町教育委員会 2015他）。これを参考に本遺跡の調査でもⅢ層を「上・中・下位」として区分した。T a-b直下のⅢ層上位では何もみられず、Ⅲ層中位で遺物が出土し礫集中を確認した。下位は遺物が少なくなり、焼土が認められた。柱穴・杭穴はⅢ層での発見は困難で、すべてⅣ層上面で確認した。

遺構調査は、遺物の出土状況を確認し、周囲に比べて集中する部分を礫集中とし、掘り下げた際に精査し確認を繰り返した。焼土や遺物集中の周辺は、平地住居跡を想定し柱穴・杭穴の発見に努めた。焼土は褐色を呈し、Ⅲ層下位～Ⅳ層が被熱する。上面に炭化物や灰の集中がみられたものもある。AUF-1・2やAUF-9・11のように二つ並ぶものは、両者を結ぶ直線を軸とする平地住居が想定される。前者は柱穴・杭穴が確認されたので、AUPS-1とし、後者はAUF-11が崖際で、柱穴・杭穴はみられなかったが、平地住居跡と考えられ、南東側はかつて台地が続いていたと推測する。AUF-5・12のように細長のは、本来は二つで焼土が移動した結果まとまった、あるいは、一つの焼土を、近接する位置に複数回移動させた結果と考える。礫集中は、長径10cm未満のレキ（自然礫）が多く、石材は周辺で獲得できる脆弱で軟質な砂岩・凝灰岩が多い。礫集中の一部には、隙間

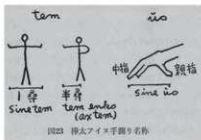


図130 アイヌ民族手測り  
(山本 1970より)

民族の身体を用いた「手測り」(図130 樺太アイヌ民族の例)を、柱穴間の長さを測る尺度として用いた。人体より大きな対象物を計測する方法は「sine tem」(両腕を水平に広げた状態で両手の親指先間の長さ)と「tem enko」(片腕を広げた状態でこの親指先から胸の中心までの長さ)である。これまでの調査事例では柱穴・杭穴の列は、同一直線上に位置しないものが多く、そのことも考慮し調査したが、多くの柱穴を発見するには至らなかった。地山のT a - d 2層は、一次堆積・水成二次堆積ともにしまりが弱く、柱穴・杭穴の内部にこれらを主体とする覆土が堆積した場合、その識別は困難で、確認できない大きな理由の一つであろう。また、柱穴・杭穴と予想した場所は、すべてトレンチで断ち割った。柱穴・杭穴は厳密な垂直で建てられるものは少なく、土層断面は半載する方向や位置に影響されることに注意が必要である。断面を観察した後は、柱穴・杭穴の正確な形状を確認するため掘り上げた。

## 5. 縄文時代の遺構について

縄文時代の遺構は、A地区でTピット、B地区は竪穴住居跡や大規模な礫集中等を調査し、主たる時期は縄文時代中期後半～後期前半である。

竪穴住居跡の時期は、栢木川式土器を伴う小型のBLH-4が縄文時代中期後半から後期前半である。BLH-1は平面から4軒が切り合うと判断される。これの構築に伴うのが盛土BLM-1と考えている。竪穴住居跡は小規模で数も少なく、B地区にのみでみつかった。土坑はいずれも浅く小規模なもので、A地区で1基、B地区で2基調査した。石組炉はA・B両地区で1か所ずつ確認した。石組炉の調査では、精査を繰り返し柱穴・杭穴の発見に努めたが、確認できなかった。地床炉と考えられる焼土は、A地区で5か所、B地区で3か所確認した。多くは褐色を呈し、T a - d 2主体の橙色の地山であるためか、判別しにくいものもあった。フレイク集中はB地区で4か所確認し、竪穴住居跡のあり方と関連するのかもしれない。特にBLFC-1は広範囲で深く、これが位置するR-33区の包含層の遺物として取り上げたものも含めると16万点を超え、本来の遺構の規模は図化(図79)した範囲よりも広く深いと考えられる。黒曜石製のチップが多く、定型的な石器は残存状態が半形または片である。また、この下位にはBTP-4があるが、フレイクはTピットの覆土上位部分にのみみられたので、BTP-4が古く、これが埋没した後に、BLFC-1が形成されたと判断される。

TピットはA地区で31基、B地区で13基調査した。底面の平面形態から、楕円形、長楕円形、溝状に分けられる。前二者は坑底面に杭穴を有するものが多く、溝状と比べ概して浅い。また、坑底面は楕円形、確認面は円形を呈し、坑底面に多数の杭穴をもつものがある(ATP-29)。長楕円形のATP-11と溝状のATP-15は切り合ってみられた。調査では連続する土層断面を設定できず、新旧関

係は判断できなかったが、形状の異なるTピットの新旧関係は、本事業用地の発掘調査の事例から、楕円形のもの溝状のものを切り、楕円形が新しく、溝状が古いと判断される（「上幌内5遺跡」北海道埋蔵文化財センター 2014）。次にTピットの調査でみられた状況とその解釈を記し覚書とする。Tピットの覆土を単純化すると、上位は黒色土層主体、下位はT a - d 2等の地山主体の層で、覆土最下層すなわち坑底面直上に、黒色土の堆積がみられるものとみられないものがある。この黒色土は構築時の地表土であるV層が主たる起源とすると、これがみられないものは、埋没過程の初期段階で遺構の壁が崩落し堆積したと解される。地山のT a - d 2層はスコリア主体で、固結が弱く崩落しやすい。Tピットの覆土の堆積の様相は、上位部分は遺構の中央へと傾斜し、下位部分は概して水平である。遺構の上位部分で水平な層界がみられるものは、人為的な埋め戻しの可能性が指摘される。さらに、遺構最上位の層は黒色土が多いが、地山等の下位の層が主体でみられる場合、そのTピットまたは周辺の遺構を構築する際の、掘り上げ土の流入である可能性が考えられる。坑底面は水成粘土層の上面付近で、これを深く掘り込んでいるものはなく、Tピットの掘削はこの粘土層までとしていたと推測する。この粘土層の上面は地下水が流れ、いくつかのTピットでは湧水ポンプで排水しきれない豊富な水量であった。枕穴は坑底面まで確認されるが、調査中に覆土中～下位で棒状の空洞がみられたものもあった。これらは坑底面まで及んでいないが、枕跡と推測する。坑底面に至らないのは、最下位に堆積した覆土に設けられたためと推測する。A T P - 13のように坑底に段を有するものは溝状の事例に多い。これは段を設けたとも解されるが、同じ場所に長軸の長さを変えて再構築した可能性もある。この場合、長軸方向に半載しないと、土層断面で複数の遺構を確認することは難しい。

大規模な礫集中はB地区の南端部分で、他の包含層と比べて礫石器が極めて多く、焼骨等もみられた。遺物は調査区の崖際まで途切れることなく集中して出土し、かつては南側に台地が続き、遺構が広がっていたと考えられる。土器はIV群859点、Ⅲ群625点、I群338点出土した。I群は崖の先端部分のcラインに多く、Ⅲ群はb・cライン、IV群はX・a・bラインと、新しい時期の遺物が北側に多い。剥片石器は2,610点出土し、80%以上がフレイクである。ついで、つまみ付きナイフ127点、石鏃110点、石核109点で、石核が多い特徴が指摘できる。また、本遺構の北へ約20mの場所に先述のB L F C - 1 (R - 33区)がある。礫石器・レキは33,884点出土し、U・Rレキとレキがそれぞれ45%を占め、石材は遺跡の近くで入手しやすい脆弱な堆積岩が用いられることが多い。これらは、①：自然起因の平滑面とすり痕・研磨痕等の人為的な使用・加工痕とが区別しにくく、脆弱なため風化しやすく、②：破片になりやすく、③：使用・加工痕が識別しがたい特徴がある。レキ（自然礫）も人為的に持ち込まれ利用されたと考えられる。礫集中の範囲に位置する遺構はB L H - 2 (B L P - 3)・B L P - 2・B T P - 5・B L F - 2・B L F C - 2で、これらとの時期を考察する。B L H - 2はV層上面でくぼみがみられ、覆土から礫石器・レキが約570点出土した。本住居跡が古いと仮定すると、大規模な礫集中が形成される過程で住居跡が完全に埋もれ、くぼみがみられない、さらに、住居跡が埋没し始める時点では、礫石器・レキがさほど大量に混入しない、この二つが考えられるが、これらは住居跡の調査結果と矛盾するので、B L H - 2 (B L P - 3)は大規模な礫集中よりも新しいと判断する。すなわち、大規模な礫集中が形成された後、これを切ってB L H - 2 (B L P - 3)が構築され、本住居跡の埋没過程で、周囲の礫石器・レキが多く住居跡内に流れ込み、上位は完全に埋まらずにくぼみが残ったと解される。B L P - 2・B T P - 5は大規模礫集中の調査完了後、T a - d 1上面で確認したので、本遺構よりも古いと判断され、V層中の焼土B L F - 2とフレイク集中B L F C - 2は本礫集中の一部と考える。また、本遺構の北側の縁辺に位置するB T P - 3・8の覆土から、礫・礫石器が出土しているが、出土点数は他のTピットに比して特に多いといえず、これらTピット

の埋没段階では、大規模な礫集中の遺物は流れ込んでないと判断される。すなわち、Tピットがある程度埋没した後、大規模な礫集中が形成されたと考えられ、BTP-3・8が古く、大規模な礫集中が新しいと判断される。

(末光)

## 6. 縄文時代の遺物について

イクバンドユクチセ3遺跡出土の、たたき石を素材の形状・石材・加工・使用痕などから、大きく2つに分けた。ここでは「たたき石①」「たたき石②」と呼称する。

以下それぞれの特徴を述べる。

### たたき石① (図95-62・64・65・69)

- ・素材の形状：楕円形または角のとれた長方形を呈し、厚みがある
- ・石 材：砂岩・凝灰岩・礫岩など
- ・加工・使用痕：全面にたたき痕はなく、凹状または溝状の明瞭なくほみが細長い範囲に部分的にみられ、このくほみは表裏両面の概ね同じ位置にある。

### たたき石② (図95-68・70・72・73)

- ・素材の形状：多面体状・球状など
- ・石 材：緑色泥岩・片岩・花崗岩など
- ・加工・使用痕：小さく浅いたたき痕が全面にみられる。

さらに、たたき石①の特徴として側面に、すり面と認識できる平滑な面があるもの、顕著なものも側面が直線的であるものなどがみられること、そして、たたき石②に比べ、たたき石①の石材は脆弱で軟らかく、たたき石として継続的に使用されたとは考えにくいことが挙げられる。また、たたき石①とたたき石②の出土点数をみると、たたき石①が約300点、たたき石②が約20点と前者が多い。

以上のことから「たたき石①」は「すり石」の機能を有するものとする。これは、本遺跡のすり石の出土が礫石器の総点数に比べて少ないことも矛盾しない。

くわえて、たたき石①の表裏のくほみについては、道南地方に多い扁平打製石器や北海道式石冠にみられる、凹状のくほみで石器の中央よりやや上位付近をめぐる、持ち手部分の敲打加工に共通する。このことから、表裏のくほみは、意図的にくほませた加工で「持ち手」と考える。

周辺の遺跡として、本建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査で、担当した平成26・27(2014・2015)年度のオニキシベ3遺跡の発掘調査や一次整理作業、報告書作成に携わったオニキシベ1遺跡(北埋調報318)、イクバンドユクチセ2遺跡(北埋調報319)、現在、二次整理作業中のオニキシベ3遺跡、上幌内4・5遺跡の出土遺物の整理作業を通して「たたき石」の観察を行っているが、これらの遺跡でもたたき石①とたたき石②の2種類がみられ、イクバンドユクチセ3遺跡と比較しても同様の傾向である。厚真川上流地域の縄文時代の遺跡では、多くの礫石器が出土しているが(厚真町教育委員会・(公財)北海道埋蔵文化財センター 発掘調査報告書など)これまでに刊行された調査報告書では、掲載図をみるかぎりたたき石①が多い印象を見受けられ、厚真川流域の遺跡でたたき石①が共通してみられる可能性がある。

限られた条件の中で、十分な検討ができず、以上の可能性にとどめるが、今後、このような視点で調査にのぞんでいきたい。

(奥山さとみ)



表83 A地区 包含層出土土器点数表

遺物種別 / 層位	土器		H層	その他 (I層~IV層)	合計
	耳部	V層			
<b>I 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>II 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>III 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	1	0	0	1
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	1
<b>IV 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>V 層</b>					
口縁部	良好	1	0	0	1
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	0	1
<b>VI 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>VII 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>合計</b>					
耳部	24	4,100	1	0	4,125
V層	0	0	0	0	0
H層	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	1
合計	24	4,100	1	0	4,125

表84 B地区 包含層出土土器点数表

遺物種別 / 層位	土器		H層	その他 (I層~IV層)	合計
	耳部	V層			
<b>I 層</b>					
口縁部	良好	10	0	0	10
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	10	0	0	0	10
<b>II 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>III 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>IV 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>V 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>VI 層</b>					
口縁部	良好	0	0	0	0
口縁部	劣化	0	0	0	0
口縁部	不明	0	0	0	0
胴部	良好	0	0	0	0
胴部	劣化	0	0	0	0
胴部	不明	0	0	0	0
平底	良好	0	0	0	0
平底	劣化	0	0	0	0
平底	不明	0	0	0	0
小器	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0
<b>合計</b>					
耳部	10	0	0	0	10
V層	0	0	0	0	0
H層	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	10	0	0	0	10

B地区 合計			
耳部	V層	H層	その他
14	14,244	3	140

遺物種別		合計
口縁部	良好	10
口縁部	劣化	0
口縁部	不明	0
胴部	良好	0
胴部	劣化	0
胴部	不明	0
平底	良好	0
平底	劣化	0
平底	不明	0
小器	0	0
合計	10	10



表87 A地区 包含層出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺物名					遺物名							
遺物名・分類・層位		数量	V層	その他 (1層+2層)	合計	遺物名・分類・層位		数量	V層	その他 (1層+2層)	合計	
層位	残存状態					形状	層位					残存状態
礫石器	矢矧	磨石	—	10	10	17	磨石	—	1	—	1	
		片	—	8	1	7	磨石	—	1	—	1	
	溝原	磨石	—	7	1	8	10	磨石	—	—	—	
		片	—	7	—	7	磨石	磨石(石)	—	—	—	
	早稲	磨石	—	1	1	2	10	磨石	—	—	—	
		片	—	5	—	5	磨石	丸	—	—	—	
	片	磨石	—	1	121	122	149	磨石	丸	—	—	
		磨石	—	3	2	5	磨石	人工丸	—	—	—	
		片	—	13	—	13	磨石	磨石丸	—	—	—	
		片	—	1	—	1	磨石	磨石丸	—	—	—	
九十九摩石	矢矧	磨石	—	11	20	34	溝原	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	2	3		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	10	1	11	18	磨石	—	—	—	
		磨石	—	—	1	1	1	磨石	—	—	—	
	早稲	磨石	—	2	2	4	18	磨石	—	—	—	
		片	—	5	—	5	2	磨石	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	2	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	2	磨石	—	—	—	
		片	—	1	—	1	2	磨石	—	—	—	
		片	—	1	—	1	2	磨石	—	—	—	
早稲	溝原	磨石	—	8	20	28	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	2	3		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	1	2	119	磨石	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	7	磨石	—	—	—	
	片	磨石	—	3	—	3	43	磨石	—	—	—	
		磨石	—	3	—	3	3	磨石	—	—	—	
		片	—	1	—	1	3	磨石	—	—	—	
		片	—	1	—	1	3	磨石	—	—	—	
	早稲	溝原	磨石	—	3	2	5	早稲	磨石	—	—	—
			磨石	—	2	2	4		磨石	—	—	—
溝原		磨石	—	1	—	1	1	磨石	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	0	磨石	—	—	—	
早稲		磨石	—	1	5	27	1	3	7	1	3	
		磨石	—	9	—	9	9	磨石	—	—	—	
片		磨石	—	3	—	3	3	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	3	磨石	—	—	—	
		片	—	1	—	1	3	磨石	—	—	—	
		片	—	1	—	1	3	磨石	—	—	—	
北畠遺式 石塚	溝原	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	溝原	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	早稲	磨石	—	3	3	0	0	0	—	—	—	
	片	片	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
溝原 打製石器	溝原	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	溝原	磨石	—	0	0	0	0	0	—	—	—	
	早稲	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	片	片	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
石塚	溝原	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	3	3	—	—	—	
	溝原	磨石	—	0	—	—	0	0	—	—	—	
	早稲	磨石	—	0	—	—	0	0	—	—	—	
溝原	溝原	磨石	—	10	85	119	10	8	1	1	1	
	溝原	磨石	—	1	7	190	10	8	1	1	1	
	片	磨石	—	1	—	1	76	76	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	6	6	—	—	—	
溝原 石塚	溝原	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	溝原	磨石	—	0	—	—	0	0	—	—	—	
		磨石	—	0	—	—	0	0	—	—	—	
	早稲	磨石	—	10	85	119	10	8	1	1	1	
		磨石	—	1	7	190	10	8	1	1	1	
	片	磨石	—	1	—	1	76	76	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	6	6	—	—	—	
		片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—
		片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—
溝原 石塚	溝原	磨石	—	12	1	13	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	2	2	2		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	13	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	1	磨石	—	—	—	
	早稲	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	片	磨石	—	13	83	101	14	88	25	36	14	14
		磨石	—	1	40	2	42	2	42	2	42	2
		磨石	—	14	—	14	14	14	—	—	—	—
		片	磨石	—	4	—	4	4	4	—	—	—
溝原	磨石	—	3	—	3	3	3	—	—	—	—	
	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
溝原 石塚	溝原	磨石	—	12	1	13	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	2	2	2		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	13	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	1	磨石	—	—	—	
	早稲	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	片	磨石	—	13	83	101	14	88	25	36	14	14
		磨石	—	1	40	2	42	2	42	2	42	2
		磨石	—	14	—	14	14	14	—	—	—	—
		片	磨石	—	4	—	4	4	4	—	—	—
溝原	磨石	—	3	—	3	3	3	—	—	—	—	
	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
溝原 石塚	溝原	磨石	—	12	1	13	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	2	2	2		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	13	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	1	磨石	—	—	—	
	早稲	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	片	磨石	—	13	83	101	14	88	25	36	14	14
		磨石	—	1	40	2	42	2	42	2	42	2
		磨石	—	14	—	14	14	14	—	—	—	—
		片	磨石	—	4	—	4	4	4	—	—	—
溝原	磨石	—	3	—	3	3	3	—	—	—	—	
	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
溝原 石塚	溝原	磨石	—	12	1	13	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	2	2	2		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	13	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	1	磨石	—	—	—	
	早稲	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	片	磨石	—	13	83	101	14	88	25	36	14	14
		磨石	—	1	40	2	42	2	42	2	42	2
		磨石	—	14	—	14	14	14	—	—	—	—
		片	磨石	—	4	—	4	4	4	—	—	—
溝原	磨石	—	3	—	3	3	3	—	—	—	—	
	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
溝原 石塚	溝原	磨石	—	12	1	13	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	2	2	2		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	13	磨石	—	—	—	
		磨石	—	1	—	1	1	磨石	—	—	—	
	早稲	磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
		磨石	—	—	—	—	0	0	—	—	—	
	片	磨石	—	13	83	101	14	88	25	36	14	14
		磨石	—	1	40	2	42	2	42	2	42	2
		磨石	—	14	—	14	14	14	—	—	—	—
		片	磨石	—	4	—	4	4	4	—	—	—
溝原	磨石	—	3	—	3	3	3	—	—	—	—	
	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
	片	磨石	—	1	—	1	1	1	—	—	—	
溝原 石塚	溝原	磨石	—	12	1	13	早稲	磨石	—	—	—	
		磨石	—	2	2	2		磨石	—	—	—	
	溝原	磨石	—	1	—	1	13	磨石	—	—	—	
		磨石										



表89 大規模な礫集中出土動物遺存体一覧表

グリッド	層位	遺物 番号	動物遺存体			備考	
			種別	点数	特徴等		
Y-30区	V層	—	焼骨	3	陸獣骨 (シカ)		
Y-32区	V層	—	焼骨	4		獣骨	
Z-29区	V層	—	焼骨	7		獣骨	
Z-29区	V層	—	焼骨	2		獣骨	
Z-31区	I層	—	焼骨	1		獣骨	
Z-32区	V層	—	焼骨	5		獣骨	
a-29区	V層	—	焼骨	6		獣骨	
a-29区	V層	—	焼骨	4		獣骨	
a-30区	V層	—	焼骨	3		獣骨	
a-30区	V層	—	焼骨	8		獣骨	
a-30区	V層	—	焼骨	3		獣骨	
a-32区	V層	—	焼骨	1		獣骨	
a-32区	V層	—	焼骨	3		獣骨	
a-32区	V層	—	焼骨	9		獣骨	
b-32区	V層	—	焼骨	3		獣骨	
c-31区	V層	—	焼骨	2		獣骨	

表91 放射性炭素年代測定結果一覧表

試料名	遺構	遺構の 層位性	層位	取り上げ 番号	乾燥重量 (g)	1標準偏差 暦年齢±年代(1σ.23)		2標準偏差 暦年齢±年代(95.4%)		世紀	時代	
						ca1AD	ca1AD	ca1AD	ca1AD			
IK3-5	遺構中 ALS-5	単相 遺構中	埋蔵	—	1.23	1321 ca1AD	- 1391 ca1AD	1491 ca1AD	- 1461 ca1AD	(76.3%)	14世紀中頃～後半 または、15世紀末葉～17世紀初頃	中世アイヌ文化層
IK3-2	伊勢 焼土 ALP-4	建物跡 ALP9-4	焼土	—	0.02	1448 ca1AD	- 1494 ca1AD	1492 ca1AD	- 1312 ca1AD	(88.2%)	15世紀中頃～ 15世紀後半または16世紀前半	中世アイヌ文化層
IK3-4	伊勢 焼土 ALP-6	建物跡 ALP9-2	焼土	—	0.03	1401 ca1AD	- 1426 ca1AD	1393 ca1AD	- 1431 ca1AD	(82.2%)	14世紀末葉または15世紀初頃 ～15世紀中頃	中世アイヌ文化層
IK3-1	伊勢 焼土 ALP-9	建物跡 ALP9-2	焼土	—	0.00	1298 ca1AD	- 1425 ca1AD	1392 ca1AD	- 1433 ca1AD	(74.4%)	14世紀末葉～15世紀中頃	中世アイヌ文化層
IK3-8	遺構中 ALS-6	ALP-9-11 埋蔵中	埋蔵	—	0.27	1211 ca1AD	- 1295 ca1AD	1181 ca1AD	- 1262 ca1AD	(84.2%)	13世紀前半～中頃 (12世紀末葉～13世紀中頃)	中世アイヌ文化層
IK3-7	遺構中 ALS-5	単相 遺構中(村裏遺構 段丘跡奥中)	埋蔵	3	0.03	1192 ca1AD	- 1223 ca1AD	1165 ca1AD	- 1255 ca1AD	(95.4%)	12世紀後半～13世紀前半 (12世紀中頃～13世紀中頃)	中世アイヌ文化層
IK3-6	遺構中 ALS-5	単相 遺構中(村裏遺構 段丘跡奥中(1-2)区)	埋蔵	2	0.51	1169 ca1AD	- 1215 ca1AD	1154 ca1AD	- 1215 ca1AD	(95.4%)	12世紀中頃～13世紀初頃	縄文文化層後期～ 中世アイヌ文化層初頃
IK3-3	伊勢 焼土 ALP-5	単相 遺構中(伊勢)	焼土	—	0.02	1165 ca1AD	- 1209 ca1AD	1152 ca1AD	- 1223 ca1AD	(89.3%)	12世紀中頃～13世紀初頃	縄文文化層後期～ 中世アイヌ文化層初頃
IK3-9	遺構中 ALS-7	単相 埋蔵中	埋蔵	—	0.02	1180 ca1AD	- 1210 ca1AD	1151 ca1AD	- 1222 ca1AD	(83.9%)	12世紀中頃～13世紀前半	中世アイヌ文化層
IK3-10	瓦葺跡 ALP5-1	—	焼土	—	0.71	3796 ca1BP	- 3725 ca1BP	3874 ca1BP	- 3796 ca1BP	(95.4%)	約3千8百年前	縄文時代 後期初頃
IK3-11	壁穴遺構跡 ALP-4	—	灰層	—	0.40	4490 ca1BP	- 4440 ca1BP	4580 ca1BP	- 4425 ca1BP	(93.7%)	約4千5百年前	縄文時代 中葉末葉～後期初頃
IK3-12	土器 ALP-2	—	焼土 埋蔵	—	36.78	4952 ca1BP	- 4845 ca1BP	—	-4999? ca1BP	(95.4%)	約5千5百年前	—



# 報告書抄録

ふりがな	あつまちょう いくばんどゆくちせ 3 いせき							
書名	厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡							
副書名	厚観ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北理調報)							
シリーズ番号	第325集							
編著者名	愛場和人・末光正卓・広田良成・奥山さとみ							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒060-0832 北海道江別市西野幌685番地1 Tn011-386-3231							
発行年月日	西暦2016年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いぐばんどゆくちせ3 イクバンドユクチセ3 いせき 遺跡	ほつかいどう 北海道 うりふつじん 勇払郡 あつまちょう 厚真町 あびほろない 字 観内 SI-322カ	1581	J-13 -120	A地区 Q-9坑 42° 47' 142° 09.76" 01' 14.00"		20130513 ～ 20131031	9,321㎡ A地区：5,486㎡ B地区：3,835㎡	厚観ダム建設 事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
イクバンドユクチセ3 遺跡	集落跡	アイヌ文化期 - 縄文文化期 縄文時代中期・後期	平地住居跡 堅穴住居跡 土坑 Tピット 焼土 石組炉 フレイク集中 大規模な確集中	土器・石器 鉄製品		厚真川流域で 最上流に位置する アイヌ文化期の遺跡		
要約	<p>イクバンドユクチセ3遺跡は、石狩低地帯の南東側、厚真川の上流部に位置する。山間部を流れる厚真川の右岸、標高83～85mの高位の段丘に立地する。本書は平成25(2013)年度調査の報告である。</p> <p>遺跡の中央には無名の沢(調査区中央の沢と呼称)が流れ、これの左岸をA地区、右岸をB地区とした。</p> <p>遺跡の時期は、縄文時代中期後半～後期前半が主体で、早期も少量確認された。また、A地区では縄文文化期後半～中世アイヌ文化期も確認された。</p> <p>縄文文化期～アイヌ文化期では、建物跡・焼土・確集中等がみつき、縄文土器、火打石、使用痕のある礫、鉄線、黒鉛等の鉄製品が出土した。</p> <p>縄文時代では、堅穴住居跡・土坑・Tピット・石組炉・フレイク集中等を調査した。特にB地区の調査区の南側642mの範囲から、3万点を超える礫石器・礫が集中して出た。大規模な確集中と称した。また、フレイク集中B LFC-1からは黒曜石製のフレイクが16万点以上出土した。</p> <p>縄文時代の遺物は、土器は中期の柏木川式、後期の傘布式・タブコブ式が最も多い。割片石器は、石鏃、石槍・ナイフ、石鎌、つまみ付きナイフ、スクレイパーがあり、礫石器は、磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、石鏃、砥石、台石・石皿等がある。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第325集

## 厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡

— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —  
平成28 (2016) 年 3 月25日

**編集・発行** 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1  
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238  
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>  
[E-mail] [mail@domaibun.or.jp](mailto:mail@domaibun.or.jp)

**印刷** 北海道チャート株式会社  
〒060-0008 札幌市中央区北8条西18丁目1-7 フレクスビル3F  
TEL 011(631)9901 FAX 011(631)1123